明治三十八年十月五日発行 毎月一回五日発行 明治三十三年二月二十五日第三種郵便物認可

女學世界

第五巻 第十三號



博文館發行

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

來る十月十五日より

一第十回新柄陳列會

一懸賞圖案元祿模樣陳列

一元祿時代參考品陳列

一寄せ裂れ見切り反物大賣出し

右何れも弊店内に於て特別盛大に相催し候間御誘ひ合され賑々敷御來觀被成下候樣伏て奉願上候

東京日本橋區駿河町

明治三十八年十月

三越呉服店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界 第五巻第拾參號 目次

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

登録商標

良薬にして口に甘し

浅田宗伯先生直傳

登録商標

浅田飴

たんせき一切

肺病の持薬

ひきかぜ

よわき人

老人の滋養薬

登録商標



十二日分 金五拾銭

一週間分 金参拾銭

四日強 金弐拾銭

二日分 金拾銭

日本全國到る處の薬店に販賣す

〔郵送料壹個拾錢〕

本家

東京市神田區鍛冶町

大阪北久寶寺町堺筋

（電話本局壹壹二一番）

（電話東三九五八番）

堀内伊太郎

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

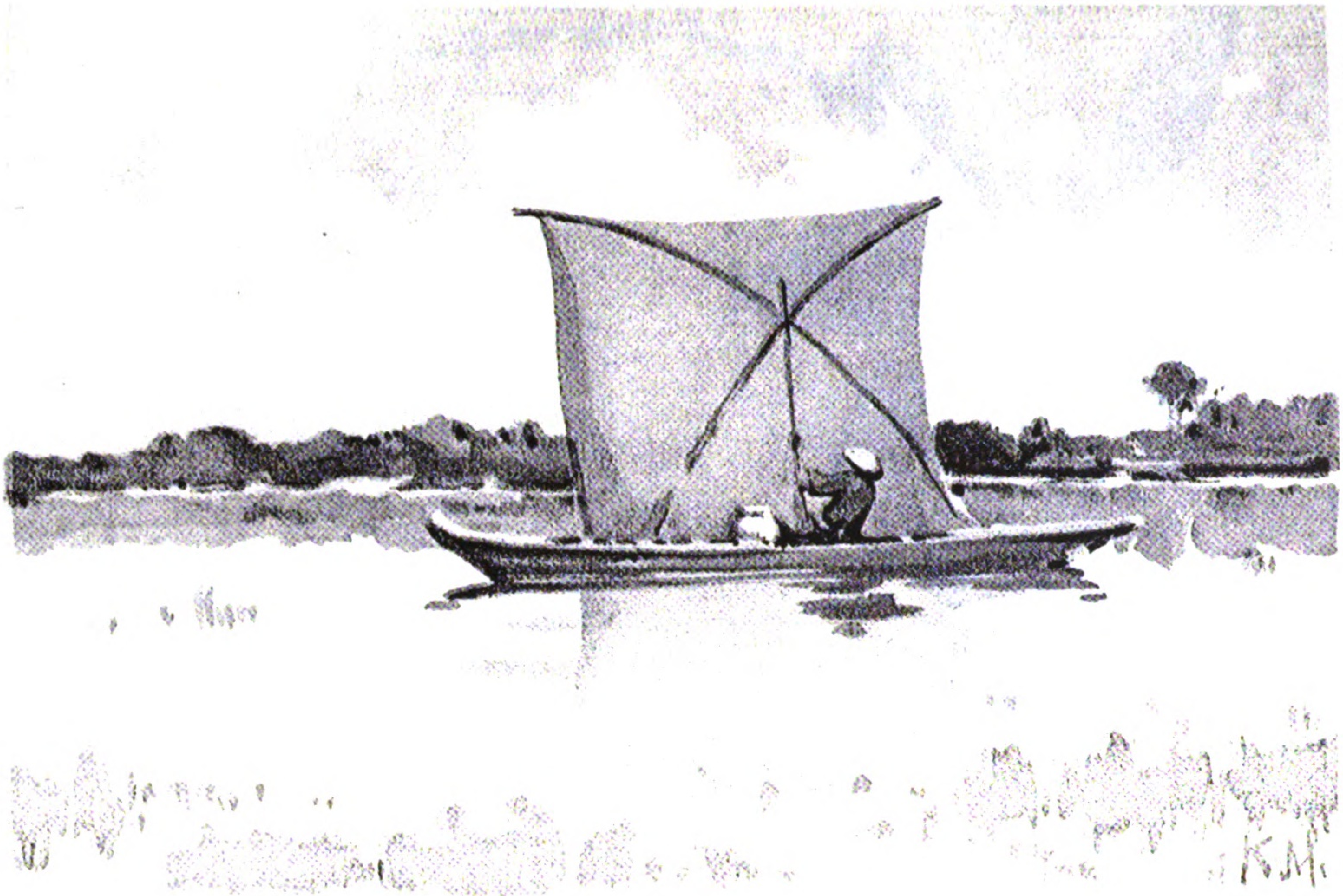
秋晴



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

中川の四手網



三宅克己筆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

石榴子

跡見花蹊女史筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

月下擣衣



跡見花蹊女史筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

初秋

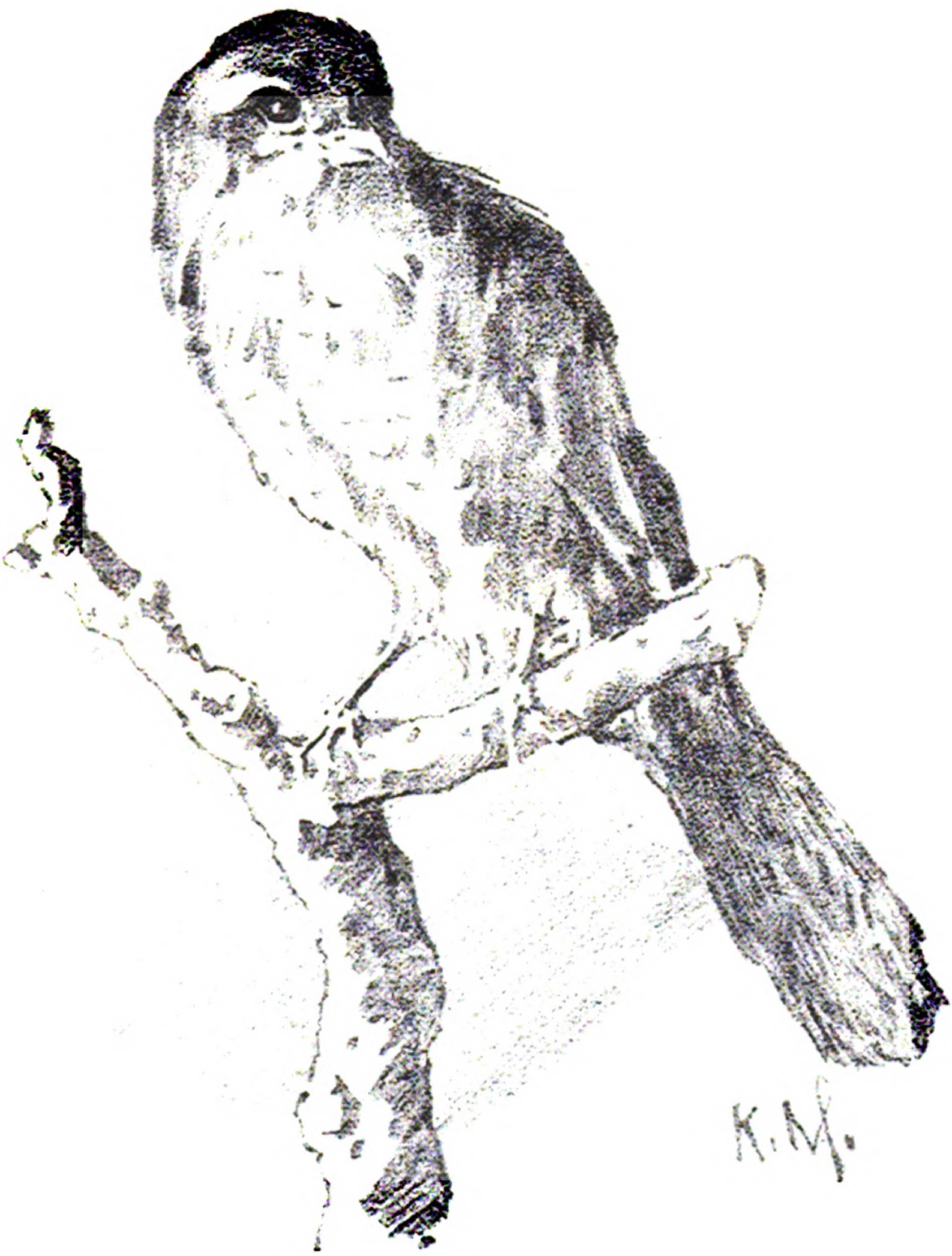
三宅克己筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

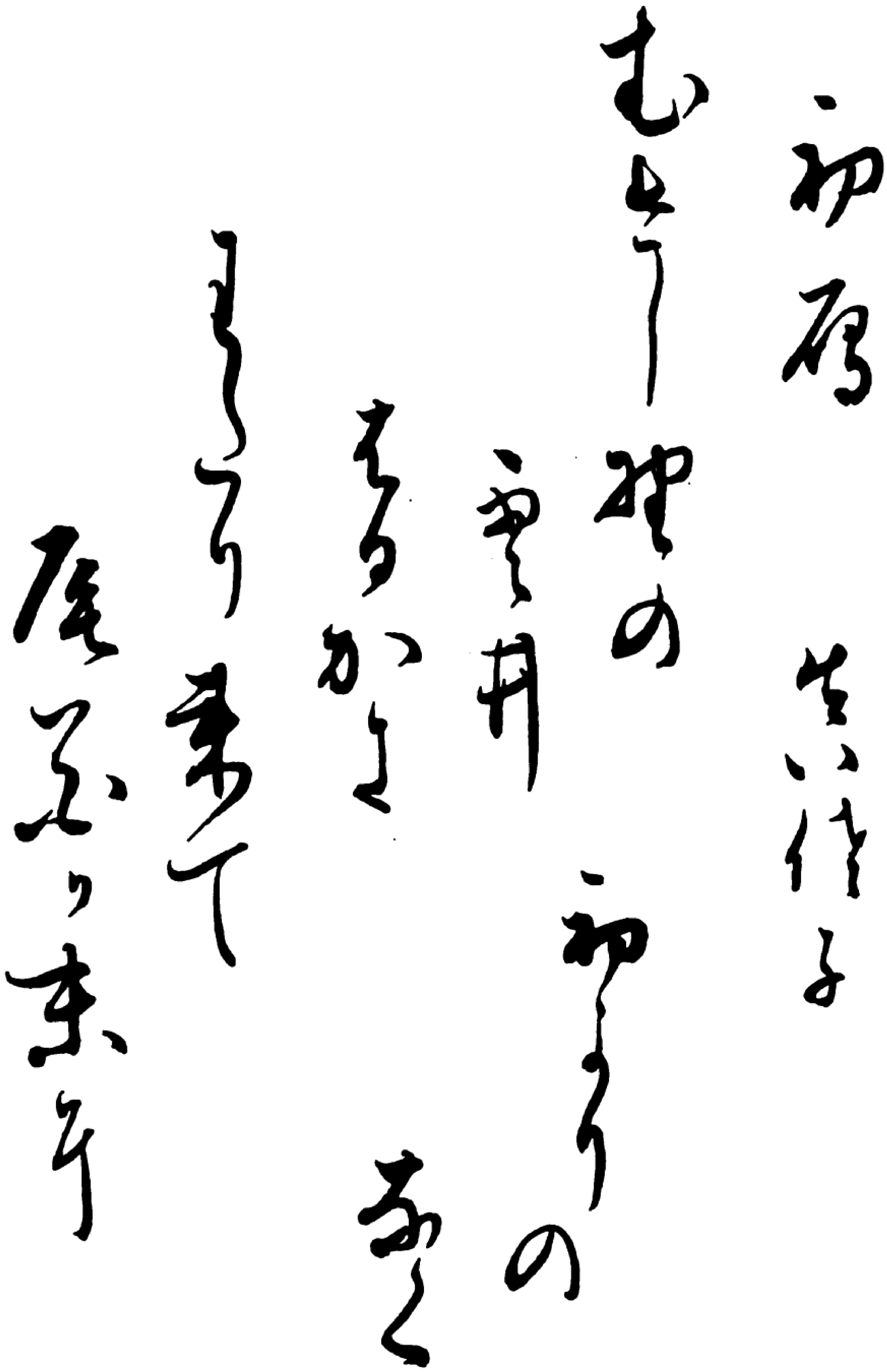
鵙(もず)

三宅克己筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

三輪田真佐子女史筆



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

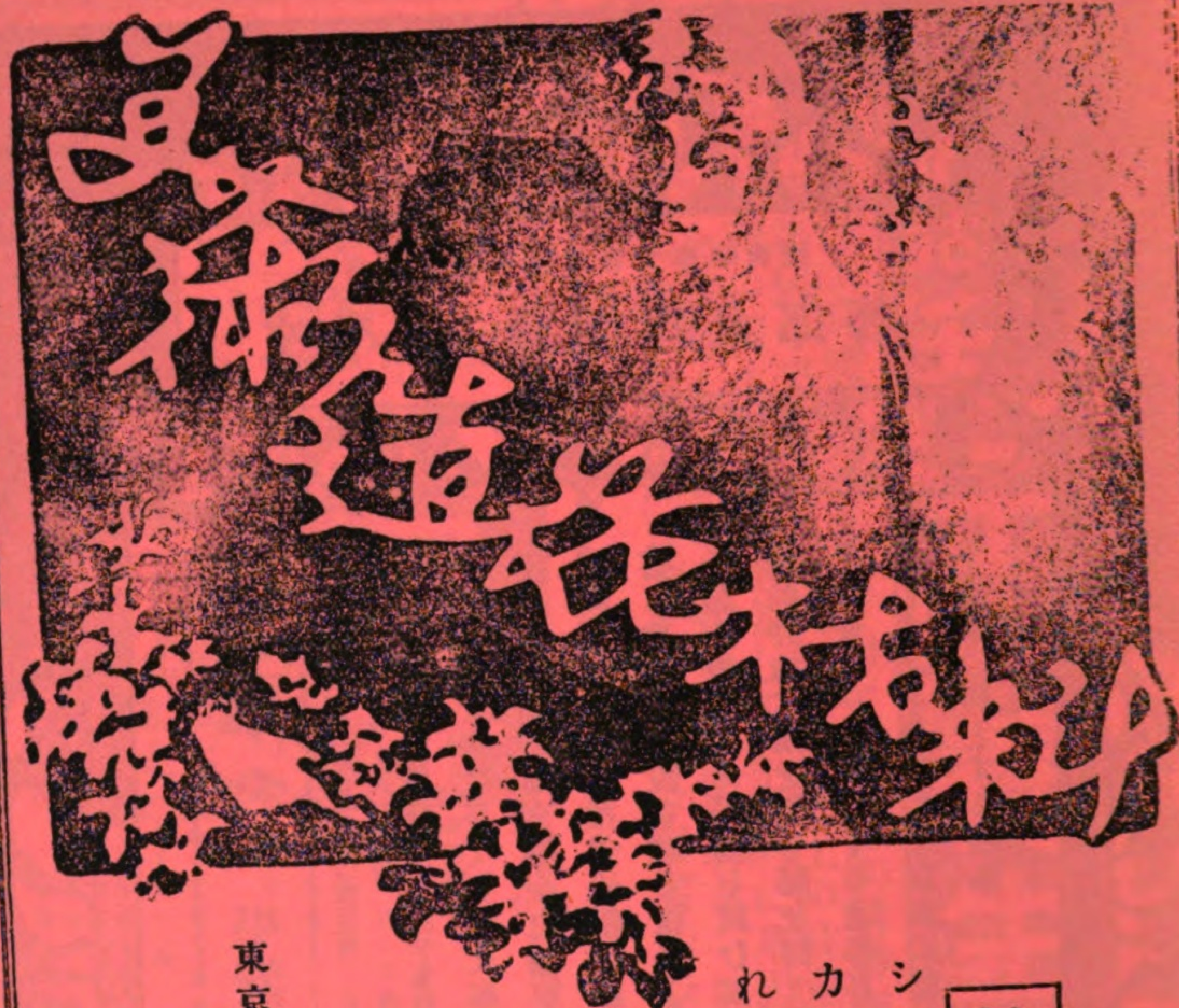
三輪田真佐子女史筆

胡枝花

霜挂秋庭露氣濃滴
階梧葉帶西風朝來
忽見景雲叢開遍胡
枝花一簇

三輪田真佐子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



斬新夏期用材料

船來薄絹シホン

シホン見本帖及シホン製作品
カタログ(コロタイプ)御入用な
れば郵券五錢御送附可被下候

造花材料品各種
造花用繪具各種
造花用器械各種
摘み細工原料各種
刺繍用金糸、平金、絹糸各種
根掛材料、和洋リボン各種

東京市日本橋區横山町壹丁目拾六番地

天野卯兵衛

電話(特)浪花一六四三番

(甲の一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京帝國大學文科大學助教授

文學士　藤岡作太郎著

國文學全史　平安朝篇

紙數八百餘頁(五號)索引付　全一册
製本クロース三色刷　洋裝美本
定價貳圓五拾錢　市外小包料貳拾錢

著者文科大學に在て日本文學史を講ず講授の餘暇別に國文學全史編纂の企あり平安朝篇先成る是積年研鑽の結果にして古書に拘らず舊説を破り根底より考竅し來て然る後縱横に品隲を試む其公平なる客觀的評論は微を闡き祕を探り實に國文學の研究に一期を劃する者學界未曾有の大著とす之を公刊して江湖に薦るは私に以て弊館の誇とする所也

發行所　東京小石川區小日向水道町　東京開成館

(甲の二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

賢母良妻必携

醫學博士 瀨川昌耆先生閱

大日本私立衛生會 編輯主任 關以雄先生編述（新版發賣）

家庭講話 我子の養生

和裝頗美本

定價金四拾五錢

郵稅金六錢

口繪 鮮麗 彩色刷

▲本書は(1)身體衛生上の要約を叙して(2)精神衛生の必要に及び(3)法定及法定外傳染病の恐るべきを說きて豫防上の注意を與へ(4)青年時代に於ける衛生的發育の尙ぶべきを本として道樂的に基因する非衛生行爲を訓戒し(5)敎育勅語を義解して衛生の普及は億兆心を一にするにありと論決せり『我子の惡德』『我子の美德』等の書と兩々必要の良書句々嶄新、辭々加趣家庭の良讀本なり。

新版發賣

男女處世の禁條

洋裝美本全一冊

定價廿五錢　郵稅四錢

紳士淑女の必讀

日本の家庭

十月十日發行 二卷二號要目

▲幼稚園……（口繪）

▲婦人は弱き者なりや…記者

▲敎育者と家庭……棚橋絢子

▲子供の唯一の武器 大村仁太郎

▲お伽噺……巖谷小波

▲小兒室の設備（承前）松本孝次郎

▲はゝそのかげ……三宅花圃

▲小兒服の裁縫……星つれ子

▲子供の癖……沼田藤次

▼おしやべりな小供

▼高慢なる子供

▼知つた風する子供

▼嬰兒の泣く癖

▼物たれふり吸ふ癖

▼爪を嚙む癖

▲子供の病氣に就て 沼野孝太郎

▲浮きたる心……伊藤ふく子

▲蒟蒻の話……幡幽泉

▲女中と奥樣……記者

▲和歌……花圃選

▲小說思ひやり……若き艮人

▲間食をおやめなさい 記者

▲新世帶……かさみれ

▲貯金のこと……今野しげ

▲料理法……ゆふづき

▲料理の切形……石井泰次郎

一冊九錢　六冊五十錢

十二冊九十五錢

發兌 東京表神保町神田 同文館

大賣捌 東京早稲田 同文館

支店 大阪備後町 寶文館

（甲の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新奇發明 増酒資料（さけふやすもと）

壹斗の清酒は即座に倍增し（即ち貳斗）となる大金儲的釀造化學作用の一大發明新法なり（附錄）腐敗酒直し法、醬油參倍增法、味淋酒速造法、酢速造法、新酒を古酒に變ずる法、香竄葡萄酒速造法、燒酎倍增法、味噌速造法等以上の釀造家及び請賣營業者の大有益案內：：：右今回披露の爲拾萬部限り**無代進呈**す酒造家及前記載の營業者にして望の方は郵劵四錢相添申込次第直に傳習手續摘要錄を送呈す速に見よ營業上一日も缺くべからざる**大有益**の秘訣なり是ッ非早く利用せよ驚くべき大金儲あることを確證す（注意）本館の隆盛を羨み近時當館廣告に贋せて怪しき無効の僞法を傳ふる奸者顯はれたり有志者深く注意して僞傳者に欺かるゝこと勿れ：（當館は去廿壹年の創立也）

確實發明元祖 東京市神田五軒町拾九番地 **日本授產館**

膚色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色黑き男女にても特別製貳劑を用ゆれば忽ち肉體**純白色に變化**し艶美の容貌となるを確證す世上種々雑多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み見よ眼前に峻烈なる特効を覺ゆ眞に奇効顯著の確證新劑價は並製金壹圓特別製分壹圓五拾錢

專賣元 東京市神田五軒町拾九番地 **日新館藥房**

月やくおろし

本劑は胃腑を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も必ず**快通流下**する特効あり本劑參劑分を用れば二三ヶ月間滯りたる月經にても忽ちキレーに流下す又特別製分を用れば半年以上の月經閉止及び**血塊**にても必ず立處ろに流經す且つ月經不順より起る子宮病血の道を全治し多年滯りの古血及**惡血毒血**一を掃すること確證す但し本劑は其奏効極めて峻烈顯著なるも毫も衛生無害なり婦人諸君安心して試藥あれ價は壹劑分七拾錢貳劑分壹圓廿錢參劑分壹圓七拾錢特別製分貳圓參拾錢（注意）本劑の大盛を羨み近時續々怪しき無効の類似僞藥顯る深く注意ありて「專賣元日新館藥房」の名義に注目し購求あらんことを乞ふ



わきが（腋臭症）

根治確證 新發見藥

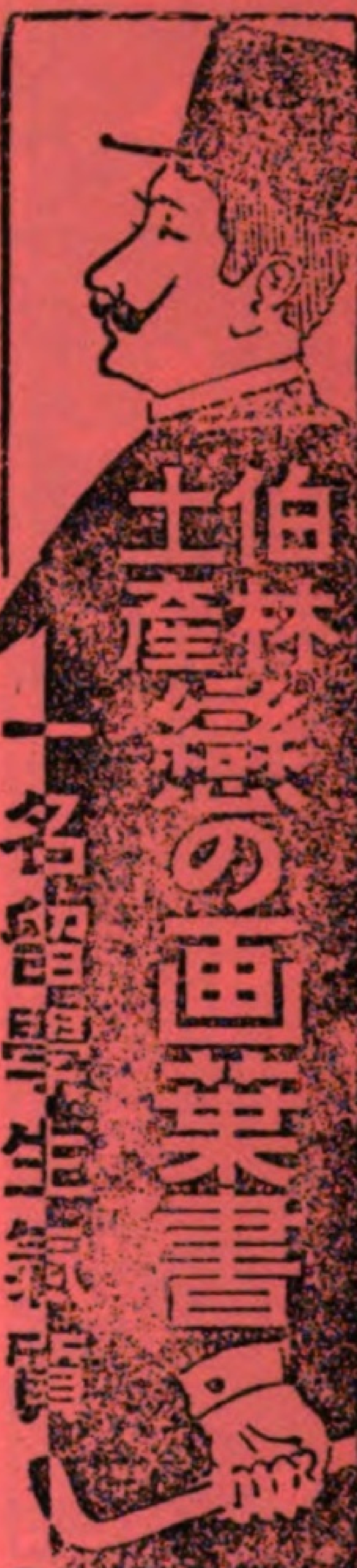
醫療賣藥百方手を盡せし如何程頑固劇烈の慢性わきがにても**誓て根治**し決して再發或は他病に變ずるも憂なき廿世紀的改良根治新藥なり速に試み苦惱を脫せよ價は輕症根治分六拾錢重症根治分壹圓廿錢頑固劇烈の慢性症根治分貳圓卅錢着金即刻送藥す郵劵代用必ず二割增の事（電話下谷五四六番）

以上製藥專賣元 東京市神田五軒町拾九番地 **日新館藥房**

（甲の四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

巖谷小波君著　和田英作君畫



全一冊

洋装最新式頗美本
紙數五百頁
正價壹圓
郵税拾錢

先に**洋行土産**二巻を著して、洛陽の紙價を高からしめ、將た**天覧、上覧**の榮を得たる著者は、今又拾遺として茲に本書を公にせんとす。**小説**か、否、**談話**か、否、畢竟實地の見聞を基として、例の妙想を構へ、快筆を揮へるもの、加ふるに和田氏が**挿畫**の**錦上花**を添るあり。氏も亦當年著者と共に彼地に遊べるの人、机上一たび之を繙かんか、寫す所眞に迫らざる無く、所謂る**文明國**の**暗面**は、忽ち浄玻璃の鏡に照らされ、例の**留學生**の**眞相**は、宛ら紙上に**躍々**たらん。

巖谷小波君著　寫眞銅版數葉挿入
● 小波 **洋行土産**　全二冊洋布上綴　中判新形八四〇頁　正價一冊壹圓貳拾錢　郵税一冊拾貳錢

大橋乙羽君著　彩色美麗寫眞版及木版密畫挿入
● **歐山米水**　全一冊特別上綴　大判一七〇頁　正價壹圓五拾錢　郵税八錢

大橋乙羽君著　寫眞版挿入
● **歐米小觀**　全一冊洋布上綴　小判二六二頁　正價四拾錢　郵税四錢

鎌田榮吉君著　寫眞版挿入
● **歐米漫遊雜記**　全一冊紙皮上綴　小判四二四頁　正價四拾錢　郵税六錢

（甲の五）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰時必讀書

千葉紫草君纂譯

最近外交秘密

（既成發賣）

全一冊洋裝袖珍
紙數三百十二頁
正價金參拾錢
郵稅四錢

無名氏あり、曩に十九世紀歐州外交史の秘密を發きて一書を公にせしが、昨年に至り更らに現世紀を背景として、最も新らしき最も秘密を守るべき**列強の對外政策**と其實行とを**遺憾**なく**暴露**せり之を讀んで**戰慄**したる帝王あり**奮慨**したる**政治家**あり。說去り說來る處歷史にして**歷史**よりも**面白**く。小說として**小說**よりも**奇**なるのみならず叙事に趣味あり、文に綾あり、恰も一篇の**傳奇小說**を繙くが如し。忽にして**驚天動地**の**機微**を生み、忽にして**世界**を**震動**す、細綱を渡るが如き**危機一髪**の歐州國際關係は、蓋し此一冊にて說明し終れりと謂ふべし綱目左の如し。

目次

（甲の六）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

釋雲照律師新著

佛教原論

一名法界同歸德教論

全一册

洋裝菊判美本
紙數約三百五十頁
八月上旬發刊

◎卷頭＝雲照律師最近寫眞肖像挿入

末法稀世の大善知識釋雲照律師は高齡八旬に近く法德益々宇內に光被して四民之に歸依すること嬰兒の慈母に於けるが如し律師一たび錫を停むれば四邊履を倒にして來會し法筵徐に眞理を演繹すれば貴賤襟を正して渴仰す。故に各宗各派の僧侶も其狹見を捨てゝ均しく其德を讓り律師の衣鉢を傳へんことを仰願せり。律師既に高齡に達し諸漏全く解脫す。於茲今世の名殘として佛教原論を著述し出版を本館に托せらる。蓋し律師の精神籠つて本書に在り、律師の法音總めて本書に在り。本書即ち律師の精神にして所謂二而不二の大原論といふべきなり。其內容如何は請ふ本書を繙ひて冷煖自知せらるべし。

石倉翠葉君著　寫眞銅版廿三葉挿入
●成田山名所圖會
全一册洋裝　大判一五八頁　正價三拾五錢　郵税六錢

石倉翠葉君著　寫眞銅版數多挿入
●善光寺名所圖會
全一册洋裝　大判二七六頁　正價四拾五錢　郵税八錢

高野山座主原心猛大僧正題辭　石倉翠葉君著　寫眞銅版三十餘枚
●高野山名所圖會
全一册洋裝　大判三四二頁　正價六拾錢　郵税拾錢

石倉翠葉君著　寫眞銅版二十四葉挿入
●日光山名所圖會
全一册洋裝　大判五一〇頁　正價六拾錢　郵税拾貳錢

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

（甲の七）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



ゼムは氣分を爽快ならしめ口中を潤し音聲を能くす、又氣候の變りめと風土異なる他郷或は惡臭の塲所に携帶し常に少量を用ひなば時候あたり、水傷、流行惡疫を豫防なす良劑なり

ゼムは二三粒を含めば口中より優雅なる佳香を放ち人をして坐ろに爽快を感ぜしめ又偉大なる効能と愛すべき美味とを有すれば何人を問はず必ず談話喫煙飲酒の際および食前食後に賞用すべき貴重の要劑なり

定價

優美高尚包 七十五粒入	拾錢	同 百六十粒入	貳拾錢
同 四百卅粒入	五拾錢	同 九百粒入	壹圓
新意匠容器ゼム入	貳拾錢		

發賣元 東京日本橋區馬喰町二丁目 愛國堂 山崎榮三郎

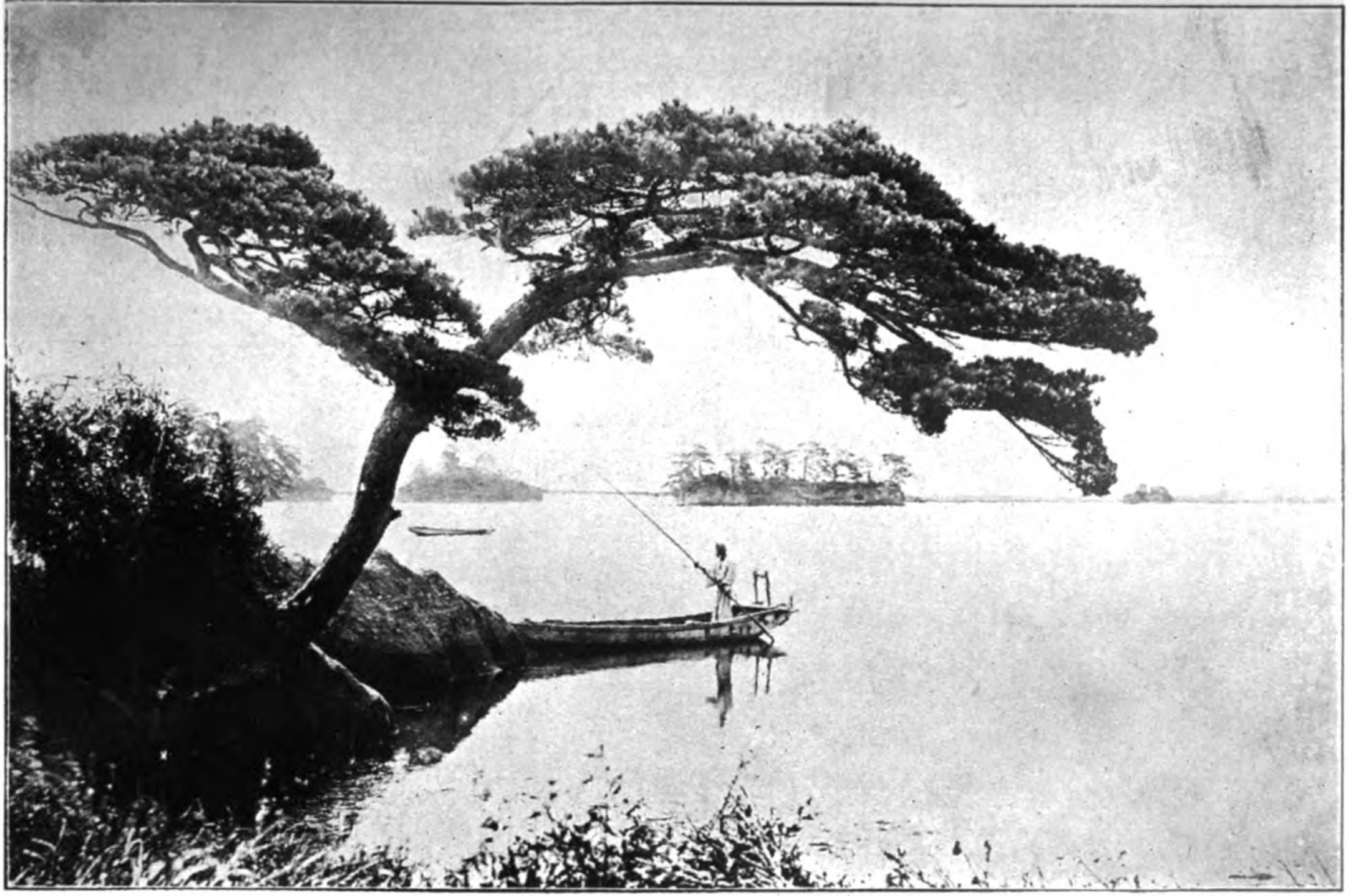
支舖 大坂東區高麗橋二丁目 山崎兄弟商會

●販賣所＝全國到る所の藥店雜貨店にて販賣す

(甲の八)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋の松島



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貴婦人の幼兒保育



前列中央に在りて幼兒を抱擁せる婦人は會長板垣伯爵夫人なり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

清國の幼稚園



先般丹羽枝女史外三名の日本婦人を招聘して開園せる清國武昌府の尋常小學校附屬の幼稚園兒童の集合

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋思



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

於内外博覧會名譽大賞及金銀牌受領

元和二年創業

ヒゲタ印醤油

HIGETA SHOYU

THE CELEBRATED JAPANESE SAUCE

TRADE MARK

Patronised by the Imperial Household Awarded First Class and Gold Medals and Grand Prize at the various International Exhibitions held at home and abroad

The Oldest Establishment of its kind in Japan. Founded in 1616 by the ancestors of the present proprietor G. TANAKA Choshi, Chiba-ken, JAPAN

ヒゲタ印醤油

宮内省御用達

千葉縣 田中玄蕃醸造 銚子港

大日本游泳術研究會師範 石橋司君校閲
早稲田大學生 加藤進君
同上 向井正治君 合著

最新游泳術

全一冊

洋装中判 正價參拾錢 郵税六錢

▲附錄――寫眞銅版游泳術實習圖

近時游泳術に關する著書鮮少ならざるも多くは疊上の水練に類する杜撰の書にして殊に體育に關聯すべき生理衛生の要項の如きは殆ど其影をも存せず。向井、加藤両氏茲に大に視る所ありて、遂に本書を著はし、汎く世の青年に最新の水練術を傳習せんとし多年の經驗によりて得たる智識と技能を以て、懇篤に斯術習得の順序を説述せり。加ふるに精密なる數多の圖解を加へ生理の應用及び水練上の衛生を詳論すること實に本書の獨特とする所なり。其初學者と得技者とに論なく必ず一本を携へて練習の栞に供せられんことを希望す

發兌元 東京本町 博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



◀有名大家筆▶

文藝畫報は何の爲に出づるか、聊か文界の落莫を賑はし、文壇に貢獻する所あらんと欲してなり、故に堅きに失せず、軟きに偏せず、面白き物は揭げ、興味あるは取る、而も文の到らざる所は畫を以て補ひ、畫の及ばざる所は文を以て之を述ぶ、文と畫と相待て文藝の趣味を會得せしむるものは本誌なり。

◀評判々々▶

第一卷第壹號は天長節の發行です◎一冊金十八錢◎六冊前金壹圓◎郵税壹錢

美術寫眞口繪澤山挿入

內容　浮世眼鏡、小說、脚本、名家文林、江戶文粹、文藝時評、社會、演藝界、流行、

▲投書文藝!! 俳句川柳狂歌都々逸

▲歡迎讀者 端唄地方新俗謠一口斷見立三幅對諸國名物外色々

發兌　東京神田區旅籠町一丁目　文光堂　東京堂　東海屋　北隆館　上田屋

留守第一師團長陸軍中將　矢吹秀一　題辭

陸軍步兵少佐　宍道省三君　校閱

夢香　杉本文太郎君著　（新刊發賣）

陸軍諸兵種解說

全一冊

洋裝大判紙　數約三百頁　正價參拾五錢　郵税八錢

[illegible]徒二ケ年間に於ける步兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵は將た何をか爲すものぞ本書は實に是等の諸兵種のみならず砲兵輸卒、同助卒、衛生豫卒に至りて其服役期限內に教育せらるゝ最新の實科並に學科を網羅し文章平易に而も側訓を附し筆及ばざる所一々圖畫を挿みゝ細大漏さず確實懇切を極む故に身兵役に關係ある者本書を熟讀せば入營後如何に苦痛を免かるべきかは謂ふ迄もなく既に入營せし者と雖も若し讀まば其進步發達の迅速なるを自得すると共に彼の歸休兵たるの光榮を得んこと實に易々たるのみ況や大陸海軍國を以て[illegible]讀の要なしとせんや

發兌元　東京　博文館

（乙の二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎圖書總目錄 往復葉書にて申込まるれば進呈す 博文館小賣部

子宮病 自宅療法

妾嫁きてより七年此子宮病ちふ道の難病をわづらひ色々と藥療を盡せしも更に効なく一家悲歎の折柄ふと試みたる療法にて忽ち全快妊娠の身となり今や安々と健兒を擧げゝれば嬉しさの餘りこれを弘く傳へたし望む人は返信料三錢と容躰書を添へ遠慮なく問合せあれ

奈良縣宇佐郡榛原町 笹岡りん

新發明 声の出るくすり 美音錠

將校軍人
教師
僧侶
演舌家
音曲家
謠曲家

定價 十錢 廿錢 五十錢 壹圓

右は從來内藤家の製劑に有之所今回弊店に讓受候間猶引續御用命給り度此段奉希望候
定價廿錢以上のものへは引繼御披露のため極めて美麗なる丸藥及楊枝入を封入進呈仕度各地有名藥店に差出し有之候得共若し品切の場合には直接御註文被下度全國は無遞送料にて御郵送申上候

東京日本橋區兩國米澤町二丁目一番地
美音錠發賣所 稀飯丸本舖 萬珠堂藥局 吉田安五郎

わきが 治療藥 ピヨシン

必ず全治し決して再發或は他病に變ぜず

價七拾錢乙價壹圓卅錢甲價特製貳圓五拾錢

本劑を塗擦すれば主成分は皮膚及び肉の組織に吸收せられ其組織にある毒素を驅逐し腋臭を根底より全滅せしむる作用を有する最近發見の特種の新劑にして如何程頑固劇烈の難重症にも甲價特別製を用ひよ

毛のはへる 毛髮生長液 原名ヘクネス

めはへざわうすき人●まゆ毛●口ひげ●婦人こまあたりのはげ●あるべき所に毛なき人用ゆれば毛髮增生す頭などにはげのあるのは見苦しき者也試みられよ●ぬけ毛落毛を止

早く毛をはやしたき人 有力なる最新液にて

定價壹圓卅錢特別製貳圓送料拾四錢本品は原名をベグネスと稱する現今最賞用せらるゝ

化學的製品 色の白くなる ハートコロン溶液

盛にしく皮膚を漂白するを以て全身次第に白色艶美となる男女交際上最も必用の品なり

十分の力 十性

價A印壹圓B印特製壹圓五拾錢送料十三錢本劑は貴紳淑女粹士間に大高評を博し殊に愛用せらるゝ最新流行の秘力劑にして本劑を塗擦すれば第に依り皮膚は次第に新時代なる

月やくおろし

すぐ下る二三ヶ月以上のとまり又に血塊にに結製を混じ速に月經不順より起る子宮血の道を全治し古血を一掃す
流經す本劑は効能極て烈強なるも身體に害なくたやすく下る又
價半劑六拾五錢壹劑壹圓貳拾錢特別製分貳圓送料拾錢小包料拾錢

メリルピン此藥は子宮を痛めず如何ほど長きとまりも必ず下る二三月位のは壹劑も用ゆれば

●專賣 東京本郷湯島四丁目十二番 オリエンタル藥館

(乙の三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

練文隨一

好評 第拾號 十月一日發行

無類低廉



本號より美麗の繪はがきを附しました
お約束の表紙も亦改版
口繪の水彩畫、寫眞版極美
價 送料共拾壹錢六冊六十三錢
發兌元 東京京橋大鋸町十 女子文壇社
▲前號は發行當日賣切の盛況早く求め玉へ

懷中用 救急藥函 輕便

出征者に贈呈品として最も適當なるものなり

戰地必携 戰地に行く人は見よ

旅行必携 旅行をなす人は見よ

救急藥として完全の良劑たるは醫師藥劑師の證明に見るも明かなり

小包料共一個 壹圓六拾錢

發賣元 博愛堂藥店 東京市日本橋區本石町三丁目角

毛のはへる事請合 ハロール

ハロールは歐米各國に於て造化の妙工を奪ふの奇効ありとの好評を博したる醫學博士シユワインゲル氏の秘密藥を當館主が深奧なる學理と老練なる技術とを以て多年の研究に依り其秘を發き之に最近の發見に係るドクトルベンザム氏の生毛に關する新說を參酌し最新藥を配合したる世界無比の良劑なれば價額は他の生毛劑に比し稍々高價なるべきも其効能の卓絶なる世間に有觸れたる技術と學理に暗き素人の製造に係る濫製品の比に非ずまゆげ。はへぎわ。ひげ。の薄を濃しやけどできたる者にて禿たるを生じ陰毛等ある可所に毛なきを生じ禿頭病に大効ある事請合なり是非試よ定價五十錢送料五錢郵券代用三錢切手二十枚送れ

らい病最新藥

▲複方チノサール一ケ月分 貳圓
▲チノサール一ケ月分 一圓五十錢

此のらい病藥は永年ハヅイ國に在留して癩病の研究に從事し世界に雷名を轟かしたる醫學博士ハドソン氏の癩病治療藥を化學的の方法にて分析し其主成分に更に最近の發見に係る治癩新藥を加へ且つ當館主が醫科大學奉職中研究したる成績に考へ配劑したる新藥なれば一度使用して其効驗の確實なることを實驗せらるべし古來癩病は不治の病と稱し今日と雖も之を根治せしむる事は難事なれども其病勢の甚しからざる中に貳圓分を四ケ月服用するか或は病勢甚しく進みたる人にても二藥を六ケ月並用すれば病原菌を脫力死滅せしめ漸次輕快に趣き一生醜貌を免れ得る事は確實なり本劑は安價に不幸なる病者を救濟せんとする主趣に基き發賣する者にして無効なる藥品に非常なる高價を貪り大言を吐て其効能の著大なるらしく見せかけ不幸なる病者を陷れんとする購着主義の賣藥に非ず詳細は容體書に三錢切手封入本舖へ申込あればば委しく通報す

三河國碧海郡刈谷町益世館藥局主
醫科大學卒業藥劑士
從七位勳六等 中島龜之丞鑑製

(乙の四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

肺病

私儀多年肺病にて九死の際偶々一奇法發明の爲め全治せる故世の同病者を救ひ度き志願に付望の方は郵券二錢封入して御照會あれ

千葉縣安房郡北條町　川名助次郎

默鳳前田先生著

書學全書

附五體千字文

月刊　正價卅八錢　郵税四錢

右第二卷字體變遷の部には周楚齊魯等の文字を掲載せり

東京京橋區五郎兵衛町九番地　書學會

博文館廣告大取次

東京京橋區數寄屋町　**弘報堂**　電話新橋八五一〇、三、二〇九番

東京神田區千代田町　**博報堂**　電話本局一四四〇、二、五七一番

自宅通信 **書法教授**

東京本郷區元町六十六番地　**西田單山**

久保田米僊翁選　定價十錢　郵税二錢

▲每日の總菜案内▼

一年間每日朝晝晩のお總菜を三千種以上書いてある本です

賣捌所　東京市銀座大通新橋際　新橋堂書店

日本の少女になりたいお方は此の雜誌をお讀みなさい



日本一の少女雜誌

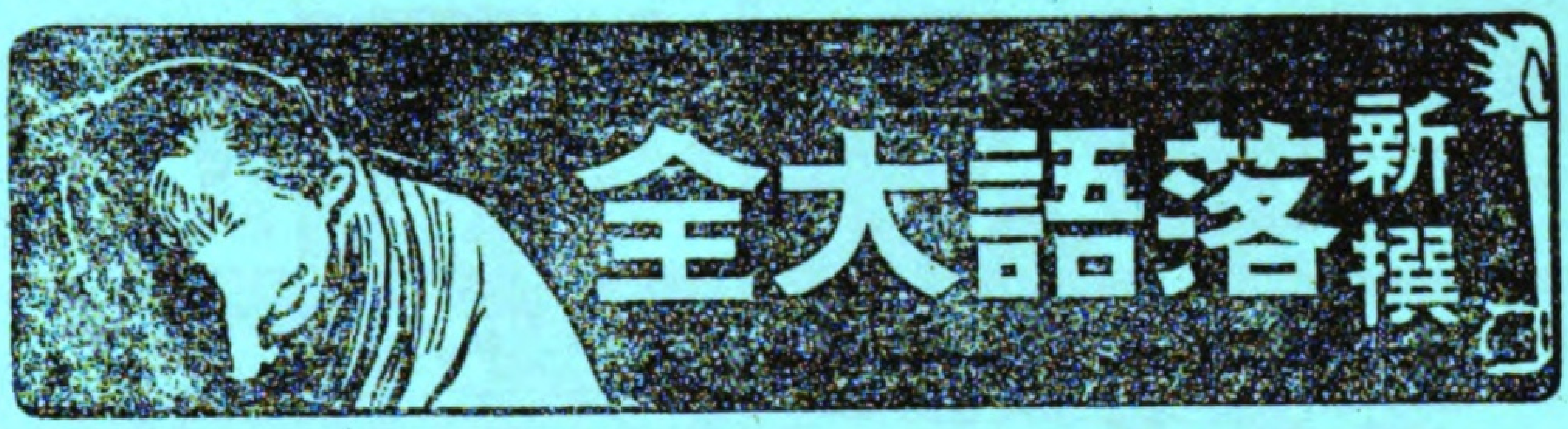
日本の少女

會長　下田歌子

發行所　東京牛込中町卅四番地　大日本少女會

(乙の五)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



文藝俱樂部 第拾壹卷第十四號 定期增刊

◉表紙＝橋本邦助君筆
◉木版口繪＝鏑木清方君筆

落語改良の聲を聞くや久し、されど只徒らに改良を呼號するも何の効かあらん。**文藝俱樂部**こゝに慨するところあり、來る**十五日發兌**の**定期增刊**を「**新撰落語大全**」と題し、現時の落語界に**牛耳**を取る左記の**名家に依囑**し各々其の得意を口演せしめ、是れを一書の中に網羅し、大いに我落語界の**改善**を圖らんとす。世の眞の**滑稽**を**愛好**するものは素より長夜の伴侶として此の書に如くものなからん。賣切れざる內續々愛看を祈る

（一）おせつ徳三郎　圓喬
（二）櫻風呂　圓遊
（三）駱駝　小さん
（四）三人兄弟　圓馬
（五）火事息子　圓右
（六）今戸の狐　燕枝
（七）樟腦玉　圓左
（八）浮世根問　文左衛門
（九）はで彥　圓藏
（一〇）煙草好き　ブラック
（一一）神道茶碗　柳枝
（一二）士族の商法　遊三
（一三）朝友　圓橘
（一四）廿四孝　馬樂
（一五）村正　新左衛門
（一六）佃祭り　小圓朝
（一七）清正公酒屋　文治

▲洋裝大判美本　正價貳拾五錢　郵稅貳錢五厘
▲發行……十月十五日

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

（乙の六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當世 交際社會

女學世界定期增刊　第十四卷 第五號　十月十五日發行

交際に拙なるは、小にして一身を誤り、一家を誤り、大にしては國家を過ち、悔を千載に遺すに至るとぞ、今や秋風肅殺、ポートマスの講和條約を見るに及んで、亦た此の嘆なくんばあらず、此の秋に當り「交際社會」を編むもの、婦人を社交場裡に誘導して、其の養ひ得たる智識により、後の國民を完全に仕立てられんことを希へばなり、本編收むる所、世故に長けし貴婦人の經驗談を初めとして、交際の要道に至るまで、事苟くも社交に關する諸般の智識は舉げて洩らさず、眞に是れ社交界空前の良師友!!!

◉社交場裡の貴婦人
◉貴婦人の交際振
◉婦人社交俱樂部
◉社交界の女王
◉社交十二ヶ月
◉八方美人傳
◉家庭間の交際
◉交際術
◉社交と服裝

◉泰西社交觀
◉巴里の交際社會
◉社交日記
◉交際難
◉音樂會の記
◉天長節の夜會
◉某伯爵家園遊會
◉社交の花
◉社交百則

◉大山侯爵夫人社交談
◉岡部子爵夫人社交談
◉秋元子爵夫人社交談
◉山脇房子夫人社交談
◉吉田子爵夫人社交談
◉鳩山春子夫人社交談
◉柳谷千代子夫人社交談
◉長崎省吾夫人社交談
◉棚橋絢子女史社交談
◉小川直子女史社交談

（乙の七）

洋裝大判紙數二百餘頁石版及寫眞銅版口繪數多挿入

正價金貳拾錢　郵税貳錢

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醸造に最も古き經驗を有する本印の品質他品に超絕せるは更に贅するの要なく夙に世間の定評あるあり尚此上とも御愛用奉願上候敬白

天下一品
最上醤油

千葉縣野田町

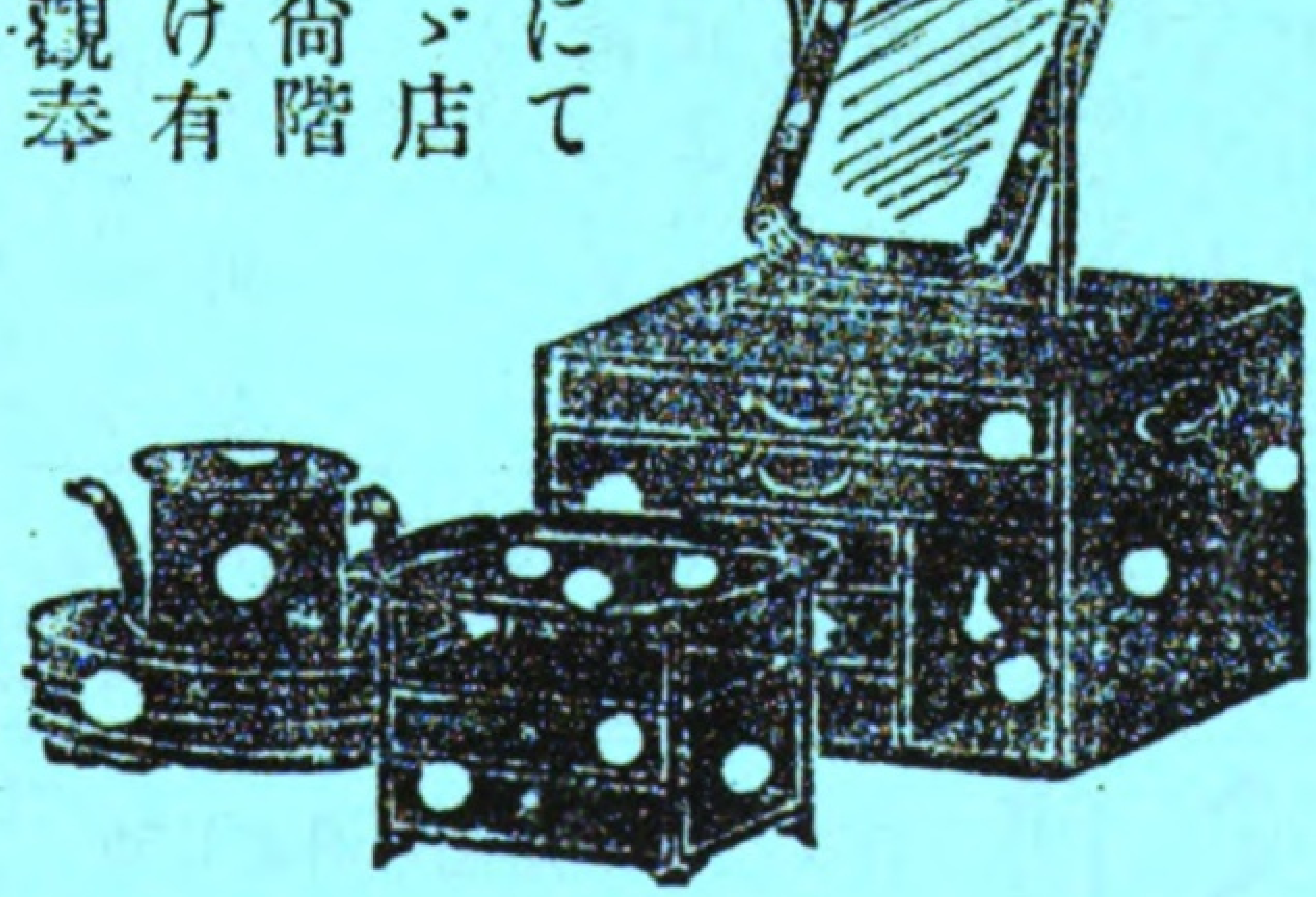
醸造元 茂木佐平治

賣捌所は各地とも有名なる酒醤油店に有之候

各種美術漆器類

御婚禮道具蒔繪美術品各種重箱膳椀家具一式其他各種共特別に注意調進可仕候

御用の節は電話にて御申越被下候はゞ店員相伺せ可申候尚階上に陳列場の設け有之候間時々御來觀奉希上候



柏

東京市日本橋區通壹丁目

黑江屋漆器店

電話本局八百拾四番

(乙の八)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人共立會紀念



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本橋裁縫女學校卒業生



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

下田歌子女史著

家庭の心得

近來家庭敎育不十分なりとの聲いよ／＼高くなり行くを憂へいかにせば之を救ふ途あらんかと深く心を痛めつれども良案なし、されど其の原因は母親の無敎育より知らず／＼年少の子女を怠らしむるの惡結果を生ず希くば少女が家庭に於ける用心と行爲との斯くなれかしと覺ゆる節々を示さば大に資する所有べしと信じて此書を物せり。

全一冊洋裝 正價三拾五錢 郵稅六錢

發兌元 東京本町 博文館

五大軍醫合議製劑

藥價 五週分壹円、三週分六十五戔、二週分四十五戔、一週分二十五戔、二日半分十戔

本舗 東京銀座壱丁目 大阪南久寶寺町堺筋東 山田安民



全國各藥店にて取次販賣す



眞正無毒 皮膚艶美

クイーン白粉

クイーン水

本品は我同盟國より輸入せる最新最優の原料に貴重なる芳香を加へ精製したる他に比類なき化粧料なり

取次販賣は到る處の化粧品小間物店にあり品切れなれば直接に

本舗 東京日本橋新和泉町 三井花陽堂

海軍省御認可

日露戰役海軍寫眞集

既製發賣

毎輯

寫眞銅版五十面四六判二倍横綴美装

日露戰役開始以來、大小幾海戰、戰へば必ず勝ち、敵の太平洋艦隊を旅順に殲滅して宇内を震駭せしめ、續いて日本海に、敵の第二第三兩太平洋艦隊をも擊破して殆んど遺類無からしめ、渾圓球上を通じてその人間業にあらざるかを疑はしむ。其間また或は風雪を冒して敵艦隊襲擊となり、或は幾回の敵港閉塞となり、時に敵彈雨集の間に强行偵察となり、時に怒濤山を崩すの間に敵港外の封鎖勤務となり、或は陸戰隊となり、或は輸送掩護隊となり、勇戰奮鬪壯烈鬼神を泣かしむ、這般空前の戰功其の實況を撮影し、以て萬世の紀念と爲すべきもの、乃ち本寫眞集なり、圖は開戰以來、我が海軍の諸將校が、萬死の間に出入して撮影せられたるもの、佐世保鎭守府に於て盡く集收せられ、編次して世に公にし、以て此曠古の大勝を紀念すべく、また勇戰將士の戰功を不朽に傳へられんとす。本館幸ひに之れが發行を命せらる、此に於て爲し能ふ限り價を廉にし、裝幀を美にして廣く頒布せんことを期す。當局海軍々人は素より、籍に帝國民に在る人々は、皆な繙讀を賜はらんことを祈るなり。

第一輯（既製發賣）

特製　全部光澤紙刷總クロース　表紙金文字金模様入美本　正價七拾五錢郵稅八錢

並製　石版刷表紙大和綴　正價貳拾五錢郵稅六錢

第二輯（十月上旬發賣）

特製　全部光澤紙刷總クロース　表紙金文字金模様入美本　正價八拾錢郵稅八錢

並製　石版刷表紙大和綴　正價參拾錢郵稅六錢

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

（丙の二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陸軍步兵中佐　岡野敏雄君校閲
陸軍步兵大尉　小山永行君著述

陸軍入隊案內

▲石版美麗刷＝帝國々旗勳章制服新圖
▲寫眞版＝兵營生活 各科敎練 演習十六枚插入

全一册洋裝袖珍
紙數三百餘頁
近日發行

今後我國の軍備は益す大擴張を要すると共に、新入隊兵の著しく增加する事火を睹るよりも明かなり然るに世間此等の新入兵が其入隊以前に於て豫め軍制の梗概、兵營の摸樣其他兵卒に課せらるゝ學科の概畧等を悉知し得べき完全なる入隊案內書の欠乏するは盛世の缺點といふべきなり、著者小山大尉之を遺憾とし奉天の戰役に負傷して後、身補充大隊附にあるを幸ひ日夜鞠躬勉勵して遂に本書を作成せられたり而して本書は全篇を通して問答體を用ひ行文は極めて平易通俗を主とし其難解の文字は之を上欄に摘出して逐一注解を附し本文は都て平假名を施す之を讀む壯丁は何時軍隊に徵せらるゝも決してマゴック樣の頓馬なく他人よりも早く習熟して早く昇進するの便利を得るなり蓋し國民必須の好著といふべし

夢香杉本文太郎君著

●戰鬪圖解

正價參拾錢　郵稅六錢

軍隊は如何にして編制せられ各兵種の性能は如何にして發揮せられ充員召集は如何行軍は如何宿營は如何又戰鬪は如何にして開始せられ攻擊は如何にして擧行せられ追擊は如何防禦は如何戰場に於ける死傷者の處置、戰鬪後の處置其他行李、輜重初兵論及び彈藥の補充、被服裝具の補充、人馬の補充等戰鬪全般に關する幾多の動作を圖解し就中旅順の如き浦鹽の如き大要塞の組織並に攻擊法を説明網羅するに至りては先人未だ這般の著なし

（丙の三）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全部完成

數學理化英語 獨習講義

京北中學教諭理學士 杉谷[illegible]
福島縣中學校長理學士 [illegible]
工學士 [illegible]作
極東通信記者 [illegible]
東京中學教務幹事 松本小七郎
研數學館主 奥平浪太郎
文學士 岡本幸實
農學士 [illegible]内瑕洲

全部廿四冊 一冊廿五錢 六冊一圓四十五錢 十二冊二圓八十錢 廿四冊五圓四十錢 ●外に郵送料毎冊一錢づゝ

科目○算術○代數○平面幾何○立體幾何○平面三角○物理學○化學○測量○英語

本書は中等教科中最も困難なる數學理化學測量英語を當代に於て名聲嘖々たる專門の士が多年の經驗と豐富なる學識とを以て講述せられたるものにして世上徒らに其の聞を大にして其の實の添はざる講義錄の類とは大に其の選を異にせり讀者諸君若し一たび本書に向はむか親しく師の咳聲に接し其の講義を聽くの感あらむ全國の中學校師範學校高等女學校其他の補習學校の學生諸君は勿論教員受驗希望の諸君は乞ふ必ず一部を座右に備へられむことを尚ほ本書には毎號質問券を添へ獨習者に遺憾なからしめむことを期せり

各科合本

- ●算術講義 價八十錢郵稅十錢
- ●代數講義 價壹圓郵稅十錢
- ●平面幾何講義 價壹圓郵稅十錢
- ●立體幾何講義 價壹圓郵稅十錢
- ●平面三角講義 價壹圓郵稅十錢
- ●物理學講義 價壹圓郵稅十錢
- ●化學講義 價壹圓郵稅十錢
- ●英語講義 價七十錢郵稅十錢

東京神田區表神保町 研數學館講義錄發行所

東京中學校研數學館教授 佐川安宜君

廿六年度 官立諸學校入學試驗問題答案

- 廿六年度 全一冊 正價五十錢 郵稅八錢
- 廿七年度 全一冊 正價六十錢 郵稅六錢
- 廿八年度 全一冊 正價五十錢 郵稅六錢

酒井勉著 廿八年度 男女東京遊學案內 價五十錢 郵稅六錢

東京英語學會各講師編纂 三十八年度 官立諸學校 入學試驗問題 價十五錢 郵稅四錢

マスターオブアーツ [illegible]太郎主任 英語 學自修全書 全十六冊 價一冊廿五錢 郵稅一冊四錢 完

本書各篇目次

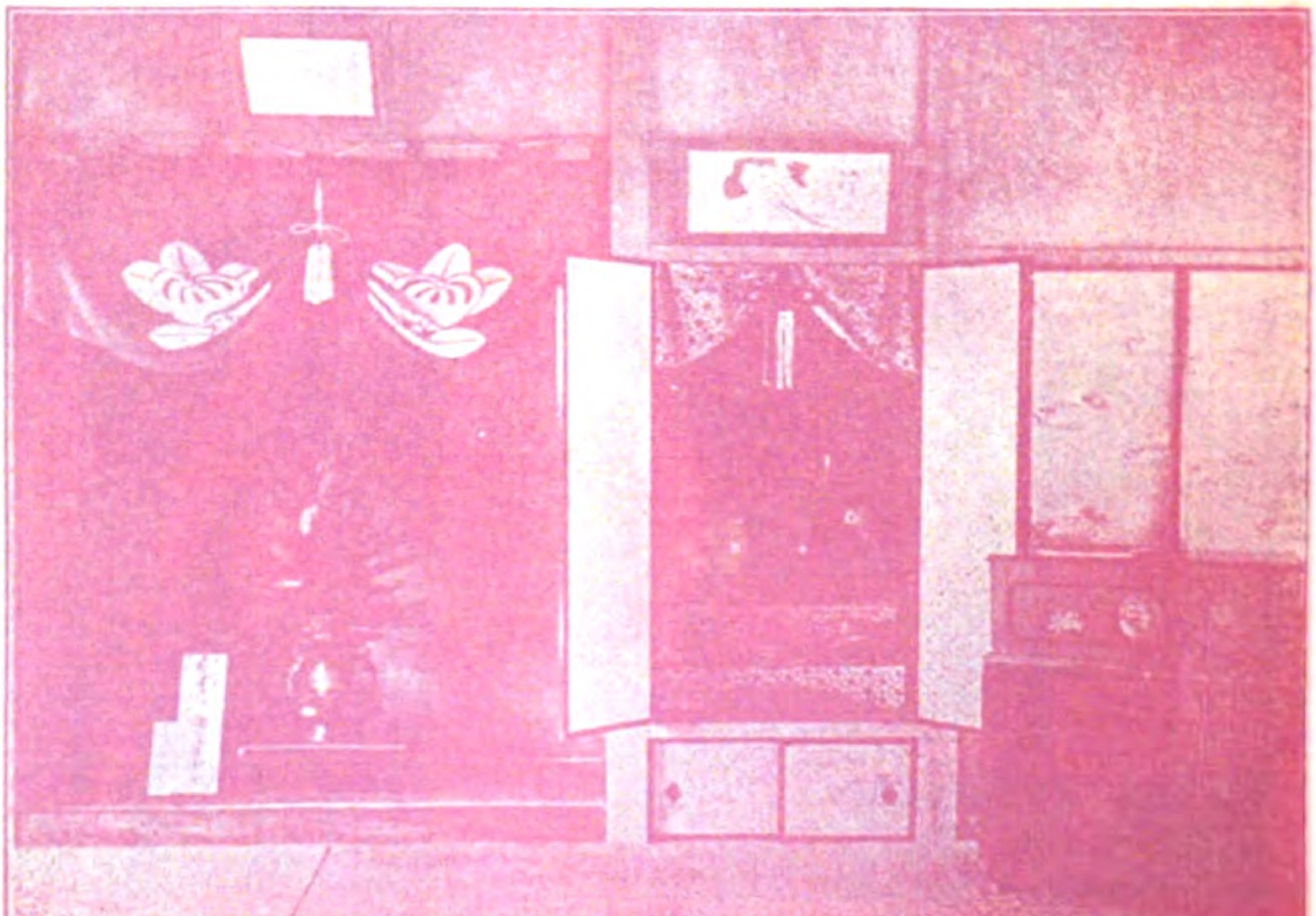
- ●第一編 和英對譯實用作文法 全
- ●第二編 英和對譯尺牘軌範 全
- ●第三編 國民必携實用會話編 全
- ●第四編 新式英文法軌範 續
- ●第五編 新式英文法軌範 續
- ●第六編 實用英單語篇 全
- ●第七編 和文英譯秘訣 全
- ●第八編 新編英和熟語詳解 全
- ●第九編 受驗必携英和難句詳解 全
- ●第十編 英文和譯秘訣 全
- ●第十一編 英文傑作譯詳解 全
- ●第十二編 英語類詞詳解 全
- ●第十三編 前置詞活用法 全
- ●第十四編 英和對譯時事之例 全
- ●第十五編 英和俗語詳解 全
- ●第十六編 英和對譯美文麗句集 全

發行所 東京神田區表神保町七 修學堂書店

(丙の四)

高輪裁縫女學校卒業生





同上禮法教室

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

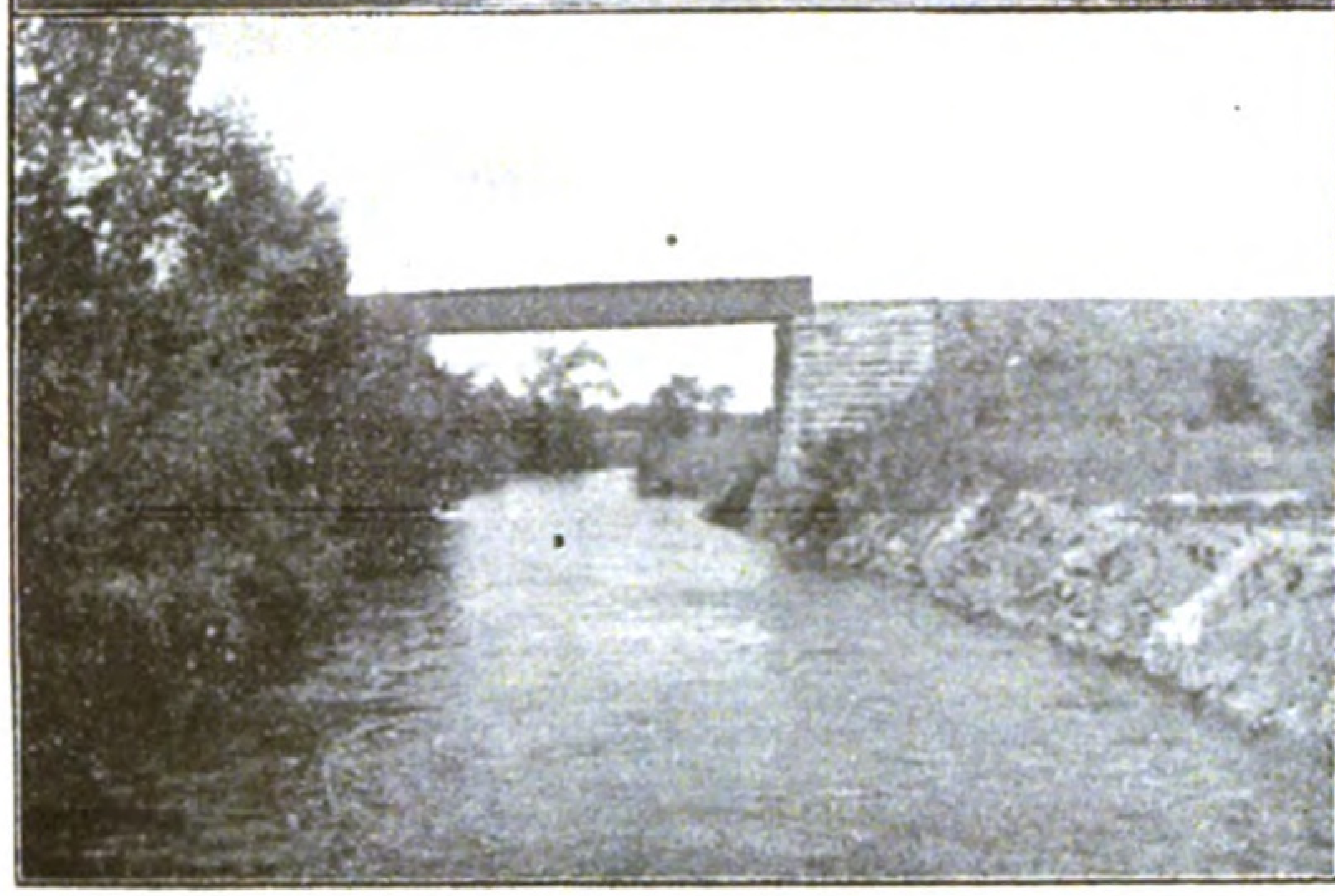
加奈陀の水路旅行



深林中の運河



リドウクヰン號が水門より浮き上る處



運河の鐵道橋



チヤツフー川の急流に沿ふたる運河

（記事參照　能勢總領事令嬢寄贈）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

實驗問答 日本家庭節用

全一冊洋裝總クロース三六版約八百頁　家庭行事寫眞版數葉入

（十月中發行）

女子高等師範學校教授　横山榮次君
明治女學校學監　吳久美子君
高田商會技師工學士　關藤國助君
東京府工業學校職工長　今景彦君
學習院教授　馬上孝太郎君
東京工業學校助教授　瀨谷準造君
日本女子大學教授　片岡哲子君
補助

報知新聞家庭記者　中山千代松君編

報知新聞の家庭顧問は非常に讀者の歡迎を博したものにて其質問の端書のみが三萬枚以上に達した本書は其中に就て極めて必要なる種類のみを撰擇したので其答は全然各專門の學識と實驗を有する諸大家に依て得たものである。本書は二樣の目的を持つて居る一は「其れなり直ぐと實用たらしめ得ること」一つは「普通の人には實用なり難いが其れを知て居ると萬事に理解の便利あること」是なり斯くして得たる經驗でなければ到底確實とは云はれぬ、本書元來博士大家の實驗と學理から出て居るから讀者にして十分の注意を怠らざれば一事一物必ず其希望を達するのである本書は實に明治家庭の寶典たるに背かざるなり其內容綱目を左に記す

▲第壹編　衣服問答　(一)裁縫(二)洗濯
▲第貳編　食物問答　(一)日本料理(二)西洋料理(三)漬物
▲第參編　作法問答
▲第四編　家事問答
▲第五編　衛生問答
▲第六編　病氣問答　(一)藥物看護(二)傳染病(三)強壯肥滿(四)體質(五)滋養食物(六)腦神經(七)小兒科(八)產科(九)婦人科(一〇)消化器(一一)呼吸器(一二)外科(一三)救急(一四)皮膚科(一四)中毒(一五)驅蟲(一六)花柳病(一七)生殖器病(一八)眼科(一九)雜病(二〇)病院

▲第七編　理科問答　(一)家庭理科(二)工藝理科
▲第八編　戶籍問答
▲第九編　諸稅問答
▲第十編　通信問答
▲第十一編　農事問答　(一)野菜肥料(二)牧畜(三)家禽(四)養魚(五)果實
▲第十二編　敎育問答

（丁の一）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も高評なる
最も正確なる
最も便利なる
最も進歩せる

卅九年
博文館 當用日記 懐中日記
出版廣告



明治三十九年 當用日記

特色

用紙 何レモ海外製紙會社へ特ニ注文漉製セシ特別上等紙ヲ用ユ

印刷 新規鑄造セシ活字ヲ以テ注意印刷ス頗ル鮮明ナリ

製本 弊館ガ特ニ歐洲ヨリ輸入セシ新機械ヲ以テ堅牢美麗ニ製本ス

趣

(當用日記)日々欄ニハ過去同月日ノ重要歴史、日露戰役重要紀念、七曜、干支等ヲ錄シ天氣、寒暖、發信欄ノ外往訪及起床時就蓐ノ時ノ記入欄ヲ新設ス、尙各月ノ初メニハ、其月中ニ行フベキ事項ヲ豫記スベキ欄ヲ新作シ、普通記入部ニハ細罫ヲ附シ秩序アル記錄タ

◉紙數 大形中形共五百四拾餘頁　小形五百卅餘頁

大形（菊判）**上製**（舶來洋紙總クロース金字入）◉正價金五拾錢　郵稅拾四錢

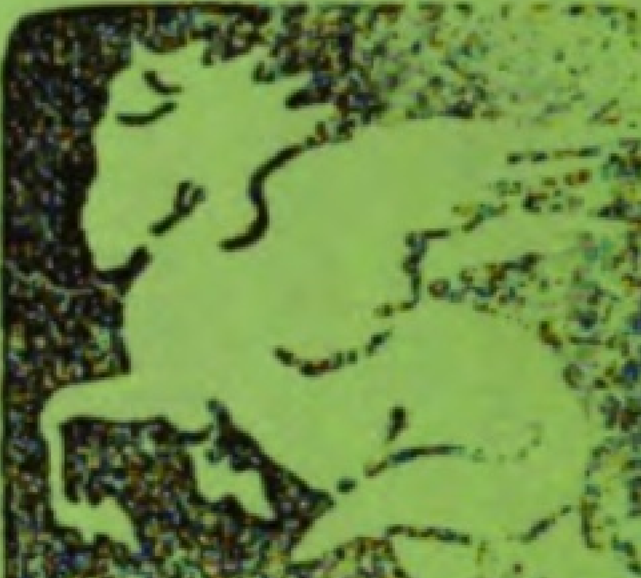
中形（四六判）**特製**（舶來洋紙脊皮美製金文字入）◉正價金五拾錢　郵稅拾貳錢

中形（四六判）**上製**（舶來洋紙總クロース金字入）◉正價金三拾五錢　郵稅拾錢

小形（菊判半截）**上製**（舶來洋紙總クロース金字入）◉正價金三拾錢　郵稅八錢

（丁の二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



明治三十九年 懐中日記

新形（舶來洋紙頗美本總クロース 金文字入細長形携帶至便）◎正價金貳拾錢　郵税貳錢

上製（舶來洋紙頗美本總クロース 金文字入紙數三百餘頁）◎正價金拾八錢　郵税貳錢

並製（舶來洋紙總クロース表紙 金文字入紙數三百餘頁）◎正價金拾貳錢　郵税貳錢

向　體　裁

ラシムルニ適セリ附錄トシテハ紙數十二頁ノ補遺金錢出納表、收支一覽表、交友人住所錄、最新重要統計及日常必須ノ諸規則ヲ網羅セリ（懐中日記）毎月ノ初ニ當月ノ行事、食品月令、遊覽案内、陰暦氣節等ヲ掲ゲ日々欄ニ過去同月日ノ歷史、七曜、干支、天氣、寒暖起床就寢時欄等當用日記ノ如ク卷末ニハ金錢出納錄アリ又日常有用ノ事項諸税則及最新重要ノ統計表ヲ附セリ

弊館出版の懐中當用兩日記の正確堅牢にして實用に適するは玆に喋々するの要なし今回用紙印刷體裁製本に至るまで尚一層の改善を加へ殊に本年調製の新形懐中日記はポケット挿入に至極便利にして附錄には重要規則類あり又名刺代用の切取線付の白紙あり、又當用日記は舊に倍して一層優美に裝釘し尚趣向の改良を加へて記入の便を計り小形外の三種には農學博士横井時敬君の農家年中行事及幸田露伴先生の旅行の心得某醫學士の衛生の心得等を掲け尚ほ伊東祐穀氏の嚴格なる調査に係る最新の統計及座右必需の重要諸規則は漏らさず收めて網羅せり之を舊年の日記に比すれば材料愈よ豐富記事愈よ正確にして江湖坊間の日記と同視すべからざるや論なし請ふ續々御愛購あらんことを

◎賣捌所は全國各地（書籍雜誌店及紙類文具店等）到る處にあり

◎取次望みの方は種類部數等御申込次第精々御便利に御相談可仕候

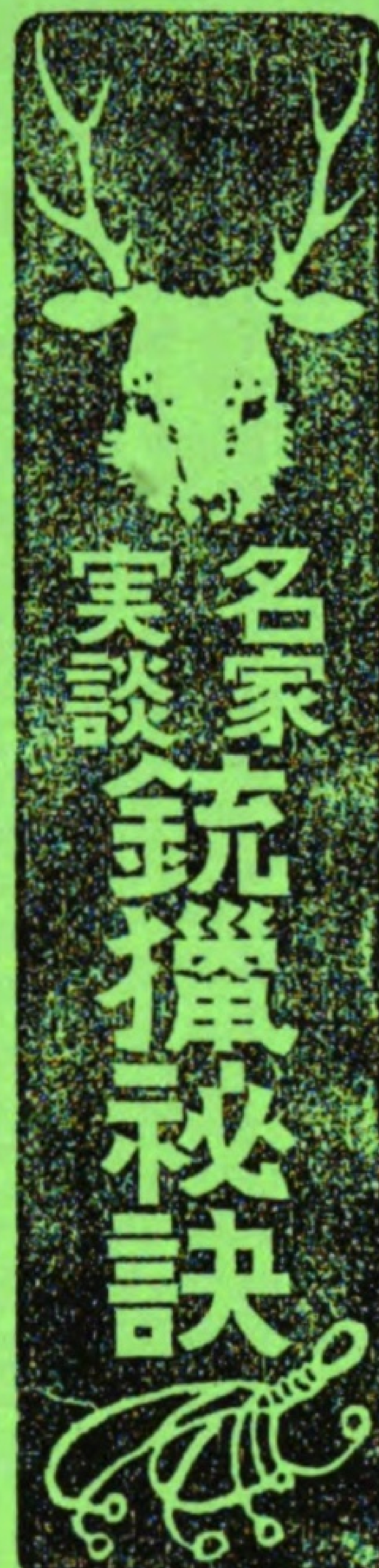
發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　**博文館**

（丁の三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

式部長 主獵局長 伯爵戸田氏共君校閲幷序獵界諸名家校閲

報知新聞記者 高橋迎月君著



（十月中發行）

全一册

洋装クロース金文字入三六判美本
紙數約二百五十頁
銃獵寫眞數葉挿入

（丁の四）

古來我國特有の銃獵に關する書籍の刊行されしもの至つて少なく現に流布しつゝある三四種も皆之れ歐米の著書を飜案して之に自己の意見を附したるものに過ぎず本書は高橋迎月君が**戸田主獵局長、伊達男、十文字氏兄弟、相馬子、飯島博士、鍋島外務書記官、伊集院子、後藤臺灣民政長官、伊達主獵官、大村伯、長谷場獵友會々頭、綾井武夫氏、根岸盛太郎氏、渡邊宗七氏**等獵界に於ける名士を歴訪し多年研讃の結果而も大得意とせらるゝ銃獵談を聞きて以て稿を起したるものにして一々其等大家の校訂を經たるもの也、即ち銃口を向くべき鳥獸の性質習慣獵法は勿論、宮內省御獵場の獵談あり、歐米各國に於ける獵談あり、獵鳥談あり、獵銃談あり、獵犬談あり、射的談あり其總て皆諸名家の多年の實驗なるの故を以て初歩狩獵家の適切なる案內書たると共に練達したる銃獵家に取つても亦他に比すなき好伴侶良參考書たるを失はず今や金風颯々銃獵の期近からむとす希くは我が銃獵家諸氏一本を購ふて多大の利益と經驗とを積まれかし

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

産科婦人科楠田病院長 楠田謙藏先生校閲
産科婦人科專門醫 稻生鑑次郎君纂著

實習産婆學

全二册
上卷 通常産
下卷 異常産

洋裝菊判美本
上卷紙數約三百頁十月發行

本書は斯道の專門醫にして、多年産婆養成の經驗ある著者が、其平素講述の稿本を基礎とし、之に佛國ペナール、アブラン兩氏の著書を始め、多くの佛獨兩國の學者の著述を參考として記述したるものにして、其說從來我國に行はるゝ産婆書に比して異彩を放てるもの多く、挿圖甚だ多くして、文章將た初學者をして了解し易からしめんことを務めたれば、産婆生徒の講習用としても、開業産婆の參考用としても、實に間然する所なき良書なり。今や上卷の出版に着手し、下卷續いて刊行せられんとするを以て、斯道諸姉の座右の書として購讀あらんことを乞ふ。

華族女學校學監下田歌子女史著
母親の心得
全一册 和裝上製 正價參拾五錢 郵稅八錢

醫學博士三島通良君著
はゝのつとめ
全一册 洋布上製 正價七拾五錢 郵稅拾錢

西田敬止君著 木版刷錦繪及寫眞版挿入
育兒と衛生
全一册 洋裝上製 正價貳拾五錢 郵稅六錢

醫科大學藥學得業士金澤巖君著
通俗治療救急法
全一册 紙皮上製 正價貳拾五錢 郵稅四錢

(丁の五)

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本遊戯研究會編纂

模範運動會法

附新式舞踏遊戯

全一冊

洋裝中判 紙數約三百頁 十月中發刊

著者卷頭に識して曰く「是れ疊の上に得たる想像論にあらずして自ら遊戯帽を冠り指揮旗を振りたる實驗談なり」と以て其梗概を知るべし。其内容に至りては先づ運動會の意義と種類とを說き、其教育的價値を兒童學校社會の三方面より聯合運動會の利害を斷じ演技の種類は之を個人競技、團體競技、舞蹈、行進遊戯、歌舞體操に分ち、力を極めて其撰擇に關する注意を詳說し殊に例を一高の野球に藉りて長所の發揮校戯の必要を論じたるが如き學校職員及會賓等の運動に對する缺點誤解を指摘して其改良を痛論したるが如き者著者の抱負を觀るに足る。遊戯の方法に至りては合圖審判演技者の心得より演技の準備、走技非走技團體競技舞蹈行進遊戯等の細目に亘り遂に記錄の要件揭示の方法に及ぼし餘興賞品の撰擇等亦教育的論斷を下せり。運動場に關しては其撰擇上注意すべき要項を擧げ次に區劃の方法設備及會務等の要件を精密に說明したり。

卷末には都下の小學校等に行はるべき舞蹈遊戯のニューヌタイルを著者得意の新說明法により舞蹈準備としては手の執り樣步き樣默禮の仕樣等を始め、對舞方舞の準備演習圓舞獨立演習等數十ケ條を說き、遂にクワドリール、カレドニアン等の對舞方舞スケーチング、タンツライゲン等の圓舞合せて十八番を最も簡明に說けり。

前山口縣知事法學士武田千代三郎君著

理論實驗 **競技運動** 全一冊 洋布綴 正價壹圓貳拾錢 小包送拾五錢

同

心身鍛鍊 **少年競技運動** 全一冊 洋布綴 正價拾八錢 郵税四錢

適心齋井口義爲翁君著

露國征伐 **劍舞獨習圖解** 全一冊 洋布綴 正價貳拾五錢 郵税六錢

神刀流劍舞開祖日比野正吉君著

劍舞術教範 全一冊 洋布綴 正價拾八錢 郵税四錢

（丁の六）

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

安部磯雄君著

北米の新日本

全一册

（既成發賣）

洋装中判
寫眞口繪挿入
正價參拾五錢
郵税四錢

著者は本年四月、早稲田大學野球選手を率ひて渡米し、南はローサンゼルより、北はシャトルに至れる迄の多く我同胞の居住せる所を觀察せり、看よ太平洋の彼岸に在る我同胞は六萬の巨數に達せり、彼等が毎年日本に送りつゝある金額千萬圓に達せり、而して彼等が需用する日本の物品にして彼地に輸送せらるゝもの亦百萬圓前後に達す、然らば單に經濟上より見るも、我國の政治家は決して在來の同胞を輕視すべからず、况んや在來同胞の發達如何は、我國家の保護と奬勵の程度如何に因れり、是れ著者が我朝野の政治家の注意を喚起せんと務むる所にして、又た此册子が、將來渡米奬勵の媒介となり、起業興產家の指導たるを期せられたる所以なり、請ふ、渡米の必要を知るもの必ず一本を座右に備へられよ。

飯島榮太郎君著

米國渡航案内

全一册　小判三百七十餘頁
正價四拾錢　郵税四錢

太平洋を隔つる東隣の新開國土地廣く資本饒かに學藝技術の進歩最も迅速なり、我同胞中、留學、視察、勞働等の各目的を以て渡航する者日に增し、既に數萬の多きに上り尙底止する所を知らざるは宜なり、此事甚だ悦ぶべし、然れ共其渡航の手續及準備と彼地の事情とに通ぜざる爲めに渡航後困難する者又は渡航せんと欲して能はざる者多きを慨し、著者は自から既に久しくスタンフォード大學に在りて實地に經驗する所に徵し、以て今後の渡航者の準備渡航後の職業學事等の指針と爲す、苟も米國の事情を知らんと欲する者は皆な一讀せざるべからず。

（丁の七）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等女學通信教授

大日本淑女學會

▲本會は通信教授法を以て高等女學校程度の教育を授く

戰勝後女子教育を映盛にすべしとは識者の齊しく唱ふる所也、本會之に鑑み通信教授法により『女學講義錄』を發行して、高等女學校程度の教育を普及せしめんとす。頃者女子教育の隆盛に伴ひ、女子都會遊學の危險日に加はる。暖かなる家庭のうち、父母の膝下に在りて智德を修養し圓滿なる淑女たらんとする人は、速に來りて本會の門に入らるべし

▲本會の講義は最も良好にして會費は極めて低廉なり

本會の修業年限は二ヶ年となし、之を四學期に分つ。主として文部省令により高等女學校全課程を修了せしむるは勿論、更に本邦家庭の事情に照し、一家の主婦として缺く可からざる實用の諸科を設く。蓋し學理と實地とを調和し、以て圓滿なる淑女を作るは本會究極の目的なり。學費最も低廉、都會一ヶ月の遊學費を以て優に全期を卒はることを得可し。

▲本會の講義錄は新式の教授法により丁寧懇切を主とす

本會の講義錄は米國の通信教授法を參酌せる最新式の者なり。講義錄は大版約三百頁の大冊子にして、平易の文字を以て最も丁寧懇切に講述す。何人と雖も解し難き憂なきは本會の固く信ずる所なり。卷末雜錄欄を設け、諸大家の筆に成れる有趣有益の文字を掲ぐる外、每號大附錄として家庭小說を連載す。是れ田口掬汀子が苦心を重ねたる純潔高雅の大作也。

▲本會の講師は女子教育界の名流にして斯道の專門家也

本會の講師は、日本女子大學校、華族女學校、女子高等師範學校、日本淑女學校に教鞭を執らるゝ斯道一流の名家にして、いづれも責任を帶びて親切なる講義を寄せらる。外に博士學士等の科外講師三十餘家あり。各學科中の樞要の部分を細說せるもの、又は女子に興味多き文學上の評論創作、家庭に關する事項の講述等にして每號講義錄の附錄となす。

◎會員募集 十月卅日迄の入學者には入會金を全免す 目下入會の好機 ◎規則 申込次第進呈◎

◎東京神田南甲賀町十（電話本局三千四番） 大日本淑女學會◎

（丁の八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女學世界

第五卷　第拾三號

（十月五日發行）

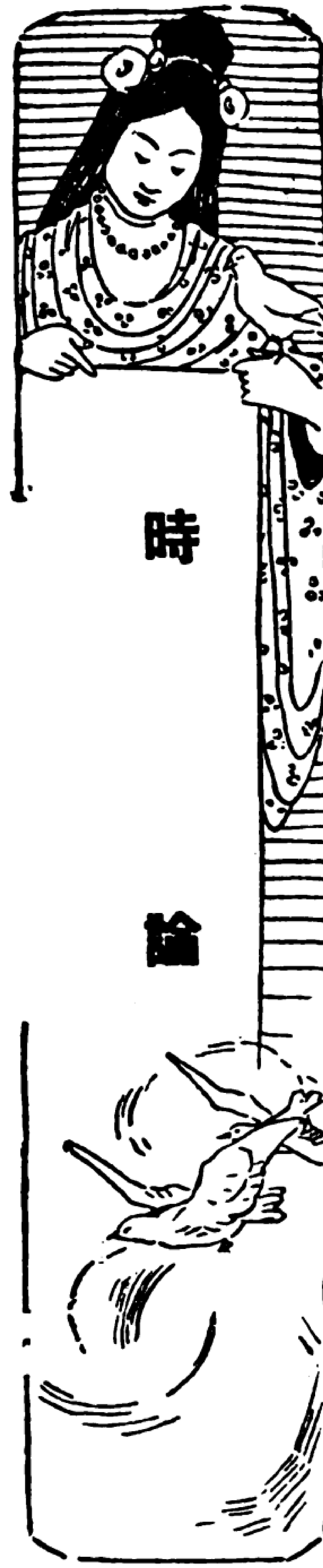
家庭と新聞紙

吾人の家庭に每朝配達せらるゝ新聞紙は、其日〳〵の出來事を記述し、大は廟堂の政機より、小は市井の雜事に至るまで、其他內外の形勢等あらゆる時事を網羅して餘すなし。

吾人は之に依て開戰の動機を知れり、振古未曾有の大捷を知れり、忠勇無双の日本武士を知れり、又た列國の驚嘆せる有樣をも知れり、吾人は又た之に依て媾和談判の始末を知れり、米國大統領の斡旋を知れり、條件の過小を知れり、戰后經營の困難を知れり、而して又た媾和問題に對する國民の憤慨を知れり、其の結果東京市に千古未曾有の大紛擾を釀して、輦轂の下に戒嚴令まで布かれたるをも知れり。

之に由て是を觀れば、吾人の家庭に日に日に新たなる時事の知識を供給するものは新聞紙なり、故に山間に家を營むものも之あれば以て天下の大勢に通ずるを得ん、吾人は敢て一般家庭の子女に向つて政治思想を養へと云ふものに非ずと雖も、國家の一員たる以上は國運の趨勢を知りて、國家に對する自家の覺悟を定め、周圍の事情を知りて之に處するの道を講ずるの必要なくんばあらず、旣に其の必要を認むる以上は、常に新聞紙の記事に注意して時勢に後るゝの譏を免るゝと共に、吾人の子女にも亦た之に依つて時務の一斑を知らしめんことを切望す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



講和紀念 十年後の日本帝國

（今月今日生れ變りし日本帝國の前途を祝して）

今月今日講和條約締結の日を以て極東の一隅に生れたる不幸なる小兒、日本帝國よ、汝の將來は極めて有望なり、汝は汝の過去に苦しき經驗を嘗めたる汝の父母の周到なる養育の下に成長して行く〳〵は世界の巨人となれよ。

戰勝の日本國は恰も戰敗國の形ちを以て講和條約を訂結せり、元來平和を希望して止まざる日本國民も之れが爲めに齊しく慷慨悲憤せり、國民の慷慨悲憤の情は冲天の勢を以て爆發し、遂に帝都の中央、輦轂の下に於て兇刄閃めく慘劇を見るに至れり、所謂天下の志士は怒號狂憤し、警察官は志士人民を殺傷せり、志士は官邸に亂入し、官衙を燒き、延いて市内全部の派出所に及ぶ、人心恟々市民其の堵に安んせず、市内は一時無警察の有樣となり今にも內亂革命の大慘禍を現出せんかと狼狽周章恰も維新革命當時の大騷亂を現じたるがごと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し、爰に於てか戒嚴令の施行となり、政府は一時の鎭壓策を以て帝都を威壓し軍隊を以て市中幷に各官衙邸宅を警衛するに至れり、今後の事容易に斷言すべからざるの有樣なりき。

而して事の爰に至りしものは主として講和條約の國民の輿望に反せるの致す處ろなるは勿論なりと雖も、既に國家の代表者を以て條約を訂結したる以上は不本意ながらも國民は須らく此の條約を尊重し之に據つて國家の經營を成すべきの順序に從はざるべからず。

然らば即ち日本國民は今や屈辱的講和の悲憤を訴ふの時にあらずして如何にして今後の日本國を經營し行くかを考へざるべからざるの時なり。我々は戰爭に克ちて而して外交に敗れたり。我々は局部に勝ちて而して大局上に敗れたり。我々は戰勝ちて而して戰敗國の屈辱を嘗めざるべからざるに至れり。然れども今は是を言ふの時にあらず我が國民は今戰勝の夢より覺醒すべきの時なり、總ての戰捷國の希望を空に歸せしめたる我國民は恰も天國の上より失墜して地獄の底に陷りたるが如き感あるべし。煩悶、困頓、窮乏、あらゆる慘苦を嘗むべきの時は來れり。嗚呼日本國民は戰爭の爲めに大なる馬鹿を見たるなり。されどこれも國家自然の成行なれば致し方なし。然れども是れ決して亡國的にあらず。又危急存亡の時にあらず寧ろ大に前途の發展を見るべきの時なり。只此上は國民一致の大勇猛を奮ひ大覺悟を要すべきのみ。勢ひ窮まれば必らず通ず、日本國民は此の際生れ變りし氣となりて萬事をあきらむべし、萬事をあきらめたる上この苦しき經驗を良藥としてこれを一身に施し、これを一家に施し、延いてこれを一國に施せ。而して我々は大に國を富ませよ、大に智識を進めよ。然らば、今後五年十年の後に至つて必らずや大に發展して眞個に世界の優勝者たるべし。其時に至れば必らずしも政府や軍隊の力を待つまでもなく、又必らずしも列國の壓迫を恐るゝに足らず。他人の鼻息を窺ふに及ばず、他人の意向に氣兼するに及ばず、日本帝國民は新たに生れたる日本帝國民獨自一個の力を以て優に世界に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

立ち、優に世界指命者の地位に達すべし、それまでは只忍べよ只耐へよ、國民は沈默して忍ぶべし、耐忍して自ら養ふべし國を富ませよ、智識を進めよ國民的眞實の臥薪嘗膽は是れよりなり。然らば此の回の屈辱的講和も又大に日本帝國國力發達の大機に資する所ろ大なりといふべきなり。

今月今日講和條約訂結の日を以て生れ變りしこの不幸なる小兒日本帝國よ。汝の前途は極めて有望なり、汝は苦しき經驗を嘗めたる父母の周到なる敎育の下に成長して行く〳〵は世界の巨人となれよ。

精神的敎育

柳橋絢子

歐米各國の學生は皆相當の信仰を有せざるはなく、其幼稚園時代に於て早くも敬神の念を抱けるに似たり、飜つて之を我國の現時に見るに、特種の宗敎學校を除くの外は、信仰を有する學生は皆無と云ふも差支無き程なり。凡そ人に信仰有ると無きとは生存競爭場裏に出でたる時、其勝敗に大なる影響有るのみならず、學校生活に於ても、其成蹟其他各種の點に大なる差異あり。因つて茲に信仰有る學生と無き學生とを比較研究するは頗る趣味有る問題なり、特に女學生に於て其然るを見る。

予は頃日某高等女學校に於て、倫理の時間に『人と獸とは如何なる點が相違せるや』と質問せしに、獸は衣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

服を着けずして毛の有る事、立ちて行かざる事、山野に住める事等の數點を擧げて說明せり、之を聞きたる我は豫期せし如き答を得ざりし爲め大なる失望を爲せり。此說明は唯だ形式の上にのみ止まりて、精神的方面は全く忘却せられたるのみならず、當時が倫理の時間なりしをさへ知らざるもの丶如し。由來日本の敎育が徒らに外形の儀式にのみ走りたる結果は斯の如く其根本たるべき精神的方面に粗にして注意を欠けるに至れるは是れ豈悲むべきの現象ならずや。

若し夫れ人に信仰無くば、如何に博學博識なればとて、人間社會に處して遂に幾何の價値も認め難からん。又高潔なる慰藉は到底得べからざらん。タトヱ博く學び深く識りたればとて、『信』の一字を欠かば、唯だ雜駁なるのみ、將た何の益有らんや。既に己が身に信無くして、漫りに他の長所を眞似んか、必ずや其間に幾多の誤謬を惹き起すに至るべし。

今日の學生は輕薄にのみ走りて些の信念無く、歐米各國の物質的文明に心醉して、其短所のみを覺え、其長所を忘れたり、一般學生の氣風斯の如くなれば、地方に在りても小學を卒業すれば、誘はる丶まゝ直ちに上京せんと欲し、空氣清鮮風俗又純朴なる田園生活の、反つて己に利益なるを考ふるに暇無く、父母の許さゞるを强ひて我が意を貫き、かくて一旦上京すれば、徒らに世の流行を追ふて不測の淵に沈むものあり、是れ豈悲しむべきにあらずや。

されば同じく孔子の敎を信ずと云ふも其何派を信ずるかは人によりて各差違有るべし。故文學博士川田翁曾て曰く、今日の學生は朱子も陽明もきらひ無く多讀するを以つて能とせるが如き觀有るは宜しからずと。一度朱子を學ばゞ、先づ一通り、朱子を呑み込みたる後始めて陽明を見るべし、然らば解し易くして益有らん、之に反して各種の學說を何れも少しづゝ繙きて生呑込に爲さば後日必ず失敗有るべし。生呑込みより不消化と成

り病的と成るもの今の女學生も又少からざるなり。

今日と雖も修身としては五倫五常の道は少しも光輝を失はざるなり。或人は仁義の如き狭小なるものは、今日幾何の價値も無し、宜しく歐米文明の賜物たる科學に依らざるべからずと云ども、名義稱呼は同じからずとも其實質的精神に異る所無く、キリストの博愛も釋迦の慈悲も孔子の仁と同一物なる事、識者を待たずして明なり、而して信仰の一念は、我々人類が先天的性質として自然に具有せる物なり。例へば親が子を愛する情の如し、斷たんとして斷つべからず、切らんとして切る可からざるなり。

蓋し人倫といひ、五常の道と云ふも、美しき天性が私慾の雲に隱れんとするを輔け出す手段なり、要するに我々人類は心の曇りを敎育と宗敎とに依りて絶えず拭ひ清むるものと見るを得べし、假りに一個の菓子箱に就て、之を見るも、箱の成らざる前に於て、既に業に其使用の目的は定まり居れるなり。造り上げて後、鋤に用ゐんか机に使はんかと思惑ふ事の有るべき理なし。鋤と机とは自ら形に相違有れば。鋤は始めより鋤に造り、机は始めより机に組立ん爲め其板を切るなり。人も此理に外れず、人の行くべき道は人の生れぬ先きより既に自ら存せるものとす。よしや仁義の名は古くとも其意義は今も異り無く、眞理は『昔足らざるに非ず今世餘り有らんや』(小學題辭)にて、古今東西共聖賢の敎ふる所は一樣なるを見ても明かなり。

されば日本現時の學生に信念を持たしめん事、甚だ必要なり。兎に角今少しく物質的方面にのみ急ぐ事無く勉めて精神的方面に着眼するに至らしめん事を深く希望せざるべからず。願はくは現今の敎育方法に改良を加へてかくあらまほしきものなりと欲へり。

(右は棚橋女史の談話を筆記したるものにて文責は記者に在り)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

教育週言

三輪田眞佐子

我が國婦人界の將來に慮りて、女子教育上に一個の主義を決定せんとするは、最も困難なる事なり。凡そ一國の教育方針は風俗、習慣、國體、地理、人情等各種の原因に從つて、自然に確定さる可きものにして、我が國今日に有りては各種の主義、理想等を持して教育事業に從事するもの頗る多しと雖も、其方針とする所は、大別して左の二種と爲すを得べし。

一、一の理想を標準として立つもの

二、他の或國に摸倣するもの

右の内後者は其行ふ所、新しく珍しきが故に、隨分世間の耳目を聳動せしむるに足るものありて、其折衷的摸倣が適當なるを得たる時は、進歩大に見る可きものあり。されど前者は兎角保守的に傾き易く「進歩」に向つては、其價値少なきものなるべし。

從來我が國の教育は、此兩者が同時に行はれつゝ有りしものにして、從つて議論多く、衝突も亦少からざりき。唯だ此間に立ちて兩者を程善く調和し、稍中庸を得たるものは成功せるに近かりき。故に今日女子の問題を決定せんとするには、必ず一方に偏せざるを要すべし。

熱誠忠實に其意見を吐露し研究を勵むものは、今日必ずしも少きには非ずと雖も、社會の木鐸と云はるゝ新聞雜誌の評論は多く不親切なる筆を弄するの嫌ひ有りて、其態度甚だ馨ばしからず、其他の評論者も多くは自己の立脚地より見て評論し、或者は其學派より見て往々、我田引水の說あり、例令ば曾て米國に遊びたるものは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

米國式に教育せんとし、獨逸に在りたるものは獨逸の教育を何所までも模範に採らんとし、更に國文學者は、萬事古風なる意見を立てゝ消極的に解釋し、漢學者も亦儒者を骨子として、總て之に準ぜんとするの傾き有り。即ち其教育事業擔當者の修めたる學問の如何に依りて種々雜多にして英學者風の教育有り、神官風の教育有り殖産興業にたづさはる人は、何處までも其教ふる所、殖産興業的なり、富豪貴族も亦、富豪貴族的にして、唯だ官吏の一階級のみは、一切の物を總合して、如何なる職業にも叶ひ得る樣なれどもこれには何等の特色無く何等の長所無く、學科々又雜駁に陷る傾きあるが如し。

若し女子教育をして賢母良妻が目的ならば、之れに家政、育兒等の諸學科を授くれば充分なれども、或は社會に介立して、若しくは良人を輔佐して、男子と共に業務を執らんとするものには、女子と雖も男子と同樣の教育を授けざる可からず。近來女子の農藝學舍が設立せられ、手藝學校及び女子商業學校等女子特有の技藝術以外の專門學校在るに至れるは、皆自然の必要に迫られたるものと云ふべし。さればとて實業を主眼として專門の教育のみを施し、頭腦の教育すべきを忘却する時は、其教育は玩弄物と成るの恐れあるべし。又音樂遊藝等の家庭趣味のみを教へられたるものは、家事の變化に際會して、必ず困難すべし。例令ば財產家の子女が零落したりとせば、琴曲や挿花の如きは何の用をも爲さゞるなり、されば平常縫ひ裁ちの心得有る者は裁縫教師を爲しても糊口を爲し得べし。さればとて商家の娘が商業以外に學ぶものあらざればその家庭は如何に無趣味なるべき、故に專門教育は實用的の技藝のみにても不可なれば、又家庭の趣味に重きを置きたる上品の物のみにても不可なり、さればとて双方を兼ねしめん教育は無理なる注文にして、例令ば遊藝手工等にも熟達し、高尙なる趣味と實力とを兼ね備へしむるが如きは望んで得べからず。如何なる教育方法を採ればとて、學校は全智全能を與へ得る處ろにあらず。故に各個人は、各自の地位に考へて適當なる教育を受けざる可からず、タトエ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ば商家の妻たるべき者は商業學校に行き、教育家たらんと欲する者は、師範學校に入學するがごとし、唯だ女子は何所までも女子なるが故に、婦人にして專門學の研究に從ふものは、常に自己の婦人たる事を慮りて、各種の女藝女學にも、相當の注意を必要とす。

而して又普通教育を受くるに當りて、各人貧富の程度をも考へざる可からず、財產豊富なる人は殆んど道樂的に學問を修むれども、國家に取りてはさまで喜ばしき事にあらず。而して高等女學校は中等以上の生計を爲せる者の子女に非らざれば入學は困難なるべし、こは云ふまでも無き事なり。

（右は三輪田女史の談を筆記したるものにて文責は記者に在り）

女學生の讀書に就て

帝國大學教授　ヘツク

近頃は靑年男女の間に大變に讀書熱が流行して、如何なる學生でも教科書以外に新聞、雜誌、小說其の他の雜書を讀まぬ者は殆んどない位な有樣である、靑春妙齡の女子も其の通りである、私は固より讀書は惡いとは申さぬ、寧ろ却て讀書の必要を日頃大に唱道して居る者である、然し讀書の必要を唱道して居るから、尙更之に就て世の學生就中妙齡の女學生に大に注意して貰ひたいと思ふのである、讀書の必要有益なる事に就ては他の雜誌に私の意見を述べたから茲には言はぬが女學生の讀書に就て一言申上げたい。

先づ女學生の第一に心得置くべきことは、世の靑春妙齡の女子として讀む可からざる新聞雜誌小說雜書等の

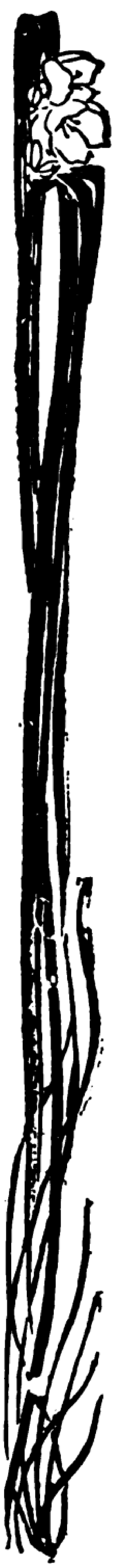
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

種類が澤山ある。此等を總稱して私は今假りに惡書と名附ける、此等は妙齢なる女學生の斷じて讀むべからざるものである、處が此點に就て反對の意見を持つて居る論者がある、論者の曰く、世には所謂惡書なるものはない、書物は何を讀んでも皆益になる、益にならぬ書は一冊もない筈である、就中書物其れ自が危險であると云ふ理窟はない、吾等は如何なる書物を讀んでも危險と云ふことを思つたことはない云々と。此の如き議論をなす人は多くは青年文士であらうが、それには何か爲にする所ありて此いふのであらうも知れぬが、それは兎もあれ、但だ此種の論者は大に誤つて居ると云ふことだけを申上げて置きたい、此の如き論者は最早善惡に無頓着になつたものでなければ、自ら己を欺く者と云つて然るべきである、何れにしても私は之に大反對の意見を抱いて居る者で、私は思ふ、世には確に惡書と云ふものがある、其の書物其れ自らが危險である、其の危險の程度は固より人によつて違ふけれども、兎に角青年男女就中妙齢の女學生に取りては由々敷きものであると思ふ、惡書は之を藥に比べて詠すことが出來る毒藥は實に危險なものである、一朝まちがふと人身を害ふて了ふ、惡書も丁度之と同じく、其の危險は往々人の心を害ふに在る、心を害ふのは身體を害ふよりも倘大なる禍である、勿論其の心を害ふには惡書の性質によつて遲速の別がある、或る書物は一讀直に讀者の心に害毒を及ぼして了ふものであるが、或る書物は徐々と讀者の意志を曲げ、操守を破り、遂に其の風俗を壞亂せしめて墮落に至らしむるものである、嗚呼世の妙齢の女學生にして此等の惡書の犧牲になるものが幾人あらうか、是れ實に注意警戒しなければならぬ事である。然らば是を具體的にいへば、醜情を露出し、肉慾を挑發し、春情を惹起せしめ、戀愛の神聖を語り、自由結婚を布敎し、離緣の自由勝手なるを說く等、凡て正しき家庭の敎育を打破り、貞潔なる操を汚し、醜穢淫靡なる風俗を燒付る所の讀書を云ふのである、淫猥なる小說は勿論、彼の裸體畫だの又近頃の繪はがき抔も皆此の部類に入れて見るべきものである、言ふ迄もなく、此等は皆惡書である、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

飽迄も之を排斥しなければならぬ、彼の青春妙齡の女子にして貞淑に、潔白に世に處して行かねばならぬ者が此の如き惡書を讀んでどうして依然貞淑潔白に繼いて行かれやうぞ、斯くの如きは是れ『私は水の中に入つても濡れません、火の中に投じても燒けません』と云ふと同じことである、左なきだに青春妙齡の女子は動もすれば自分の春情を抑へるに困難を感じて居るではないか、其上斯る惡書を讀んだならば如何なるであらうか、宛も火の上に油を濺ぐやうなものであらう、それで燃えないやうにと冀ふのは無理な注文である、丸で狂氣の沙汰と云はねばならぬ、近頃青年男女の風俗が大變亂れて來たと云ふのも畢竟は此等の惡書を讀むの結果で其罪正しく惡新聞、惡雜誌、惡小說に在る、斯る惡しき讀物が雜然として世に出で、それを青年男女學生が爭つて購讀すると云ふ樣な姿では、どうして其の風俗が腐敗せずに居られやうか。

終に臨み心得の爲に一言して置く、世には直接不道德を語る積でなく、寧ろ善い目的を以て書かれて居る書物でも、其の中に戀愛の說があつたり、醜業婦に關する話があつたり、若くは單に讀者の感情を誘ふやうな文章がある讀物で、青年男女就中妙齡の女學生に取りて有害になるものが隨分澤山ある、即ち今日の文學雜誌及び比較的淸い小說と云はれて居るものなども是である、私は此等の讀物を皆讀んではならぬとは申さぬが青春妙齡の女學生達は餘程注意して讀まなければならぬと、之は單に心得までに申して置くのである、蓋妙齡女子の操と云ふものは天下に一番美しき處ろの花である、此の花一たび汚されたならば、最早其の價値の大半を失つて了つたものと云はなければならぬ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人事曆

十月

休日
日曜日……一日、八日、十五日、廿一日、廿九日
祭　日……神嘗祭　十七日

▲一日（舊暦九月三日みづのとう）。▲十日――金毘羅大祭。▲十一日――十三夜觀月のしつらひ、略ぼ十五夜に同じ。▲十二日――法華宗御會式「妙なりや法の蓮の華いかだ（其角）。▲十三日――滿月――。▲十五日――今日より銃獵期に入り、遊獵家山野に活動す。▲十七日――神嘗祭、此日新穀を朝廷より伊勢大廟に薦め玉ふ。▲二十日――商家惠比須講。

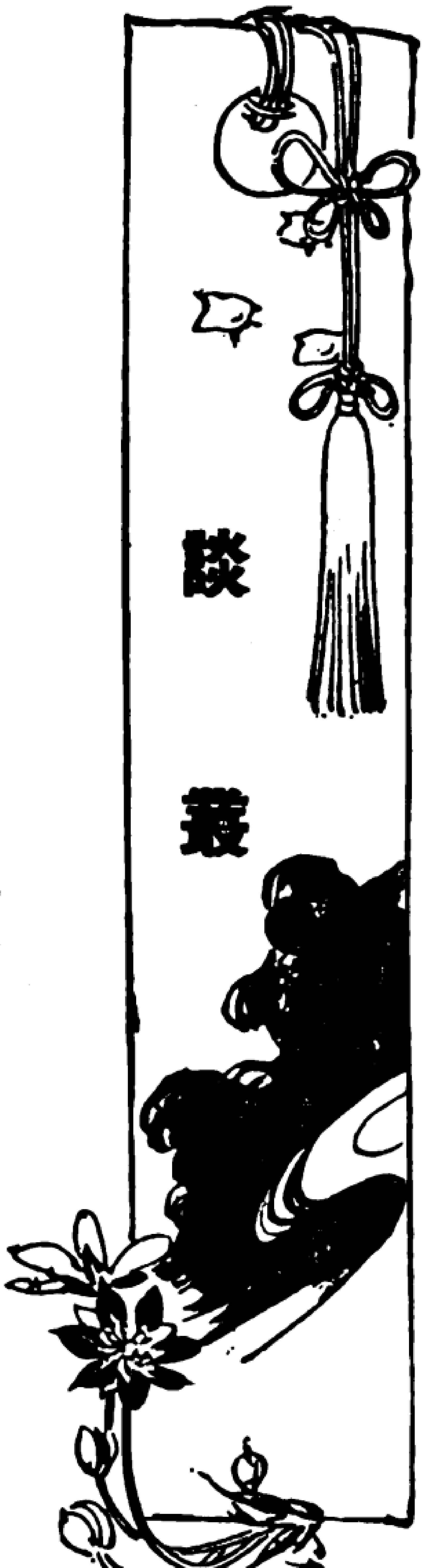
季節――九日「寒露」廿四日「霜降」。天候は陰晴定らず、月色明かに蟲聲冴えて風露鮮やかなる所、頓に冷氣の加はるを感ず。

農事――黃稻野に滿つるの秋。農家は夏禾の收穫やら冬作の播種やらにて多忙を極む、京菜、二年子大根、小麥、大麥、蠶豆、豌豆、人參等の種まき、大豆、秋そばの刈入、寒菊の根分等は此月の仕事なり。

遊覽――小春日和の上天氣に乘じ郊外散策を試むる最妙、下旬より菊の隱逸を愛し、又は紅葉の絢爛を賞するも可、東京にては團子坂の菊人形最も賑ふ。

食品――當月の眞味は野菜にては新蕃薯、ほうれんさう、くわゐ、細根、葱、なま椎茸、魚類にてはボウ〳〵、イセエビ、メコ、甘鯛、サンマ、鳥類にては鴫、菓物にては柚子、栗、柿等甚だ美味なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



瓜生中將夫人社交談

婦人記者

上野の森の鳴蟬を聽きながら、鶯谷の踏切を越え、日暮里に瓜生中將夫人を訪問したのは、今茲九月四日の午前でありました。門内は御普請の材木が一ぱい横り、鋸聲鉋聲の盛んな中を通り拔け、玄關に刺を通じましたが、十二疊の御座敷へ案内せられると、二十歳餘りの秀麗な婦人が直に出で迎はれ『唯今母は髪を洗つて居りますので、誠に失禮で御坐いますが、暫く御待ちを……』としとやかに述べられ、尚一家族は信州寒林の温泉に避暑して兩三日前歸京したばかり、其上丁度普請中で取込み居るゆゑ失禮する事より、自分は神戸に住へる身なるが、良人が目下出征中ゆゑ子供を拉れて此家に來て居るなど語られ、初對面の客をそらさぬ御話振りは、流石に母君の御薫陶よと、先づ見ぬ方の慕はるゝ折から、出で來られた夫人は、白縮の浴衣に茶博多の帶を結び、艶かな洗髪に活氣多き御血色を一層引き立たせ、丈高く肉附よく如何にも快活な御樣子で挨拶さるゝところへ、二歳ばかりの小孃と三歳ばかりの坊樣とが、椽側を傳ふて夫人の側に近かれるので、先づ其小孃を膝に上せられ、斯く仰せられました。『これは私の孫で、こちらの男子は私の末子で御坐います、さア叔母樣に御菓子を持つて入らつしやい、ハイ宅の子供だけでも多勢で御坐いますのに、頃日長女(山下芳太郎氏夫人千代子)が子供を連れて參

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて居りますので、如何も〲賑かなこと一通りぢやア御坐いません、イエ最早若いどころぢやア御坐いません、皆なに祖母さんと云はれ笑はれて居ります、ホホヽヽ』先づ斯樣な調子で、御話振りの賑々しさ、御座敷は俄かに春の來たやうでありました。夫人は實に十一ヶ年間の米國留學生として世に知られ、女子師範學校、女學館などに、英語や音樂の敎授として仰がるること二十年、其外交際社會の立物として敬はるゝ位置であるのみならず、御家庭を和樂に陽氣になさるゝ御氣質は稀に見る所で御坐います。

△多勢の子供と學校勤め

子供は唯今の娘を頭に、女子四人男子三人で、當年三歳の末子が出來ましてから、學校は辭したので御坐います、師範學校ばかりになりましてからは、一週に二日か三日の出勤で濟みましたが、三個所の學校へ勤めます頃は、丁度日々出なければならぬ都合で、歸宅後も少しは學校に就ての用事や調べ物もあり、それに朝晩に據ろない宅稽古も頼まれたり致すので、隨分忙しう御坐いました。子供は長女が十歳の時六人も御坐いまして、下女と申しても御承知の通り軍人の身分ですから、御飯炊と子守だけで、宅に老人はありませず、唯今考へると、よくまア內外の事が手廻つたと存じますよ。併し忙しければ却て用事が捗取るもので御坐いまして……。

△辭職後却て忙殺さる

勤めて居ります頃は、夏冬の衣類も早くから始末致して、仕立屋とか洗張屋へ出す物はチヤン〲と出し何時も整然と間に合はせて參りましたが、役を退いてから用事不手廻りで可けません。それに閑を得て油斷を生じたばかりで無く、時間規律が亂れた故でしやう、其癖忙しくつて、用事に忙殺されて居ります。其上學校へ參ると、定つた運動が出來て身體の工合が宜しいのですが、家の中だけの運動で、如何も物足りぬ心地が致します。

△衣より食

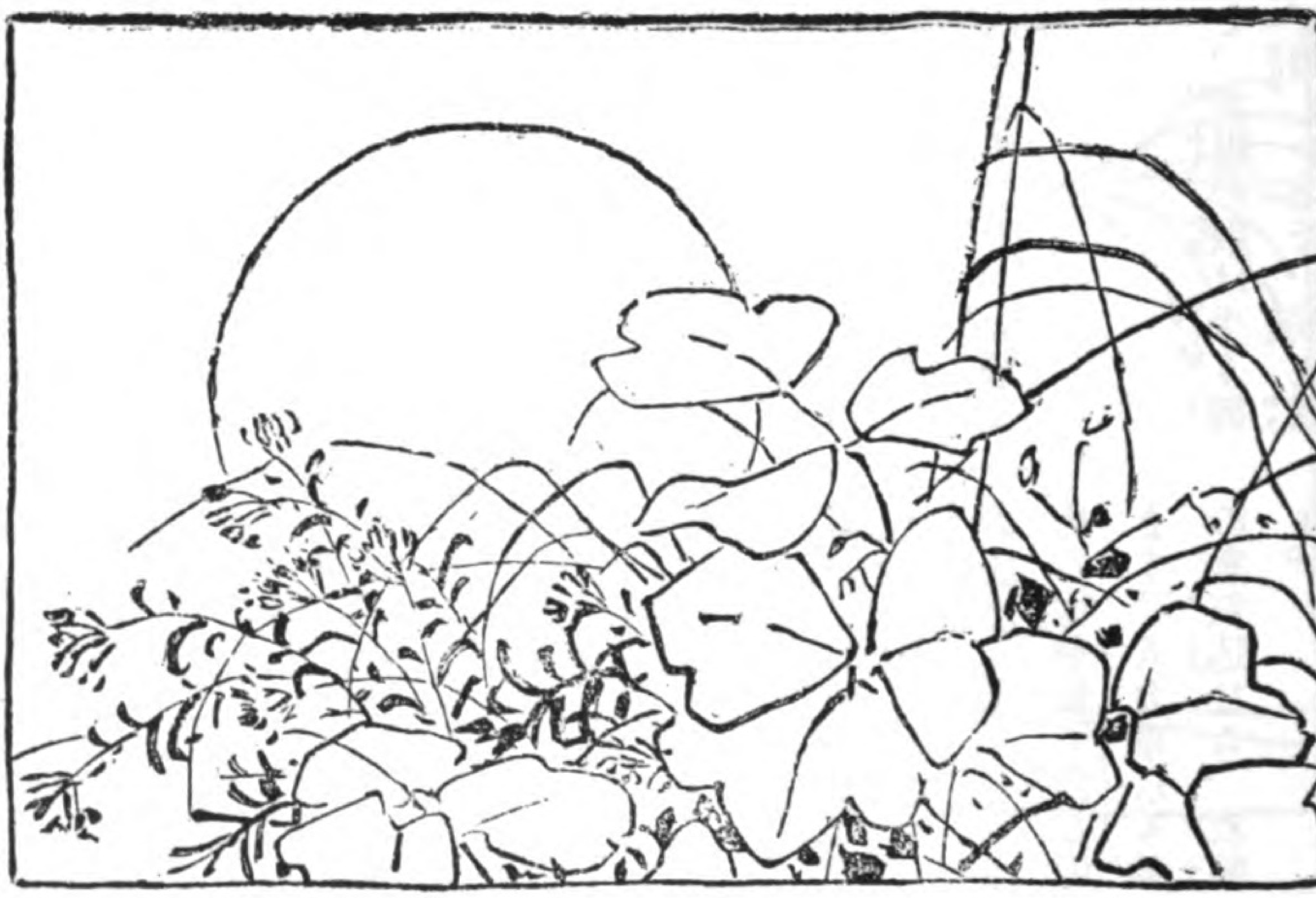
私の家では、衣服は極質素を旨と致す代りに食物は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

割合贅澤な方で御座います。贅澤と申しても、瓜生は留守ばかりですから、別に手込みな料理を拵へは致しませんが、年頃の男子が多いので『副食はこればかりですか』などと、不足らしい貌を致しますから、毎日必ず獸肉や鳥肉を用ゐます。唯もう澤山頂かせさへすれば喜びますので……。私を始め子供も皆身體の壯健だけが幸ひで御座います。多勢の子供を置いて永年學校勤めが出來たのも、一つは子供が壯健で世話なしに育つた故と存じます。ハイ皆煉乳で育てました。

▲買物と氷箱

御承知の通り米國では、奧樣



方が市場へ買ひ出しに出掛け、上流の人も馬車で行つて野菜や肉類を買つて來られますが、我國では市場の都合が違ひますから、チョット不都合で御座います。此買出しと云ふ事は極經濟な事で、此邊からなら先づ自身で日本橋へ出掛けて自由に見繕て買つて歸れば、實に新鮮な廉價な物を求められませう、家へ持つて來る者には、イクラ注文致したところで、人頼みですから思ふやうに行きませんから、縱令七錢の電車賃を費つても、多勢の家内の食料だと餘程經濟だと思ひます。私は何處へでも買ひ出しに行きたいのですけれども、子供達が見つともないか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らと申して、如何しても許しません。米國の婦人は肉の鑑定方と用ゐ方が巧者で、例へばこれは牛の何部分の肉であると云ふ事から、スープには何處の肉が可いとか、舌は何に料理すれば旨いとか申す樣に却々精しいのですが、私なぞは此研究が足らなくて如何も困ります。それから米國の料理部屋には夏分食物を貯藏する氷箱が備へてありますが、これは蓋の附いた亞鉛張り中段のある箱で、上部に氷を入れ、下部に酒とか食品とかを入れて置くので、腐敗を防ぐには實に結構な器械で御座います。宅でも此氷箱だけは調へてありますが、斯樣な邊鄙に居りますと、氷を澤山求めるのに却々費用が掛るのでチヨツト用ゐられません。神田に居る妹の家でも、此氷箱を備へて居るのですが、彼の邊は卸しの直で澤山に氷を買ひ入れますので、大層便利だと申して居ります。

▲衣服

米國婦人は我國婦人に較べると、衣服の數は少う御座いますが、其代り流行の變化が烈しいので、同じ樣な晴着を二年と續ける次第に參りません。帽子なぞも其通りで、我慢にも古い形の物を被つて交際社會へ出られないのです。我國でも衣服の流行は勿論ありますが、餘り目立ちませんから、隨分昔し物で間に合す事が出來ます。祖母の紀念で紋の大きいのを持て餘して居たのを、此頃大きい紋が流行り始めたので、漸と役に立てられますなどゝ言はれる方もあると云ふ鹽梅で御座います。日本婦人の集會で、互に衣服に氣を採むことは近頃大分無くなつたやうで御座います。此衣服競爭を防ぐ爲めに、集會には黑木綿の紋付と一定する事などは、結構なやうですが、わざ／＼新調するのも面倒な事で、平常銘仙や糸織を召される方は、キヤラコでも染めませうかなぞと仰しやる向もあつて、却て御迷惑な事でしやう。私は衣服は身分に應じて有り合せの物を着て出るのが、一番世話なしで可いかと存じます。人力車にも乘らず、電車で間に合せると云ふ位の意氣込なら、衣服は何でも構はぬ次第だと存じますが。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲米國女學生の衣服

左樣です子エ、日本の女學生の方が身なりには奢つて居りませうか。私共が大學に居る頃の米國女學生は皆綿服ばかりで、平常着と日曜着と二枚だけしか有つて居りません、(尤も夏分は一枚ぐらゐ多いのです)。日曜着と申した所で、洗濯した清い物と申すだけの違ひで、實に質素なものです。それで僅一枚の日曜着を若し土曜日にでも汚すことがあると、夜でも大急ぎで洗つて、火に乾かし鏝を當てると云ふ大騷ぎを致して間に合せます。左樣です子エ、私は十一個年留學して居る間にそれでも絹の物を三度身に着けました、一



度は自費で求め、次は知人が漫遊に參つて紐育で買ふて呉れ、三度目は丁度卒業の際、兄(益田孝氏)が參つて居つて、琥珀で拵へて呉れました。滅多に着ない絹物を身に着けた嬉しさは非常なものでした。

▲女學生の裁縫

米國の女學生は、チョット暇があれば衣服の繕をするのが手まめで袖が切れゝば袖だけ他の切れで拵へて縫ひ付けるとか、飾りの繕ひをするとか、又は帽子の破れを繕ふとか致すのです。帽子なぞ帽子屋へ遣つて直させると直に十圓ぐらゐ掛りますから子エ……。我國の女學生は如何も裁縫が不精で嫌ひの傾

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きがあるやうに思はれます。是れは畢竟學課の數が多過て、腦力が其方へばかり費されて居る故でもありましやう。尤もそれのみならず。日本服の裁縫は何處か縫ひ始めると、一時間や二時間は座り込んで縫つて了はなければ都合が惡いので、自然億劫になる道理でせう。洋服ですと、裁縫の時は却々氣を落着けねば出來ませんが、あとはチヨコ／＼の繕ひだけで事が辨じるので、手輕く始末されるのであります。日本服は洗ひ張や縫物なぞで、隨分主婦の一仕事でありますが、西洋でも子供の多い家では、却々裁縫が澤山で始終ミシンを動かして居る位です、それでも西洋の主婦は他に多くの仕事を執る餘裕があります。これは全く時間の規律が正しい故でしやう。

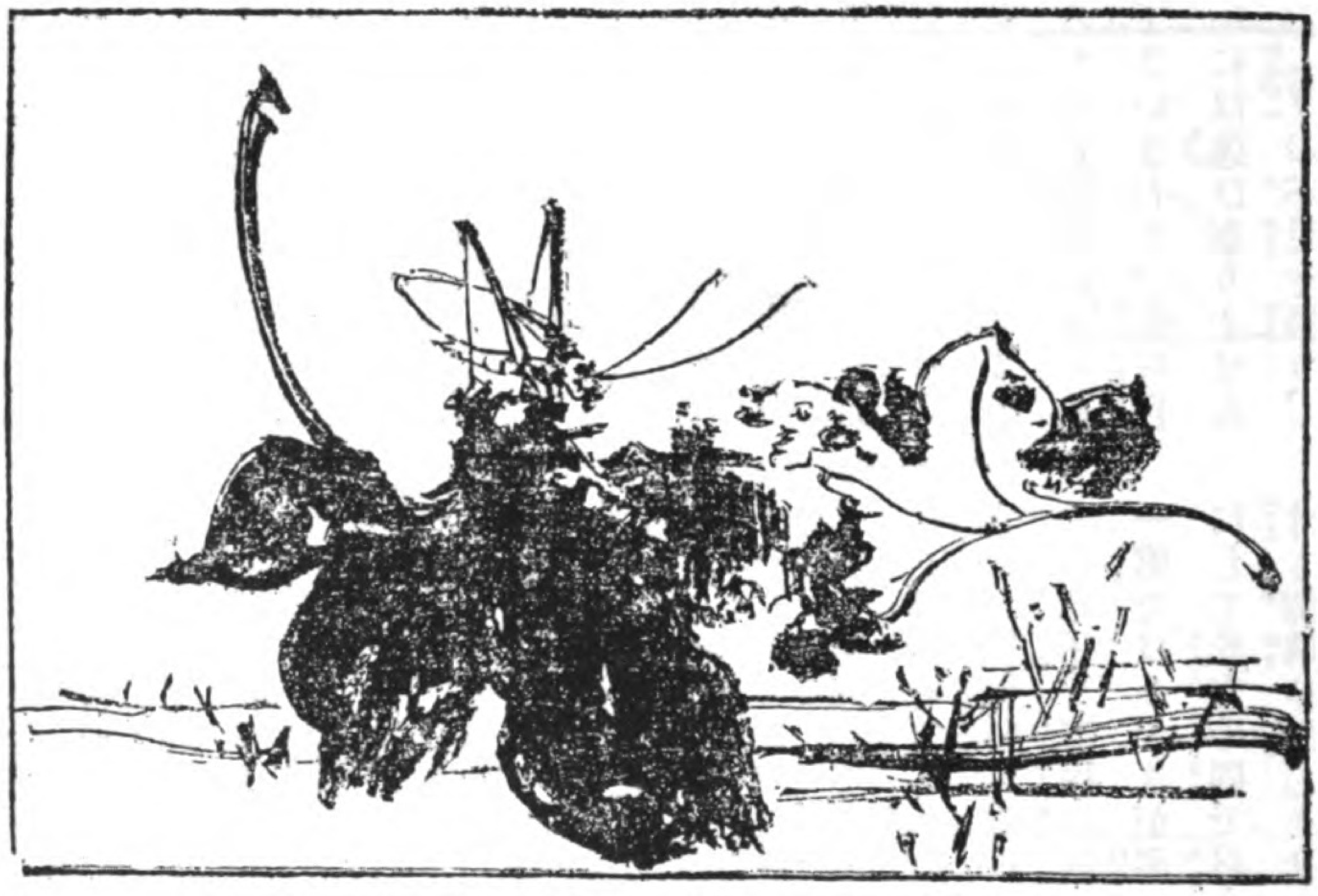
▲女學生の寄宿舍

近頃女學生の墮落とか何とか隨分非難があるやうですが、是れは寄宿舍の不完全な事が主なる原因でせう。米國なぞでは何樣な私立女學校でも、必ず寄宿舍の設備がありますが、我國では未だ寄宿舍のない女學校がありますから、地方から出て來る女學生は、親類でもないと據ろなく下宿屋とか素人屋の二階とかを住居として居ります。斯樣な處では、迚も家庭の樂を味ふことが出來ないので、寂しさに耐へませんからツイ／＼邪路に誘惑され易いので、氣の毒で耐りません、女學生ばかり世話する完全な下宿でも出來たら宜しからうと存じます。一體地方の父兄は、何でも早く東京へ出せば可いと考へて居るやうですが、尙少し地方で勉強した方が宜からうと思ふ女學生が隨分御座います。道理の判らぬ女學生は、米國の女學生が何樣に自由であるかと思ひ違へて居ますが、實際は却々嚴重なもので夜分一人で出歩いたり男子を訪問したり致すことは決して出來ませんので、必ず老人とか確乎した監督者とか、附き添ふて出るので御座います。其上宗敎が頭に泌み込んで居るのも、堅固に身を守る利器だと存じます。文明の外部ばかり輕卒に眞似て、肝腎の神髓を知らないと、大きな間違を生じませう。併し近頃女學生の德育も大分よく行き屆いて參つたと存じます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◬米國主婦の交際

交際の頻繁な米國婦人が、家婢も多く置かずに、善く家政を治めて行くのは、交際の時間が一般に正しいからなので應接日は整然と定まつて居て矢鱈に客に接する事は致さず、訪ふ者も定まつた時間に參るから、互に無益の暇を費しません。午前は皆買物に出掛るので訪問は大抵二時から五時までの間で御坐います、應接日の他に訪問されると、今日は應接日でありませんから御目に掛りませんと正直に斷ります、日本では未だ斯う云ふ規律が一般に無いので、據ろなく不快だとか留守だとか申して嘘をついて斷るやうになります。



米國婦人は客と話すに喋舌つゞけに要件を述べますから、五分か十分でも用が辨じますので、直ぐに他の客と話し初めて先の客は打遣つて置きます、左樣でなければ大勢の來客に接しられませんから……。夫れで少しも不快の念を互に起こさずに交際されまして極都合が宜しいので御坐います。招待を受ける際は夫妻共ですが、其禮廻りには必らず妻が出掛け、大抵名刺を置いて歸りますので、此禮廻りは規帳面に歩いて怠る事はありません。

◬婦人の集會

此頃種々の婦人會では、大分皆さんが意見を仰しやる樣にな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて結構で御坐います。御互に意見を腹藏なく話し合ふのが集會の目的ですから詰らぬ遠慮が一番禁物だと存じます。多勢の前では、故障を少しも言はれずに唯贊成する斗りで後になつてグズ〳〵が始まるのが極いけませんチ、中には是々の考へはあるが、自分は出過ぎたやうで多勢の前で述べられぬから、貴女が代りに述べて下さいと言はれる方もありますが、私は日本語が極不調法で自分の意見だけ述べるも漸の事、如何して人樣の御意見が巧く述べられるものですか、私は先頃或る集會の席で、少しく意見を述べ、何卒皆さんの御意見を御述べ下さいと申しても、矢張默つて居らつしやるので筆で書いて投票のやうにして頂きました處私の意見に贊成の方が少數で負けとなりました。すると皆さんが御氣の毒だ〳〵と私に御詫なさいますから『イエ如何して御氣の毒どころぢやア御坐いませんよくまア御腹藏なく仰しやつて下さいました、成程自分の意見に贊成者の多いのは快いには違ひありませんが、反對の方があるので、自分の考の不足を悟り、どんなに有益で嬉しいか知れません、集會が斯の樣にさへ勢ひ付けば私は毫も心配はないので、どうか此後とも此通り遠慮なく思ひ切つて御自分の御意見を主張して頂きたいと存じます。會のためには默つて居ないで、熱心に相談するやうに致したいものです』と、少し出過ぎのやうですが、申し上げたので御座います。

▲淡泊な御家庭

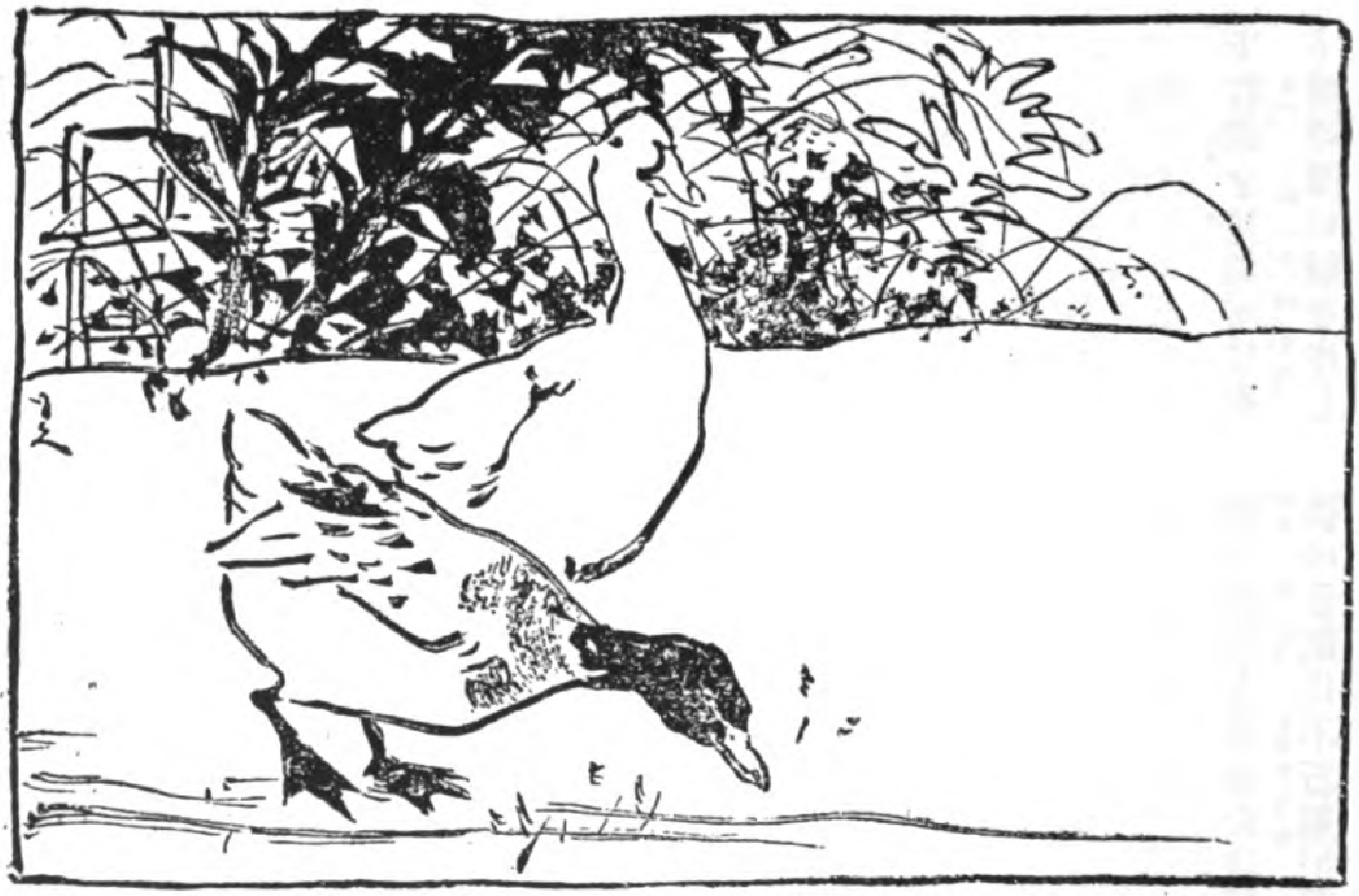
私共では老人が在りませんのに、瓜生が少しも家事に頓着致しませんし、私も書生風が脱けませんので、極もう淡泊な家で御座います。伜の御友達など多勢入らつしやると、家內殘らず打寄つて遊びますので、古ピアノを彈いて遊戯を女兒にも致させ、罪のない遊びなら腕押しでも角力でも何んでも構はず愉快に遊ばせます。御飯時になれば總菜で差し上げて、大きい一とつの卓子で家內中殘らず一處に食べますが、婦人方と一處ではキマリが惡いと仰しやる方があると御櫃を別にして此方の隅で召上がれと申すのです、斯樣風に一寸も御構ひ致しませんのに、華族方の御令息達でも此

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家が一番面白いと仰しやつて泊り込まれる方も御座いますが、倅共と一處に此座敷へ御寢かし申すのです。私も書生さんは大好きで御座いますから、御友達が喜んで來て下さるのが、本當に嬉しいので御座います。此頃は江田島の兵學校に居る長男も休暇で參つて居りますので、御友達も能く御出になり何樣に賑やかで御座いませう。宅の子供は他へ遊びに行くのが嫌ひで、家で遊ぶのが大好きで御座います。

▲夫人の朋友

歸朝して直ぐと家を持ち子供も出來ましたので、日本の方の友人が極少なう御座いますが、



大山さんか津田さんに御目にかかると、學生時代の深い御馴染で何んでも彼でも腹の底まで打明けて御話し致し合ひ、夜の更けるのも知らぬ位で御座います米國での同窓婦人には始終音信を絶やしません夫れに近頃は種種な婦人會へ寄附金を申し込まれるとか、何んとか音信の往復が頻繁ですから、毎日手紙は一本位づゝ認めて居ります。

▲子女の教育

私は御耻しう御座いますが、日本の學問が少しも出來ませんで、平常の御話さへも日本語が充分に出來ません、却つて外國人と話す時の方が樂な位、誠に不自由でいけません。それ故子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

供達の學課でも唯英語だけ見て遣はすやうな事で。娘達に音樂を教へたいと存じても、時間の都合が惡くて、此方の暇の時は學校で塞り、學校の暇の時は私の方に來客があつたりして、如何も不都合で困ります。何に致せ總ての事に時間の規律がないので、思ふ通りに參りません。ハイ私は多用のため會堂へ參るのも怠つて居りますので、唯牧師を聘して子供達に教誨を聞かせて居ります、下婢達にも成るたけ妖怪なぞの噓話しを子供に致さぬやうに注意して置きます。

▲夫人を預りし米國牧師

私が米國へ參つたのは幼少の際で、森友禮さんには非常な御世話になつたので御座います、參ると直に牧師の家へ寄宿致したのですが、此牧師は有名な歴史家で、實に方正な人でありました。其家庭は極美しいもので、永年の間に叱言の聲一つ聞いた事はありませんでした。私なぞ子供の事ですから、往々過失もありまして、例へば算術をする際、內所で答式を見たりなぞする事があつても、如何にも優しく愛の深い誡を申して注意して吳れました、總べてどんな者に對しても決して惡い方面を發かずに、シンきりと導くのは感心なものです。私は斯樣な善い家庭に居つて、善い事ばかり見聞きましたから、米國人の短處は少しも知りませんで、却つて歸朝して後、人から色々な事情を聞いて初めて知つた程です。其牧師も實は麥酒位は飲む人であるが、子供が寢靜つてからソツと飲むのだと聞きました位で、彼の家に居る間は、私は夢にも存じませんでした。子供の教育と云ふ點に就ては、餘程注意を拂ふものだと感心いたしました。

波多野女史の家政談

婦人記者

女子の職業は日に盛で、女教師の如きは其多數を占めて居りますが、獨棲の婦人は別として、既に一家を持ち子女を擧げた主婦が、毎日の出勤に家政整理や子供の世話に不行屆が生ずる傾向があつて、婦人の責任

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に適した職分を盡すに始終煩悶なさる方もありませうと考へますが、波多野とく子女史は、能く此難關を排除するの敏腕を備へて、善く良人姑君に仕へ幼兒を撫育して注意漏るゝ所なく、尙ほ教師として職務に忠實なことは衆口の齊しく歎賞する所であります。女史は芳紀方に三十六、明治卅八年に女子高等師範學校を卒業して、直に附屬高等女學校の教員を奉職し、一年半を經て高等師範學校教授波多野貞之助氏に嫁し、子女を擧げ今小石川原町に住ふて居らるのです。記者一日女史を訪ふて其經驗談一二を聞きました。

▲勤め一方

私は卒業後直ぐに高等女學校へ勤め、丁度十年程になりますが、至つて働きのない者ですから、一生懸命に勤める一方で世間の事は全然暗いので御座います。左樣ですネ、十年間に生徒の風が多少變化は致しましたらうが、始終側に居つて世話致して居りますと、丁度小兒が何時か知らぬ間に身丈が伸びるのと同じで、餘り心付きません、却つて外から御覽の方によく分るだらうと存じます。服裝も私方の學校は至つて質素な方で、式日にも別に服制は一定しませんが、格別奢つた服裝をなさる生徒も御座いません。併し多勢の中には親御樣に衣服をねだる者も稀にはありまして、娘が「私のやうな粗末な服裝をして學校へ出る方は有りません」なぞと申しますが、如何で御座いますかと私に尋ねらるゝ親御がありますから、學校へ來て實際の樣子を見て下さいと申すのです。若い人達は兎角流行に馳せ易いものですから、廂髮などの甚しいのがある際は、善く注意致します。卒業後緣付かれた生徒も數多く御座いまして私の受け持つた方は始終尋ねて來られると、內明け話しをなさいますが、未だ家庭に就て不平のこゝろを聞きません、又其良人や姑さんの側からは餘り聞きませんけれど、本人が喜んで居る所を見ると紛紜はないものと存じます。『學校の御蔭で今日家政を執るのに大層樂で有難い事です』と、禮狀を送られる方もあります。

▲乳兒の處置

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私共では七歳の男兒と四才の女兒ですが、達者な姑がありまして、留守を致して呉れますから、其御陰で永年勤め續かれたので御坐います。一人の下女には唯だ臺所だけを任せ、子供の世話は姑に任せて置きますが、日々の出勤なので、二人の子供に手のかゝらぬやう考へて生れ立から習慣をつけました。乳は皆自分のを與へましたが、乳呑のある頃は御茶の水に住ひ、學校も近くでしたから、休みの時間に連れて來させ私の乳を飲ませて居りました。子供が生れると直ぐ時間を定めて哺乳させる習慣をつけて置きますので、最初は一時間位から段々に時間を長くして參ります。最初は今乳を與へたと思ふのに泣く事が度々ありますが、時間の外は何樣に泣いても與へぬ事に定めて、一週間程忍耐して放任して置きますと、追々泣かなくなり、一箇月位で全然習慣が付いて了ひます。私は産後早い時で五週間、大抵六週間目には出勤いたしますが、哺乳の時間が定めてありますから、小便も大抵定つて出ますし、それにイクラ泣いても抱くことは決して致さず、唯寢かして置きますのが習慣となつて、人手がかゝりませんから、一向留守に困らない相で、姑は種々家の用向も出來ますし、毫も不都合はないと申して居ります。赤子がよく物を見得るやうになれば、藥玉を天井から釣し下げて、時々動かして遣れば、赤子は見て喜んで居ります。這ひ〳〵するやうになると、座敷を〆切つて、自由に這はせて置きます。外へ抱いて出ますと、人手がかゝる上に、御茶の水邊は塵埃が酷く立つて衛生に惡るいので、家にばかり置きまして、唯朝晩に少しづゝ抱いて出るばかりで御坐います。自分の乳ばかりでは學校の運動會とか遠足などの際に不都合ですから、最初から牛乳を一度置きに雜せて飲せて置きます、私の乳が張ると乳吸を當てゝ絞り、牛乳は缺かさず慣して置くので、終日留守でも差支は御坐いません。小兒に一人附け切りに致すと、終に一人では足らぬ樣になつて無益な費を要します。小兒を抱き上げぬ癖を最初から附ければ、小兒は却つて大人しう御坐います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

△小兒と共寢せぬ習慣

私は一度も小兒に添寢致したことは御坐いません、晝の勤めの勞れで、萬一小兒の呼吸を乳房ででも塞いではならぬと存じて、是れは充分注意致して居ります、又夜分乳を與へる時は、必ず起き直つて飮ませます。小兒も背中や膝で寢せ付けませんと、獨り寢る方が樂と見えまして、來客などの際、乳を飮ませながら話を致して永く抱いて居りますと、さも窮屈そうに體を悶えます、それで下へ寢かしますと、さも樂々した樣に喜んで居ります。

△小兒起臥の注意

夜分七時になると徐々寢かす



仕度を致し、嗽をさせて身體をスッカリ冷水で拭いて遣りますこれは生後二年位經つと始めまして、朝夕に必ず致させます。夏は私のチョット工夫致した腹掛に寢卷を着せ、小さい細長い蒲團を横にして極緩かに包み、其端を私の蒲團の下へ入れて壓へて置きますので、斯う致すと轉げ出す心配が無く、蒲團は小兒の體と少し空隙があるので窮屈がらずに臥ります。冬分は湯婆も安火も入れず、寢卷も冷いのを着せますが、其代り寢際に御湯に入れて溫め、搔卷を三枚重ねて寢かしますと、朝まで足が溫かで居ります。

△小兒の食物

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小兒の間食は嚴重に定めてありますので、腸胃は壯健に育ちまして偶に氣候の不順の爲に少し腸胃を痛めましても、一日も服藥すれば直に癒つて仕舞ひます。生後三年半まではお八に牛乳を遣はし、それからは菓子や果物を少し與へます。ハイ午前に一度と午後に一度なので、此他の時間には、縱令御客があつて何を列べて置いても決して欲しいと申しません、私共が異つた物を食べて居つても、平氣で見て居ります。先頃宅に病人があつたので、親類へ預けて置きました處、餘り可愛相だとて、勝手に出して御上りと言はれましても、私の定めた數だけ出して、餘分に取らなかつた相で御坐います。併し子供の事ですから、如何か致すと欲しい心が起ると見えまして、これは子供が食べても可いでしやうかと必ず私に尋ねます。平常私が『これは子供が食べては可けません』と善く申す故でありませう。よい鹽梅に私を信用して居りますから、一度も聲を出して叱つたことなぞ御坐いません、これだけは世話なしで御坐います。

▲家政顧問

學校から歸りますのも遲う御坐いますし、終日學校に關する用向もありますので、臺所へ手を出すことは滅多にありませんが、總菜は每朝整然と分量を定めて參るので、後は姑が萬事取り計つて呉れます。但何事も私に相談して致して呉れますので、先ア私は顧問の役を務めるだけであります。平生の物は澤山ですが、此邊は邊鄙で善い品物がありませんから、買物は學校の歸りに本鄕で私が調へて參ることに定めてあります。使奴は私の勤務と爲りまして、何時でも大きい包を抱へて歸つて參るので御坐います。

▲衣服

家に居ても筒袖に袴と云ふ服裝に致したら、嘸よからうと思ふては居りますが、却々決行は出來難いもので御坐いますネ。尤も袴は腰を掛けて居るには至極宜しいですが、坐ると襞が崩れたり前が擦れたり致すので、直に見苦しくなつて可けません。平常にはチヨツト割烹の時着る胸掛に袖の付いた樣な物を拵へて羽織

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて居つたら、着物も汚れず、御客樣の折には直に脱がれて、極便利だらうと考へて居ります。私は遠方を通ふので、綿入の裾の切れぬやうにヅルイ事を考へ付きました。失禮な御咄しですが、メレンスの腰卷へ金巾を付けフキを矢張りメレンスにして、綿入の裾に代用致し、綿入はジン〳〵端折りの樣に端折つて、袴を穿きますと、少し前が膨れて袴の恰好もよく、又裾がキチンと卷き付いて居ませんと、切れ方も餘程違ひます。子供の衣服は未だ名案が附きませんから、矢張り普通の筒袖に致して置きます。

▲暑中休暇の仕事

平生の家事は、朝夕とか日曜とかに處理致しますが、家内中の總ての整理には暑中休暇を當てゝ置き、此際一年中の始末を附けて仕舞ひます。衣服の仕立は大抵他へ出しますが、此着物を何に爲すとか、此布片を何に用ふとか云ふ算段が却々一役でして、休暇中に殘らず工夫を立てゝ置きますと、後は誰にでも出來ます。私は斯う云ふ風に家事に齷齪して居ますから、休暇に旅行なぞ致したとはトント御坐いません。イヱ何も行き届きは致しませんが、家内に紛紜のないのが、一番私の幸福だと存じて居ります。

腦力と體力

動物でも、人間でも、その身體に具備して居る能力の程度は大抵一定して居るやうに思はれるそこで、手を使ひ、足を用ゐることが多ければ、發育もそれに傾くが如しタトヱば彼の駝鳥の脚、隼の翼の强健なるが如し彼の動物は勿論野蠻人の分娩の文明人に比較して容易なること、從て體力も野蠻人の文明人よりも、强健であるがその代りに腦力の方は文明人よりは薄弱であるなど、その用ゐると、多き方に力の發達すると同時に一方に於て幾分の薄弱になり行く事實がある。盲人の聽覺、觸覺の普通人以上に發達し居ること、右の手を失ひたるものが、その後、左の手を使ふの止むを得ざるより、其結果、左の手の作用のそれが普通の右の手の如く發達せるなどの事實も少からずある、故に勞働を以て常職とする者は、腦力の發達は薄弱となり、腦力を要する職業に從ふものは體力の薄弱となるなどは、動物の組織上、一の法則と見て差支へないのである。で、兩者を兼備するは容易ならぬ事に屬するが、若し斯くすると或は、それが平凡のものを造り出すことになるかも知れぬ。尤も兼備して普通以上に發達するを得れば、その價値は常人以上のものでなければならぬ。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子の渡米に就きて

早稻田大學講師　安部磯雄

去る八月發行の『女學世界』に於て余は女子の渡米を勸めたが、爾來十數名の讀者諸君は余に書を寄せて渡米の決心を告げ、且つ渡米の手續に就きて質問をせられた。始めの程は一々返書を認めて答辯を與へたが、追々手紙が澤山來る樣になつては到底手が屆かぬことになつたから、今一度此紙上に於て意見を陳ぶることにしました。これは質問者の爲に便利である許りでなく、一般の讀者にも多少の便宜を與ゆることと思ひます。

さて渡米せんと決心せられた人々の漸次增加して來るのは誠に喜ぶべきことですが、實を申せば女子の渡米は目下頗る困難です。我政府では醜業婦の海外出稼を嚴重に取締つて居る折柄ですから女子の爲に旅行劵を與ふることは容易に致しません。然し余の知つて居る所に依れば二三の方法がないでもありませんから少しく左に陳べて見ましよう。

△第一　若し渡米志願の女子が幸にして米國に伯父とか伯母とかいふ親戚を有つて居るならば實に好都合です。若し亦其人の親か兄弟が彼地に行つて居るのならば、更に妙である。其場合には彼等をして彼地の日本領事に至らしめ、今度自分は何某を日本より迎へ當地に於いて教育がしたいから、我等に其だけの資格あることを證明されたしと願はしむるのである。此日本領事の證明書を携へて外務省に出願すれば多分旅行劵は得らるゝと思ひます。

△第二　米國に一人も知人なき場合には、修學の目的にて渡米するより外はない。勿論修學は表面の理由ではあるが、彼地に着したる後都合に依りて勞働するも差支はないさうです。兎に角修學といふことで旅行劵を得るには高等女學校卒業生位の學歷がなくてはならぬ。亦其父兄が每月四五拾圓位の學資を送り得る資產家でなくてはならぬ。若し父兄に其程の資產がなければ親戚若くは知人の資產家に保證して貰ふても善いのです。兎に角高等女學校卒業生は學問修業といふ理由

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で旅行劵を得るのが一番の良法である樣に思ひます。殊に府縣會議員か衆議院議員に知人があらば其人に盡力を乞へば多分成就するだらうと思ひます。

△第三　上等の船客は旅行劵を所有するの必要はありません。余等が去る四月に渡米したる時には隨分面倒なる手續をなして東京府に旅行劵の下附を願つたのでありますが、汽船會社の話を聽けば上等の船客には旅行劵の必要がないといふとですから、私は再び東京府の役人に面會して果して旅行劵は必要なりや否やを尋ねました。すると役人の答へますに、旅行劵は別段海外旅行を許す爲の免許狀ではなくて、唯外國政府の保護を仰ぐ爲のものであるから法律上旅行劵を所有せねばならぬといふ理由はないのです。これを聽いて余は旅行劵の爲につまらぬ面倒を見たことを馬鹿々々しくた思ひました。余等の一行は横濱出帆の時にも米國上陸の時にも一度も旅行劵を調べらるゝ樣なとはなかつたです。女子の上等客は旅行劵を要するや否やは未だ研究して居ませんが、多分男子と同樣だらうと思ひます。

若し果して然らば女子は何とか旅費の工面をして上等に乘込むが上策です。乘船料は桑港行とシャトル行と粗同樣でありますが、シャトルに行くとすれば日本郵船會社の船がありますから旅費も大分輕便です。外國の會社ではシャトルでも桑港でも上等が四百圓、中等が百七十圓、下等が六十一圓位でありますが、郵船會社の方は上等三百圓、中等百八十圓、下等六十一圓許です。中等は却つて外國船よりも高い位ですが、其代りに船室及び食物などは割合に良い樣です。兎に角上等で行く人は日本郵船會社の船を採る方が經濟上に都合よい許りでなく、シャトルの方が上陸の際の體格試驗も寛大でありますから、萬事好都合です。亦シャトルより桑港までは汽車で參るのですが、其汽車代は郵船會社にて負擔することになつて居ります。

△第四　三百圓の旅費を得ることも六ヶ敷、亦高等女學校の卒業生でもなく、更に米國に於て賴るべき親戚をも有せぬ女子は如何して渡米することが出來ようか　これは一番困難ではありますが、全く方法のないでも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ありません。我國に來遊する多くの西洋人中には日本婦人を女中として伴ひ歸る人もありますから、適當なる人に賴んで置けば都合のよきことがあるかも知れません。余は此以前に米國へ參りました時此の如き方法で渡米した婦人に逢ふたこともある。然し目下の所では第四の方法が一番困難である樣に思ひます。我政府が方針を改めて女子の渡米を自由にする樣にならねば駄目だと考へます。然し目下斯問題を研究して居る人もあり、亦今年の議會では渡米者取締の改正を主唱せんと言ふて居る人もあるから、數年の後には多少の變更を見ることが出來ましよう。

兎に角日本を出で米國へ上陸さへすれば其後の事は餘り心配する必要はありません。彼地には早晩女子の爲に安全なる寄宿舍も出來ませう。亦確實なる人に紹介して貰ふことも出來ませう。故にソンナ事に餘り心を勞するよりも渡米の準備として英語を少しく勉强せらるゝことが肝要と思ひます。英語が全く出來ぬようでは何かに不自由を感ずることが多い。衣服の事に就きても一言申して置きますが、米國で日本服を着て居る婦人はありませんから、必ず洋服の一着位は用意して置かねばなりません。船中は日本服でも宜しいが、上陸の時には乾度洋服を着くるのです。然し洋服を夏冬幾着も調へる必要はありません。余の考ふる所では着のみ着のまゝといふのが宜しからうと思ひます。衣服には流行もあり、殊に米國は仕立が上手ですから、なるべく着米の上で買ふのが得策です。普通の婦人服は案外に廉價ですから心配することはありません。先づ余の知つて居ることは此位の事です。

女學生の修養につきて

（現今女子敎育の缺點）

某女學校敎諭

余輩は嘗て女學生の試驗答案を調べたのに、彼等の答案は、殆んど敎課書其まゝであつて一字一句も彼等自身の創見に及ばなかつたのには、余輩は大に失望せ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ざるを得なかつたのである、その問題の當否は兎に角として、かゝる弊習の存するのは恐らく各女學校一般に通有のものではないかと思はるゝ。蓋し女性は感情に富んで居ると云ふ處からして既に彼等は受納的であり亦保守的であると見ることが出來る、殊に古來の習慣上女子の位置が服從的であつた一事が既に遺傳の傾向を帶びて結局教育及自己の心得如何に依り、能動的行爲が乏しくなるのであるまいか。要するに女子の行爲は一般に器械的であると見てよい。しかし昔時はいざ知らず今日の如き複雜な社會に處しては、決して單に器械的では間に合はないのである、今後の婦人は社會に立ちて大に活動し、亦家にありては主婦としての種種の責務を負擔して行かねばならぬから、十分に活用的の技量がなくてはならぬ。近時彼の女學生あがりを嫁に娶るなゝどいふやうな傾向のあるのも一は此技量がなく且つ家政上の智識に乏しいからである。勿論高等女學校は女子の普通教育を授くる處であつて、特種の實用的智識や技藝には直接關係がないのであるが、しかしこの普通教育があれば、處世上一般のことは少しの心得次第で出來なければならぬ筈である。左様でなくば、

> 婦人は體軀に先天的美質を有し皮膚柔軟滑澤にして四肢渾圓能く曲線の美を成せり而して其美をして益々美ならしむるの術を化粧法と云ふ古來化粧の術は種種研究を重ねられ之を行ふに幾多の方法あり將た脂粉の如き粧料あり然れども其化粧法には今の婦人に適せざるものもあり又白粉其他の化粧品中衛生に適はざる種類なきにあらねば化粧品は最も善良にして衛生に害なきものを選用すべきは勿論化粧の方法に就いても常に之を研究し且つ時の風俗を察し以て容姿を整ふると共に品格を高く見すべく粧ふべし古人の教訓にも「化粧は女の身だしなみ」と云へるにあらずや化粧の目的とする所は身體を清潔にし容姿を優美壯麗ならしむるに在り彼の賤妓輩の徒らに脂粉を面貌に施すが如きは是れ化粧の本意にあらざるなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

敎育と云ふものは何の役にも立たぬことになッて仕舞ふ。然るに彼等は、其學びつゝある智識技能を、自己に同化せしむるの能力がなく亦進んで自己を修養して行かうとの考もなくて唯架空的な理想を形造ッて世の中といふ事を等閑に附して居る處ろからして遂に女子敎育と云ふことが世人の疑問となつて、女子敎育の進歩を妨げるやうになッたのは誠に歎ずべきとである。

余輩の考をいふと女子の修養がまだ〳〵足らぬからである、猶一歩を進めて云ふと、今日の女學校の敎育の方法及び方針が間違つて居るのであると言はねばならぬ。聞けば女子の敎育は、男子に比してズッと氣樂であると云ふて居る、成程左樣かも知れない、彼等には何を命じても唯温和しく服從する、一言も敎師の命に言葉を挾むことがないから、其點に於ては敎授は如何にも氣樂である、從つて日々の仕事が捗取りて行くやうに見へる、それで唯向ふへ向ふへと進めて行くのであらうが之れは頗る考物である。タトヘば家事中で赤兒の看病が一番六ケ敷やうなもので常に進んで事を爲さない女子の敎育は亦六ケ敷譯である。其の生徒が一向質疑などに及ばないと云ふ如きは最も悲しむべき現象である、之れは即ち女學生に智識の呼吸が無いと云ふことを證據立して居るのである。之れを要するに今日の女子敎育は一歩一歩……彼の妙齡の女子をして死地に導きつゝあるのである。其女子が活用的でないと云ふことは無理もない。抑も女子敎育の方針につきては今後大に改良すべきものがあるが、しかしそれは大問題であるから此には言はない。只女學生自身の覺悟を求めたいのは、前にも御話した如く學校に於て日日授かつた智識を能く咀嚼し、且つ其利用の方法を考へて行くべきは勿論、もと女學校は普通敎育を授かる處であるから之れに不足な實用的智識や技能を、雜誌なり書物の上で補ふことに勉め、卒業後も一二年位は己が家庭を基礎としてこゝで活きた育兒法や活きた洗濯や、活きた割烹を學ぶことにし、且つ進んで研究するやうにしたならば、所謂良妻賢母はこゝに始めて養成せられることになるのである、此間の事決して他の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無教育な女子と同一視すべきではない。
之れを要するに一方では學校で習つた智識を活用することを勉め、又一方には進んで之れを補ひ、自ら修養することにしたら、今日のやうな、詰らぬ批評を受けることはあるまい。

婦人界の一現象

同情翁

▲美文中の女性　近時小説の上に顯はれた婦人を見ると、年若き女子が、親の定めた縁談を厭つて、百方其を避けやうとする、一種の傾向があるやうに思ふ。例せば廣津柳浪子の『罪の悶』の浦子の如き、(新古文林第一巻第一號)、柳川春葉子の『二筋道』の芳尾の如き(同)川上眉山人の『萬平』の經子の如き(太陽第十一巻第十一號)は、皆其である。文學は社會の寫眞であるから小説中に現はれた婦人と其傾向は、矢張實社會の婦人と其傾向であると思はねばならぬ。

▲婦人界の一現象　して見ると婦人の此傾向、子女の身として父母の定めし縁談を厭ふ傾向は、婦人界の一種の現象として見なければならぬ。何が故に子女の身として父母の意に背くのであるか。父母の撰んだ良夫に何等かの缺點あるかといふに、然うではない、又父母が可愛い吾が子のために、惡いものを當がふべき理がない。例へば浦子の親が、浦子の爲に擇んだ賀大竹節三を見ても然うである。『米國歸のハイカラ式に髮を分け、大島の二枚小袖に、胴着襦袢の襟いくつかを襲ね、黑の五ッ紋の羽織を着たさまは、品格卑しからずして、天晴日米商會の重役と見受けられた、太く濟しき眼に濃き眉も美しく、鼻筋の通つた、口の締つた、何見ても生々とした美丈夫である。』又た經子の親が經子に定めた良夫も然うである。經子自から然ういつてる。『廣岡さんは若手の參事官、役所でも利け者で、財産もあり、學問もあり、先の望みの充分なお方、阿父樣なり阿母樣が、念にも念を入れて選んで下さつたお方の事だから、難を言ふ處がある筈のものぢやないの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だ。」然らば其理由は何處に在るのかといふと、親の夫定めより先に、自分自身の夫定めがあるからである。浦子に吉光といふ男があり、芳尾に元吉といふ男があるといふ樣だ。

▲危ない賭　乃で此處に一の研究問題があると思ふのです。其問題は兩親の夫定めと、自身の夫定めは何方が善からうかと云ふ事です。此れは實に一生の禍福の關はる大問題です。兩親は親だけに年を取つて、智慧があるし、經驗があるし、社會の上に種々な關係を曉らめて居るからして、種々の方面から其子の結婚に就て、是非得失を考へ回し、後世子孫の身の上にまでも考へ及ぼして決するのだから、決して無暗な、無常識な撰擇をする筈がない。經子が言つてる通りである。「阿父樣なり、阿母樣が、念にも念を入れて選んで下さつたお方の事だから、難と言ふ處が有る筈のものぢやないのだ」と。之に反して自分の撰擇は甚だ危ないものである。自分の撰擇は男の方に唯一點好いと思ふ所があると、唯其一點に參つて仕舞つて、其餘の得失には盲目となるのであるから、僥倖に萬事そろつて善い男に行當れば福だが、然うでないと此の位危ない仕事はない。全で自分の生涯を賭にするのだ。自由結婚が動もすると否概して失敗の歷史を留めるのは當然の事と思ふのである。

▲兩親の損失　兩親の方でも然うである。切角と可愛い子の爲め人を頼み時を費して、良緣を見出した處で、一言否といはるれば其迄である。自分たちには三國一の聟殿と見えても、肝心な當人が經子のやうに、「死ぬほどにも辛く思つて居る」と言ふのを聞いては、强ひて押附くる事も出來ない。畢竟兩親の骨折損となつて了ふのである。思ふに、是れは干渉主義と自由主義の爭である。所詮は圓滿な自由結婚に落着くべき途中だと思はれる。だから何うか此の爭を圓滑に調和したいものである。然うするには本に反らねばならぬ。

▲交際と戀愛　何うして親の定めぬ夫定を子女がするか。親の知らない情郎を作るのか。交際から來るのである。芳尾の場合を藉りて言へば、元吉は長柄家の末

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の子息で、早稻田大學の學生であるが香川(芳尾の家)とは以前からの知合であるし、其上近頃同じ學校の中學科へ入學した、芳尾の弟光彌が、便宜上牛込へ下宿するにつけ、其監督を引受けたから、今迄よりも自然親密の關係に成り日曜其他學科の暇には常に此家に出入してゐる。芳尾は遠慮なく彼と交際して居るのである。此の交際が、二人の戀愛の原因である。二人には限らぬ、凡そ戀愛が交際から起るのは、戀愛の原則だらう。自由の交際は是非とも自由結婚を要求する導火線である。之と同時に交際のない處には

「女は髮容のめでたからんこそ好ましけれ」と兼好の徒然草にも記され又諺にも「女は第一に髮容」と云へり實に婦人の容姿は髮の結振の如何に因りて善くも見え惡しくも見え且つ其人の品位を高くも見せ將た低くも見するものなれば化粧上最も意を用ひざるべからず髮の結振や髷の容は固より時の流行に後れざるやう心掛くべしと雖ども己の容貌體格に不相應の理髮を爲す時は最と見苦しきものにて甚しきに至つては人をして噴飯せしむるが如きをあらん左れば髮容は其髷の何たるを問はず先づ己に相應はしき結樣と恰好とを吟味すべし扱髮の結樣は槪して髷の低きが顏のうつり宜きものなれども身躰矮小にして顏の短き人は髷を高めにして髷も膨らかにするを可とす左ればとて餘りに髷の高くして髮容の大いなるは却つて見苦しければ能く〳〵程を考ふべし近頃は鬢の約りて髱の長きが流行なれども肩幅の廣くして且つ首の短き人には甚だ似合はしからず而かも斯る婦人の髱を長くしたる爲めに努めて拔衣紋にするは却々に見苦しきものなり又顏の大いなる人の細面に見せんとて態と髮引き約めて小さく結ふ時は其顏益々大きく見ゆるものなれば深く注意すべし

戀愛がないと謂つても可い。ある理由がないのである。經子が廣岡參事官を好いとは思ひながら、死ぬほど厭ふのは、平素の交際がないからである。平素の交際があると相互に死ぬほど厭ふ點も分る。同時に又死ぬほど好きな點も見附かるので終にチヤホヤと愛たく爲り得るのである。然れば兩親たるものは、除程其子の交際に注意せねばならぬ。若し浦子、經子をして是非大竹節三、廣岡參事官に嫁せしめようとするならば、是非豫め此等の紳士と交際させて置かなければならぬ。又芳尾をして是非元吉から割かうと思ふなら、初めから芳尾と元吉の交際を禁

じ置かなければならぬ。交際を許して置いて結婚を禁ずるといふは無理だし、交際もなく一面識もない男に嫁せよといふのは愈〻無理だ。

▲親子の間の非情　結婚を許さんのなら交際を禁じたらば可いと言つても禁ずることは勢出來ない。出來ないから許すものゝ結婚の許容までは與へんのである。頗ぶる不自然な事ではないか。だから子女の智性は確かに親の心に認めて居ても、情性が承知しないで、大概親の許容の範圍外に踏出して、敢て一層親密な交際をする樣になる。是れは交際上の自然の法則である。自然の法則であると同時に親に對する義務に背いて居ることは明かである。親の許さぬ戀である。罪である。煩悶が非常である。其上其戀が如何ほど痛切でも、公然と親に告白することが出來ない。親は親で、心配で耐まらないんで、始終二人の擧動に注意して、成るべく一處に合はせまいとする。然もなければ間諜見た樣に、一處に合つてゐる處を見咎めようとする。芳尾の場合を藉りて言へば、二人が極めて强い情熱で結び付けられ、千萬の言を一つに爲た程な力のある目を見合せた一刹那、襖の外で高く咳ぶく聲が爲た、芳尾の母龍子である。此時は最う遲いのである。斯うなつた上で二人の間を割くのは、連理の生木を引割くのである、引割く親も血の涙、割かるゝ女も血の涙である。

▲親子間の讓歩　乃で親子の間に互に讓歩して戴きたいのです。親の方で婿の候補者を得たら、傳手を求め方便を求めて、双方の交際を導くやうにし、子女の方でも候補者として欲しいと思ふ男があつたら、兩親に願つて交際を許して貰ふやうにしたいものです。すると先づ親子の腦中に候補者名簿といふ公然の秘密名簿が出來る從つて親子團欒の會話の中に遠慮なく候補者の品評が出來る、すると親子の間の思想感情が自然に疏通するのである。即はち結婚に關する貴とい智慧や經驗が、自然に子女の耳にも融入するし、子女の情熱も知ず識らず兩親の心に沁入するし、いつとなく團欒の會話の中に、親子一致した婿殿の撰擇が出來る次第です。是は英國風の至極穩當な自由結婚だと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

THE "JOGAKU SEKAI" ENGLISH COLUMNS.

Conducted by ISOH YAMAGATA.

A HEROIC RUSSIAN GIRL.

In the September *Cosmopolitan Magazine*, a writer publishes an interesting story of a young Russian girl, who did remakable deeds of heroism and aelf-sacrifice during the late war. The girl in question bears the name of Yakovenko Yakovlev, and wears on her breast the military cross of the Russian order of St. George, rarely bestowed upon men and never before accorded a woman.

Although only twenty-two years old, when the war broke out, Mlles. Yakovenko did not lose a moment in asking for and obtaining the position of ambulance attendant. Young as she was, attractive and full of the love of living, she put society and its joys behind her, gladly exchanging all for the sake of serving her country and the came of humanity on the battle fields and in the rude camps of Manchuria.

Even later, when this frail young girl found that to fulfil her mission she must oftentimes labor in a sea of blood while a rain of shells fell about her, she worked on unflinchingly. In fact, to her zeal and absolute self-abnegation must be

女學世界英文欄

山縣五十雄擔當

雄々しき露國の一少女

九月發行の米國コスモポリタン雜誌に,或人過般の戰爭中勇氣と献身の事を仕遂げたる年若き露國の一少女の事を載せて居ります.其少女は名をヤコヴエンコ ヤコブレブといひ,胸に露國の勳章なる聖ジョージの十字章を佩びて居りますが,此勳章は男子にも與へらるゝこと稀で,今迄女子に與へられたることは一度もなかつたのであります.

戰爭の開かれた時ヤコヴエンコ孃は二十二歲の妙齡でありましたけれど,少しも猶豫せず野戰病院附きの看護婦となる事を願ひ出でゝ許可を受けました.孃は齡猶ほ若く容貌も美にして,人生を樂む盛りでありましたけれど,國家の爲めに戰場と滿洲の粗野なる野營に於て人道の爲めに盡さんが爲め,交際社會と其樂みとを捨てゝ去りました.

其後此かよわき少女は其天職を盡くす爲めには屢々砲彈が雨の如く降り來る間に於て血の海の中で働かねばならぬことを看出しましたけれど,少しも撓まずして働き續けました.實際,孃が右の脚に負傷してそれが爲めに膝の上から之を切斷しなければならぬやうになつたのも其元は孃の熱心と自分の身を顧みなかつた事にあるのであります.此手術を受くる時,孃は珍らしき勇氣を以て之に耐え,孃のかよわき天性にとりて必ずや恨ろしき激動を與へたるべき此切斷については一言の不平をも洩したことはありません.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ascribed the wound which necessitated the amputation of her right leg above the knee. This operation she supported with rare fortitude, and never complained of the mutilation, which must have come as a horrible shock to her delicate nature.

It was during the memorable battle of Liaoyang, in October of last year, that the ambulance to which Mlle. Yakovenko was attached, drew up at the railway station of the town of the same name. Every train was filled with the wounded and dying. Suddenly General Kuropatkin rode up and ordered that all the sick and wounded should be sent on with the utmost expedition, as the Japanese columns were approaching.

Two hours later, the bombardment of Liaoyang began, and the deadly projectiles of the enemy rained down on the railway station. Hurriedly, the last of the wounded were sent on, and it only remained to gather up the effects of the hospital corps and writhdraw to a less dangerous position.

Accompanied by a surgeon, Mlle. Yakovenko was on her way to the hospital train to direct the loading of the baggage. At this moment the fire of the Japanese redoubled in its fierceness, causing a panic among the Chinese and Russians who were handling the baggage. These men all concealed themselves is the cars.

What happend then is best

去年十月記憶すべき遼陽の戰爭中のことでありましたが,孃の附屬して居た野戰病院は同名の都會の停車場に張られました.此處に來るところの列車はどれもこれも負傷せる者と今や死なんとする者とを滿載して居りましたが,突然クロパトキン將軍は馬を馳せて來り,日本の隊列近づきつゝあれば成るべく急速に傷病者を後送せよとの命を下しました.

それから二時間を經て遼陽の砲擊が開始され,敵の恨ろしき砲彈は停車塲の上に雨下しました.大急ぎで負傷者は悉く後送され,殘る仕事は病院隊附屬の物品を收集して危險の少なき地位に退却するばかりとなりました.

一人の軍醫と共に,ヤコヴエンコ孃は荷物の積込を指圖する爲め病院列車に行かんとする所でありました.此時日本軍の砲擊は一倍激烈となつて,荷物を積込んで居る淸國人や露國人の間に恐慌を起し,皆車の中に隱れてしまいました.

この後起つた事はヤコヴエンコ孃が自ら語られたる話で一番よく分ります.其話に曰く"左よりは右の方に砲彈が多く落ちることに氣がつきましたから,私は線路に沿ふて左の方に向ひました.私は疲れ果てゝゆるやかに步んで居りましたところ,私の方に耳を聾せんばかりの響が聞えまして私は正氣を失ふて倒れました.氣がついて見れば車が列を爲して過ぎ行き何かガヤガヤと人の聲が聞えました.私は心の中に思ふやう'自分は正氣で居るのであるから,起きた方が宜しからう'と,それから起き上らうとしましたが,起き上がることが出來ませぬ.しまいに私は兩手で支へて身を起しまして,私の右の脚が打碎かれて居るのを見ました.私の身の周りには血が水溜りのやうにありました.私は此恨ろしさをすべて覺る迄に,私と同行しました軍醫の聲が

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

narrated in Mlle. Yakovenko's own language: "Noticing that more projectiles fell on my right than on the other side, I turned toward the left, following the rails. I was overcome with fatigue and walked slowly." Then there was a deafening sound behind me and I fell senseless. When I came to myself, I noticed a file of passing cars and was aware of a babel of voices. 'Since I am conscious, I had better get up,' I thought to myself. I tried to rise, but could not. Finally I raised myself on my arms, and saw that my right leg was shattered. About me was a pool of blood. Before I had time to grasp the horror of it all, I heard the voice of the surgeon who had accompanied me. He had been wounded, too, but less severely.

"In reply to his calls, men rushed to my side and lifted me up. My right leg adhered to the rails. I suffered indescribable torture. Directly I was placed in an ambulance-wagon. We started at once, for we were in danger of being captured. My companions who pressed about me recognized me with difficulty. My head was as black as coal and my body was completely covered with dust. It was a shrapnel shell which wounded me in both my legs and scorched my head."

The brave girl was hurried to the hospital of Harbin, where fragments of the shell were extracted from her leg. An effort was made to save the limb, but as gangrene set in, it became necessary to amputate it.

It will be noticed that Mlle. Yakovenko, in describing what happened to her and to her sensations during the events of that dreadful day, confined herself to the bare facts as far as she could recall them.

聞えましたが,此人も亦負傷したのでしたけれど,私よりは輕かつたのであります.

"此軍醫の呼ぶ聲に應じて,人々は私の傍に走せ來り私をかゝへて起こしました. 私の右の脚は鐵道のレールにくつ付いて居て,私は何ともいへぬ苦みを覺えました. やがて私は病院車に載せられまして,捕虜とせらるゝ惧れがありましたから,直に出發しました. 私の側に詰め寄せた仲間の人々はやつと私の誰であるかを認めました. それも其筈で私の頭は石炭のやうに黑くなり,私の身體は塵埃だらけになつて居りました. 私の兩脚を傷つけ私の頭を燒いたのは榴散彈であつたのであります"

此勇敢なる少女はハルピンの病院に急送され,其處で砲彈の斷片が其脚から抉出されましたが醫師は其脚を助けやうと盡力しましたけれど,傷が化膿し始めましたから,遂に之を切斷せざるを得ないことになりました.

ヤコヴエンコ孃が其身に起つた事幷に彼の惧ろしき一日の感を述ぶるに當りて,其憶ひ出すだけの事實を飾りなくいふに留まられたとに氣が付くでありませうが,此簡單な物語りだけを聞けばそれについて何も別に變つた事はなく,唯何の婦人にもありそうな事のやうに思はれるでせう. 然し孃の傍に居た人の話は此かよわき露國婦人が惧るべき境遇の中に於て現はした驚くべき勇氣を暫く想像する人の眼に涙を浮ばしむるであらうと思はれます孃の傍に居た人々の言ふ所によれば,孃が負傷者に對する誠は實に此上なく高貴なるものであつて,砲彈が落ち始めた時,他の看護婦や病院附きの人の多數は安全の場所に立去り,孃も共に立去ることが出來たのでありますけれど,其耳に今や死なんとする者等の唸る聲を聞いては孃は危險の地點を去るに忍びなかつたのであります.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

From her simple narrative one might infer that there was nothing unusual about it all, but merely something that might have happened to any woman. But those who were near her tell a story calculated to bring tears to the eyes of those who pause to picture to themselves the wonderful courage of this delicate Russian woman amid horrible surroundings.

They say that her devotion to the wounded was absolutely sublime. When the shells began to fall, the other nurses and many of the hospital attendants left for places of safety. Mlle. Yakovenko could have gone with the rest, but with the moans of the dying in her ears she refused to leave the point of danger.

"I became a nurse," she said, "of my own free will and I should die of shame if I shirked my duty the moment danger came. Having asked for this position myself, I should be depriving these poor wounded men, perhaps, of the service of another woman who might have proved more conscientions and conrageous than I should be if I were to teave now. No, my duty before God lies nere, and here I remain."

This statement Mlle. Yakovenko made to the surgeon who tried to persuade her to withdraw and who was afterward injured by same shell that wounded the brave nurse.

While staying in the hospital of Harbin. Mlle. Yakovenko used to say: "When my wound is quite well, a pair of crutches will be made for me and I shall return to Manchuria." It is really to be rejoiced over that peace has now been concluded and the heroic Russian girl will no longer have to expose herself to danger.

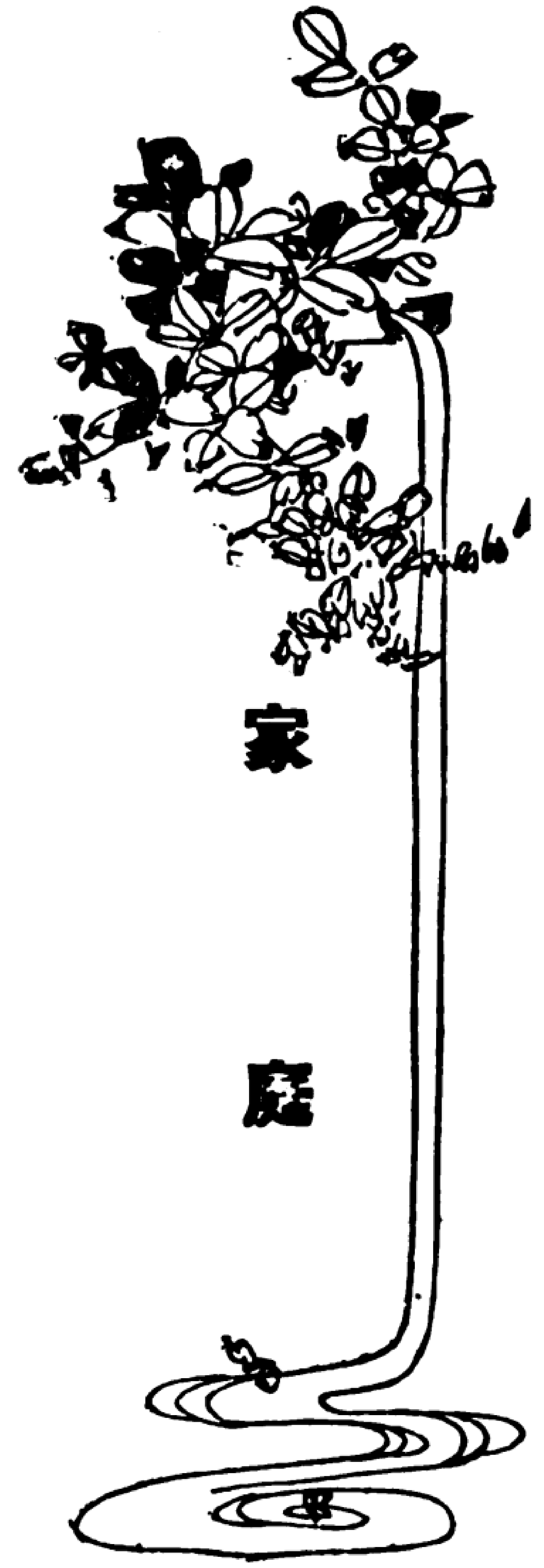
孃は曰く"私は私の勝手で看護婦になりましたので,もし私が危險の近づいた時私の義務を免れるやうな事をしたならば耻ぢ入つて死ぬでありませう.私は自分で此位地を請ひ求めたのでありますから,もし今私が此處を立去りましたならば,私は此等の憐れなる負傷者から,私よりは良心があつて且つ勇氣のある他の婦人の役を奪ふことになります.如何にしても神樣に對する私の義務は此處に留まるのでありますから,私は此處留ります"と.

此言葉はヤコヴエンコ孃が退却するやうにと孃に勸めやうとした軍醫に向つて述べたもので,其軍醫は此勇ましき看護婦を傷けた同じ砲彈の爲めに其後負傷した人であります.

ハルビンの病院に滯在中ヤコヴエンコ孃は常に"私の傷がよくなつたならば,一對の拐杖(かせづゑ)を作つてもらつて私は又滿洲へ歸ります"と言つて居ました.今や平和が締結されて此雄々しき露國の少女が危險に身を曝らさなくてもよくなつた事は實に喜ぶべきであります.

註 Heroism and self-sacrifice 勇氣と獻身—the girl in question しかいふ少女—military cross of the Russian order of St. George 露國の勳章セントヂョージ十字章(我金鵄勳章に相當するもの)—Mlle. 孃(Mademoiselle の略字)—ambulance attendant 野戰病院附き—society 交際社會—exchanging 交換して—cause of humanity 人道の爲め—unflinchingly 撓まずに—self-abnegation 自己の身を顧みぬこと—necessitated 要した—amputation 切斷—operation 手術—mutilation 切斷—Liaoyang 遼陽—the wounded and dying 負傷者及び瀕死者—with the utmost expedition 大急ぎで—projectiles 砲彈—effects 附屬品—was on her way 行かんとする所であつた—redoubled in fierceness 激しさが倍になつた—is best narrated in Mlle. Yakovenko's own language ヤコヴエン孃自ら語りし言葉で一番よく分る—fell senseless 正氣を失ふて倒れた—I came to myself 氣が付いた—a bable of voices がやがやする聲—raised myself on my arms 兩手で支へて身を起す—before I had time to grasp the horror of it all その怖ろしさを皆覺る迄に—recognized me with difficulty やつと私を認めた.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



由利子爵の家庭

菊池雪子

品川沖を瞰して愛宕山より高き岡に、廣くて閑靜なお住居があります此處は明治維新の始め五條の誓文の御發布に就て御盡力になりました元の東京府知事の職を奉せられたる由利子爵(公正)の邸宅です。

公正君の嗣子子爵公通氏は數年前逝去され、今は未亡人たる糸子様が二人の令息を養育されつゝ舅公正氏に孝養を盡して居られます、私が同家を訪問して快活なる夫人より承つた家庭雜談を左に。

△由利家に嫁す

夫人は故三條公と力を合せて維新の大業を成された壬生伯爵の息女で明治九年東都に生れ華族女學校に學び卒業の後二十二才で公通氏と伉儷の契を結び、二人の子息を擧げ幸福なる日を送つて居られましたが、遂に子爵は彼の世の人と成られました、けれど若き未亡人の決心は鐵石よりも堅く、令息の愛育に花も未だ盛りの年を捧げて日夕餘念なく居られます。

『私は家の治め方を當家に參つて母から教はりました、何んなに裕福な家でもお國越前の方では毎年の澤庵漬は主婦がするものなさうで、母は私に丁寧に教へて與れました、それは妙な風をして漬けます、寢衣の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上に羽織を着て紐でしつかり〆まして年の暮、寒中に女中に手傳はせて漬けますが若し其節に何方かお訪問になれば其儘の姿で御挨拶に出ます」

「其れからいつぞや、私は主人に向ひ車に飛び乗りする事が出來ませんと申ました、處が主人は、お前の頭の中には憖に華族といふ觀念が在るから途中で車を雇ふことが出來ないのだらうが予はタカが三井銀行の役員ぢやないか其の家內だと思つたら客待の車位は頼めるだらうと叱られました、其れからと云ふものは車の飛乗を致すやうになりました、で古は隨分始の中は値を付けることがきまり惡うございましたヨ、而して四ッ谷に居た時は女中を連れて夜見世の野菜を買ひに出かけました」

△臺所長

「公卿家には可笑な風俗がございますヨ、イカニ世計が困難でも家の娘は臺所になど出て手傳するやうな事はありません、所ろが當家に嫁して後は忙がしい時には女中と一緒にお料理を調へます、お正月などには實に目の廻る程でした、父のお客様が參ります、母の方のお友達がお出になる又良人のお客様もお尋ねになりますから三方のお料理となつて三種になりますから忙がしうございました、私はお嫁に參つた初年のお正月には宅に居りました時のやうに白を重ねて着ましたはたつた一度で白の裾を黒く汚してしまいましたから、其後は正月には却て平常着で働きお客様の前へも其儘で御挨拶に出かけます、近頃では母もなくなりまして父一人ですから毎朝私は床の中で今日のお菜は何に致さうと考へて居りますヨ」

△中働

夫人は質朴なお話振りにて「父は骨董が大好ですから種々の書畫や道具を澤山集めて居て毎年土用干致すと、此の二間の部屋一ぱいになります、そして毎日道具屋が參りまして色々の品を置いて行きます、私は倉の掃除を致しますが塵埃だらけになつてやるんです」客間には朱檀の椅子、卓子、大きな阿彌陀佛の像が置物としてありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△庭掃

『良人が丈夫で居ました時は運動のために徒跣になつて庭を掃きましたのを、私も一緒にしたのが習慣になツて只今でも徒跣で掃きます、すると召使の者が皆驅けて参ッて掃きますから何んでも人を使ふには自分が先に立つて働かなければならぬと悟りました良人は日曜日に部屋の隅々に殘つて居る埃を取つたり蜘蛛の巣を掃つたり私の鏡臺小箱抔の置場所などまでちやんと定めて手づから片付けて呉れながら物は順序を亂さぬやう整へなければならないと申て居りました、只今其時言はれた事を一人して致しながら當時の事を追想いたしますと』お話の間令息御兄弟は中よく御庭に遊んで居られました。



△放任主義

父は日頃斯樣申して居ります人間は何でも寒暑に堪えられる健康な體を造り堅固な意志を養成しなければならない、何うも近頃の人は我々時代の人に比べると體が繊弱い、其れと云ふのは餘り衛生に重きを置いて寒い時には風に當らで暖い時は日光の直射を

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

避けるために帽子を被つて見たりして體を大事にしすぎるからである、何でも關はず風が吹かうと日が照らうと外に出して遊ばせなければならぬと私共に申ます故小供も彼の通りもう一日帽子も被らずに蟬を取つて庭で遊び歩いて居ります、ハイ父は當年七十七才に成りますが寒中でも足袋を履いた事がございません。

△子息の通學

八才の公興氏は芝車町のお宅から日々學習院迄通學

「電車で遣りますから未だ一度も車に乘せて學校に遣つた事はございません雪の降る時でも矢張電車ばかりで遣ります」

△冗費を省く

「私は子供に高價の玩具類は一切購求めてやりませぬ、子供は玩具を速ぐに壞してしまいますから高價のものを買つてやるのは無駄な事と思ひます、其の代り毎月子供の爲に銀行に貯蓄して居ますが只今は大分溜まりましたから、成人致すまでには自轉車を求められるやう致し度いと存じて居ます、嫡子は學習院に參る時ランドセルに學校道具を入れて行くんですが革包を大層ほしいと申して買ふことを私に求めましたが必要品でないために與へませんでした、すると車夫が二本の竹に古革包の革を付けて調へて遣りました其れを大悅で持つて行きましたら或る方が廢物利用と申されました」

△針仕事編物

「着物は女中に仕立させて居ますが子供のものは大抵私が縫つてやります、暇の時には、子供の靴下を編でやりますから是れ迄買つた事はありません、人は働く可き時によく働いて休む時にはよく休むのが心地のよいものですヨ」

今迄餘念なくお庭で遊んで居られた二人の令息は母さまの側に參られた故、「二人共よく遊びましたから之れは三時の間食の外に上げます」とてお菓子を與へられました。

「失禮ですが御覽下さい、腹掛に股引を付けて斯んな工合に工風して私が調へました、夜分は之ればかり着

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せて休ませますがお腹の冷えるやうな事はございません。

△慈善事業

「私はよく家を治め又子供を教育したいと思つて居ます、而して財も時間にも餘裕あれば慈善の事に用ゐたい、ハイ、保育會へも此後度々參る積りです、區内の軍人家族慰問會に

私の受持は都合十六軒今日も朝出て十一時頃に歸りました、二人連れで慰問して歩きますが私と御一緒の方は實に腰が低くて丁寧にお尋ねになりますから私も其の眞似を致す積りで居ながら未だ學校生徒の風が失せないで遂ひお巡査さんの戸籍調のやうにお變りありませんかと云ふ句調になつてしまいますけれど、度毎に氣を付けますから近頃は大分馴れて參りました」



お話は其より水交社で催した園遊會の事に移りました「ハイその節活人畫の中で私は伊賀局を勤めました」

△婦女雜感

「婦人の中に隨分豪い人は多くございますが私は常々豪い婦人の中にほんとうに豪い婦人とは何んな人かと考へて居ましたが自分丈の判定が付きました、豪い婦人とは餘り出者張らず、外見を飾るに重きを置かず、内容を整へて意志が鞏固で寡言の人でせう。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勿論世の中は十人十色ですから或は社會に活動する婦人が豪いとか、家庭に引込んで居る婦人がよいとか種々でせうが、私は今お話しました樣な婦人を第一に豪いと存じます、社會に活動するのも結構ですが其身が家庭の主婦だと云ふ事を忘れてはなりません、其れから妙なお話しになるやうですが私が知つて居る或る歷々のお家の奥さんが待合に入らつしやる所を見ました時は實に驚いてしまひました、聞くと近頃奥樣方の待合歩きがぼつ〳〵あるさうです、或る有名な奥樣はいつもお歸りが旦那樣より後になるさうですヨ……又新聞なんぞで大層褒めて書かれた或奥樣の內幕も私共――及んで居ります實に何んとも申しやうのない亂れ方です又何々幹事などゝ云つて社會に顔を出して入らつしやる方で其行に感心の出來ない方などもございます私は世話好な爲種々の婦人方に御交際をして實際見もし又人からも聞き及ぶ事がございます、其等に因つて考へますに第一に家の事をよく整理して而して餘暇を以て慈善なり、社會の爲になり奔走し、活動するのは今日の我々婦人の務かと存じます、私も何うか僅少ながら社會の爲に力を盡したいと思つて居りますが子供の敎育もありまして十分には參りません、父も今日の婦人は家にばかり居らず相應の御交際をしなければならぬと申して居ります。』

△家庭雜談

『私共ではたゞ子供を自由に育てるのみですから家庭のお話とてもございませんが、私の存じた或る家庭のよく治つて一家團欒の美しさを思ひますのに家庭の如何は只婦人の心掛一つにあることゝ存じます、其お家では隨分下女も使つて居られますがお父樣の用事は皆娘共にさせてあります秩序の立つて居る容子は行つて見て驚きますそしてそれは皆お母樣の指圖で定められたのです、每日茶話會がありまして私も度々招かれましたが、其の茶話會には先づ一番小い者からお話が始まります、學校の先生から聞いて參りましたお話抔を致すのです、漸次大きい者に廻はり、最後にお母樣の番になりますと敎訓になるやうな簡短なお話をされまし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て茶話會が終ります之は誠によいことゝ存じます。何うも豪商とか紳士とか呼ばれる家庭の多くは紊亂して居るやうです、お金が澤山ありつゝも他人扶助の爲とか慈善の業とかに費用ますことは灸でもすへられるやうに痛み、悲み、而して自分の贅澤のため無駄使をすることを何んとも思ひません、何うかまあ其な惡弊は段々無くなるやうにしたいものです、ですから私は模範に致す家庭は中流にあらうと存じます上流と云はれる所でも實に厭はしい家庭がございます、そして又下々の方に手本にするやうな家庭が少ないでせう、ですから、中流に取るべきことゝ思ひます。』



夫人は貴公卿のお姫様として育てられ少しも高ぶる様子なく觀察が世間一般に渡つて而かも理想の家庭、理想の婦人を想つて入られ孜々として令息の教育に專心意を用ゐ同情義俠の心を以て他人の爲に盡力遊ばすのは感心の至りです。

米國家庭事情

野口米次郎

▲主婦の勢力　米國の家庭では男は無勢力である、主人でも家の事には少しも嘴を入れるの權利が無いのである、月々の支拂も主婦がするし、朝より晩まで外で商業なり何なり多忙であるから、夜に入つて家へ歸つて樂しむ位なもので、下女下男も主婦の氣にさへ入れば主人は何うでもよいと思

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて居る、自分の家でレセプションとかで多忙を極めて居る際中主人が歸つて來るとすると、コツソリと裏口からでも入つて來て音もさせずに自分の部屋へ行くのである、而して自分の暇があつて家が忙はしい時は給仕人の助けさへするのを辭せぬのである、米國の紳士の胸中大海の如き度量あるに於ては、驚嘆するの外は無い。

▲男の世界　然し夏に成ると男の世界が來るのである、米國、殊に紐育などに住居して居る富豪は皆なヤツト(快船)を波上に浮べて、夏の一期を過ごすのである、此のヤツトの主人公は主婦でなくて主人自身であるから、主人はキヤツプを冠つて船長の様な扮裝をして船に乘るのである、苟もヤツトを浮べるといふ事になるには少なからぬ金が入る、他人のヤツトを一期中借入れむとするには三ケ月(これが一期である)が二三千弗を拂はねばならず、其れに船長や機關師や料理番やスチワードとて賄から買物一切引受けるものや、水夫等に支拂ふ金額は容易なもので無い、如何に小なるヤツトでも水夫の六七人は雇はねばならぬ、ヤツトは元來米國富豪の夏期にする贅澤の極であるから、船中で食ふ食事と云つたら非常に高價な物ばかりである、余は一昨年或る人のヤツトに乘込むで例のリフトンのカツプ、レースを見に行つたことがあつた、我等のヤツトは朝の七時頃コチー、アイランドにある紐育ヤツト倶樂部を出たので、朝飯を船で食つたのであつた、朝から三鞭酒を拔くといふ勢である、殆ど三鞭酒を頭からあびせ掛けられて一日の遊散をしたのであつた、波はサンデー、ホークまで出ると故高いのである、其高い波を蹴つて競爭船の走ると同じ方向に走つて、其結果を親しく見るのである、歸りは午後の四五時であるから、空氣は自然冷かに爽快である、波は例に依つて心持ちが好い程高く、暫時にして月は高く出づるのである、而して追々紐育の方へ接近して來ると市街の千萬の燈火が夢の火の如く見へて來るのである、燈火が中天に懸つて居るのは何ぞ、其は音に名高きブルークリン橋上の電燈なのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或る富豪はニユウポートに夏場所を有して居るのもあるし、又パハパに別邸を有して居るのもある、或はホワイト山に登つて一夏過すものもあれば、アービングの筆で有名なリツプ、ワン、ウヰンクルの古跡を尋ぬると共に海拔三千尺なるカワキル山の空氣を呼吸するを快とする連中もある、で予は紐育の二十三町目の埠頭を出で船に乘つてハドソン河を上つたのである、ハドソン河を往復する蒸滊船其壯麗なると言葉に盡すヿが出來ぬのである、船中では堪へず音樂を奏して居た、又富豪の或るものはナイヤガラ瀑布見物に出掛けるものもあるが、瀑布自身は廣大無邊神聖の氣世界に迫るの



概があるけれど、滊車を下ると直に瀑布でもあり、其の瀑布に依つて衣食をして居る小商人が蝟集して居るので、風景を毒するヿ非常である、然し余は滊船に依つて下の方から大瀑布を見上げると、其が大なる虹と化した壯大なる美觀は忘れるヿが出來ない、太陽の銀の樣な光線がグランド、ラピツトを直射する時に水は金剛石と變ずるのである、何等の大景、又或るものは遠く太平洋岸に來てヨセミテの溪谷を訪問しヤロストン公園に彷徨するものもあるのである、又或るものは一家を引率して歐洲諸國の古跡を訪ねるものもある、米國では夏は盛に遊ぶの時期である其他の三期に充分勞働し

て夏の一期に氣分を回復して活世界に活動する力を養ふのである。

以上は米國富豪者流が家庭の模樣一斑であるが中以下の家族では、或はホテルに住居して居るものもある、此のホテル住居は隨分洒落なものであるが、壁一つ越すと他の家族が住居して居る、或はフラットを借りて生活をして居るものもあるフラットさへ借りかねて唯部屋を二ツ三ツ借りて家庭を作つて居るものもある、が然し米國の家庭の清潔で健全なる點に於ては貧富を論せず、同じである。

米國人は家庭をばロモンの殿堂より尙ほ更に強固に建設せむと欲するのである、其殿堂には、娘ありて愛す可く、夫ありて尊敬す可く、妻ありて親しむ可く、日夜相互に身を犧牲に供してゐる、健全にして幸福なる家庭は即ち天國にあるが如く又地上にある極樂園である。

米國の家庭はまづ普通耶蘇宗の上に築かれて居るので、バイブルに依りて導かれ、神の法を以て信仰となすのである、故に如何なる貧民と雖も米國に於ては健全で幸福なる家庭を築き得、且つ築きつゝあるのである。(完)

紋の話(其二)

清水芳子

▲動物を紋とせし家

▲蝶、鶴　蝶の紋は三十九種ほどありますが其揚羽の蝶と向蝶とを問はず是は悉く平氏の血統に屬するもので、起原



は平氏の祖先が朝廷より賜つたものださうですが、然し此事は誰もよく知つてゐることゆゑ略します、次に鶴は森氏の定紋で古書によりますと同家の祖庵原左衛門義濟



が頼朝に隨ひしに、己の紋と頼朝の紋とが同じいので主君に憚り紋を變へようと思ふて暮してゐた或年の正月元旦に、何處から來たか一羽の鶴が庭に舞ひ込んだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のでい家の吉兆としてそれから紋を鶴に改めたとあります、後子孫尾張の森村に住んで森を姓とし岡部長澤日野六角等この家から出たのであります。

▲鳩、馬　飛騨守惟久が後三年の戰の繪に八幡太郎義家の幕の紋に鳩二ッ宛向ひし形が書いてありますが、我國の傳説として鳩は八幡大神の使ひであるといふに思ひ寄せて、その八幡宮の烏帽子子たる義家が幕につけたものと考へられます、後武藏志乃黨が是を用ゐましてその旗頭なる熊谷直實は寓生に向ひ鳩をつけてゐます、馬の紋は平將門が下總相馬に反逆の旗を擧げた時につけたといふ説がありますが、是はあまりに附會な説で信じられませぬ馬は平野家の定紋で將門よりは遙か後に出來たものと思はれます、猶動物の紋には江見氏の海老、波多野氏の鳳凰に竪引兩、柴田眞田の二ッ雁など澤山にありますがその起原については今では確に知ることが出來ませぬ。

▲動植併用の紋章

▲竹に雀　竹に雀は仙臺樣の御紋と小唄にまで歌はれてゐますが元この紋は公卿勸修寺家の定紋であります、されば足利時代に勸修寺家の末流なる上杉家が是を定紋にし、後越後の長尾輝虎（上杉謙信の前名）に姓と共に讓つたものです。伊達家の紋については諸説紛々としてゐて或は藤原秀衡が奥州を六町一里として千里あつたといふので、千里の籔の諺にならひ竹に雀を紋としたのを伊達氏が同族の因みで是に眞似たともあり、或は伊達の老臣片倉小十郎の祖先が前記の勸修寺家の末流なるより是を紋としてゐたのを主君たる伊達政宗が取つたともあり、又一説には曾て伊達氏が上杉氏と合戰の砌に上杉氏の武具を奪ひそれより是を紋としたともあります。



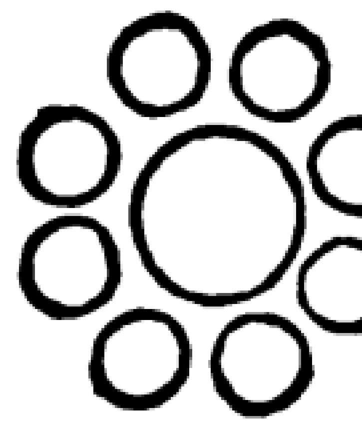
▲牡丹に唐獅子　是は諏訪氏の定紋で足利時代の古から紋帳に載せてありますが、此紋は我國の紋章中でも寔に珍しい圖柄で我國には產する事のない獅子に配合するに牡丹の花と葉を以てしたのは隨分思ひきつた意匠です、デ是までも申した通り我國幾多の紋章はそ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の多くは身邊にある物を用ゐてゐるのに獨り此紋と波多野氏の鳳凰とは我國にないものを用ゐてゐます、新井白石の本朝軍器考によりますと古く獅子頭の冑といふものがあつて源義家なぞも被つたことがあると記してあります、察するに諏訪氏は甲斐源氏の一族故或は此獅子頭の冑から思ひついて此紋を拵へたのではあるまいかと考へられます、此外に長澤氏の蝶に菊、新井氏の竹に鳩なぞ數多くありますが茲には措くことゝ致します。

▲天象を紋章とせし家

天象を家の紋に用ゐました其原因の多くは神佛の信仰からその冥護を被るといふのに出てゐます、先づ千葉氏の月星は同家の守護神たる妙見の神紋で、細川氏



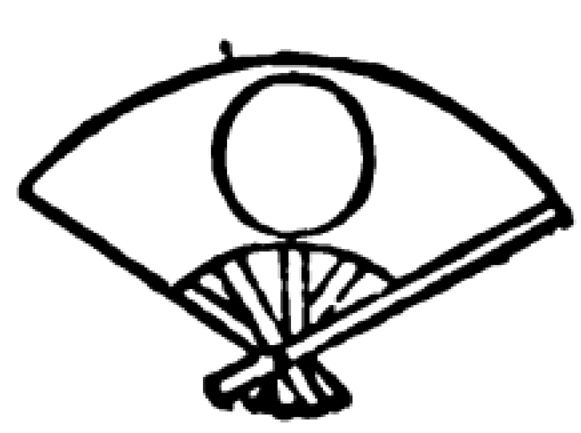
▲月星、九曜

の九曜は同家の英主頼之が常に北辰七星を信仰し旗印に是をつけてゐた所が、或年足利將軍義滿の命をうけ九州征伐に發向の折に將軍より日月の紋ついたる旗を賜りしより、從來の七星に此日月を加へて九曜を定紋としたので、岡野土屋櫻井高城小倉押田荒尾なぞ皆これを用ゐてゐます。

▲三ツ星、三日月　前者は元本郷氏の定紋で渡邊氏が是から出て三ツ星の下に一の字を加へて紋としたので、後者は中國の尼子勝久の家臣山中鹿之助幸盛が三日月を信心してそれを紋としたのが初めです、今では是の末流なる片山氏が紋として居ります。此外に望月氏の日、山田氏の巴九曜なぞ澤山にあります。

▲器具を紋章とせし家

現今扇の紋の種類はその數總て五十四種ありますが、その中で佐竹氏の日の丸の扇が此多くの起りです。東鑑に同家の祖佐竹次郎が頼朝奥州征討の砌に常陸の國より推參して隨身し、各所の合戰に於て

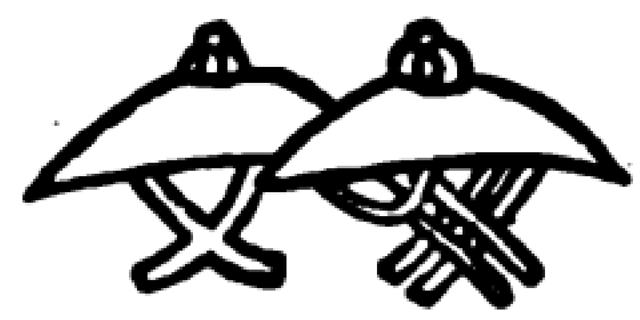


▲扇、傘

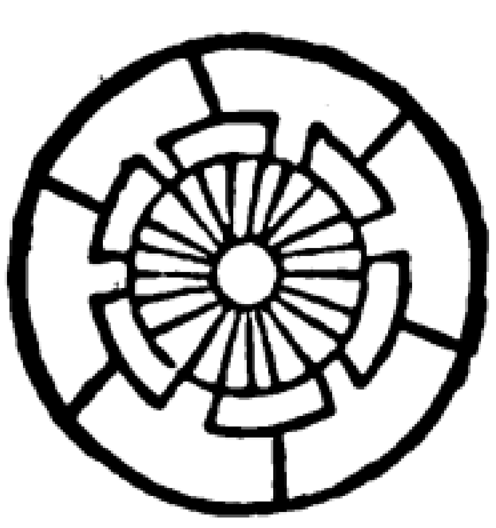
拔群の功名を彰しその褒美として日の丸の軍扇を賜りしを直ちに紋とすとあります、又或書に佐竹の祖軍功により禁裏に召されし時同行の大名二人ありしに誰へとも名を示さず一本の扇子を下賜ひしを三人のもの奪

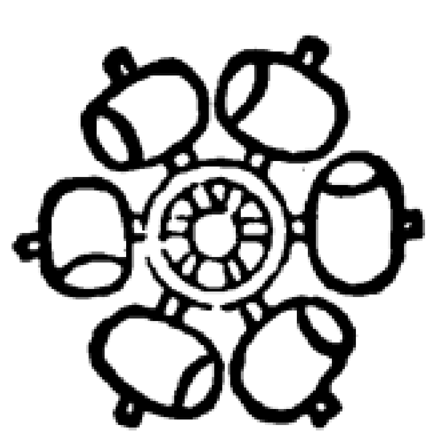
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ひ合て佐竹は扇子の地紙と骨五本を取り、三本は他の大名が、殘り二本は岩城氏(羽前龜田の城主)これを取り、佐竹は五本骨日の丸の扇子を岩城は地紙に骨二本を紋としたとありますが這は少しく附會の説と思はれます。傘の紋は牟久氏の定紋で古く鎌倉時代からある紋で、中に三本傘、唐人笠なぞの區別があります。柳生家の二蓋笠については同家中興の祖但馬守宗矩が三男飛騨守宗冬が若年の折に不行跡の罪で勘當をうけ、後武藝を修め歸參を乞ひし時に父と試合して勝をとらば勘當を許さんとて父子立會をせしに宗冬笠を以て相手となり遂にその笠を父に被せて勝をとりしより、從來の笠の紋に更に笠を加へて二蓋笠としたとあります。



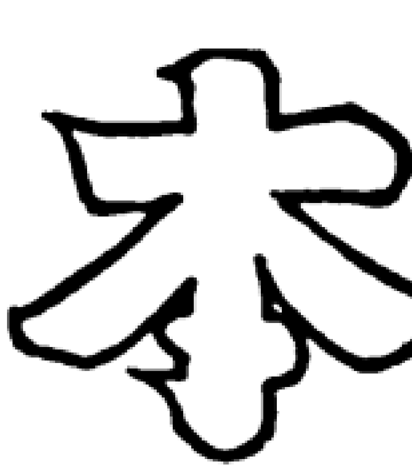
▲源氏車、槌車　前者は徳川四天王の一たる榊原氏の定紋で、後者は下總古河の城主たりし土井氏の定紋であります。源氏車は榊原氏の祖仁木義長が御所車の八葉から思ひついたもので、槌車は土井氏の祖が水野家から出たので水野の水車を變へて是にしたのだと古書にある。此外に黒坂氏の急須、粟生田氏の團扇など種々な紋章もありますが今は略すことゝ致します。





▲文字を紋章とせし家

▲大一大萬大吉　是は石田家の紋で鎌倉武鑑には木曾義仲を遠矢にて射とめし石田爲久の紋としてある、彼の豐臣秀吉の臣として關ヶ原合戰の發頭人たる石田三成も此紋を用ゐてゐます、何ぞ由緣のありさうな紋ではありますが今では確に知ることができませぬ。此他に於きましては文字の紋は多く苗字の一字を取りますようで、例へは井上氏の井の字、村上氏の上の字、本多氏の本の字、大久保氏の大の字なぞ皆それであります。



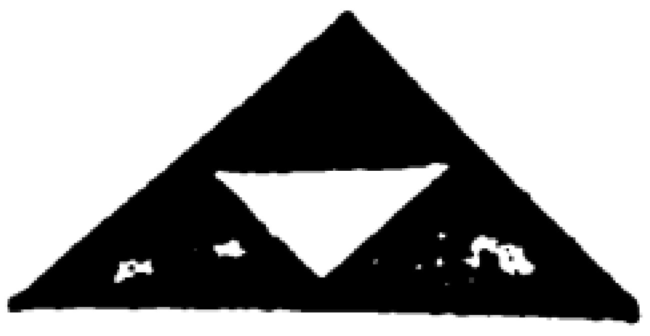
▲天下一　植村氏の定紋でありますが元同家は土岐源氏の流れで桔梗を紋として來たのです、それを是に變へましたについて面白い逸話がある。それは同家の祖新六といふ人が十八歳の弱冠の折に主人淸康（家康

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

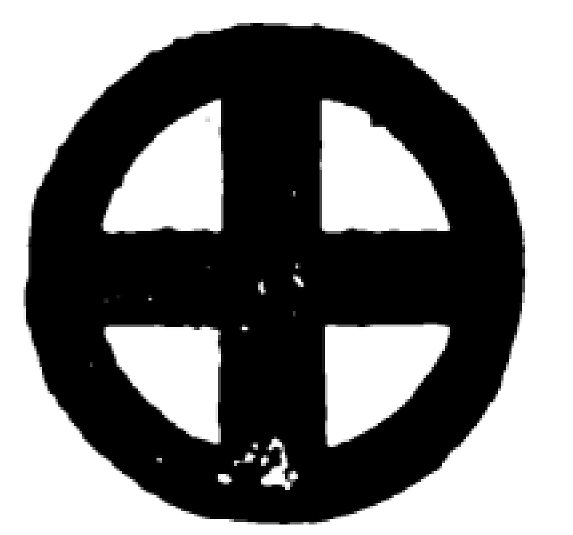


の祖父）を弑さんとせし安倍彌七郎を捕へしも、夜分のことなり大力無双の曲者、新六も手にあまし上を下へと揉みあつてゐるところへ本多酒井の面々が駈來たり、曲者は上か下かと聲をかけると新六がいふには主君を殺さんとせし大事の敵なるぞ、もし打漏しなば他家への聞えも惡し上下を問はず拙者諸共に刺通せと呼ばりながら難なく曲者を押へしが、新六が一言誠に君を思ふての忠心天下一なりとて清康より厚く賞されたので、是より桔梗の紋を改めて天下一を用ゐたとある。後幾くもなく天下一とは朋輩へ僭越なりとて元の剣桔梗に一の字を加へ天下一は馬印の紋としました。

▲信仰を表彰せる紋章



▲三ッ鱗、丸に十　三ッ鱗は北條氏の紋で是は始祖北條時政が江ノ島の辨才天に武運長久の祈りを籠め、三七日の參籠をした折に夢に辨才天の神使なる龍の鱗を三ッ授かつたので紋としたとあります。丸に十は島津氏の紋で

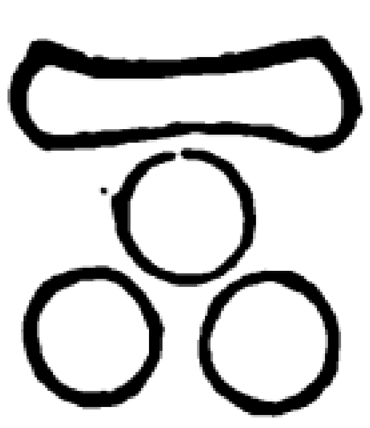


是は同家では基督教を信じたのでその徽章たる十字架を形どつたのであるが、以前は基督教は邪教として國禁でありました故に當時の政府を憚り十の字に丸を加へて轡の形を致したのであります。

▲三本杉、鳥居　前者は戸川家の紋で大和三輪神社の杉からとつたもの、後者は鳥居氏が加茂神社の宮司たりしより姓に因んで紋としたのである。此外立花氏の祇園守り及び前に述べた千葉細川の兩紋もまた信仰を表彰した紋の例であります。



▲祖先を表彰せる紋章

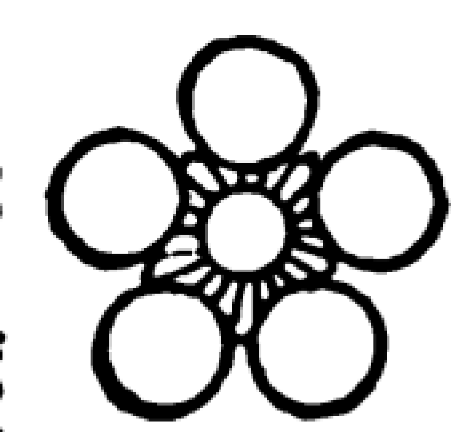


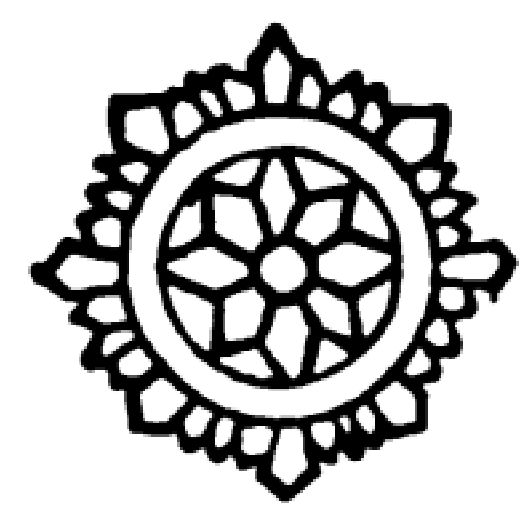
▲一に三ッ星　毛利氏の定紋でありますが同家は阿保一品親王の末裔である故に、大江廣元が始めて紋を工夫した折には一品と文字で記しましたが、それでは餘り家系に誇るやうだとあつて幕府へ遠慮して文字を模様に崩して一の字の下に三ッ星とし、恰も渡邊氏の紋を倒にしたよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うな紋章としたのであります。

▲梅鉢、卍





梅鉢は前田菅原兩氏の定紋で是の起因は誰も知つて居る通り祖先道眞公が梅を愛し給へるに因みしことで、卍は大内家の遠祖琳聖太子といふは高麗の皇族であつたが厚く佛法に歸依して我國の聖徳太子の高徳を聞き慕ひて歸化し、其後胤が武士となつたもので紋は佛紋の卍を用ゐてゐる、大内氏亡びし後は堀高木の二氏が是を紋として居ります、此外三宅氏の輪寶の紋なぞも佛法を崇拜した結果これを定の紋としたのです。

▲食物を紋章とせし家

▲三ツ木瓜、六ツ星　前者は淺井氏の祖先が海上で暴風に遇ひ或孤島へ吹きつけられた時に、その島は全くの無人島で食物とては何もないので據なきに蛇を煮て、それを三椀食ふて飢を凌ぎ漸く本國に歸ることが出來たので是の紀念として從來の木瓜を三ツにして定紋としたのである、後者は六郷家の祖が合戰に敗れて落行しときに飢渴に迫り、とある燒場にありし桶の底に團子が六ツあつたのを食ふて助りしより是を紋に定めたとあります。

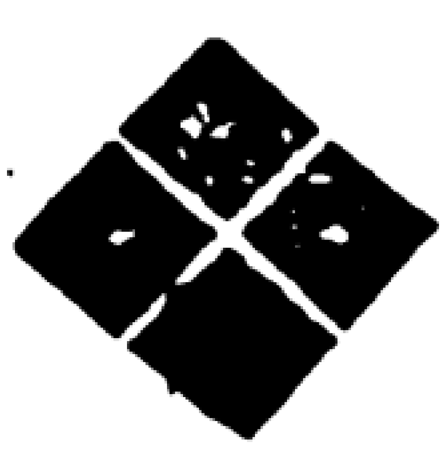
▲隅切り角に三の字



這は稻葉家の定紋で諸家紋起抄によると、同家の祖彥六一通といふ人が織田信長に仕へて智謀に富み信長の三方衆と呼ばれたので斯かる紋をつけたとありますが、他書によると稻葉家の此紋は折敷に鰹節を三本乘せた形ちだとあります、此外久留島氏の隅切り角に三は鮑熨斗三筋、河野鵜殿兩氏の丸に三は丸盆に豆腐三丁の形ちだとあります。

▲以上に屬さゝる紋章

▲四ツ目



織物の染方に鹿の子絞り又は鳴海絞りなぞいふものがある、デ此絞りの糸を拔たのを目結といひ四ツ目は是から出たもので元は宇多帝の皇子敦實親王の猶子扶信卿が十六目結を定紋と致しました、すると此人に三人の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

孫があつて長男は本間を姓として嫡流の十六目結を紋とし、次男は能勢と名乘り兄より四歳劣りなるより十六目結のうち四ッをとつて十二目結を紋とし、三男は佐々木を氏とし八歳下なりしを以て十二目結より更に八ッを引き四ッ目結を紋としたのであります。此三男が有名なる佐々木源三秀義で是が近江源氏の先祖で是から分れて淺井有吉朽木六角三田村箕作山内三上森等の十六名家となつたのです、紋は皆四ッ目を用ゐてゐます。

然て此種に屬する紋章の數は實に澤山ありまして、別ても彼の奇形變體の紋章を案出して新奇を競爭した德川時代のものにあつては先づ酒壺に扇盃柄杓を添へて猩々の紋といひ、傘笠編笠を三つを組み合せて三ッ笠の紋と稱し、少しく變つたものには風折烏帽子に立烏帽子、番匠烏帽子を以て三ッ烏帽子の紋といひ、更に奇妙なものには摺鉢庖丁箸棒を程よく配り合せて紋となし、又は農具紋とて鍬笠鋤を以てし、此他立田川、奈良名物、三ッ糸卷、三ッ兎、見立鷄なぞ今日の眼から見ると唯々不思議としか思はれぬような珍しい圖柄が頗るあります、然しながら是等の總てはホンの當座の流行で工夫された紋で、その起因や由來については何も申上るほどのことはないので、啻茲には數多い我國の紋章の中には斯かる馬鹿氣たものもあるといふことだけを述べて置くのです。猶附言致して置くことは我國の神佛はその神體と宗派とにより各々特種の紋章を有て居りますが、今それを一々解說することは餘りに詮索に流れますので悉く省くことゝ致します。

△職業の徽章とせし紋

嚴格なる意義からいふと紋を職業の徽章とすることは、既に紋の目的から遠かつたことで這は紋といふより商標といふ方が當つてゐるのであります。されど因襲の久しき我國には斯かる紋の存在が甚だ多く、俳優にあつては三桝の紋は市川を、重ね扇は尾上を、祇園守りは中村を、三ッ大は坂東を、銀杏巴は片岡を代表し、更に三ッ杵は長唄を三ッ柏は常磐津を九枚笹は義太夫を意味して居ります。此外質屋で將棋の駒を下

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

げ、湯屋で矢を下げなぞ(今は廢れてなけれども)したのも又一種の紋章を謎に洒落た徽章であります。

▲紋章と美術の關係

美術發達史の上から見ると紋章繪なるものは總ての繪畫中で最も先に工夫されたものであります。久保田米僊氏は其著書に於て『人間は繪畫と紋章とで身體の裝飾をしてゐるのである(中略)殊に婦人なぞは申す迄もなく繪を以て飾つてゐる、假令ば友禪の帶を締てゐるとか襟が縫襟とか櫛が蒔繪がしてあるとかいふようなもの、此紋章によつて其婦人の容貌が宜く見えたり惡く見えたり、全く此色彩と紋章とで其婦人の容貌を支配してゐる』と紋章と美術との密接なる關係を說き、更に紋章新案の必要と美術家の責任を論じていはるゝには『それで今の明治の紋章はといふに近時政府は大いに美術を奬勵し、工藝にも力を入れて彼の內國博覽會の如きも度々開かれた位であるが、百般の工藝に現れてゐる模樣は啻に紋章の交換的、所謂換骨脫胎で一も新規の模樣を見出すに苦しむ、單に各時代の陶器にある紋章を織物につけ織物の紋章を銅器に附すといふように、彼れと是とを交換したゞけで明治年代の紋章は絕對的に無いといふを憚らぬ、古を復習するだけのことである、是は畫家の責であるか奬勵者の責か

私にいはせると畫家の責だらうと思ふ、それで後世から見ると明治の紋章の確定は出來ぬ、既に第五回の內國博覽會も近付てゐるから畫家も注意して紋章を考へ、工藝家も是に重きを置いてゝ紋章を考へてもらひたい云々』とあります。紋章の意義を多大に擴充して模樣と同視してゐる點だけは服しかねますが、兎に角に紋章が美術に深い關係を有してゐる事由を簡明に說き盡して居ります、紋章の効用また偉大であります。

▲裝飾としての紋章

▲甲胄と紋章　本朝軍器考に『胄の制も其名所も又古に變れり、今世に八幡座(胄の頂きをいふ)といふ所は弘安禮節(書物の名)に見えし神宿りといふものにぞある。考ふるに昔蘇我馬子守屋大連と戰ひしとき聖德太子馬子が軍に隨ひ給ひしが白膠木を伐りとりて佛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に四天王の像を作りて頂の髪に置きて、我をして敵に勝つことを得せしめば必ず護世四天王のために寺塔を建てんと誓ひ給ひしに、馬子が軍勝つことを得しより今の攝津國に四天王の像を建立ありたり。されば冑の頭上は彼の四天王の像を置かれし所なれば其所をかくは名付たるらめ、又冑に四天の星といふものあるも亦白膠を勝軍木といひ凡ての軍器に用ゐることも皆これらの事にや始りぬらむ、八幡座といふことも彼の神宿りといふことによりて附會して名付たるものなるべし。又冑に鍬形といふものあり這は澤瀉の葉の未だ開かぬ形をかたどれるなり、澤瀉といふ草は勝軍草ともいふなれば鎧にも澤瀉縅などいふもあり」と記してあります、後世になりまして冑の前立に家々の定紋をつけ、又は鎧の胴や裾金に紋をつけたのは察するに是が濫觴かと思はれます。

▲衣服と紋章　古代に溯りますと武士の禮服は多く素袍で、直衣垂衣は重に大將株が着たものです、此素袍には菊綴といふ結び物が袖の後前と背中とにつけてありましたが、そのうちに紋が發明されて平常の場合にも姓氏の標を紋でするようになり、何時か菊綴の代りに紋をつけるようになつたのである。デ此素袍から社杯が工夫されて是に紋をつけるようになり、更に羽織といふものが發明されて是にも紋をつけ茲に紋服と縞服との區別ができまして、前者は禮服、後者は平服といふ習慣が生れて遂に今日の如き作法となつたのであります。

▲器具と紋章　是に就ては前に紋章の起原で述べたように太古からあることですが、それは紋と承知してつけたのではなく唯模様としてつけたのであります。柳澤棋園の雲萍雜誌に「旗に紋を染め幕に紋をつくるは誰彼と知らするためなり、農人町家迄も今は紋ありて定紋の爭ひあれども元より農夫商賈などには紋はなき筈なり、羽織といふものは道服なり禮服にあらず是に紋をつくること愈々謂れなし、提灯膳椀等に紋をつくるは我等幼少の折よりなり」とあります、棋園は天明頃の名高き畫人でありますから器具に紋章をつけるこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とは左程に古いことではありませむ。此外に家屋の棟または室内の釘隱しに紋をつけることもあります。

▲紋章の傳說

紋章にも種々な迷信と傳說とがありますが中にも劍酸漿をつけると惡魔を除ける、蔓蔦を用ゐると子供が澤山できたといふのもあります。太平記瓜生旗揚の條に「誰とは知らす末座なる者大中黑(新田義貞の紋)と二ツ引兩(足利尊氏の紋)とは孰れか勝れたる紋にて候はんと問ければ、美濃將監紋の善惡をば暫く置き吉凶をいはゞ大中黑ほど目出度紋はあらじと覺ゆ、其故は前代の紋に三ツ鱗(北條氏の紋)せられしが滅びて今の世に二ツ引兩になす、是を又亡さんとする紋は一ツ引兩なる中黑にてこそあらんずらむと申しければ、天野民部大輔勿論に候、周易と申す書には一文字をば敵なしと讀み候」とあります、此外にも傳說は澤山にあれど長くなるので略します。

▲紋章の保存

以上述べました如く紋章の起原は頗る遠く且つ行れてゐる範圍は非常に弘く、美術工藝にも關係することが中々深くありまして、或意味からいふと紋章は總ての模樣の基礎をなして居ります、デ斯くの如き歷史を有し効用を有してゐる紋が今ではホンの形式だけ殘つてゐて更に是を運用按排することもなく、漸次風俗の推移と共に消滅し世人も其消滅を防がうともせずに自然のなりゆきに任せて置くといふは誠に心なき事と思はれます。優美なる高雅なる國民性を代表してゐる是等の紋章は永久に保存して置きたいと心得ます。(完)

育兒上の缺點

小兒醫者

▲乳母車の顚覆

乳母車へ小兒を乘せて歩くと、ガラ／＼音がして小兒の頭腦へ響き、夫が爲發熱でもしはせぬかと案じる親もあるが、小兒の頭腦は未だ充分發育せぬ際故、案外鈍く乳母車の爲に害を受くる樣な事はないが、砂利

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の敷いてある道や、凸凹の往來を矢鱈に轢いては、グラ〳〵動揺て害になるのです、近頃は小兒をもつ家庭では孰も乳母車を備へ置き、乳母車に乘せる事が一種の流行となり、是を購求せざれば幅の利ぬ如く感せらるゝ故、中流以下の者迄何んな工面しても買うやうになつた、隨つて粗造濫作の安物のみ多く、肝腎な車輪や彈機は、粗末にして殆形式的に附屬し、車臺もホンの名ばかりで狹く、小さく出來て居る。斯な品でも見榮張りの母親は喜んで買求め、是見よがしに往來を轢いて歩く。デ小兒は次第に成長し、漸く立つやうになり、歩くやうになつても、尙最初からの乳母車を使用して居る、斯うなると往々乳母車の爲、危險を生ずるのであります。

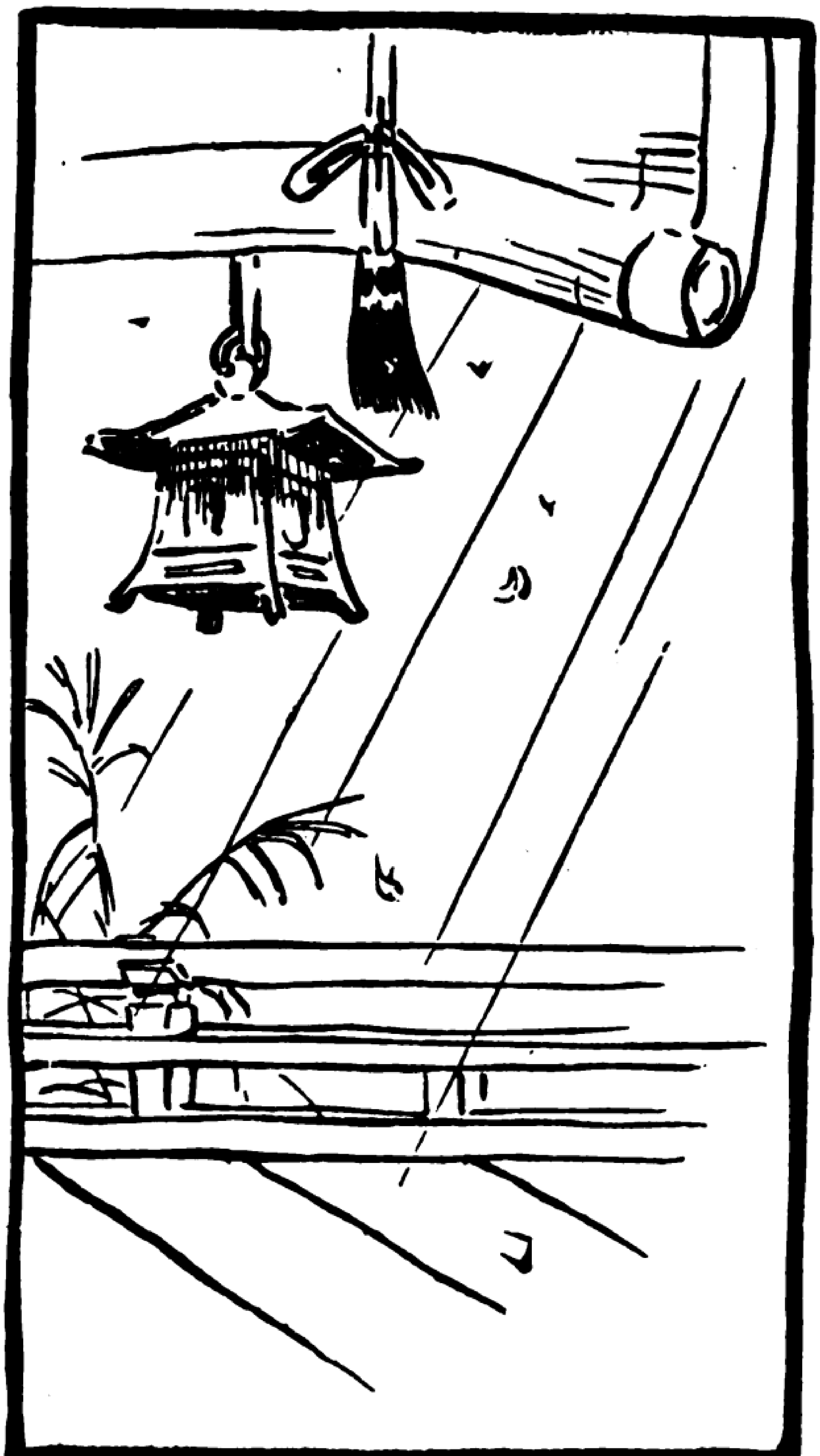
未だ小兒が這ふ時代なら、安物の乳母車でも何うやら事は足りるが、立つやうになり、歩くやうになつては、車臺や車輪の小さき爲め詰り荷が勝つて來るのです、乘つて居る小兒は其んな頓着なしに親達が一寸でも目を離すと、面白半分乳車の縁へ捉まつては立上るから最ど荷の勝つ所へ、端の方へ抔立つて一層重量の平均を失するから堪らない。乳母車は横さまに撞と顚覆し小兒は墜落て手足を擢剝くか、頭へ瘤でも拵へて、飛んでも無い負傷をする。故に乳母車へ小兒を乘せるなら、成長の度合ひに應じ、這ぬ小兒を乘せる乳母車と立てるやうな歩けるやうな小兒を乘せる乳母車とは、區別を立てゝ使用せぬと、不測の禍を釀す事がある。要するに車臺や車輪の大きな、頑丈な製造なら、別に異論はないが、近頃流行の安物は却つて小兒のため、危險を生じ易いのです。

▲手の曳き方

靴か、草履か、輕い下駄で歩ける小兒の手を曳くに別段改まつた方法もあるまいと、思召す方もあらうが夫は從來の習慣上、危險を心付んからであります。小兒の手を曳く時は、必ず着物の袖を、手首と一緒に握るべき事と心得て貰ひたい。此方法に從はず、手を曳いて、萬一小兒が不意に躓いて顚んだら何うします斯んな場合に大人の方では、尙々小兒の手首を緊かり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

捉まへるもので、夫が爲め發育不充分な小兒の手首や腕の關節は、顚ぶ拍手に動もすると外れる事があるのです、斯ういふ例しは世間に隨分多い。ソコで又小兒の袖口のあたりと、手首と一緒に握つて居れば、縦令小兒が顚んでも、第一袖に支へられ、關節や手首の外れるやうな危險はなし、緊乎握まへられるから顚ばせずに濟む事もあります。一度關節や手首を外すと、惡い習慣が附いて僅の故障でも外れ易くなる、斯んな危い事を、僅な注意で未然に防ぐことが出來るのです。手の曳き方位と、ナカ〳〵侮れますまい、



小兒が歩行の出來るやうになると、無意識母親や、子守抔は、戸外へ出で面白半分に小兒の跡から「ソラ待て〳〵」と手を拍ちなどし、追駈ける眞似をすると、小兒は嬉々として走り迯ぐるが常なれど未た足取の充分ならぬ小兒の、興に浮れ走る事とて、忽ち身體の中心を失ひ、機會で前へ倒伏る、追駈る者は顚せたい譯であるまいから、顚んで泣出ば「ソラ御覧なさいな、余まり走たからサ」と叱るのか、宥慰るのか、手前勝手な分らぬ口小言を云ふ。幸ひ小兒は顚んで衣服を汚せし位に止まれば可いが、誤つて額を石で

打切つて、可憐なる小兒を外科手術に苦しましめし實例がある、總て斯んな暴動は余り褒めた咄であるまい。

▲結付け草履

小兒の足の發育から言へば、釦止めの輕い軟い革の靴に越した穿物は無いのです。然るに我國では舊來より、歩き初めの小兒に結付け草履を穿かせ、又は赤い布で飾つたヅックの靴を穿かせる。夫から稍進んで結付け下駄となるが、是等は孰も不完全なる穿物で、足の運び未だ不充分なる小兒は、穿物のために、足の運びにのみ注意し、自由自在に運動する事も出來ず、發育を妨ぐる事は一通りで無い。御覽なさい、斯ういふ小兒が折々結付け草履の横鼻緒の間へ、足の甲を出して如何にも穿き惡さうに、邪魔さうに、ヨロ〳〵足を枉げて歩いて居るではありませんか。是を思ふと不完全乍ら未だヅックの靴が宜いのです、結付け下駄に至つては、實に論外で、小兒は身體より下駄の方が荷が勝つて、充分足も運べず、遂に顚びもするのです。足の發育は大切故、穿物に注意し、成可く輕い、軟い革で作つた、釦止めの靴を穿せるやうにしたい。

又小兒の時から良く訓へて、各々自分々々の穿物を定め、他人の下駄や草履を、無暗に穿く事を堅く禁じなければなりませぬ。夫には第一親々の注意が肝要です、小兒は眼の敏捷い者で、母親が他の人の下駄でも穿けば、何時の間にか夫を見覺え、親の眼を忍んで、危きも知らずに齒のある大人の下駄を穿出す事抔がある。斯ういふ事は小兒が一種の好奇心に驅られるので危さも危し、不規律の習慣にもなるから、自分の穿物より外、穿せぬ習慣にしたいものです。

▲胃腸病に重きを措かず

小兒の病氣ほど、親達の心を傷しむる事はない『腹が痛いよ』と云へど、實際親達の考へ通り、腹の痛いのか『齒が痛いよ』と泣いても、實際は咽喉の痛かつた事もある。親達にも何處か惡いのか、譯が分らぬから心配です。併し小兒病で最も恐れを抱くは、實扶的利亞と腦膜炎とである。經驗ある小兒科醫の談に『小兒が少し熱氣でもあると、親達は腦膜炎になりはせぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

か、實扶的利亞ではありますまいか、と第一に尋る」と云はれた。成程是は小兒病の中で、恐るべき病氣故取分け心配なるは無理なき事なれど、若し小兒が胃腸病の疾患でゝもあつたら何うです、親達は左程に心配しない『お幼兒のは何處がお惡いのです』と見舞ひを言ても『ナニ少し腹工合が惡いのです』と左して病ひに重きを措かぬ挨拶をする。元來胃腸病は大人には普通の病氣の如く考らるゝ故、小兒が胃腸病でも左迄心配を仕ない。腦膜炎や、實扶的利亞でさへなくば先安心と、氣を落付けて仕舞うが、是は飛んでも無い心得違ひ。小兒の胃腸病は同じ病名でも大人とは趣が違ふ事を能く辨へ、大事に介抱せぬと後悔する事があります。



▲病人と育兒

自分の家に病人があつたら、其病人は傳染病で無くとも、他の小兒を寄せぬやうになさい、況して流行性感冒とか、痲疹とか、百日咳、赤痢、窒扶斯等の疑はしき患者あらば、尚更の事です。夫と同く他人の家にも病人があつたら、親達は嚴重に注意して、小兒を其家へ遣ぬやうにし、病人ある家でも、譯を話して遊びに往つた小兒を斷つて貰ひたい。之は德義上の義務のみでなく、家々斯く迄注意を守るは、育兒上双方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の利益となる事です『感冒の家へ遊びに往つて、小兒が風邪を背負つて來た』と云ふ例は、皆樣御存じでありませう。

看護實驗

紅玉女史

妾は昨年夏以來正に婦人の大役ともいふべき二個の大なる出來事に遭逢しました、其の一は夫の大患を看護した事と一は一人の女子を産けた事で御在います、之に就いて妾の經驗を御參考までに申上ませう。尤も上流社會の御方は看護婦をお雇ひになるから看護の心得に就いては必要もありませぬが、併し人を使ふに自身心得て居るに越したことはない、殊に夫は病患になりますと大抵な家では長い年月看護婦任せにもなりますまい、又産兒の事は如何なる高貴の御身分でも免れません事で、昔から婦人の大厄とも申してある位のものですから、假令十分に醫師、助産婦のお手當が屆きましても、又自身の心得が非常に大切です、妾の夫が病氣に罹つたのは昨年の夏、尤もその前から大學醫院に通つて居りましたが、其は痰を持つて參つて分析を戴き、その結果の分る日でした、妾が控所に待つて居りますと、夫は診察室から出て來て、どん〳〵外へ出て往くので御在ます、後から跟いて門を出ると、さも失望した樣な調子で「駄目だ、非常に黴菌が多い相だ」と申すのを聽きました時には、自分が死刑の宣告を受けたより猶と辛う御在ました、併し其を色に出してはと思ひ「愈よさう決りましたなら、詮方がありません、なに養生さへ十分にすれば氣遣ひはありません」と言て勵ましましたが、以前矢張肺患者を手懸けた事がありますので、其人は非常に養生のよい人で八年の間根よく出來得る丈の攝生をやりましたが遂ひに不可ませんで亡くなりました、それを思ふと中々此の病ひは容易に全癒し難いもの困つた事に成つたと當惑の眉を顰めましたが、弱る心を取直して、精神一到決して全癒しないことはない身を獻げて看護申上やうと瞬間に心を決しました、「今年の冬位には滅切瘦せが來るだらうから氣を附けなければ」とかう注意して呉ました、此の事は遙か後ち夫の病氣の餘程快くなる迄は打ち明けませんで、たゞ「中國の海岸でも差支ない」といふ事丈の返事を致し家に歸りました。

是れより先き夫は二三度熱の出たことがありましたので、後から考へますと全く結核性の肺炎に罹つて居つたのです、尤もその發熱前から食事が進まなかつたり、感冒に罹り易つたり又恐ろしく氣無性で、沈み勝ちでありました、其故一つは氣慰みにといふので謠曲と音樂を始めましたが、其が却て害に成つて氣管支カタルを起し、とう〳〵恐ろしい肺結核に成つて了つたので御在ます。

さて愈よ肺結核の宣告を受けてから、急に轉地療養をするに決し、その準備中に此の病氣に伴ふ諸病を起しました、其は盜汗、下痢、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

痔疾の類で、盜汗の寐汗は汗を能く拭き取つて衣類を着換させ、空氣の流通をよくし、さうして營養分を十分にとり、身體の衰弱を挽回するにあると聞きましたから、其通り致しました所夫の盜汗は直きに出ない様になりました、痔疾の手當は尤も手のかゝるもので根よくしないと直ぐに疼痛を起しますが、併し痔を切開するのは考へ物で是はどうも切らぬが宜しい相です、而して其の手當といふのは毎日二回でも三回でも多い程宜いが石炭酸で洗滌してはヨードホルムを撒布して置くのです、夫の經驗によると痔には俥はいけません、一體痔に係らず肝腎の肺患が、車に乗ると背部に得もいはれぬ一種の疼痛―是はリユーマチス性の疼痛と申すのですが―起り、全體の病氣の爲めにも呼吸を促迫させなどする故徐かに散歩するに限るさうです。

無論咳嗽も出れば痰も咯ますが、此の痰の始末は殊に注意を要します



其には必ず痰器を備へ、痰器には二十倍の石炭酸を入れてこれに痰を吐くやうにし、さうして覆へらぬ設備が肝要です、食物に就いても傳染の虞れのないやう食器を別にする如き注意が肝要です、けれども、餘り隔てをして、病人の感情に障つても宜しくありません。つまり看護者の健康が十分であれば黴菌も恐るゝに足らんのです、何も戰々兢々するには及びません、併し情愛の上なら傳染しても仕方がないといつたやうな愚な眞似をしては尚更いけません。

それから愈よ準備が整つて一應夫の郷里備前岡山へ歸ることになりしが、何分東京からは餘程の道程故途中を案じて、始めの日は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

先づ茅ケ崎で一泊することにした、すると此の夜發熱甚しく、一時は心配致しましたが、仕合せと翌朝は熱が止んで、それに海の景色もよし、大いに元氣を回復したやうでした、尤も熱は多く午後から夜分にかけて發しますから、すぐに油斷はなりませんが、幸に午後までも變りがないので此の地を出發し濱松で一泊、又少し熱が出ましたが、たいした事なく名古屋と、大阪に一晩宛泊つて漸とマア無事に岡山に到着する事が出來ました、長途の旅行も案じたより容易に出來たので安心致しました、兼て此の病氣には氣の變る樣にするが宜いと承つて居りましたが、今思へば旅行が此の目的に適つたものでありませう、兎も角患者の氣の變るやう物事に倦きぬやう、その精神を引立てるのが傍らにある者の第一の注意かと存じます、故に此の病ひの看護は有形上の看護もまゝ必要には相違ないが、無形上の看護に更に其以上必要であることを悟りました。

岡山へ着きますと流石に長途の疲勞とソレニ親身の母や兄弟などに逢つた嬉しさの反動で又發熱しましたが、是れも一夜で濟んで、ともかく轉地を急がればならぬと匆卒に備後糸崎へ參り、そこで悠々療養することに成りました。爾來一年の間一心に療養看護に從事した驗が見えて今日では大きに輕快の方に向ひまして、大學醫院で注意してくれた樣な衰弱もなく、最早是れならば大丈夫と思ふまでになりました、此間私は只だ〱精神的慰安を與へると云ふ方針で看護して居りました、尤も此の間にチヨイ〱熱も出まするし感冒にも罹りましたが竟にどつと床に就かなかつたのが非常な幸福でした此感冒に就ては妾も非常に心配致し冬の間は甚麽に氣を揉んだか知れません、また滯在中は毎日運動に出るやうにしましたので、妾共二人が此の地の市中や海岸を一日に二三度通らぬことは殆ど一日もありませんでした、運動も過激でなく船もいけず、球突などもいけません、釣も手を繁く使ふので不可、只だ踊丈は割合に一番よいと申して平均に圓滑に手足を動かすからでせう、聲を出すことは尚更いけません。

食物は田舎の事で良い物はなし、妾の手で料理した物を進めて居りました、一體此の病氣は食慾進ます、爲めに衰弱するものですから可成く營養になるものを供する樣にしなければなりません、其には出來るだけ巧みに料理法を變化せしめてつとめて食慾を起さしめ、また肉菜の兩食をよき鹽梅に平均させて一方に偏しないやうに注意が行屆いたならば必ず病氣の全癒は保證されます、世には妾と同じ境遇に立つ御方も御在ませう、さういふ御方には何卒料理書を研究し、又實地に習熟なさることを希望致します。

尚ほ看護に就て思ひ付いた二つ三つを申上て置ませう。第一は氷嚢の取扱法ですが、氷を碎くには針を用ゐるが宜しい、其の碎いた氷は氷嚢に入れる前に桶の中でがら〱やつて能く其の角を取りませんと氷嚢を傷ける虞れがある、又氷嚢に入れるにも氷嚢を布巾か何かの上に置いて氷を滑べらして徐々に入れなければいけません、又氷の破

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り方は餘り小さくてもすぐ溶けてしまふ、又餘り大きいとぴつたりと患部に當らないから程よくしなければならぬ、氷嚢は使ひ了りますとすぐよく膨かして天井のやうな所に釣つてお置きなさい、又使用する時には湯でもつて徐かに口をお濕しなさい。又體温器は使用して後一一水銀を下げて置かなければなりません、しかし是れも患者がもう餘程快くなつた後は餘り煩さく行らん方がよい。正式にいへば體温は毎日幾度も量つて置く必要がありませうが、患者をして又かうるさいといふ念を起さしむるのも一利一害ですから變則的に少し體の加減がをかしいと思つた時に記載を始めるがよい、それから調劑の事ですが是れも極り切つたものは自宅で調合したがよいやうです、それは藥局生などいふものは隨分無責任な者もありますから自宅で嚴格にやるが安心であります、無論加減については醫師の指揮を受けるはいふまでもなし。



此の位ゐに切り上げて産兒の事に移りませう、さて妾の經驗を申上ると出産までは無理をしては不可ませぬが可成的體をよく働かせるが安産の唯一の秘訣です、それから出産後生兒や、姙婦の食物に就いて古來の習慣を株守せざることで、マクリを服ませるの、母の方が鯉濃汁や種々の物を食するなどは詰らぬ事です、生兒は母の乳をつけるまでは飴か蜜を乳房を作つた布切（紅絹の如き色の出るものでなく、ガーゼの類）に包み、これに濕ませて牛乳の薄いのを呑せ、母は始めより柔いものさへ食して居れば差支へはない、たゞ牛肉は一週間程は控へた方が宜しい、それから出産前は産まれるまでも動くが宜しい、がその代り産まれてからは三週間乃至五週間はつとめて安靜を守るがよいのです、若し早く體を使ふやうな事があると、目には見えずとも他日に害を釀すことがあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭教訓逸話

雪子

『レメール、デクラン、ゾーム』(大人の母)と云ふ書物の中に、古來泰西諸國の有名な人物の母子の關係を記してあります、是には文士軍人學者詩人音樂家等、凡ての豪い人々の家庭、特に母子の言行が書いてあります、此の書物は佛蘭西語で餘り日本には知られて居りませんけれども、西洋では餘程評判の書物ださうで其の大趣意は『斯父にして斯子あり』と云ふ諺を轉化して『斯母にして斯子あり』と云ふところから『大人は其母に負ふ所多し』(Les grands hommes sinnent de leurs mères)と云ふ事實を證明します爲に、泰西古來の人傑母子の關係と其の家庭とを描寫したもので、洵に有益な書物であります。今私は其中より二三の軍人家庭教訓と家庭逸話だけを抄譯して見やうと存じます

△バイアール(一四七六より一五二四)

バイアールは軍人社會に於て名聲嘖々たる人で、佛蘭西でバイアールと申せば誰も知らぬものはありません、軍人として豪い人を擧げる時は皆口を揃へてバイアールと云ふ程です、實に此人は完全なる武士の典型ださうです、處が此人の實踐躬行した所の教訓は多く其の母さんから受けたと申すことで、彼の有名なる奈破翁が『朕は政治學を母の厨に學んだ』と申したやうに、昔から有名な人々は皆其の一代の事業をお母さんに學んだと云ひますが、豪いお母さんの薫陶の下に豪い人物の出ますのは當然です、偖バイアールのお母さんの教訓の中に他と變つて珍らしいのは彼れが出征するときに贐けた言葉であります。

母として其子に別れるのは實に辛いことです、バイアールの様な豪傑のお母さんでも我子が初めての出陣に當つて祖父さんの別莊で愈訣別するといふことになつた時は、非常に悲みを覺えました、一時は我が室に行つて一人思ふまゝに泣かうとまでしたのですが我子が最早馬に跨り、今し將に出陣しやうとするや、お母さんは忽ち氣を取直して勇ましく其の首途を送り、恩

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛の情と共に崇高な心の罩まつた教訓を垂れて、申ますには、

『ピエール（其名）、私は母としてお前に言ひきかせたい事が三ツあります、若しお前が之を實行するならば世に榮譽ある人物として立つて行かれることは、母が保證ひますその三ツと云ふのは、第一神を畏れ、神に奉仕する事第二言にも行にも忠義誠實であるべき事、第三溫良恭謙なる紳士たるべき事であります、特に不幸な者に對しては慈心仁腸を失つてはなりませぬぞ』



バイアールは是迄お母さんの教訓に背いたことがございませんから、今出陣と云ふ間際、而かも初陣と云ふ場合に、日頃敬つて居るお母さんより斯くも嚴かなる訓戒を受けたことを、深く肝に銘じて一生忘れませんでした、其の中にも第三の『言にも行にも忠義誠實たれ』と云ふことはつゆ違はずに實行しましたから遂に、『恐るる所もなく愧る所もなき武士』と云ふ字を得るやうになりました、實にもバイアールは天地に愧ざる立派の武士、完全無缺一點非難する所のない軍人と申しても差支ありません、さればこそ完全なる武士の典型となつたのでございます、第一訓の『萬事に越えて、神を畏れよ』と云ふことも善く之を實踐躬行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いたしたから遂には『我は神を畏るゝ故に何物をも恐れず』と言はれるやうになりました、自分の財産を分けて士卒に施し、士卒と共に苦樂を同うしたと云ふことは『慈心仁腸を失ふ勿れ』といふお母さんの訓から出たのです、パイアールが子としてお母さんの敎訓を守つた事も美しいが、パイアールのお母さんが斯やうな忠勇な武人を子に持つたのも亦榮譽なる事であります。

▲チュレンヌ（一六一一より一六七五）

人の母たる者は子供の氣質によく注意し、善き氣質の兆が顯はれそめた時には、成るべく之を發達せしむる方法を採り、或はわざ〱之を起させるやうに取計ふのは、家庭敎育上洵に大切なことで、子供には母の影響ほど大事なものはありません、否な寧ろ母は斯樣の事柄には先天的技能を持つて居つて、子供の心に生涯消えない印象を與へます。

佛國の名將チュレンヌの幼時がよく之を證據立てゝ居ります、チュレンヌは幼時希臘の豪傑アレキサンデルの歴史を大變好んだと申ます、一夜チュレンヌは家族團欒の時にアレキサンデルに對する感嘆の聲を擧げたのでしたが、丁度側に居合せた客人、其れは士官でしたが、いたく之に反對をいたした、處がチュレンヌは子供ながら大變に怒り出して負けずに論つてかゝりました、お母さんは之を見て故意と士官に合圖をして成るたけ反對をするやう希望し、わざと士官と共にアレキサンデルの手柄なども隨分疑はしいのがあると申した所が、チュレンヌは怒りは一層高まつて遂にアレキサンデルの爲に飽迄寃を雪いでやらなければならぬと云ひ、士官に決鬪を申込みました、士官は母君の承知により決鬪を引受けた、乃で翌日早朝約定の所に會して今や將に決鬪に取り掛らうとした時、豫て申合せて置いた通り、お母さんは急いで其處に立顯はれ、決鬪をお預りに致しました、此時士官はチュレンヌの義勇を讃め大層感心したさうです。

是れは餘程母たるものゝ注意しなければならぬ事柄ですが、チュレンヌが後日義勇公に報ずる心深く正義の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爲に戰ひ、史上に有名なる將軍となつたのは、畢竟家庭に武訓多かつたのにも基きますが、一つはお母さんが右のやうに兒の一擧一動にまで注意に注意を加へて指導いたしたのが大層力あつたのでございます。

食物と壽命



人間は多量に食つて多量に働らくのが、生理作用を完全に發達せしむるものであるといふ說が一時盛に唱へられたが、それは特別なる胃の腑を持つて居る人また特別な、健康體を持つてゐる人、若しくは發育盛りの一時期に就ていふべき事で、總ての人に向ツて言ひ、且つ永き一生涯に向ツて言ふべき事ではなからう近頃の衛生說に依るも『我が墳墓は我が歯にて掘るものなり』といふ英國の格言が甚だ重ぜらるゝやうである、即ち多食は節食に如かじ、旨い物を無暗に食ふたからとて決して壯健にはならない、寧ろ適度に食ふて其の精神を養ふのが長命延壽の旨に叶ふて居るといふのである、空腹を訴ふる人必らずしも短命ならず、多食を誇る人の中に往々不治の病に罹るものあり。故に程よき食物を程よき分量にて適當なる時に食ふといふ事は人間の生活に最も必要な事である。兎角食ひ過はその質の良否を問はず種々なる病の原因であッて又短

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

命の元である、英國のルッセル氏は此事に就て近頃有益なる説を公にした、氏の説に依ば英國で年々死亡する小兒の約四割は確かに養育の方法が惡いからで毎年死ぬ五歳以下の子供の内少くとも十萬人は注意さへすれば助かる見込のあるものであるさうな、又ブラウン氏の説によれば英國内の有ゆる貧民の子供に滋養のある食物を喰はせれば現時國家の負擔して居る多くの病人や貧乏人や犯罪者の三分の一は次の時代には　悉く無くなつて仕舞ふと言ふて居る。

　ルッセル氏の言によると近時の英國人は食物を餘り食ひ過ぎる、そして其の食ひ過ぎると云ふ事が頓て國民を弱くする原因である、昔波斯帝國の强大であつた時代には國民は日に只一回正午頃に食事をした許りである、又希臘の盛んな時代には食事は日に二回であつた、して見ると國民が多く食ひ過ぎると云ふ事が如何に國家を衰弱せしむるかゞ明に判る、實際過分の食物を食ふと容易に消化しないで遂に體内の諸器官を鈍くするのであるといふて居る。

　今日の英國民は何んな食事をして居るかと云ふと金持や中流の人々は食事の時には獸肉、魚肉、麵麭、蔬菜、菓實、牛乳、バタ、チース、砂糖等を食ひ勞働者になると其の外に鹹豚肉や、アルコホル的飲料や茶等を飲む、然し其の他の貧民になると澤山に滋養分のある食物を撰ばないで餘り滋養にならない食物や飲物ばかりを嗜んでる。

　ベル博士の意見によると多くの死亡者又は病苦に惱む人に就て其の原因を調べると自然の病氣から來たのは割合に少數で多數は皆喰ひ過ぎが元であるさうな、又ワーレス博士も同樣に世間には空腹で死ぬ人より過食で死ぬ人の方が多いと云ふて居る。

　それに就て吾々人間の食ふ種々の食物は凡そ何時間位で消化するかと云ふと、牛乳と米は一時間内外で消化する、鮭、鱒などは一時間半、豌豆や肉類は二時間余、大麥、煮沸した牛乳、生卵等は二時間、燒卵は二時間と十五分、豆類、馬鈴薯、甘藷等は二時間半、ゆで卵、ビーフステーキ、白麵麭、ハム、牛肉、魚肉、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羊肉は三時間、豚肉、鳥肉、犢肉、黒麺麭は四時間、鹽豚肉や能く煮た卵は五時間で全く消化するそうである。

又アベルチシー氏の説によると朝飯には麺麭とバタ四オンス、飲料八オンスを食ふのが善い、晝飯には麺麭、蔬菜二オンス、魚肉七オンス、酒類六オンス、水二オンスが適度である、茶の時は麺麭とバタ三オンス飲料八オンス、又晩餐には何にも食はないでよいと云ふて居る、それで一日の食物は總計固體が十六オンス液體が二十四オンスとなる譯である

猶ほラッセル氏の調査した所によると各國民の胃癌と食物との關係は左記の表の通りである

國名（胃癌患者）	肉食	珈琲及茶	煙草	ビール	アルコホル
英蘭（胃癌患者　多）	多	最多	中	最多	中
愛蘭（胃癌患者　少）	少	中	多	中	中
伊太利（胃癌患者　中）	中	少	中	少	最少
サクソニ（胃癌患者　最多）	多	多	多	多	多
匈牙利（胃癌患者　最少）	少	少	中	少	最少

是に依ると肉食の盛んな所や、茶、珈琲を多量に嗜む所は胃癌病者も矢張り多い樣に見える。

婦人病の一原因

婦人經水の事は隱秘に屬するを以て何人も是を語るものなく、又之を聞くものなし、されど道は婦人に取ッて極めて大切なる事にして凡そ婦人百病の基となり婦女一生涯の健康の岐るゝ處ろなれば注意すべき事なり。

婦人の發狂、ヒステリー、子宮病、熱病、腦病、其他種々なる病弱の原因を尋ぬるに多くは月經の事に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不注意なるより來るものなり、されどこれ等の病氣は其初め少しも人の氣の附かぬ所ろより來るを以て往々等閑に附するなるが、西洋各國に於ては苟くも敎育ある母は其の子女の十四五歲に達するを見るや必らず月經の生理的作用と、其の養生法とを說き聞かするを常とす、我國にては女學校にて生理、衞生の事を敎ゆと雖も月經の一事は婦人の隱秘として且つ淑德に障る處ろありとして明々に敎へざるがごとし、或る醫家の說に日本の婦人は百人の中に必らず八十人までは子宮病患者なりと、勿論子宮病にも重きと輕きとの程度こそあれ、其原因の大部分は月經の生理を知らざるより來るもの多しと豈不注意の極みにあらずや。

勿論月經中に不注意の事多きは必らずしも生理を知らざるにあらず、一は家人に其事を知らしめざるとの心より强いて不注意なる働作を爲すものなきにあらず是等は大小輕重の辨へなき者といふべし。

抑も月經は婦人の體中に卵巢なるものありて婦人體中の血液は少しづゝそこに下りて之を養ふの必要あり是れ婦人身體の構造の男子に異る所なり、然るに卵巢を養ひたる古き血液は四週間に一回づゝ體外に逸し去るの必要あり、此の血液の出づるを名づけて月經といふなり、されば其の間は身體倦怠して兎角に懶く、精神又沈鬱し、動もすれば暗き處に閉ぢ籠り度き心地となるものなれば、其間はなるべく身體を安靜にし、精神を刺激する樣の事は避けざるべからず、若し止むを得ざれば過度の勞働を避けて適宜に用事をなし、重き物などを持つ事を禁じ、嚴冬は冷水中に入るを禁じ、なるべく輕快なる衣服をつけて靜かに寢るべし、且つ此の間は精神過敏となり居れば決して興奮せしむる樣の事をなさず、身體を淸潔にするも決して入湯すべからず食物は生薑、胡椒等の如き刺擊物を食ふべからず若し此際感冒に罹る事あればそれが爲めに種々なる疾病を招き餘病を惹起して危險に陷る事なきを保し難しゆめ〳〵不注意を爲すべからず。

月經の日數は人によつていろ〳〵あれど、大概短きは二三日より長きは一週間に亘ることあり、而して其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の初發年齢は十四歳より初るものなり、醫語に是を「天癸」といふ、勿論これも遲速人々の發育の度によりて一様ならざれど二十歳までには必らず初るものなり又土地の寒暖によりて大に遲速あり、印度の如き暖國にては十歳内外より初る者あり、露西亞の北部那威の如き寒國にては二十歳以上にして猶「天癸」に達せざるものありといふ兎に角月經は婦人衞生中尤も注意を要すべきものにして若し月經に少しにても故障ある人は、婦人科の醫師に就て養生の法を聞き攝生に務むべきなり。



現金買の徳

一家の經濟に任ずる主婦の心得べき肝要の事柄は物品を購求するに當り必ず現金を以てすべき事なり、日用の物品を購ふに一々現金を以てするは頗る面倒なるのみならず。月末に至らざれば收入金を得ざる家にありては不便少からずと雖も、この面倒不便を忍ぶこそ一家の經濟を整理するに尤も効力あるものなればこれを忍んで彼の通帳勘定の弊習を打破せざるべからず、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

元來通帳にて物品を購求する時は賣主の方にては其期限の長短に應ずるだけの利子と危險に對する報酬とを其物品の代價の中に算入するが故に、その價や必ず現金を以て買入るゝものより高し、然らざれば其品質必らず粗惡なるを覺悟せざるべからず。

一體我等人間の性情は極めて脆弱にして克己自制する事甚だ難きものなり、タトヱ後日に困るといふ事は承知するも倘し爲し得るの手段あれば後の憂を顧みるの遑なきがごとし、今若し吾人が日用の諸物品を購入するに方り現金拂の法によらずして通ひ勘定にする時は金錢の有る時と無き時とに拘らず、其購買力に於ては毫も差違なきを以て動もすれば不識不知の間に不必要なる物品、若しくは奢侈的の物品を購入するの弊に陷る事あり、之れに反して現金にあらざれば一切買ふべからざるものとする時は自から起る慾心も之れが爲めに抑制せられ、急需の必要品にあらざれば決して買はざるに至るべし、且つ現金なれば勝手に尤も好き店に往き我好む所の物品を廉價に購求するを得べき也。

季節總菜料理

治庖會　安西こま子

▲冬瓜薄くず

冬瓜の蔕を除き、竪に數個に割り、さなごを除き皮を剝き、小なる算木形に庖丁をなして水にて洗ひ、之を沸騰湯の中へ投じ、極めてザットゆでゝ薄くず汁の中へ投じ、柔らかに煮ゆるを待ちて椀に盛るべし。

薄葛汁　は生醬油に少しく砂糖を加へ一回煮立たるものを濃き鰹節の煮出汁に加へ少しく甘き加減となし鍋を火に掛け、一回煮立てゝ鍋を火よりおろし、晒せし粉葛を徐々と垂らし込み、薄きドロ〳〵の汁となせしものなり。

▲燒付鷄卵擦し蘿蔔

鷄卵を割りて能く攪きませ、之に其分量一杯につき鰹節の煮出汁四杯と生醬油一杯の五分の一と三盃砂糖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

少々とを加へ攪き混ぜおき、風爐に炭火を澤山に熾し其火を九分程取り分けおき、大なる鷄卵燒鍋（大なる燒鍋なきときは並の鐵鍋又はフライ鍋を代用するも可なり）に一回煮たる胡麻油を十分に引きて火に掛け、鍋が熱するを待ちて鷄卵液を流し入れ此鍋の兩側に煉瓦を一枚づゝ横におきて其上へ餅網を懸けわたし、又此網の上へ前に取分けおきし火を載せ、網の四隅の方へ火を澤山に配り以て燒き而して大なる金杓子を以て一杯づゝ掬ひて皿に盛り、おろし羅蔔を添へ食膳に上すべし。

▲龍蝦鬼瓦燒

龍蝦を篩にて擦り、能く洗ひ、鬚及び足の先を切り落し、煮立たる淡鹽湯の中へ投じて煠でゝ水の中へ放ちて十分にひやし、之を竪に二つに割り、金串を二本づゝ打ち、生醤油を注ぎかけ、鐵架に懸けわたし二回程生醤油を注ぎ掛けて燒きしものなり。

▲鯛南蠻むし

鯛のおろし肉を適宜の切肉となし、之に食鹽をあてて暫らくおき、水にて鹽を洗ひおとし、蒸籠の中へ竹の皮を敷き、其上に切肉をおきて蒸し而して皿に盛り其上より汁を湛りと掛け、肉の上に晒し葱を少しくおきて侑むべし。

掛汁　は濃き鰹節の煮出汁に一回煮たる味醂を少しく加へ以て火を通し之に食味より少しく辛めの加減に味をつけしものなり、又晒し葱は葱の上皮をむき、心をぬき捨て、水にて洗ひ、白根の處を木口より薄く打ち、布巾に包み、水の中へさし入れて揉み以て晒せしものなり。

▲南瓜小豆金團

南瓜を把稿にて能く洗ひ、蔕をとり、竪に數個に割り、さなごを除き、厚さ八分程の骰子形に庖丁をなして鍋に入れ、之に南瓜がつかる程の水と三盆砂糖と小量の砂糖とを加へ、火に掛け、輕き落蓋を爲し、汁が煮詰るまで煮て網杓子と菜箸とを以て靜かに南瓜を取出して小豆餡の中へ入れ、南瓜が毀れぬやうに注意を爲して混せ合せしものなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小豆餡　は小豆を水にて能く洗ひ、鍋に入れ、之に澤山の水を加へ、火に掛け、煮立しとき冷水を注して皺をのばし、又小豆が柔らかになるまでに兩三回湯を取換へ能く煮て目笊に移し、其上より水を十分に注ぎかけて水を切り、鍋に入れ之に三盆砂糖（小豆一升につき砂糖三百五十目を用ゆ）を加へ杓子にて攪拌せながら、並の小豆餡よりは柔らかに煮詰めしものなり。

△牛尾魚すつぽん煮

牛尾魚の鱗をひき、腹を開き、膓を取出し、腹の中を冷水にて能く洗ひ、之を適宜に筒切りとなし、更に水にて洗ひ、目笊に上げて水氣を去り、別に胡麻油を少しく鍋へ煮立て、此中へ前の切肉を投じ油いためをなし、之に湯を注ぎ込み、其湯を捨てゝ油ぬきをなしおき、又別に味醂と清酒とを六分と四分との割りに合せて鍋に入れ、煮立つを待ちて油ぬきをせし切肉を入れ、暫らく煮て之に生醤油を加へ一寸と煮て鍋をおろし、網杓子と菜箸とを以て掬ひ出し皿に盛り而して鍋に殘れる煮汁へ生姜の搾り汁を加へ能く攪きませ、之を皿に盛りたる肉に掛けて侑むべし。

△寄せむし鰯

鰯の頭と膓と中骨とを除き、之に少しく食鹽をあてサット水にて洗ひ、能く水を切り、擂鉢に入れ、少量の食鹽を加へて擂りつぶし而して清き布巾を水に浸して固く搾り之を俎板の上へ展べ上へ擂肉をおき、水に浸せし庖刀を以て厚さ一寸程の方形にかため、之を布巾と共に蒸籠に入れて蒸し而して之を算木形に庖丁をなすべし。

松茸料理

△松茸の炮烙燒

まづ炮烙鍋に鹽を程よく敷き其上に松茸を小さいのならば丸ごと大いなのならば程よく裂きて並べ之に鯛の切身、海老、栗、銀杏等を入れて拵へる、右の海老は頭を切り皮を剝き栗は皮を剝き、澁を去り、銀杏も矢張皮を剝かねばなりません、扨此品々を入れて其上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に又も塩を敷き松葉を少し振りかけそして同じ大きさの炮烙を蓋にして之を針金で十文字に縛り土竈に薪を燃して其焚置火の中に入れて上下に火を冠せ焼き時分を計つて是れを取出し蓋を取つて味へば香氣が佳く且つ美味となつて居るなり又松茸のみを酒に浸して置き夫から右の如く炮烙焼にするを酒蒸しと言ひ是も結構な料理なり。

▲松茸飯

松茸本月上旬が季節なり値段も随て安く昨今では上等物は百目卅錢、中等物ならば廿錢位です、扨松茸には蟲の通したのが能くある故八百屋から之を買求める時先づ茸の笠の直ぐ下の邊から根の方へ掛けて二本の指で摘んで見て若し其れがブク〳〵すれば内部に蝕のある證據なれば御注意あるべし尚ほ寄生蟲を除くの用意としては先づ松茸の根の方を切去つて皮を剝き塩水に浸すが一番宜し夫から茸を長さ一寸幅三分程に薄く短冊に切り之を味醂一杯、酒一杯、醤油一杯の割合にした汁で煮上げ其汁で色の附いた飯を炊き之を飯櫃に移す時に、件の松茸を交せても宜し初めから水加減を仕て米を仕掛け味醂、醤油等を注し塩加減に炊いて是も矢張飯櫃に移す時に、別に煮た松茸を交せてもよし又通常の白飯を炊いて是も亦移す時に松茸の煮上げたのを汁と共に攪交せても宜し。

▲初茸飯

初茸の御飯も松茸飯と同じやり方でよろしく、先づ初茸は石付を除き式の如く洗つて塩水へひたし、頓て引揚げて細小に剉み、味醂一合、酒一合の割に合せた汁で煮て、御飯を仕かける時その汁を混じて水加減をなし、炊き上げて飯櫃へ移す時、前に煮た初茸をかき交せる、又別に清汁を拵へて椀に盛り、大根おろしを入れて添へる。

▲松茸の三杯酢

これはお惣菜としては少々贅澤なり先づ笠を切落し皮を剝いて例の如く水で能く洗ひ、茎ばかりを短冊に薄く切り、之を目笊に入れて其上から熱湯を注ぎ、程よく柔かになりし頃を見計らつて水氣を去り、皿に盛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて三杯酢を掛け山葵を添へて出す

▲揚松茸

能く洗つて笠共に薄く切り、之を他の揚物を拵へると同樣に一枚宛饂飩粉のころもを掛けて揚油で揚げ、柚子醬油をかけて出すなり

▲初茸汁

初茸を先づ白水に浸して置き夫から淸水で洗つて細かに刻み、之を擂鉢で能く擂り、そしてトロ、に延べ、篩斗で濾して味噌汁に入れ、摘菜をあしらひにすれば宜し

▲松茸の附燒

先づ松茸を能く洗ひ、庖丁にて茸の軸を擦げて皮を剝き、笠の皮は庖丁の刄で剝取り、二ッに割つて之を金串に刺す斯うして三杯程の醬油に鰹節汁を一杯加へて之を三四遍程掛けて燒き、細く切裂いて皿に盛るなり

▲新栗のきんとん

先づ栗の皮を剝き澁を去り、茹でゝ軟かになつた頃更に灰引砂糖と味醂と鹽を少々入れて弱火で能く煮込むなり又別に甘藷の皮を剝き、是を薄く小口切りにして少時水に浸し置き夫から笊に移して水氣を去り、沸騰した湯の中に投じ、茹上つた處で裏漉しにして件の栗の中に入れ、鍋を動かしながら能く煮詰めるなり栗、甘藷等の分量は栗一升に甘藷二百目、砂糖二百目味醂二合、鹽は適宜なり序に栗の茹方と灰引砂糖の拵へ方を述べん、栗は皮を剝き、澁皮を去り、微温湯に投じ沸騰した頃更に他の鍋に微温湯を沸して此中に掬込み、斯うして三回程も茹でると灰が脫けて柔らかになる、又灰引砂糖を拵へるには玉子一個の白身を鍋に入れ箸で能くほぐして三盆白の砂糖を入れ、水を注して火に掛け絕えず箸で攪混せ、砂糖が全く溶けると泡を吹く、其時猪口で水を一杯注すと、其泡が一方に集まる故是を掬ひ取り四五遍も此通りにして泡を取つた處で其砂糖液を布で濾して再び鍋に入れ、極弱い火に掛けて置くと薄灰が浮くゆえ是を掬取れば灰引砂糖と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なる

▲白菊豆腐

先づ豆腐を賽形に庖丁し、二寸四方許の小板へのせて前後へ箸を當て、庖刀の其箸に達するまで縦横に庖丁し、水中に入れて板をぬき取り、鍋へ湯を沸して少しく葛水を混じたる中へ、前の豆腐を網杓子で掬ひ込み、一沸しして其豆腐の浮き上るを度として、毀さぬ樣に網杓子で椀へ掬ひ込む（椀には湯を入れ鹽少々加へ置く）若し紅菊豆腐にするなれば、鍋に紅水を作り、酢少々を加へて沸騰した時豆腐を掬ひ込む、白菊豆腐の手續にする、但し之れは湯豆腐だから、深皿へ土佐醤油を注ぎ、葱を剥んで添へるがよろしく、客へ出すには菊の若葉を二三枚水洗して木皿へ並べ、その上に菊豆腐をのせれば体裁よし

▲湯豆腐

まづ板昆布を水に浸して兩面をたわしで能く洗ひ一寸四方位づゝに切つて鍋の湯の温るんだ所へ入れ、一回沸騰たつたらば、清水で二三度洒した奴豆腐を其中へ投じて、火の通つた頃、散蓮花で昆布と共に木皿へ掬ひ込み柚の絞汁四分醤油六分を合せた汁を注ぎかけて食る

▲のつぺい

材料を鴨、精進なればがんもどきなどよろし）、椎茸胡蘿蔔、八頭芋、燒麩、三ッ葉として、鴨肉は適宜に庖丁して醤油へ浸し、椎茸、胡蘿蔔、八頭芋、三ッ葉はいづれも茹でゝ隨意に庖丁し、燒麩は微温湯へ浸して搾つて程よく切る、それから汁は假に十人前とすれば、味醂一合、醤油六勺を煮沸せる、食味より少し辛目に煮出汁へ混じ、水溶の葛を加へて再度沸騰たせ、扨椀へ盛る時は第一に三ッ葉、次に鴨其他の材料を岡盛して、そして前の汁を注入れ、擦山葵なり灰抜芥子なりを口に入れて出す。

季節の漬物

▲このしろの酢漬

このしろを三枚に卸し鹽を振りかけて一時間ばかり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

おき、水にて洗ひ、水氣をさり、生酢の中に入れて一時間ばかり置き、此を取出し、笊を伏せたる上に並べて酢の氣を去るべし。かくすれば身がしまり味をよくす。此は酢の物にしても壽司の種にしても宜し。酢の物にする時は、酢を落とし、白砂糖を少し加ふべし。又鯛、鱚、さより、車海老等も同じ樣にする時は味をます。猶ひかり肴は鹽を洗ひたる時、皮と皮とを合せ手にて押へたる後酢に入るべし。此は皮の照りを損せぬ爲なり。

▲やたら漬

瓜（又は胡瓜）、茄子、茗荷の根、なた豆、牛蒡、大根、紫蘇、唐辛子、以上八種の野菜を程よく鹽加減し石押を重くして一夜半ほど漬けこみ置き、取出だして適宜に庖刀し、少し陰干しにして水氣を去り、此を極上等の醬油に味醂一割をわりて、ひた〳〵にし、壺の樣なる器に入れて漬けおく。

次に干飯二合、麻の種子一合、大豆一合五勺とを煎り、此に麹五合を加へて、此四種を前の器の中に入れ蓋をよくし、日々一二回づゝ掻きまわすべし。斯くすれば十日間ほどにて味ひ出づ、頗る好味のものなり。此は日數を經て、古くなるほど益々味をます。

▲福神漬

茄子、なた豆、小蕪、紫蘇を鹽になし、細かに刻み此を一夜ほど水に漬けて鹽氣をぬき、又大根を八つ切り位に竪に割り、干しあげて細かに刻み、水にてよく洗ひ、よく〳〵絞りて水氣を去るべし。次に醬油八合味醂一合ざらめ砂糖二十匁を合せ、此を十五分間ばかり煮、冷めたる時前の野菜を此中に入れて漬ける、夏季ならば一晝夜、冬季なれば四日間にて食する事を得。

煮出汁の造り方

料理を作るにはまづ煮出汁を作るが肝要なり、煮出汁は煮物をするにも汁物を調理するにも欠くべからざるものにて其種類には種々あり、されど專ら使用するは鰹魚汁に限られたるがごとし、但し關西地方にては惣菜用に雜魚煮汁を製して使用し、又或る地方にては

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柿の皮、大豆の煮汁、昆布汁、椎茸煮汁など精進料理の煮汁として用ひらる。まづ鰹魚煮汁に就て言はんにまづカツホを程よき湯の中に浸し、引上げて水氣を拭ひ上部の黒き部分を削り去りて能く切れる鉋にて薄く削る、其分量は水一升に削りたるかつぶし六十匁と定め鍋に湯を沸騰させて其中へ右のかつぶしを投れ二三回沸騰し浮き上りたる泡を掬ひ去りて即時に鍋を下ろし一二分間も經たらば丼の中へ節をあけ其中へ漉したるを一番煮汁と稱す、又漉した滓を再び前の鍋にいれて三四合の水をさしよく沸騰せしめて前の如く漉すを二番煮汁と言ひ、之れは主に味噌汁又は煮物の材料に使用するなり。

昆布煮汁の製法はダシ昆布と稱する上等品を求め藁たわしにて手早く水にて洗ひ其使用分量の水を鉢又は丼に取りて其中へ使用する時間より四時間ばかり前より漬け込み扨て使用する時に至り其の漬けたる汁を用ゆるなり、又一法は洗ひたる昆布を適宜に切り其まま沸騰湯の中へ投じ即時に蓋をなし其漬け汁に用ゆるなり。されば昆布煮汁は湯に入れぬものなり。

牛乳の濃淡と良飼料

同じ牛から搾り取つた乳に淡い時と濃い時とがある。それは食物の爲から來る場合もあるが、通じて朝の乳は淡く、晩のは濃い。それから年の少い牛と、老いたる牛とは共に淡いのである。また濕氣ある不潔なる牧場に飼養さるゝ牛のも淡い。で、淡いのはそれ丈滋養分も不足である。即ち朝の乳が固形物一〇、〇三であれば、晩のは一三、四〇である、朝のが乾酪二、二四であれば、晩のは二、七二である、朝のが牛酪二、一七であれば、晩のは五、四二である、また蛋白分も朝のよりはよい。尤もその代りに水分も比量も蛋白分も糖分も鹽分も晩のよりは多い。又如何に牧場の位置がよくても飼料の惡いのは、無論乳質は不良であるから、飼料の撰擇は最も大切である。先づ、一番、良いのは乾かした柔かい枯草及び藁であるが、此節では、これに新しい青草を多少混せるがよい、寒くなつたら豆類、燕麥、麥麩などに食鹽を混せたものを與へると宜しい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

病氣の豫防法

疾病の豫防に二種あり、一は疾病の原因を避ること、一は疾病に抵抗して、其增進を防ぐこと。

第一　疾病を避くるの法は、甚だ困難なり、例えば、風邪を避んとして、常に寒冷を防ぎ、年中同溫度に身體を保たんとするは、實際に出來難きことなるのみならず、若し此の如くせば、風邪の害よりも一層甚だしき害即ち物の役に立たぬ人間となるべし。

第二　不攝生なる疾病の原因は、務めて之れを避ること勿論なれども、常に身體を鍛練して、寒暑に慣らしめ、以て疾病に抵抗するの習慣を作るべし是れ實際に行はれ易くして、而も疾病を豫防する倔强の方法なり。

さて人の常に避け得べき疾病の原因は、暴飲暴食、房事過度、過度の感熱及び感冷、習慣を急に變更すること、感情の激昂、過度の神經の使用、睡眠の不足、便秘、下痢及び有毒物等なり。

借て其疾病の豫防に就て、少しく知らざるべからざる事は、遺傳、習慣及び體格に於て、各種病氣の素因を有するものなり今左に概略を記す。

病の素因は、重もに兩親の遺傳より生ず、例えば、關節病、癌腫、結石病、精神病、肺病の如し。されば養生次第にて、生涯其發生を防ぐことを得べし。

幼時の養育法は、一般に注意せざれば、往々素因の源となることなり、例えば、暖溫に過ぐるときは、成長の後、發汗病、皮膚病、關節病の素因となり。又少壯の時、過度の勉學及び手淫を爲せしものは、神經衰弱して、諸般の神經病を發し易し。

體格は、又能く疾病の素因を代表したるものと云ふべし。彼の細長き體格にして、長き首、扁平なる胸、翼狀の肩胛を有し、飛捷身輕なるものは、一般に、肺病の素因を有し、重に三十歳以下にて、其病を發生するものなり。又身體短大にして、首筋短かく、右肩に傾きたる大頭を有するものは、卒中の素因を有し、血液の循環不整なるものは、概して心臟病を惹き起し易し。又多血の人は一般に熱病の素因を有し、貧血の人は諸種の精神病の素因を有す。

氣候、住居も、往々疾病の素因と作ることあり、例えば、冷かにして濕氣を帶たる住居は、必ず神經病、關節病、間歇熱等の素因を來すが如し。

身體機關の中、何れが最も薄弱なるやを考究すること必要なり。何となれば、諸種の疾病は、此薄弱なる部分より侵入すること極めて多ければなり。此薄弱なる部分を知らんと欲するには、種々の方法あれども、一般に知れ易きは、激動激感に當つて、最も疲勞なる部分なることなり。即ち之れに依て、咳嗽を發し、胸部の痛みを感ずるものは、肺の弱き證據、又之れに依て、腹部の壓迫、嘔吐、不快を感ずるものは、胃の弱き證なり。其他身體の勞働に依て、直ちに發熱し、潮紅し及び甚だしく發汗するものは性質薄弱なるを知るに足るべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭衛生

素人藥物學（一）

糸左近

某博士曰く世の中に一番無用な物は醫者と藥である斯樣な物があるから死損ひの奴が治つて弱い種を蒔くのである、故に藥や醫者は片ッ端より燒いて了へ、さすれば健康なる人間ばかり殘つて健康なる社會を組織するであらう。と嗚呼恐ろしい哉、若し政府にして此說を採用せられたら、私も矢張燒かれねばならぬ一人となる、併し其時には私は斯ういふ辭世を詠む積りである。

　これからはまつぱ赤裸で暮しやんせ
　　家も着物もみな久壽利

藥といふ意義は斯樣に廣大で、決して苦い物服むばかりを言ふのでは無い。夫れ生をこの世に稟けたる者は、發狂者で無い限は、冷飯食ても娑婆に居たいので、一日でも生き殘る方法を講ずるに相違無い、それゆゑ過つて血が出れば手を當る、手を當てゝゐても俄かに止らねば何か手の代用物を考へる、これが即ち藥、又不知火傷をする、炎つて堪らぬそこで、其部を水の中へ入れる、炎りは止む、斯うなれば水も矢張火傷の藥では無いか、斯る次第であるから、如何に蒙昧の世でも、それ相當の藥物を考へてゐる、從つて古今東西を問はず藥物に關する書物程多くあるものは恐らくあるまい、されど余の見聞の狹い故かも知らぬが、醫者及び醫學生なども普通の素人方に讀ませんとて、述べた本は殆んど無いやうである、それ一つの不思議なる現象で、實に千歲の遺憾と謂はねばならぬ、果して然らば余がこれより連月書かんとする此の素人藥物學は古今に獨步する珍物と自惚てゐるのである。斯う勿體をつけて言ひますけれど、私の勿體は東洋風の勿體で無くて、西洋式の勿體である、一體東洋人の癖として、非常に物に勿體をつけ、其の影響として藥の起原は大抵神秘的の因緣談があり、或は仙人から授かつたとか、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或は夢に神が教へたとかといふやうな駄法螺である、西洋のはさうで無い、今茲に「規尼涅」といふ藥の一例を擧ぐれば、たしか十七世紀の頃であつたらう、或る印度人が熱病にかゝり咽が渇いて堪らぬけれど、水を得られぬ、で已むを得ず樹の下にある水溜の水を飲むと、即て心身爽快になつて來た、そこで嬉しい紛れに、これは神水であると、誰にも彼にも吹聴すれば、之を聞く熱病者は我も〳〵と試むる、試むれば皆々多少の効力がある、事茲に至れば愈々神水であると崇めらるゝは無理も無いことであり、されど愛理心の强い西洋人は唯單に神水であるといふ丈では承知せぬ、これは何でも此の樹を傳うた水が此處に溜つたのであるから、此樹に曰くがあるに相違ないと、其皮を煎じたり分析したりして、其の結果左の四通りの藥を發見し、これはは析ういふ効驗があると勿體をつけた、これが西洋式の勿體で二十世紀の今でも現に用ゐて勿體がられてゐるのである、今左に列記して見よう。

〔規那皮〕これは其樹の皮で、之を粉末にして其儘服みもするが、多くは之を煎じて用ゐるのである。如何なる効驗あるかといふに、强壯劑の目的として色々の衰弱症例へば神經衰弱症、病後の恢復期などに用ゐるやうなものである、其他熱性病が原因となつた胃膓の病、慢性の下利などにも効がある、用量は大抵四、〇を溫湯一、〇〇〇にて十五分時間煎じ、その煎じ詰つただけ水を加へ、之を一日三回に分服するが普通である。但し煎じる前に一、〇程の稀鹽酸を入れておけば、有効分が多量に出るものである、さうして其味非常に苦いから單舍なり或は砂糖なりを加へて服むが宜い。

〔規那丁幾〕これは規那皮末一、酒精五といふ割合で十日間も浸し、之を壓搾して製するのである、効能も用量も規那皮と同じことである。即ち

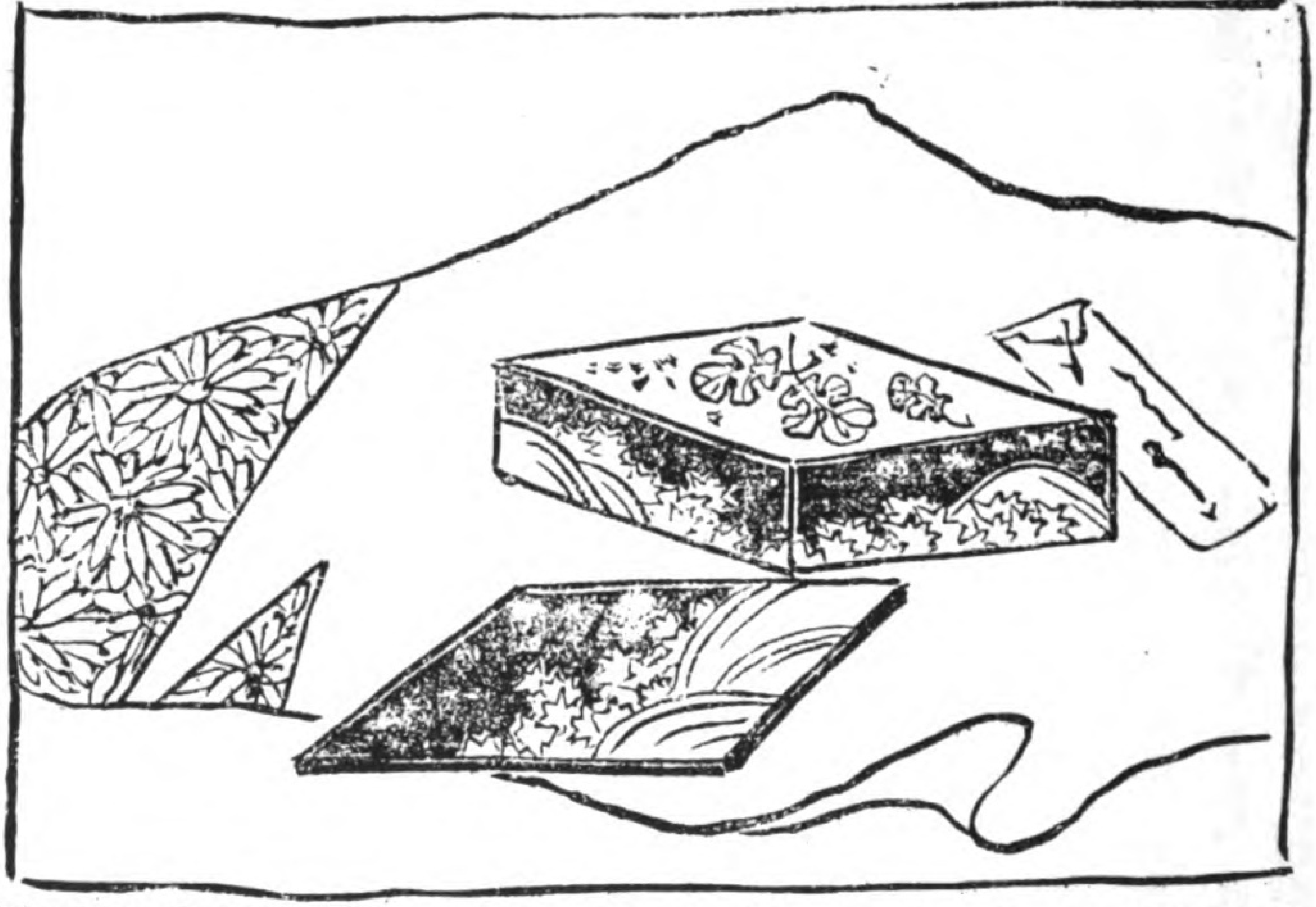
規那丁幾　四、〇　稀鹽酸　一、〇　單舍　八、〇
水　一〇〇、〇　右一日三回分服

〔規那越幾斯〕これは規那皮末を煉藥にしたものであるが、其の製法は素人方には必要無いから之を略す。効能は矢張規那皮と同一で、用量は一回大凡〇、五を丸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

藥或は水に溶して用ゐるのである。

〔規尼涅〕これは規那皮の成分を取つて製するものである、之を○、五乃至一、○服めば、間歇熱の特効藥となる、即ち間歇熱の發る大凡六時間前に服むと大抵發らずに治る、されど治つてからも尚一日に○、二位づゝ二三日續いて服まぬと、病を再發する憂のあるものである、其他間歇熱のみならず、色々の熱性病にも用ゐて効がある、又健胃強壯藥として、一回量○、○三から○、一位までの間で、一日三回も用ゐれば少なからぬ効を奏することがある。又、百日咳、神經痛にも右同量で仲々良成績を著



したる經驗もある。併し該藥の苦さは特別で甚だ僅かを甞ても半日位其味去らぬやうにある、されば丸藥として服か或は「オブラート」に包んで用ゐねばならぬ。又、大量○、五以上を服むと、時に依つては耳鳴を來し耳が遠くなることがある、けれども服用を止むれば二三日乃至四五日にして治るものである。この他灌腸料○、五—二、○水五○、○防腐藥百五十倍の溶液として外用に供することもあれど、それは之に優る良藥澤山ある、兎に角間歇熱の特効藥としてはこれに打勝物は殆ど天下に無いと言ても可い。但し該藥には鹽酸規尼涅と硫酸規尼涅との二種類あるが、何れも同効能であると心得て可い。

右の如き處方で、これより幾千幾萬の頁藥をドシ〳〵述ぶるのであるが、それに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

説いては一般の服用法等を説いてかゝらぬと、何でも無い間違ひを惹起すことがある。されば讀者諸君能々この項を心得ておかればならぬ。

藥の配合――甲藥と乙藥とを無暗に混て服んではならぬ、化學の智識無き藪醫先生中に、往々これが爲めに、大失敗を來したる例澤山ある、今一二の例を擧れば、甲醫が梅毒と赤痢と併發せる患者を診療し、思ふやう梅毒には沃度加里が良藥、赤痢には甘汞が妙劑なりと、豫て知り居ることゝて、此の二藥を一つは水劑として、一つは散藥として服ましめたるに、二病何れも効無きのみならず、日を經るに從ひ、一方ならぬ化合中毒に罹り、甚だ危險に迫つたことがある。又乙醫は妊婦が豆波利と痔とに惱めるを診て、暫し小首を傾けたる後、豆波利には鹽酸加里、よし／＼、痔には硫黄、これ妙。『御心配なさるな、一刀兩斷の下に病を退治しませう』と勇んで自ら藥室に至り、二藥を乳鉢に入れ、乳棒を持ち、力を籠めて擦り混せれば、こはそも如何に、轟然音して爆然したり、乙醫は思はず後へに撞と倒れ、後頭部を打ち、顏は處々火傷しながら其儘氣絶、この凄い音を聞いたる家人を始め、患者までが水よ藥よと騷いだ末、漸く蘇生はしたものゝ、これより誰以て診を乞ふ者無く、門前雀の羅を張るゝやうになつた、併しこれは藪故是非も無きことではあるが、斯樣な次第であるから、私が處方を書いた通りの外、讀者諸君に於て、自己流の配合を決してなさりますなと、堅く斷つておきます。

連服する勿れ――如何に藥の効驗等を知つたからとて、醫者にもかゝらずに、一つ藥を長く用ゐてはなりません、萬巳むを得ざる折、一時凌に應用して頂きたいのである、病性も確めずに一つ藥を連服すると測られざる藥の中毒を招くことがあります、これにも大失敗の好い例がある、この失敗は藪醫どころか、某國某大學の某醫學士が十二指腸蟲の患者を治療して綿馬越幾斯といふ殺蟲藥を今日も明日もと連服せしめたるに病は漸く快方に赴きたれど、あな恐ろしや兩眼忽ちに明を失ひ、あはれ墓無き目無鳥、さア斯うなると患者は憤るまいことか、直ちに法庭へ損害賠償の訴訟を申し立てた、されど元來この醫士は綿馬は殺蟲の効ある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことのみを知つてゐて、連服の結果失明に至るものなることを知らぬのであるから、故意に爲したる罪で無いのみならず、一方の重病を退治したる功もあるし、且つ連服せしめてはならぬといふ規定も無きことなれば、この訴訟は成り立たずして原告は盲目にせられ損となつたのである、けれども天下の制裁は法律よりも恐ろしいもので、以後は斯道に不明なる盲目醫者であるとて、誰も相手にせぬといふ自然の罰を受けたは自業自得と謂はねばならぬ。

藥と年齡――すべて藥の分量は年齡に依つて相違がある、ガウビウス氏といふ醫士は二十年から六十年までの者に與ふるを、常量即ち一位とし、左表の如く定められたのである。

一年以下の者	十五分ノ一	四年乃至七年	三分ノ一
二年以下の者	十二分ノ一	七年乃至十四年	二分ノ一
三年以下の者	八分ノ一	十四年乃至二十年	三分ノ二
四年以下の者	四分ノ一		

（四年以下の者は「六分ノ一」、五行目「四年以下の者」は誤）

六十年以上に至れば、年齡を加ふるに從ひ、大凡四分ノ三、三分ノ二、二分ノ一等の比例を以て減ずるのである。又、ヨングといへるドクトルは十二年以下の小兒に與ふる用量を記憶し易いため、左の法に由り計算することにした、即ち現在の年齡に十二年を加へ、これを以て現在の年齡を割るのである、例へば三年の小兒に與ふる分量は $\frac{3}{3+12}=\frac{3}{15}=\frac{1}{5}$ となるやうな道理である、今順次に列記すれば、

一年 $\frac{1}{1+12}=\frac{1}{13}$	五年 $\frac{5}{5+12}=\frac{5}{17}$	九年 $\frac{9}{9+12}=\frac{3}{7}$
二年 $\frac{2}{2+12}=\frac{1}{7}$	六年 $\frac{6}{6+12}=\frac{1}{3}$	十年 $\frac{10}{10+12}=\frac{5}{11}$
三年 $\frac{3}{3+12}=\frac{1}{5}$	七年 $\frac{7}{7+12}=\frac{7}{19}$	十一年 $\frac{11}{11+12}=\frac{11}{23}$
四年 $\frac{4}{4+12}=\frac{1}{4}$	八年 $\frac{8}{8+12}=\frac{2}{5}$	十二年 $\frac{12}{12+12}=\frac{1}{2}$

右は何れも概略を示すもので、實際は身體の大小強弱に依て判斷せねばならぬ、是れ所謂匙加減とでも言ふべきものであらう。

天秤と分量――藥品を素人方は何うして量れば宜いかといふに、まづ一瓦位量らるゝ「瓦天秤」と十瓦位の「メートルコップ」とを買ひ求め、散藥などの固形物は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

天秤で、丁幾などの液體はメートルコップで量るが可い。

「一、〇」は即ち一瓦で、「〇、一」は「一、〇」の十分ノ一、「〇、〇一」は「〇、一」の十分ノ一即ち「一、〇」の百分の一である。之を日本の量目に比ぶれば「一、〇」は二分六厘六毛六六……「一〇、〇」は二匁六分六厘六毛六六……に當る、故に瓦量に $\frac{4}{15}$ を乘ずれば、精密に日本量に換算せらるゝものである、例へば「一五、〇」は $15\times\frac{4}{15}=4$ 四匁となるやうな道理である。

調合法と器物＝＝本式に言へば、却々六かしいから、今爰に素人流に申しませう、まづ素人の方が自分で藥を調合せんとするには、前に述べたる天秤とメートルコップの外に二百瓦位の温湯斗、乳鉢、乳棒、水牛製の匙、土瓶、小さな水罎、及び硝子の漏斗、これだけは何うあつても必要である。そこで何ういふやうに調合するかといふことは左の處方に依つて説明する方が便利であらう。

例一　重曹　二、〇　硝蒼　一、五　白糖適宜

右分三包一日三回一包（胃腸病の處方）

分三包とは三包に分けること、三回一包とは三回服んで一回に一包づゝ用ゐよの略語である。

といふのならば、先づ第一に天秤で、重曹を二瓦秤り、之を乳鉢に移し、更に又硝蒼を一瓦半秤り、之を乳鉢に入れ、これに白糖を隨意に加へ、これより乳棒を以て、能く混ずるやうに擦り、之を目分量にて三包に分けるのである。

例二　含糖百弗聖　三、〇　稀鹽酸　一、〇　單舍　八、〇

水　一〇〇、〇　右一日三回分服（消化不良の處方）

これならば、先づ含糖百弗聖を天秤にて三瓦秤り、之を温湯斗に移し、稀鹽酸及び單舍をメートルコップで量り、之をも温湯斗に入れ、それに水百瓦を加へ、能く溶解するやうに箸様の物を以て、掻き混ぜ、之を漏斗で瓶に移し、一日三回に分服するのである。

例三　攝涅瓦浸（三、〇）一〇〇、〇　稀鹽酸　一、〇　單舍

八、〇　右一日三回分服（咳嗽の處方）

これは先づ攝涅瓦を括弧内だけの分量を秤り、之を温湯百瓦にて五分時間煎じ、これに稀鹽酸と單舍とを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

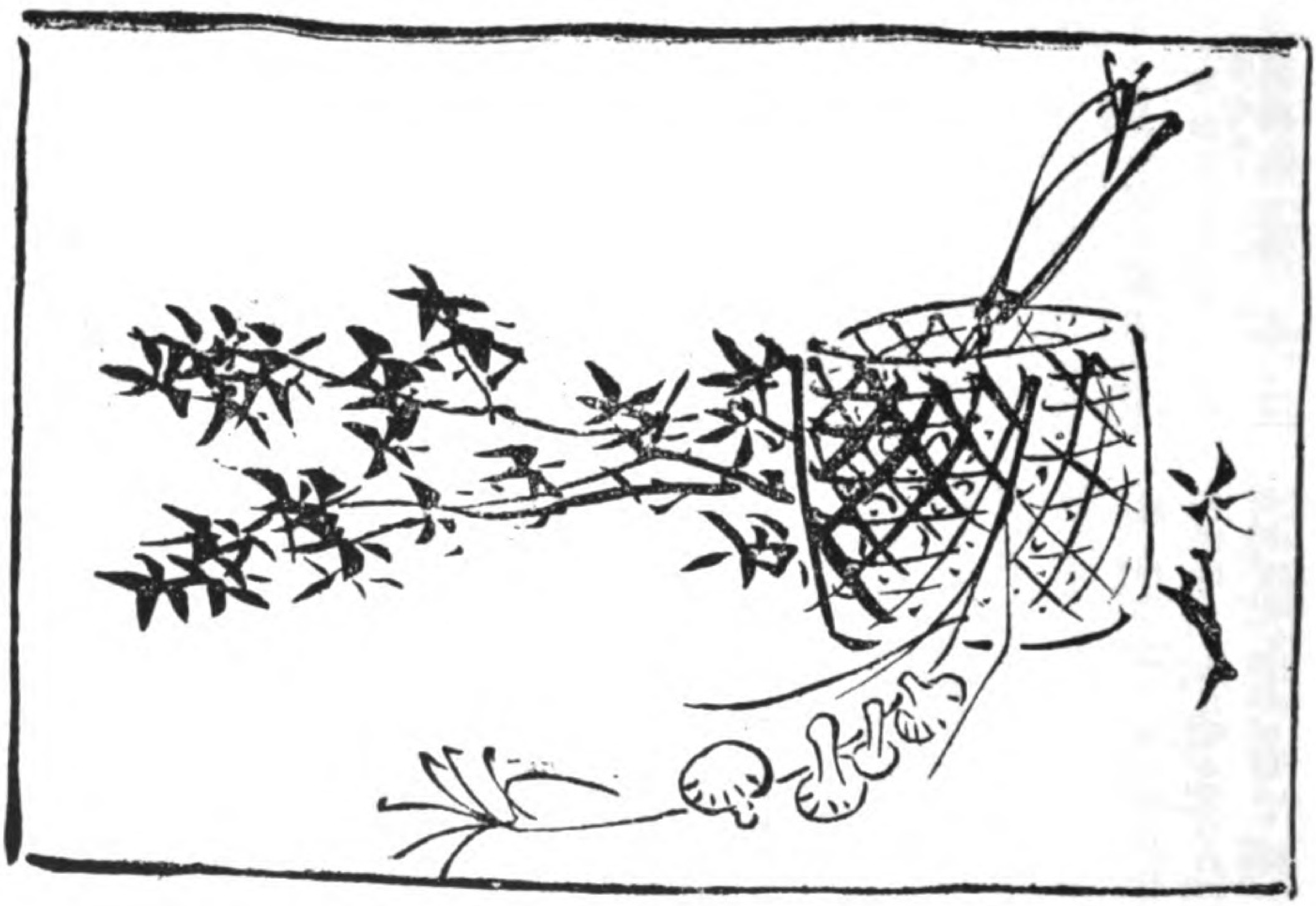
加へ、其の煎じ詰まつた丈水を入れ更に百瓦とし、一日三回に分服するのである。「浸し」は温湯にて五分時間煎じるので「煎」は温湯にて十五分時間煎じることゝ心得ておくが可い、さうして何れも括弧内の分量を其下にある分量の温湯にて煎じるのである。

例四　還元鐵　〇、三　規尼涅　〇、一　甘草末　適宜

右爲三六丸一日三回食後二丸（強壯藥の處方）

まづ還元鐵、規尼涅及び甘草末を乳鉢に入れ、乳棒を以て能く擦り混せ、これに護莫末少許と水二三滴乃至五六滴を注ぎ、更に能く擦り混せて之を掌に栽せ、能く捏ね、それを六丸に分ち丸めるのである。

例五　重曹　三、〇　硝蒼　一、五　莨菪越幾斯　〇、〇六



右分三包一日三回一包（胃痛藥の處方）

この處方に於て困難なるは莨菪越幾斯である、まづ重曹と硝蒼とを秤つて乳鉢に入れ、次に越幾斯は煉藥製であるから、直に天秤の皿に載せることは出來ぬ、故にまづ筍皮を小さく切つて之を何瓦あるかを秤り、これに越幾斯を載せて秤るが宜い、然る後該藥を乳棒の先へ悉く塗り、さうして前の二藥と擦り混せるのである。

「註」水牛製の匙硝子の漏斗及び土瓶を用ゐる譯は、若し是等にして金屬製ならんには或る藥と化合して藥の性質を換へ、目的を誤るやうなことがあるからであり。又温湯斗を用ゐるのは、冷水熱湯何れを入れても破損の憂が無いためである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

藥は通常藥劇藥毒藥と分かれてゐて劇藥毒藥は醫師藥劑師に非ずんば取扱はれぬ規則になつてゐる、それ故素人方の爲に可成通常藥の範圍内で御話致し、左程危險ならざる著名の劇藥例へば安知歇靸林石炭酸の類を參考までに述ぶる積りであります、兎に角上來述べたる一般の心得等は能々御熟讀御暗誦ありたいものである。

「夫」嗚呼寒胃を引いたと見え、少し熱が出て來た、お醫者を呼んでおくれ。

「妻」お醫者は此頃病氣ださうで、外診なさりませぬから女學世界の藥物學を見ませうか。

と、開いて見れば左の如く書いてある。

〔撒里矢爾酸曹達〕撒里矢爾酸那篤僴謨、水楊酸曹達、水楊酸那篤僴謨又撒曹とも云ふ。これは白色無臭の粉末で、其儘散藥としても用ゐらるゝが、多くは溶して水劑となし、味は甘辛いけれども、少し多く服むとムカ〳〵惡心を催し、時には吐くこともある、餘り連服するか、或は大量を服むと一方ならぬ衰弱を招くことがある、効能は解熱藥鎭痛劑として、寒胃、肋膜炎、神經痛、殊に急性の僂麻質斯には偉大の効を奏するものである。用量は一回一、〇乃至一、五。一日量は四、〇乃至八、〇で、薄荷を少しませて服めばムカ〳〵するのを防がるゝものである。今一二の處方を示せば、

(1) 撒曹 一、〇 白糖 二、〇 薄荷油一滴 水 三〇、〇 右臨臥に頓服 頓服とは一度に用ひて了ふこと、三〇、〇は大凡小盃に一杯である。

之を服んでから直に夜具を重ね着して寢れば發汗を催ふし輕い寒胃なら一度で治る。

(2) 撒曹 四、〇 薄荷水 一〇、〇 單舍 八、〇 水 一〇〇、〇 右一日三回分服 白糖を代用しても可い 僂麻質斯肋膜炎の初期に用ゐて効あり

眞人斯う書いてありますがと言へば、夫は早速買求めさせ、(1)の處方に從ひ、一度分だけ服むと、明朝は熱も解け、躰の關節の痛かつたのも大いに治つた。これは重寶なことか書いてある、以後は毎月必ず女學世界を讀まう。

朝寒みくさめいでけり一唡(一唡は三十瓦のこと)
求めおかなん撒曹薄荷を

（以下續出）

▲衛生顧問▼

〔腸滿に就いて〕(問)腸滿とは如何なる病でありませうか、何卒原因病狀及び療法の御話を乞ふ。(日本橋のI M女)

(答)これは實に婦人の心得て居らねばならぬ肝要な病でありますから、事詳しく御答へ致しませう。腸滿とは昔の名前で、今は卵巢腫と申します。眞の原因に就いては、東西の學者が色々研究してゐるけれども未だ確と分らぬのである、されど結核、月經の異常等がこの誘因となるらしい。病の徴候は餘程久しい以前からあるに相違

無いけれども、患者自身も左程の苦痛を感ぜねば、勿論他人に分らう筈も無い、彼是日を暮してゐる中に、或は子宮病のやうになつたり、或は月經に故障があつたりして、何となく苦痛を感ずる中に下腹が張つて鈍い痛みを覺ゆ、さうかと思へば治つて何事も感ぜぬ、此様な事が往きつ戻りつして中に、便秘となり、小便の排出も困難となり、續いて脚氣にでもなつたかの如く、下肢に浮腫が來て、しかも痺れ、或は痛むこともある、又時には鼠蹊部に、腫物の如き物が腫れて、梅毒者の横痃と殆んど同じ様な物の表はるゝこともある、最早斯うなれば、専門の智識ある醫者なら本病であるとの診斷は容易につくけれど、さうで無いと何であるか了らぬ、それより下腹に移動性の腫瘍を觸れるやうになる、さうなれば普通の醫者でも卵巣嚢腫で無いか位は疑ふ、疑つてゐる中に腹部は大いに緊張し、日を經るに從ひ益々膨れ靜脈怒張し、臍は影形も無くなり、布袋も三舍を避ける程膨れて、これがため内臓の諸器は悉く其の壓迫を受け、肺は呼吸困難となり、子宮は移轉し、胃はこれが爲に消化力を殺がるゝのみならず、嘔吐を發し、食慾次第に減る、事茲に至れば全身益々衰弱し、筋肉大いに痩るけれども、腹は愈々反對に太つて、恰かも下手碁者が敵に包まれたる石を惜むやうに、其の結果活る例は無いのである。斯うは述ぶるものゝ、中には初より異例があつて、其の病狀緩漫、數年數十年の間、有邪無邪に日を送つてゐる揚句、漸く本病であると分ることもある療法はトレーカルといふ器械を以て腹部を刺し、水を取るのであるが、これは一時の苦痛を凌がるゝけれど、日ならず、膨れ到底全治の見込は無い、余の經驗に依れば、某婦人が、三年の間に七十六回の穿刺術を受け、遂々天國の人となつたのがある、然らば一たび本病に罹れば、恰かも死刑の宣告を受けたやうなものかと言ふに、決してさうでは無い、其の初期に當つて、名醫の診斷を受け、斷然何の惜氣も無く、卵巣を切り除いて貰へば、十中八九までは兒こそ持たれ、再び人間の業務を取るゝのである、此の他には如何なる名藥も療法も無い、されば余が敬愛する所の同胞姉妹方よ、本病の疑ひあらば、直に專門大家の診療を受けらるゝことは申すに及ばず、すべて子宮等に故障ある折は、藪醫の手習とならずに早く斯道の大家に診斷を受けられよ、六日の菖蒲十日の菊となる例少く無い、尙これに就いて某々醫の失敗談など澤山あるけれど後日に讓りませう。

（蟯蟲に就いて）（問）七歲の女兒三年前より蟯蟲に寄生せられ、毎晩九時頃より肛門から該蟲匍ひ出でゝ甚だ困ります、種々手當も致しますが一向効ありませぬ、何卒この療法を教へ玉はりたし。（矢來の困蟲生）

（答）寐中に入つて温まる故、匍ひ出すのであるが、言ふまでも無く特効藥たる珊篤寧の内服及び灌腸をするが宜い、その臨臥に當つては冷水の灌腸をなすが必要であり、又、常平生に於て、身體衣服の清潔といふことを專一に注意せればならぬ、若し我兒に斯く三年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も惱まさるゝことあれば、當人は言ふに及ばず家族悉く夜具衣服を新調し、寢衣服は大いに消毒し、住居も轉じ、左の處方を與へ、傍ら冷水灌腸を實行し、一日數回の入浴をなし、大いに清潔法を講じて試るけれど、貴女果してその勇氣ありや否や。

大黄末 〇、五 甘汞 〇、一 珊篤寧 〇、〇六
白糖 適宜 右分三包一日三回一回一包宛

但しこれは七歳の小兒に與ふる分量で、三日目每に服ましむる積りである。

〔夜盲の原因と治療〕（問）十五歳の小兒俗にいふ鳥目にて午後四時になれば視力大いに衰へますが、その原因及び治療を御教示奉願候。（豐前の木石生）

（答）原因は（一）榮養不足（二）猛烈の光輝（三）燦然たる色等である。例へば植物性の不消化物ばかり食して慢性下痢になるとか、海波に射る日光ばかり毎日見てゐるとか、濃厚の紫或は皚々たる雪を見つむるとかいふ樣なものです。治療法は若し（一）ならば滋養の食物、牛肉、鷄肉、鯛鰈などの料理を與へて、頻りに身體の强壯を計らねばならぬ。（二）及び（三）ならば暗室中に居らしめ、或は藍色の眼鏡をかけしめ、當分視力を用ゐぬやう靜養すれば點眼藥など用ゐずして大抵治るものである。

〔心臟病の心得〕（問）心臟病者の心得及び該病の名藥あらば御教示下され度候。（日向の心臟病男）

（答）唯單に心臟病といふだけでは其の治療法を答ふることは出來ませぬ、何となれば其の種類甚だ多くあつて、各々其の治療法を異にするからである、心得も其の病に依て異るけれど、一般に身體の安靜、酒類及び煙草の嚴禁、新鮮の氣中に住むこと辛い物を食はぬこと等は何れも守られればならぬ。

〔門脈炎に就いて〕（問）私の父六十八歳は先々月より胃腸病のやうにありましたが、昨日病院長の言はるゝには門脈炎との事、これは治らぬものでありませうか、心配でありますから何卒十月の誌上に御教示を乞ふ。（遠州の百姓娘）

（答）孝道に厚き貴孃を失望なさしむるやうなれど、御年も御年なれば治りますまい。

〔肝臟充血の療法〕（問）父事數十年の間、每月女の月經のやうに、痔血を漏したさうでありますが、昨年之を治療致しましたる以來、時々肝臟充血で惱みます、何卒本病の起らぬ方法、及び起つた時の療法を問ふ。（京都の三十三間女）

（答）其の樣に習癖痔のある方は、却つて其の痔を治さぬ方が可いです、何となれば其の血液肝臟に充血して、痔よりも重き病を惹起すからであります、兎に角飲酒を禁じ淡泊としたる食物を取り、若し發病したる節は、舍利鹽一五、〇を溫湯一〇〇、〇に溶かし、これに稀鹽酸一、〇と砂糖とを加へ一日三回に分服して便通を齊ふるが肝要であります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

狂犬病に就いて（問）犬毒恐水病とは如何なる病でありませうか及び狂犬に嚙まれたる時の應急療法を御高示下され度願上候。（薩摩の臆病娘）

（答）狂犬の毒が人體の傷部に入ると本病に罹るのであるが、發病するまでは、二週間から長きは半年もかゝります、愈々發る間際になると創部は紅くなつて膿を漏し、大いに痛み、病名の如く水を恐れ煩悶苦痛して遂に犬の如き聲を出して、一日乃至三日で死んで了ふ。狂犬に嚙まれたる折は直ちに其部に強發泡膏を塗り、ドシドシ其の毒を吸ひ出すのである。

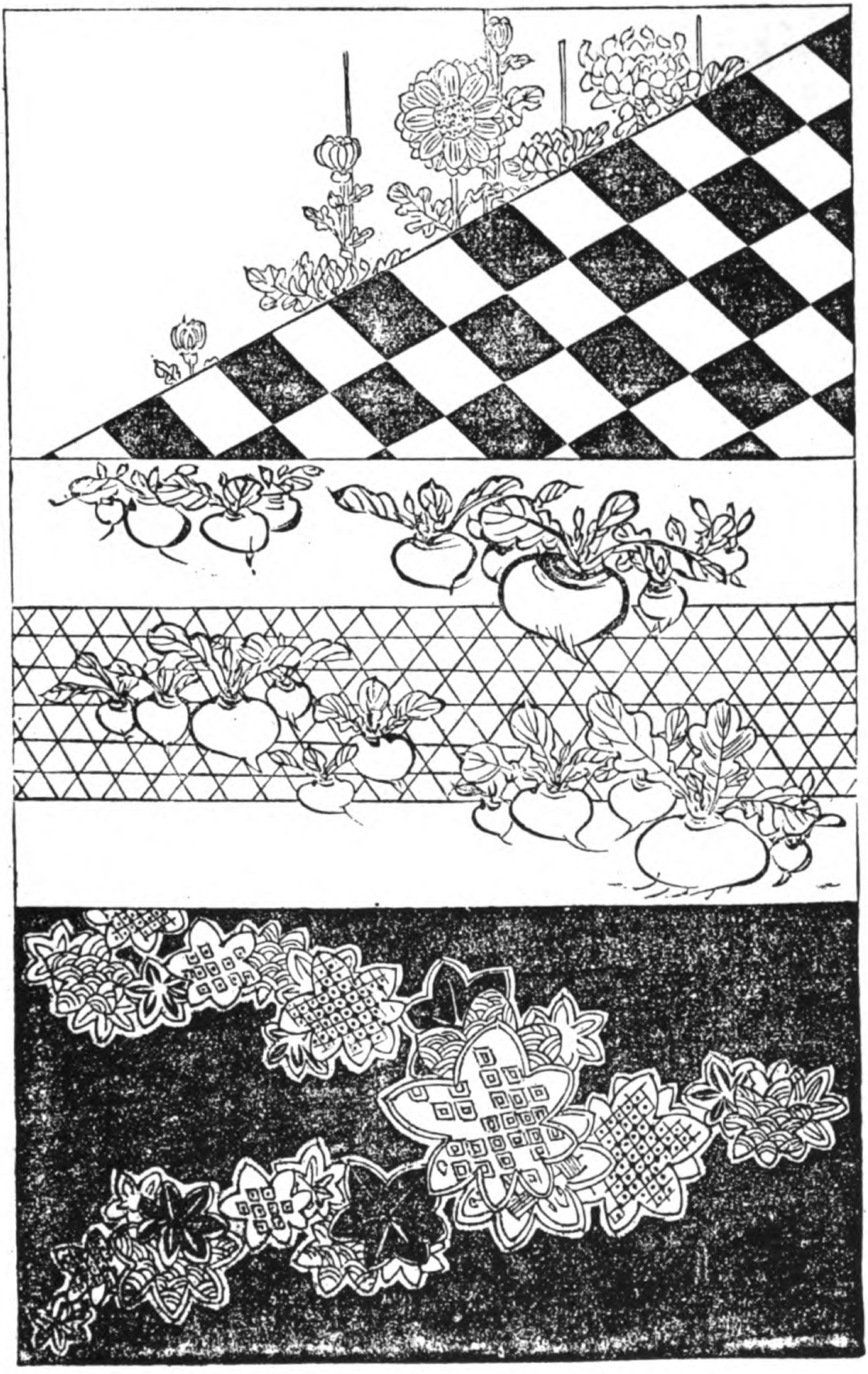
乳母を擇ぶ心得（問）私先月分娩いたしましたる以來、脚氣にて、轉地療養せねばならぬ身に候、就いては生兒のために乳母を雇ひ入れ度と存候が、衛生上如何なる撰擇法のあるものに候や。（麴町のはつ女）

（答）衛生顧問欄に能く適つたる問である、されば詳しく御答へ申しませう、第一精神病、癲癇病、梅毒及び結核の遺傳等無きかを探偵せねばなりませぬ、彼の歇私的里性の乳母が嬰兒の發達を妨ぐるを見てもその乳母の如何は實に重大なる影響あることが分るでせう、第二に乳房は纍々として充ち、靜脈怒潮してゐて、其の乳嘴もよく發育し嬰兒が吸ひ込むに極めて適當なのでなくてはなりませぬ。頸が細長く胸の狭きは薄弱なる體質であるから宜しくありませぬ。年齢は生母と殆んど同一なるが宜い。精神は温順柔和で且つ怜悧を撰ばればならぬ、邪惡なる心の者は間接に直接に嬰兒の害となる。乳母の分娩時と生母の分娩時と前後の差違無きが肝要である、何となれば、其の分泌する乳汁は、其の時日の經過に應じて其の滋養分の厚薄等あるからである、乳房を壓迫して線上に彈き、其の色眞白にある乳汁は分泌量も多く、且つ脂肪に富んでゐるもの、これに反し青色なるは其の量少きのみならず滋養分も甚だ薄い徴候である等を御心得ありたし。

食合に就いて（問）唐茄子と生薑との食合は有害だと申しますし、唐茄子と肉類とは癩病を招き、馬鈴薯と薄荷とは致命に及ぶと申しますが、果してさうならば大いに注意を拂はねばなりませぬから御尋ね申します。（上毛の撫子孃）

（答）何れも差支無きことを保證いたします、何となれば私が常に夫等を知らずして用ゐたるけれど三十年來何の障りも無きのみならず、普通人よりも健康であるからである、啻に私のみならず私の家人も現在に食してをります、されば御心配なさるに及びますまい。今回は未だ嘗て一度も無き問にのみ答へ、月經の不順、不毛、腋臭、色白藥、寢小便、白帶下、肺病、腸胃病、トラホーム、ヘステリーなどの多くある問は爾來幾度と無く答へましたから、大いに略しましたれど、又何れ時を經て、是等諸君の御滿足を得んことを期してをります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





世界的大女帝

井上秋劍

神功皇后は英雄なり、軍隊的日本婦人の最も大なる發達を爲し、恰かも絶頂に達したる、其代表者として現ませるなり、其一代の御事蹟に至りては、國史讀める人は云ふに及ばず、牛打つ童、田艸取る女に至るまであまねくこれを知る、こゝにくだ／＼しく繰返すに及ばず、たゞ其大體を叙して、歴史上の日本婦人中第一位に在ますの偶然ならざるを明にせん、吾等の拙なき筆を須たずもなどゝ煩しきを避くるにはあらず、巾幗婦人の御身を以て、申すも畏こし、其夫帝は征旅の陣中に崩御ましまし、永安宮上 金棺 未だ灰ならざる時に當り、慌てず騷がず徐ろに信頼す可き老臣と剋下の急務を議し、前途の方略を定め玉ひ、則ち夫帝の喪を秘して親ら男の 裝 を爲し玉ふ、婦人の軍隊的なるが少なからざりし當年の狀態、上來記すが如くなりしとは言ひながら、翠帳紅閨に枕並べし春の夜の、夢を昔の秋の風、涙の雨のかたしぶき、鎧の袖に散る露を、籠手に拂ふて打ち騎す、海山萬里雲漠々、新愁更に加ふ新艱難、仇の國土に入り玉ふ、豈雄々しき極ならずや、クキン、セミラミスの昔は知らず、古今世界の女雄君主、誰か之に比す可き者ぞ、しかもセミラミスの軍は不利に終れり、神功の御軍は、一兵を傷つけず一矢を放たず、忽ち三韓をして歸降せしむ、其優と劣と、識者を俟ちて知らざるなり、

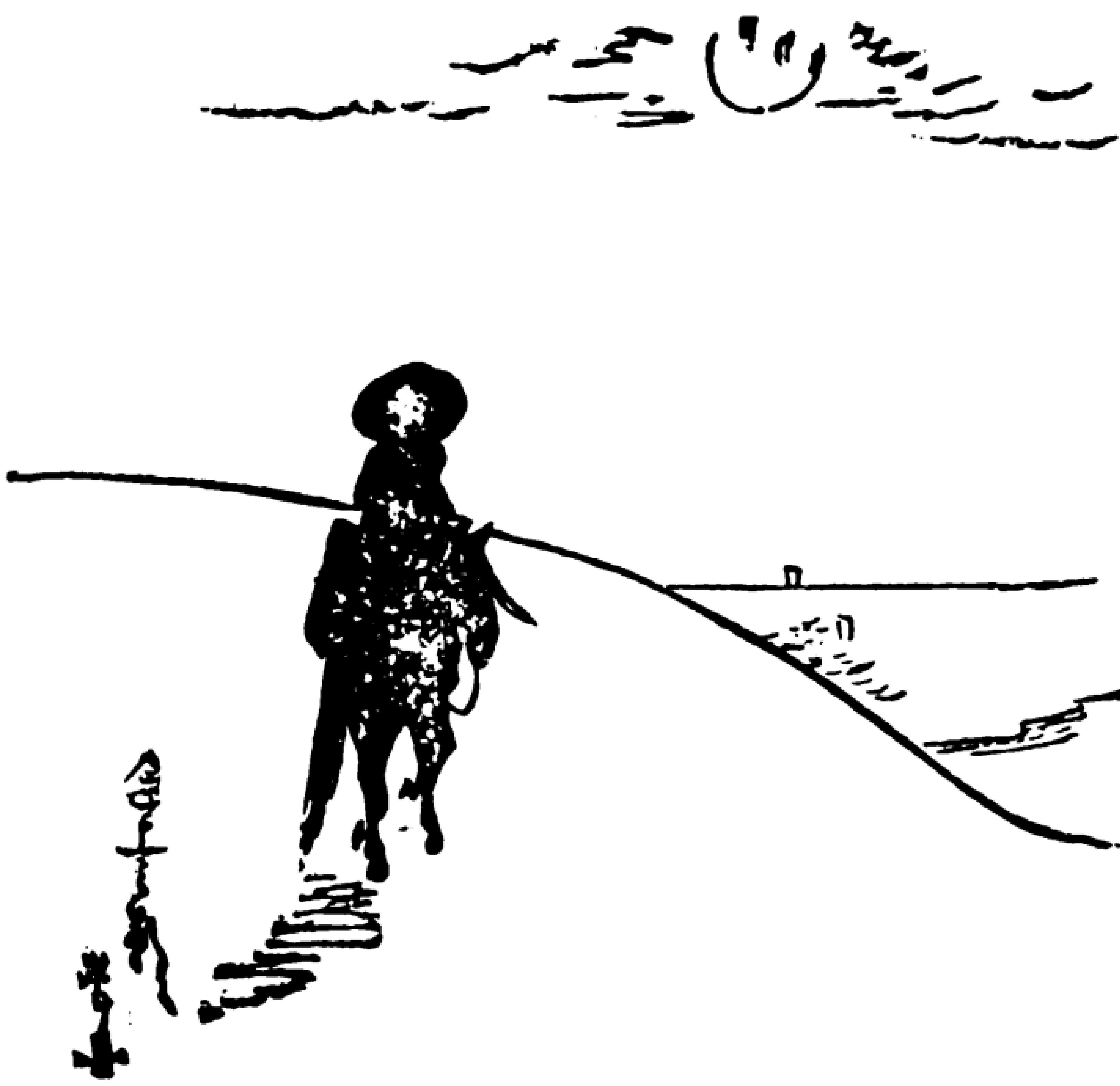
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蓋し神功征韓の事に就きては、歷史的考證の材料甚だ乏しきが爲めに往々後の史家をして五里霧中に彷徨せしむることなきを得ず、朝鮮の古代史を見るに、日本と戰を交へしことと日本の來寇せしことを記せる者無きにあらざるも、これこそ神功の征韓ならめと思はるる事件無し、適々之有れば奇計を設けて倭を陷る、倭敗れて引いて還る、と云ふが如き筆の跡を見るのみ、今の世にさへも自國の敗北を直筆せず、婉曲に故らに軍を引上げたるが如くに書き、甚しきに至りては黑白混亂、主客顚倒の記事を爲す、二十七八年役の清國、今日の露國皆な然らざるは無きが習なるを、況んや二千年の昔に於て、支那文明の分家として大國風を吹かせ居る朝鮮の、爭でか其戰敗を直筆す可き、されば或朝鮮の歷史に詳しき人が、朝鮮の古代史に神后征韓の事蹟を探ね得ざるが爲め、直に世界史上に於ける世界の大女帝の偉蹟の有無を疑はんとするが如きは、甚だしき早計と云はざるを得ず、只だ我國文物典章備はるを缺きし當年の事とて、國史の之を傳ふること詳かならず、皇軍朝鮮の國土に上陸して、如何なる順序に由りて行動せしやに至りては、杳として知ること能はず、僅かに韓王素祖面縛して、圖籍を封じ、王船の前に降て誓ふらく、今より以後春秋朝貢船柁を乾さず、馬梳馬鞭男女の調を獻ずること、東より出づるの日更に西より出で、鴨綠の河逆に流れ、河の石昇りて星辰と爲ることありとも懈ることなかる可し云々、皇后遂に其國中に入り、重寶府庫を封じ、圖籍文書を收め、杖く所の矛を新羅王の門に樹つ云々、高麗百濟二國王亦た風を望んで來降す云々の文字を認るのみ、世界史上の一大出來事たる世界的大女帝の大事業も、未だ充分に世界の人をして首肯せしむるに足らず、豈千秋の遺憾ならずや、然れども別に之を打ち消す可き反證も出でず、且つ支那の古歷史に於て東海姬氏國等の文字の、暗に皇后の偉業これをして此に至らしめたるを說明するあり、神后の偉業竟に沒せず、日本婦人永遠の誇として普ねく世界に示して可也、

外に於て斯く迄我武を揚げ給ひし英雄女帝は、內に

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

於て亦た撥亂反正の英雄女帝におはせしなり、熊襲はやがて夷ぎぬ、而も禍亂は宗室の間より起れり、麛坂忍熊の兩皇子を始め、他の多くの群臣にも一面盛業を妬むの心と、一面疑鬼に驅らるゝの心とに因りて、矛を皇后に倒る者少なからず、時局漸く艱まんとす皇后が此間に立ちての苦心經營あらせられしこと、果して如何ばかりなりけん、而も終に此難局を排して皇運萬世の基を固め玉ふ、後世の歷史家或は其皮相を看て、骨髓に及ばず、武內宿禰の年齡に就て斷見の論議を爲し、應神天皇の御降誕に就て揣摩臆測を逞うし、以て盛德を傷つけんとす、吾等は漫に亂臣賊子を以て異論者を攻るを好まずと雖、此の如き徒の故意に異見を出だして盛德を傷け、敢て達名を售らんとするを惡む、記する所の文字により强ひて疑ひありと云はゞ、何ぞ記したる文字其物に就て或は爲にする所あるにあらざるやを疑はざる、自家の疑はざる所は疑ふ可きをも疑はず、自家の疑ふ所は疑ふ可からざるをも疑ふ、此の如くにしていかで公平不偏の歷史家と稱するを得ん、公平不偏ならざる歷史家の似而非物識は、動もすれば世界的英雄女帝の白璧に向て多少の瑕玷を附せんとす、惜みても餘あり。



上代の寵姫氣質

世界的大女帝神功皇后は、殆んど軍隊的婦人の殿將として、軍隊的婦人の長所特色を遺憾無く發揮し玉へり、而して斯大女帝の雄圖は我國文明の上に効果を及ぼすこと大方ならず、隨つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

太古素朴の氣は漸く銷し、爭ふて驕奢に走り、競つて粉華を貴ぶに至りぬ、擐甲馬に乗る荒々しき、所謂男らしき女は次第々々に減じ行き、袖を翳して月花に對し、戀愛を賦して懷を遣る平安朝的の婦人氣質は、既に此頃より日本婦人の一特性と成るの俑を作れり、王公貴人爭ふて美姫を求めて之を寵す、寵姫必ずしも眉斧あるにあらず、傾城傾國丈夫自ら誤るなり、されど貞順道を守り其天とする所に背かざる美德は、斯寵姫達にも備はり居り、漫に簧舌を揮ふて忠良を傷るが如きことは稀なりき、されば夏桀殷紂失德の事に至らざりしは勿論、周幽烽火の禍も無かりき、是れ少しく當時の寵姫氣質を注意すれば、皆偶然にあらざる結果なるを見出し得るなり。亦た日本婦人美性の一として算ふべきか、允恭天皇の寵姫を衣通姫と謂ふ、玉肌衣を透して光輝くてふ當時無双の美人にして、天皇は其皇后の妹姫たるの故を以て之を知ろし、召して後宮に置かんとし玉ふ、しかも姫は姉皇后へ御義理立にて畏こき召命に應せず、勅使七度に及びて猶ほ固く辭して參らざるなり、姉皇后に對して義理立たずとの優しき心より、乗れと强ゐらるゝ玉の輿、われから避けて身を亡ぼすまで參らずと辭り玉ふ、何ぞ其心根の優しきや、而して第八回の勅使烏賊津主が、庭中に伏し頑として立ち去らず、姬の輿へ玉ふ食物は之を食はずして、竊かに懷にせし糒を食ひて七日を經るを見るに至り、憐愍の心を禁じ玉はず、妾姉皇后に對しての義理を重んじ、勅命を拒んでこゝに至れり、しかもかく餘りの頑に過ぎて天皇の忠臣を亡はゞ臣として不忠の罪を免かれずとて、竟に召に應じて坂田を出づ、臥龍草廬を出でし時もかくやと叡慮斜ならざりき、而して姬は殊寵を蒙り、毫も驕慢の形在さず、謙虛自ら遜りて且つ眞の愛情を以て天皇に奉仕す、

わがせこが來べき宵なりさゝがにの
　くものふるまひかねてしるしも

とこしへに君も逢へやもいさなとり
　海の濱藻のよる時〳〵を

後世、媚を君王に獻じて寵を求め、只管に自家の威

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

福を張り、甚しきは甘言君王を欺きて、竟に天下の大事を引出す婢妾の輩、之を衣通姫に比ぶれば、啻に月鼈の差のみにはあらざるべし、其他仁德天皇の宮人桑田玖賀姫が、一たびも君王に見えずして敢て節操を重んじ速待國造の愛を辭し、病みて死にたるが如き、以て當時寵姫氣質の一斑を見る可し、上代はなべて人の心正直なり。

淑女のかゞみ（下）

高須梅溪

當時、英國に於ては、内亂の兆候漸く現はれ、我國にて將軍家光の威を擅にせる頃、彼國にては、愛蘭の騎士黨の人々頻りに罪なき人々を殺傷して止まず。大佐は由來平和を愛し、人道を重んずるの人なりしを以て



國事正に非なり。宜しく今日に於て之を鎮定せずば、如何なる變事を生ずるに至るやも計り知るべからずとて、先づ皇帝チャールス一世と國會との間に奔走して熱誠を灌ぎ、國會の意見を成立せしむるに盡くして、紫痕碧血を流すが如き凶事を止めんと爲しぬ然るに大佐の忠實なる行動は却つて騎士黨の人々をして一種の疑心を生せしめ、『渠こそ吾黨の敵にして、常に隱險なる謀略を逞うする曲者なり。吾等は先づ渠を血祭りの犧牲に供せずんば止まず』との誤解を起さしぬ。されば渠等はさま／＼に苦心して大佐を捕へんとし、國會によりて組織せられたる軍勢はエッセックスと呼べる民黨の旗頭を戴いて王師に反抗し少しも屈するの色なかりしかば、大佐も亦終

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に自己の意見を遂行するに由なく、空しく嗟嘆して、主義の上より民黨に入り、ノッチンガム防禦軍の指揮官となり、夫人も亦これに從ひて同地に赴き、大佐の事業を補助する處少からざりき。此に至りて夫人の特色は稍現はれ初めしなり。纎弱菫の如き一婦人にして猛虎吼ゆるにも似たる戰場に赴き、彈丸雨飛の間、能く夫のために盡すが如きは、到底女丈夫に非ずば出來得べきに非ず。かく夫と苦を共にするを喜べる夫人の心こそなか〳〵に難有けれ。

　されど此に吾國の戯曲『鎌倉三代記』に於けるが如き小說的事件は、實際倐忽として夫人の身邊に湧き起りぬ。そは何ぞ。曰く、夫人の兄なるサー、アーレン、アプスリー氏が王黨に與みして、騎兵の指揮官に選任せられ旗皷堂々、ハッチンソン大佐と相對抗するに至りしことなり。此間に處せんとする夫人の苦心は如何ばかりなりけん。勿論冷靜沈着なる英人の事とて、公事と私事とを同一に見做すが如き淺はかなる考へに陷らず、若し公事の方より言へば、兩者は龍虎相容れざる境遇にあるものなれど、私交の方より言へば、少しも相爭ふべき理由を見出すによしなし。されば敵乍らも兩者互に胸襟を開いて相交り談笑縱橫、快を盡くして別るゝが常なりき。これ夫人にとりてせめてもの心遣りなりしならん。夫人は日夜夫のために心身を勞することを辭せず、殊に味方の軍勢が敵のために包圍せられし時の如きも、大佐の傍に侍して其心を慰め且つ勢はり、大佐の爲めに優しくして强き援軍と爲る傍ら又敵味方の負傷者を看護するに就いて、なか〳〵に尋常婦人の企て及ぶべからざることを爲せり。夫人は實に民黨の中に於ける一個慈愛に富る天使たりしなり。

　其後チャールス一世廢位の事あるや、一時英國に於て共和政治を行ふととなりぬ。これ正に民黨得意の時代にして、ハッチンソン大佐も亦撰ばれて、衆議院議員に列し、チャールス一世を糺彈する時に及んでは、高等法院判事の要職に當りぬ。この間こそ大佐にとりては、最も平和なる最も興味ある時代たりしならめ。而かも王政復古の結果、チャールス第二世の即位せら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るゝや、大佐は以前民黨に加擔したるをもて文武官に任ぜらるゝことを嚴禁せられしのみならず、代議士に關する撰擧權さへも褫奪せらるゝに至りしかば、大佐も時事日に非なるを見、暫く世外に超ちて、悠悠自適せんと欲し、一家を擧げて其故鄕の地たるオーソープに退散せり。此にて大佐の唯一の友たりしものは風月山川の類たりしなり

さはれ大佐が一度惡運の神に咀はるゝや、唯其幽囚の悲み、一に田園の隱退のみに止らず、今やチヤールス二世は『父王が讐敵となりしものは、必ず絶滅せずんば止まず。何となれば渠等は吾に對しても同一の不忠を敢てするを辭せざるべければなり。』と叫び出でてハッチンソン大佐の上にも一種疑懼の念を起し、『渠



や必ず田園に隱れて何等の隱謀を企てつゝあるや計り知るべからず。』と爲したる結果、終に大佐一家のものを捕縛して、倫敦の牢獄に投じ、僅かに妻子のみ放還せり。されど夫人と大佐との面會は容易に許さず、只管殘酷極れる待遇を爲して大佐を苦めんとせり。人世の災厄一に此に至る乎。此時に於ける夫人の憂愁はそも如何ばかりなりけん。若し普通の婦人ならんには、これがために病を醸して自身の日常すら辨ずるに由なかるべし。されど夫人に至ては其郎を思ふの心は炎よりも熱く、如何にもして夫の寂しき胸中を慰めばやと切に大佐に面會せんことを求め、夫人の兄なるアプスリー氏も亦傍らより辭を厚くして妹の望みを遂げしめらるゝやう切願せしを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

以て僅かに面を逢はすとのみ許されたれど獄中に留りて共棲することは決して聽許せられざりき。されば夫人は纖弱の身を以て鐵を熔かす夏の日も、霜柱寒き冬の日も、道程の遙遠なることを打忘れて、オーソープの家より牢獄の夫を見舞ひ、終日左右に侍して能く之に仕ふること前後四年、其間一日すら怠りたることなかりき。其貞操の勤行、誠に壯烈にして恐らく何人も夫人の志を奪ふこと能はざるべきなり大佐の如きも深く之に感動し、幽囚の中、一點慰安の光明を認むることを得て、喜ぶこと大方ならず。『吾可憐なる妻よ、御身にして若し此勤行を苦痛と思惟せざらんには、余は此幽囚こそ却て淸き極樂國にあるが如き心地するぞかし』と言ひにき。大佐たるもののかくの如き女丈夫を妻とす。死して恨みなしと言ふべし。

夫人はかく夫の賞賛と滿足とを得たるのみにては安んずること能はず、眞心もて妾を愛し玉ふ吾夫を此儘無實の罪に死せしめんことは如何にしても口惜しきことなり。天覆り地搖ぐとも夫の罪を濯ぎ去らでは止まじと決心し常に有司の許に至りて、其非道の所罰を免せられんことを求めしかば冷酷の法官、又人間の情を解せざるに非ざるが故に、いたく心を動かし之を放免せんとしたれど、蛇の如く讐敵を覘うて止まざるチャールス二世は、矢張大佐をも其一部なりと誤解して、愈よ許さゞるのみか、却て現狀よりも一層慘怛たるケント州中のサンダウン、カッスルへ大佐を轉ずるに至りぬ。これ生き乍ら大佐を墓中に葬むるに同じ。何となれば此牢獄の邊は、土地極めて卑濕にして健康に適せざればなり。故に此地に住するものは、唯獄吏の外は、獰猛殘忍なる强盜、殺人犯者の類のみ。大佐はこれ等下等にして友とすべからざる蠻野の輩と席を同うし、畜類にも劣りし待遇を受けしかば、さらぬだに疲勞せる身體は一層困苦を增加し、空しく暗黑の幽鬼夜なく叫ぶ處、恨を呑みて地下遠逝の客となりぬ。これ實に我國にては家綱將軍の時代にして、大佐が四十九歲の秋なり。見渡せば吹きすさぶ秋風に舞ひ落つる木の葉も此世の哀れを語りて、大佐の死を弔らひ顏なり。さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るにても琴瑟相和して、鴛鴦の情濃かなりし夫人の哀傷は、世界のあらゆる物を失ひしにも増して、身も世もあらぬ思ひせしなるべし。悲い哉、片羽既に他の奪ふ處となる。そも何によりて波荒き此浮世の大海を渡らんとはする。

然れども夫人は他の婦女の如く猥りに悲みに沈みて前後を忘却するものに非ず。夫人は尚ほ地下の人となれる夫の遺志を繼ぎて、此世と戰はざるべからざるなり。見よ、夫人の前には四男四女を養育し、致養せざるべからざる義務と、先夫の無罪を明かにすべき責任との横はれるものあるに非ずや、これ先づ夫人が處理すべき第一の務めなり。かゝれば夫人は、一方に於て能く其愛子を致養することを怠らざると共に



亡くなりにし夫を追慕するの心を筆硯に托して「ハッチンソン大佐の生涯」てふ一書を著述し、夫の無實の罪を拭ひ去らんとせり。此書に於て夫人は哲學的の立場より英國の黨派を觀察して、公平の見地を述べ、且つ黨派が何の爲めに起れるかを説明し、能く亡夫の精神の存する處を現はせり。これ誠に貞烈無比、梅花の風姿も其清操を凌ぐに由なき夫人の手に成れるもの、一字一涙一として他を動かさゞるなし。此書一度市に現はるゝや、之を購求するもの引きもきらず。一版盡き、再版盡き、參版終り、ほと〳〵十八版を重ぬるに至る。此に於て夫人の名聲は愈よ國内に洽く、貞婦としての夫人を知らざるものなきに至る、これも亦其德の致す處に依れるなり。（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學生問題

（戀愛亡國論）

◎甚だしい哉男女交際の聲江湖に囂々たる、是れ慶すべきの事か、將弔すべきの事なるか、予輩は愼重して是問題を解釋せんと欲す。

◎抑も男女の交際は男性の要求に出づるか、女性の希望に由るか、そは何れにありとするも是れ今日男女學生間に於ける事實問題なり、某大學生は七人の女友を有せるを以て同學生間に於ける勢力家なりと、又女學生間に在ては男を持つてふことが通語となれりと、某女學生は曰く、『妾共は交際が多いから學費がかゝつて困ります、どうしても普通二十圓は入ります、男を持つ方は廿五圓以上かゝります』と、以て都下に於ける現今男女交際の消息を知るべからずや、是れ時勢の致す處ろとして其儘放任すべきものなるか、或は何等かの制裁を加ふるの必要を見るなきか。

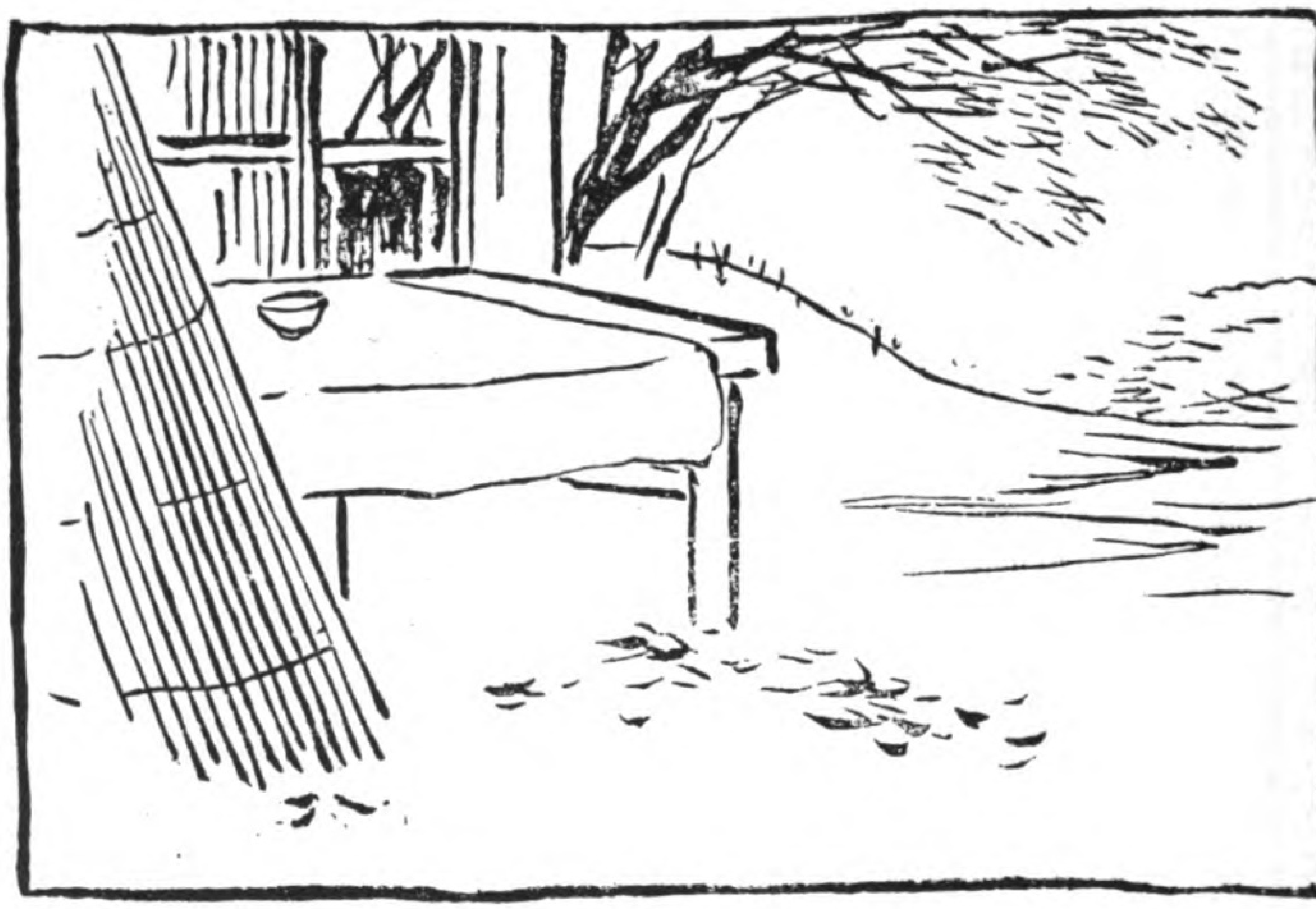
◎頃日某記者は時弊を嘆じて一策を獻せり、曰く今日男女學生の墮落を救濟するの法は兩性合併の學校を設くるに若くはなし、徒に時弊を恐れて兩性を遠ざくるは其弊を增長するに過ぎず、若し男女學生を一室に集め嚴正に之を教育せば風致を補ふ所多かるべしと、蓋し斯くすれば男女相互に讓合ふこと、和して流れざること相互に長所を見習ふこと、父母監視の下に交際せば奬勵心養成の一手段を見出し得ること、勉強と勤勞と品行とに就て相互に深き注意を抱かしめ得ることを期待せり、要するに男女學生をして交々相砥勵せしめんとするに外ならずと、嗚呼何ぞ誤れるの甚しきや、今日の所謂學生なるものは、斯く異性の助力を待て僅に發憤せざれば、以て成業し得ざるべからざる底の懦夫なるか、新聞記者をしてこの如き究策を呈せしめたる罪抑も何人にあるか。

◎見よ我國に於ける大人物は、之を遠く古に求むるまでもなく、近く西郷、大山、山縣、黑木、野津、乃木奥の陸軍諸將、東郷、井上、山本、上村の海軍諸將、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政治家として木戸、大久保、伊藤、大隈諸氏の如き、或は佐藤、高木、北里等諸氏の醫學界に於ける、其他文學に宗敎に 苟も後進諸子の理想とするに足るべき人物に付て見よ、その學生時代、青年時代に在て異性の助力を仰ぎたる者あるや、時勢とは言ひながら苟くも斯る言をなすものあるに至る咄々怪事といふべし

◎先哲曰く文を以て友を會し友を以て仁を輔くと、即ち文を以て友を會するは知を致すの方にして友を以て仁を輔くるは力行を謂へるなり、古來我が學生の身を立てたる多くは其朋友の善を責め仁を輔け



たるに因れり、故に交友その人に非ざれば啻に益なきのみならず久ふして之と相化し共に墮落するを免れざるを以て、朋友の撰擇は最も愼重に愼重を加へたるらし、孔子は爲に己に如かざるものを友とする勿れと訓へ、朱氏は朋友纔に己に如かざるも便ち敬畏の念少くして狎侮を生ず啻に益なきのみに非ずと云ひ文中氏は君子は先づ擇で後に交る、小人は交て後に擇ぶ、故に君子は尤め寡く小人は怨み多しと戒めたり、されば輭弱なる女性を友として何の得る所かあるべき、此の如きは古人先輩の大に耻辱とせる所なりき、現時學生なるものは殊に修學すべき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

學科は多岐に渉り、只さへ人格の向上に於て修養の餘裕に乏しき通弊なるに、剰へ異性との交遊に腐心する如き何たる不見識ぞや、恥を知るは勇に近しと古人先輩に對しても須く慚愧せざるべからざるなり。

◎男性に於て既に然り女性に在ても亦然らざるを得ず克く忠に克く孝に、世々其美をなせるは我が國體の精華にして、即ち忠孝は我日本國民道德の理想なり、男女に於て逕庭あるべからず、而も女性はその生家にありて生みの父母に孝養を盡くすは自ら限りあり、夜を日に繼ぎて一刻の懈怠あるべからず、此一點より云ふも何の暇ありてか男性を要して嬉戯するの餘裕あるべき、況して他日人の妻となり母となり主婦となるべき大なる準備を要するをや、その普通女性の手工として割烹、裁縫、紡織を修めざる可らず、更に町家の女は商ひの道をも習ひ、村家の娘は農業の業をも學び、その身分の高きに隨て音曲、挿花、茶湯等の女性的技藝も亦稽古せざるべからざるに、此等大切なる修業を差措きて先づ戀の理想のと云ふ學科を卒業し、異性との交際に憧れ亂るゝものありとせば嘆はしき極みならずや。

◎さはれ男女の交際はもと我が國の習俗にあらず、歐米の慣習なり、而して之を彼の國の現情に徵するに、若き男女の交際の狀態は米國を以て最も自由なりとすその相互交際を結ぶ順序は、双方とも家庭が明瞭に知れて身分の確實なる所より交を訂するを以て、本人同志の責任重ければ誤解を招く如きことは絕てあらず、例せば最初舞踏會などにて紹介せられ相互に知り合たる後、更に正式の紹介を經て男子より女子へ訪問しても差支なきやと問ふなり、此際女子より差支なしと返事せば、乃ち以來朋友と云ふこととなりて時々訪問することを得るなり。

◎而してその男子の意あつて訪問するを『コーチング』と云へり、此意味は幾分女子の意を迎へる爲に男子の出入することなり、斯くて兩々相携へて公園にも遊び演劇をも見るに至る、而して歐洲諸國に於ては必ず女子の爲に付添人あるも、米國に於ては大抵この事なし、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米國は啻に付添人なきのみならず夜十一時過る頃までは共に遊び歩くも咎むるとなし、但し割烹店等に入るとは互に謹しむものゝごとし、斯る米人の交際振りを見て獨逸人は『インポッシブル』即ち到底あんな眞似は出來ないと云ひ英人は『ショキング』即ち嫌なことゝ云ひ、佛人は猥褻(インヂーセント)なりと思へり以て歐米に於ける男女交際の程度を知るべし。

◎英國などにては男子の訪問が三四回に及べば女子の親より卿が娘と懇意にして下さるは辱いがその思召は如何と尋ぬるを常とす、此時若し男



子にして曖昧なる返答をなさば忽ち門前拂を喰はせらるゝなりと、米國に在ては一切父母の干渉なきを以て交友のまゝにて一二年に及ぶも差支なし、斯くてその交際する所の女子は只一人にして若し多き時は忽ち社會より擯斥せらるべしといふ。然るに男子は結婚を申込まんとして諾否の疑ひある塲合には、一時の權謀として他の女子にして同樣の交際を求むるとあり、さればその懇親が嵩じて共に公園に散歩し、劇塲に入るに至らば、人目に觸るゝを以て必ず社會より信用を失すべし。

◎歐米の男女交際には斯る制裁のあるあり、其交友の目的は結

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婚の準備にして相互にその夫たり婦たりべきものを撰擇する手段に外ならず、今日我が男女學生が學校の往復の途上、電車、滊車の室内にて卒爾なる邂逅に不謹愼なる應接を敢てする如き男女交際の謂ひにあらず、彼の男女學生の乘車を區別せし關西鐵道會社や、又或は「婦人無用」「男子無用」の電車の看板を希望せるものあるは時弊を憂る上に於て誠に止むを得ざるの策なりと云ふべし。

◎隈本有尙氏曰く、戀情の發達せざるものが相婚する我が國の風俗は甚だ危險なる結婚制度なり、我が國に於いて藝妓の如き社交の特別機關發達せるは、畢竟斯の如き結婚制度の產物にして、所謂戀せざる所に婚すれば婚せざる所に戀するてふ原則に支配せらるゝものなりと。

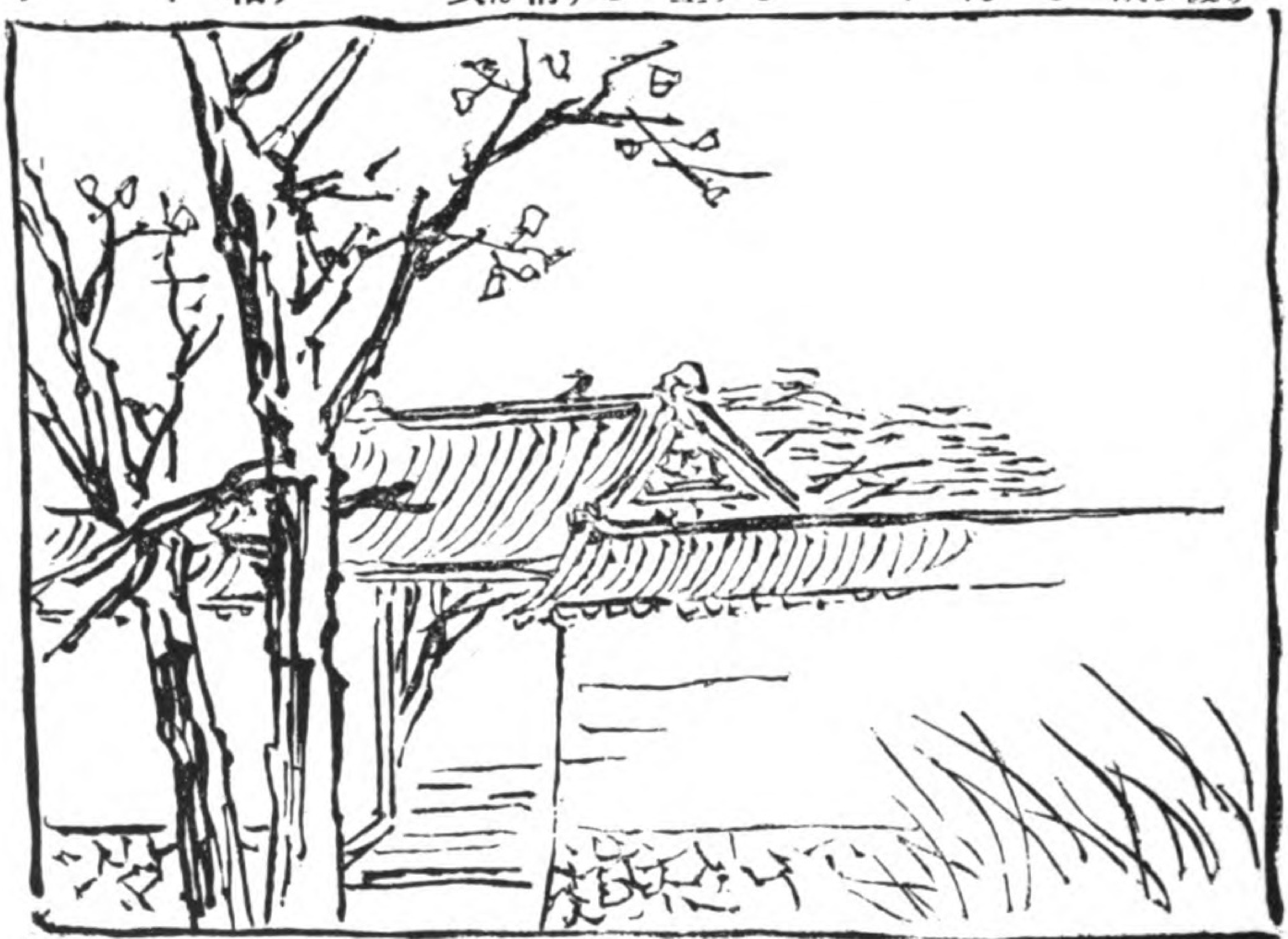
◎是れ隈本氏の誤解なりといふべし、抑も戀情は動物寧ろ生物の性欲にして是れ致へずして知り學ばずして悟る、生殖器の發達に隨て熾盛となり、生殖機能の枯渇と共に澌盡す、その自恣に放任して牽束する所なからんか、甚だしきは彼の電氣の兩極中和せんとして雲を起し雨を降らし、雷轟き電閃き樹を割き地を裂くが如き活劇を演ずるに至るべし、故に社會は制裁を設けて其の放縱を抑制し個人は克己の修養によりて自ら本能的發動を制壓せるなり、藝妓輩が我が社交的一種の機關なるは甚だ不幸なる風俗なり、舊時代の習弊に相違なきも、藝妓が戀情の犧牲たるは極めて少數にして、彼の醜業視せらるゝは單に劣情の餌食となるにあり、靑年にして放蕩なるものは大抵妻を迎へて覺醒し謹愼家たるに反して、中年にして意馬心猿の奴となりたるものは終に醒覺の期なく、產を破り身を亡すに至るもの比々皆然らざるはなし。

◎抑も戀情を主題としての結婚は經驗上決して喜ぶべき結果を得るものにあらず、戀情の犧牲として接近し來るものは眞夫にあらず、又眞婦にあらずして、所謂情夫なり情婦なり。西哲言あり、

情婦を娶るは自己の理想に適するや否やを察すべし
妻を求むるには自己の感念に合ふや否やを問ふべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し。(レナール)
婦人が容色既に衰へたる後なほ其情夫を抑留せんと欲するは、男子が破產したる後その交友の親みを保たんと欲すると一般なり、(ポープ)
十七八の少女は情夫を得るよりも眞夫を得んとを熱望す、然れども彼等の裝飾の甚だ華美なるよりして、情夫は先きを爭ふて來るも眞夫は大率逃去るもの多し。(アドルフ、リカール)
情人の誓盟に向ては神は相當の罰を有せり。(シリース)
情婦は之を獲るに苦むより



寧ろ之を棄つるに苦しむとあり。(シャンフール)
◎情人は即ち相互に性慾の遂行を交換するのみ、而も彼等の盲目なる戀以外には何物をも認めざるなり、見よ忠兵衛は親を捨てたるにあらずや、阿七は家を焚きたるにあらずや、然れども是れ尋常のみ、多くは身を以て甘じて戀の奴となれるにあらずや、此種の實例は日として新聞三面に顯はれざるはなし、されば戀情に依て成立せしめたる結婚は決して永久の幸福を受くるものにあらざるなり。
◎我が過去三千年の歷史に見よ我社會は雜婚時代もありき、自由結婚即ち處女の神聖を無視し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たりし時代もありき、然れども我が社會が疾くに性慾の放恣、換言せば自由戀愛の巨害あるを認め、其害を防がんが爲に一の戀情の制限を設けたりき、取も直さず古來我習俗は口に戀を云ことを恥辱とし戀は人に說くべからず又勸む可らざるものとなせり、故に多少の文字あるもの戲曲、或は草双紙の類に戀を唱へざりしに非らずと雖も、斯る輩は戲作者として賤め、又これを劇場に演ずる者は河原乞食として共に齒せしめざりき、されば如何に戲作物の芝居が盛なりしも、社會の公の風儀が之を美とせずして却て醜汚とし、苟も良家の處女をして接近せしむべからざるものとなしたりき然るに今日文明の恩澤に浴しつゝ此等の徒が、『藝術美』の名の下に保護せられ、嘆美せられつゝあるは實に苦々しき次第といふべし、是彼の卑俗なる西洋習俗の傳來せし影響に依るものにして實に社會を毒するの甚しきものなり。

◎故に成婚を待て玆に始めて滿身の愛を捧げてその夫たり婦たるものを戀ふべきなり、偕老同穴、天に在ては比翼の鳥、地に在ては連理の枝、我が婚姻法の眞意實に此にありと知るべし、彼の大聖基督は戀情の放恣を戒めて曰く、情慾の目を以て他人の妻を眄視するものは其心に於て既に是れ姦淫の罪を犯したるものなりと、豈啻に他人の妻のみならんや、情慾の眼を以て己が配偶者以外の女性を見るものも亦同じく是れ姦淫の罪を犯せるものなり、女性に於ても亦然り、己が配偶者以外の男性に秋波を贈るものは同じく姦淫の罪人たるなり。

◎これを要するに所謂男女交際は、戀情の發達上より云ふも、結婚の準備上より云ふも決して歡迎すべきものに非ず、否寧しろ大に制裁を要すべきものたり殊に兩性相互に砥勵せしめんとてその接近を許すと云ふに至ては、如何に時代の風潮とはいへ口實も亦甚しからずや、吾人は前述の次第よりして全然青年男女の交友相訪ひ相結ぶを非認するものなり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

科學



人類の祖先と兒童

藤　葉

人間は猿より進化したるものなりと多くの人は云へり、然らば今山に棲息せる猿も幾百年か幾萬年かの後には進化して人間とならるべきか、否猿の子は何處迄も猿の子なり、髮の毛三本足らざる故に人間にはなられざるにあらずと雖、猿の子も孫も決して髮一本も進化する能はず、人は猿より進化したるには有らず、猿によく似たる他の動物より進化したるなり、故に其動作は猿に類似したる點決して少なからず。

今より幾千年の昔なりしか、幾萬年の以前なりしか我等の祖先は猿と同じく山野に起き伏し、木の實を喰ひ、谷川に水を飲みて、他の動物と何の變りし處も無かりしならん、然るに此我等の祖先は他動物と悉く同じには有ざりき、即進化して、進歩する處の動物なりしなり、一日として同じ狀態に在る事能はず、一歩一歩と常に進歩せんと勤めつゝありしなり、此進取の氣象こそ他日萬物の靈長として貴まるゝ所以にして、此氣象なかりしならば恐らく我等は今も猶猿と異なる處なく、木にぶら下りて、群居し、山野をはせ廻り僅に木の實虫類を喰ひて生活する憐なる動物に過ぎざりしならん。

人類學上にては人間が他動物と同じ生活の狀態に有りし頃を原人時代と云ふ、此原人なるものは未だ智識發達せず、只食物を得て今日を生活するに過ぎざりき、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其心意の有様恰も未だ智なく道理を辨へざる小兒の如くなりき、兒童研究の次第に進歩するや、此精神の狀態の同じき原人を研究するの必要を認めて、而して其結果實に不思議なる面白き多くの事實を見出せり、小兒が日常の動作と原人が其當時生活したりし狀態とは實に多くの點に於て相一致せり、原人の生活狀態を追想して今子供の動作を靜に觀察するに、恰も此小兒と原人とは一の連絡を有して何等かの關係の其間にあるかの如く思はしむ、今小兒に就て其相類似せる點を擧げんに、子供は幼き時より人に抱かれ或は籠の如きものに入れられて搖らるゝ事を非常に悦ぶものなり、之恰も猿が木の枝にぶら下りて自ら身體を搖りて樂しむが如く、我等の祖先が其昔猿と同じ生活をなしたりし遺風の何萬年後の小兒に表はれしものならんか、又小兒は多く木に登る事を好み、高き處に登るを好むは皆人の知る處ならん、試みに田舍に行きて見よ、小兒の遊びは多く土いぢりか木登りなり、此木に登ると云ふ事も祖先の遺風にして、山野に生存する間には時には他動物の侵襲に逢ふ事も有らん、又木の實を取る場合等木に攀ぢ登る必要は常に在りしなり。

▲原人と食物

又何でも子供は貰ひしものを己が寢床に持ち行かんとする性質あり、己れがものを取られんとする時はあはてゝ己が股の下に隱さんとす、少しく大きくなりて歩行の初め頃には、己れの手の足りる限りの障子襖を破らんとす、何處の家に行きても子供のある家の障子は多かたは破れたり、是れ即ち原人が山野に食物を得たる時に他動物の常に犯す患あるを以て安心して其處に食するを得ず、止を得ず其得たる食物を己が最安全なりとして造れる巣の中に持ち行きて初めて食せしなりき。子供が食物を股の下に隱すも然り、猿が物を取られんとする時直に股の間に隱すと同じく、原人もかゝる動作のありしならんか、障子襖を破ると云ふも是亦偶然の事にあらず、前にも云ひし如く我等の祖先は其初め多くは木の實を喰ひて生活せり、然れども冬期に至れば充分に其食物を得る事能はざるを以て、止

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を得ず昆虫類を取りて喰ひしなり、此昆虫すら冬期は皆土中或は木の皮の間に蟄伏せるを原人はさがし出して食せしなり、其折木の皮を剝ぎて見出すと云ふ事が彼等に取りては非常に必要なる事にして、又常になし居たるなり、子供等に今其遺風の表はれて物を剝ぎ障子を破ると云ふ事が殆ど先天的の如くに何處の小兒もある時期には同じ動作をなすなり。

▲コロボックルの說

昔我國に大和民族の住まぬ以前にコロボックルと云へる一種の人種ありき、今のアイヌの云傳へに依ればコロボックルとは款冬の葉の下に住む人と云ふ意にて今の人種よりは體軀非常に小さく常に款冬の葉の下に雨露を凌ぎて生活し居たるなりと、此種族が南の方九州より次第に中國に進み東北に廣がりて多くの事蹟を今に殘せり、現今所々より掘り出す貝塚石器等は實に此時代の遺物なり、扨此コロボックルなる原人は如何なる生活をなしつゝありしや原人が生活の狀態は世界各國何れの國に於ても殆ど同一の方法によりてある時代を過せり。



▲原人の器具

當時彼等は未だ金屬類の使用法を知らざりしを以て凡ての器具は皆石或は骨類を以て造りたり、日常の生活道具も敵を防ぐ武器も、皆此石を以て造りしなり、即石斧石劍矢の根石を初めとし骨槍天狗の飯貝雷槌等は皆石器骨器の例なり、即自然物中にて最得易く最多くありしものなり、彼等は此石類を用ゐて久しく生活し居りしが、彼等の智識は次第に進みて石にて物を造るの容易ならざる不便を感ずると共に一面何か之に代るものをと常に心掛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

け居たり、而して此石器時代に次ぎたるは金屬の內にて比較的早く溶くる處の銅を發見せしなり、彼等は此處に金屬を溶して種々の形に鑄る事を工夫し即銅器時代を造れり此銅器時代は終に進みて鐵器時代となりしなり

▲原人器物と小兒玩具

一面人類學上には斯る歷史のあると共に今日兒童が弄ぶ玩具には之等原人が其生活に用ゐたる器具に類似せるもの非常に多きは實に奇なりと云ふべし、即兒童が戶外に遊ぶ時には必ず自然物たる石とか木片竹切れなどを用ひ平たき石を臼とし、細長き石を杵として或る種類の植物をつき碎きて食物を造る事に擬し、石を積み上げては家を造る事に擬するなど、皆昔コロボツクル時代の原人が其生活の必要上よりなしたる動作と殆ど同一の事をなして遊ぶなり、其他の遊戲に於て一層原人若くは野蠻人と兒童との接近せるを認むる事を得るなり、即兒童には一般に橫穴若くは縱穴を掘るを悅ぶ性質あり、之原人時代彼等が住家には此土に穴を掘りて住みたるなり、只兒童は己の入り得る程の大なるものを造る事能はざるを以て、彼等は己れの適當なる代理者即昆虫蛙などを捕へ來りて之に幽閉して悅ぶものなり、又何れの國に於ても兒童の社會に一般に行はるゝ鬼ゴッコとか鬼遊びとか云ふものあり、此遊び、原人が弱き者を捕へて己が奴隸となし或は物を奪ひたる遺風が兒童に再現せられたるものなり、且兒童は疾く走る事を非常に好むものなり、之は生理上の自發運動のみならず原人時代に於ける生存上の必要なりし事なり、即原人は敵を避けるにも食物を得るにも又己が配偶を得るにも疾く走ると云ふ事は彼等に取りて誠に必要なりしなり、野蠻蒙昧の時代には智を以て生活すると云ふ事なければ自然何事にも身體を働かして生活を營みしなり、兒童が無心に疾く走る事を悅ぶは之等の本能が自然に發現したるなり、又兒童は一般に慘酷なり原人も亦然り己れの心に適はぬ時は如何なるものも之を殺して意とせず、之智力的の考へなくして只一時の感情によりて事を行ふを以てなり、凡ての

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

野蠻人も亦然り、嘗て西洋の雜誌中に、世界探險家の記事あり、亞非利加の南方の或る海岸に船を寄せて船中より陸の有樣を眺め居たるに、一人の土人其子供らしきものを從へて海岸に來り、頻りに貝類を取り拾ひては兒童に渡せり、兒童は夫れを籠の如きものに入れて持ち居たるに如何はしけん過ちて手をすべらし、籠を海中に取り落せり、夫れを見たる彼の父は大に怒りて矢庭に兒童を捕へて足を持ちて險しき岩に其身體を打ち付けたり、無殘や小兒は肉破れ骨碎けて鮮血淋漓として死せり、父は別に悲む色もなく死骸を片手に引さげて岩の上なる穴の如き住家に歸り行けり、其處には彼の妻らしきが之も別に意にも留めざる風にて、やがて火を盛にたきて其死骸を燒きて二人して食せしを見しと。


伊吹じやこう草

是等は吾人に取りては非常に慘酷と思へども彼等は一時の感情に依りて之等も敢て意にせざるなり、兒童が往々同情に欠けたる行爲をなし動物を捕へて之を殘酷になぶり殺しにして何とも思はざるも原人野蠻人と同じ心より出でたるなり

▲原人と色

又兒童が日常の玩具に多く好む色は何かと云ふに、大抵は赤、綠、黃色など其重なるものなり、之等は其色の鮮明なるのみならず一種本能的に好むなり、即、其原因を尋ぬれば原人の最も悅びたる色なり、凡て人に快樂を與ふるものは其ものが其人に取りて生活上の必要より來る事多し、即ち原人に取りて赤色は肉の色、綠色は草木野菜の色、黃色は彼等が住居としたる土層の色なり、之等は皆彼等に取りて一日も欠く可らざる物の色なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しを以て、自然好めるものなりしなり、斯く兩々相比較し來れば多くの點に於て類似せるを見るは誠に注意すべき點にして、人類が野蠻より文明の域に時代を追ふて發達する順序と、人が幼年より成人に發達する順序とは智力の點を初め、凡て殆ど同一の順序にして恰も互に一の聯絡を有せるが如し豈奇ならずや。

鯨の話

K、M生

鯨一頭寄れば七浦潤ふといふ諺がある、一頭の魚が寄ッた爲に七ケ村の住民が豐作を祝ふといふのは如何に此の魚の大なるかを想像するに足るべきである。元來鯨は古來東洋諸國ではいづれも魚族として見られて居たものであるが、鯨は魚族ではなくして一種の獸類である、それは彼れが鰓に依ッて呼吸せず、我々人類と同じく肺の臟で呼吸する動物であるのみならず、彼れが海中に住むのは自然の必要で、第一彼れの如き巨大なる動物の需用すべき食物が陸上に於ては容易に得られない、第二彼れの如き巨大なる體軀が陸上に於て運動するのは頗る困難である、この二個の必要上からしてどうしても彼れは萬頃の波濤洋々たる蒼海中に棲息しなければならないのである。

動物學者は鯨を以て前世界の遺物として居る、前世界に於てはマンモースと唱へる巨大なる象、其象は現世界に於て見る所の象の十數倍も大なるもので、先年西比利亞で發見された其象の牙の長さが三間以上あッたといふを以て見ても如何に其の體軀の巨大なりしかを知るに足るべきである、併し鯨は其象よりも猶大なるものであるから、前世界、當世界を通じて巨大なる動物は實に此の鯨である。

鯨の一番大なるものは「なかすくじら」と稱する一種で身長實に十五尋以上に及ぶ、一頭の價も金に見積ると凡そ三千圓七浦潤ふといふのも決して僞ではない、日本で多く產するのは「せみくじら」と稱するもので、其の鯨から採れる油ばかりでも百石以上、代價に積ッ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て千五百圓が物はあるといふ、其外「ざとうくじら」といふのがある、それすら千圓近くの價を有するといふ事である。

△鯨の游泳區域

鯨は日本海沿海幷に太平洋沿海至る處ろに游泳して居るのであるが、内地で最も多く捕獲するのは紀州熊野浦である、元來鯨は寒冷なる海中に棲むものであるが、十月頃より段々と南海の方に游泳して來るもので熊野浦は丁度其の通路に當るから秋の末よりかけて二月頃までの間に多く捕獲される、夏季中は日本海の北方、或は北海道北見沖、若しくは樺太沿岸に多く出沒する、本年夏樺太占領軍が向ッた頃には其の沿岸に無數の鯨が潮を吹いて游泳して居るのを目撃したといふ事であッた。



兎に角鯨の産地は、千島、樺太、オコック海、カムチヤッカ方面が本場である、此の邊の獵場は多年米國の捕鯨船の爲めに蹂躙されて居るとの事で今では日本鯨獵會社といふものが組織されて遠洋鯨獵に出掛ける事になッて居る、そこで今此の鯨獵の狀況に就て一寸述べると。

△捕鯨の景狀

米國の捕鯨船は十年以前から本邦の沿海に來て鯨を取り莫大なる利益を得つゝあッたのである、然るに日本では別に捕鯨に就て大規模な獵船はなく、唯、沿海に來るのを待つて不完全な漁船を繰り出し船で圍んで海上を逐ひ廻し、漸々と陸の方に逐ひ詰め、銛を打ッて血液を出し、鯨が衰弱して死するを待て陸に引上るのである。そこで或地方では浦の規約として一番銛を打込んだものは第一の手柄で鯨の半分を取る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事になッて居る、其銛には村の名を記した木標を附けて畳といふ、一番銛の重量は三百目長さ二尺計もある。

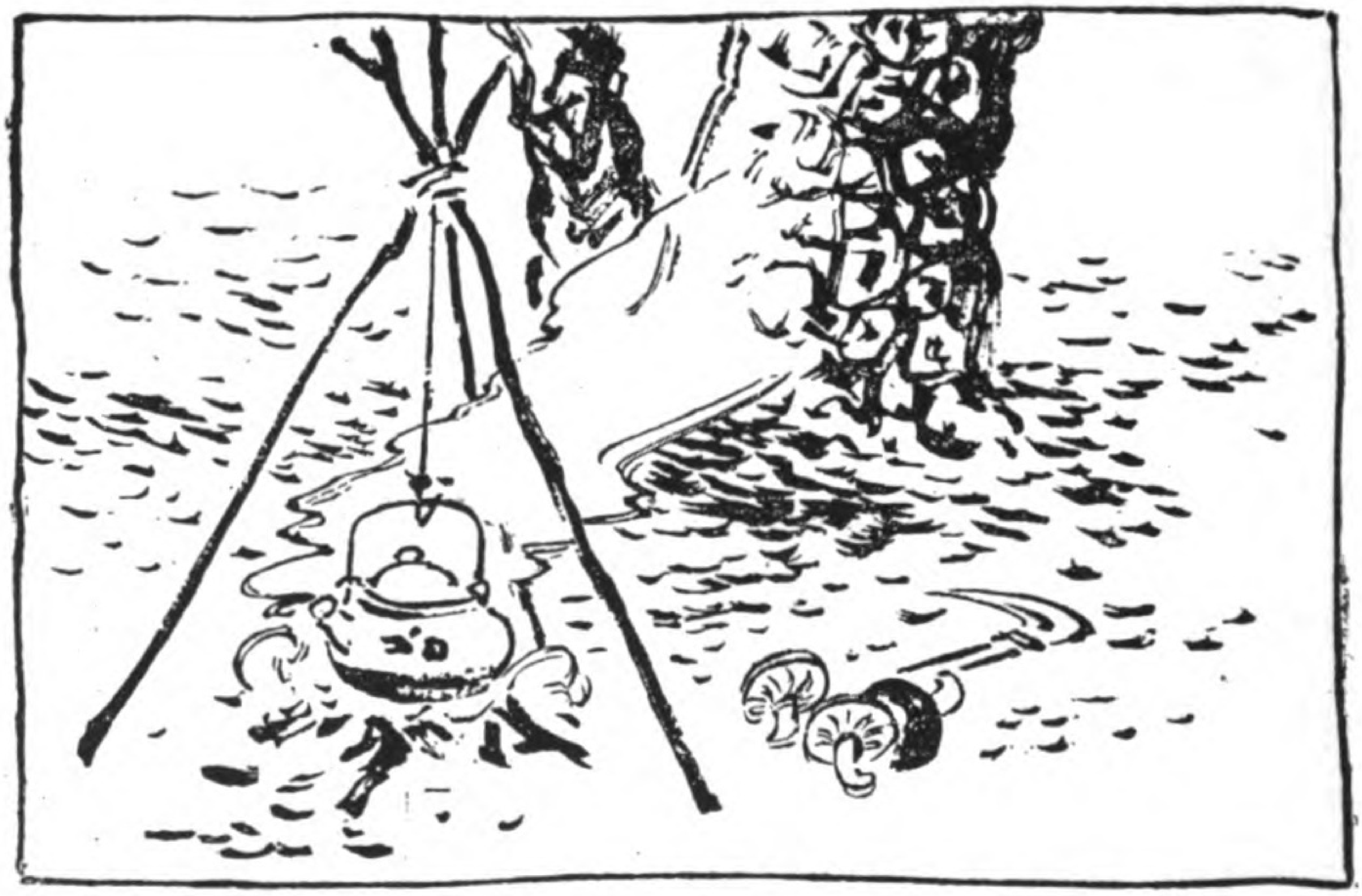
又進歩した捕鯨法は、鯨の來さうな浦々では平素高臺に双眼鏡を裝置して、海上を遠望し若し鯨の游泳し來る事あれば煙花を揚て漁船に報知する、兼ねて網、銛等を準備した船は直ぐに漕ぎ出して之れを逐ひ詰め網を張ッて逃道を塞ぐ所謂包圍をするのである、然るに近頃では専ら新式の捕鯨船を使ひ、小銃彈で捕獲する事になつたのである。

元來抹香鯨の出沒する區域は極めて廣いもので、紀州沖、小笠原島近海より北は千島の沖合、更に進んで露領コンマンドルスキー列島、白令海に到るまで抹香鯨の群を見ざるなく、就中初夏の頃より、中秋の頃は陸前陸中の沖合、金華山沖、秋の末より冬春の間は房總沖、常陸沖に最も多く群游して居る、獵期はまづ三月より十月までが好期である、勿論冬季でも獵獲する事も出來るが、冬は海上不穩の日が多く且つ晝間の時間が短いので勞働に不適當であるさうな。

或日の事新式の捕鯨船が小艇十艘ばかりを引つれて金華山沖に出た事がある、すると船の右舷の方に當て二里計りの處ろに三十頭許の抹香鯨が二群になッて游泳して居るのを認めた、けれど最早夕刻ではあり、波も荒いといふので已なく追擊を止めた、其翌朝未明に起きて見ると船の周圍は鯨の大群で以て取卷かれて居たのである。恰も一隻の巡洋艦が敵の大艇隊に包圍されたやうな形になッてゐるのである、さあといふので乘組員は夫れ〳〵受持の漁艇に乘り移り鯨群目蒐けて進む中に一頭の大なる鯨は最先に一隻の小艇の傍へ悠悠と泳いで來た、機失ふべからずと砲の覘を定めて引金を引くと雷管に故障があッて發火しない、其中鯨は段々近づいて來たから今度は銛を打ッたら覘誤らず其の大鯨の眞向に當ッた、すると鯨は驚き怒ッて廻轉し、急に泳いで逃げ行く際、銛綱が艇の檣に搦まつてアハヤといふ間に艇は水中へ引込まれて仕舞ッた、艇中の者共は鯨の追擊どころにあらず、僚艇に救助を乞はねばならぬ始末となッて一時は中々の大騷動、乘組人は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

命から〳〵で本船に立歸ッた事がある、それから又或る日、又鯨の一大群に遭遇した事がある其の時は前後總計七八十頭の大群であッたが游泳の狀を見るに或者は巨大なる頭を海面に突立て或者は尾鰭を翻へし、又或群は繫ぎ合せたる材木の漂ふが如く巨大なる脊を夕陽の光に曝らし、七八頭乃至十四五頭宛の群が半海里乃至一海里位を隔てゝ都合五群になッて居る、此時二隻の艇は勇み進んで一群の列に近づき其一艘は群の列より少し後れて泳いで居る兒連の一頭の鯨に乘り掛ッて美事に突くと鯨は頭をあげ體を躍らし尾鰭を振廻はし暴れ出したが是れを見る



と諸方の群は驀地に猛進して來た、そこで他の一艘は其群中に割つて入り一頭の鯨の正面頭部より行き違ひさま逆に銛を突いて美事命中した、すると其群は兩方に分れて相共に狂ひ廻はつて居たが、後より突いた艇は其銛綱を少しも伸ばさず、手繰り詰め〳〵其鯨に乘り掛つて素早く破裂矢を打ち劍を刺した、すると噴水口より血煙を吹き始めた、此の時の光景は實にすさまじいと言はうか、凄いと言はふか、壯快の狀殆んど言語に盡くされない、丁度彈藥庫に破裂丸でも飛んで來て、數千の彈藥を一時に燒いたやうな光景であッた、さア斯なつて來ると鯨も死

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

物狂であるから一生懸命に狂ひ廻ッて猛烈に艇を曳き出した、其の曳き様は恰も環のやうにぐる〳〵と廻ること凡四五分間にして其儘仰向になッて斃れて仕舞ッた、そこで直に其銛綱の一端を本船に擲げ渡して之に縛りつけ、一條の銛綱では又切れる恐れがあるから艇は更に又其鯨に接して銛を突入れ再び本船に漕ぎ歸ッたが其鯨はまだ死ない然るに他の艇で突き止めた鯨群もまだ死に切らないまゝで本船の前後左右に取卷き凡そ四五十頭も狂ひ廻り、交々潮を吹きながら船と一緒に曳かれて行く樣實に壮快なるものである。

△鯨の價値

抹香鯨は他の鯨族と其形狀性質共餘程異ッて居る、頭部は極めて巨大で、全體の長さ殆んど三分の一を占め、此所にスパームマセチと稱する最も貴重なる鯨腦油を多量に貯へて居る、(此の鯨腦油といふのは懷中時計の如き極めて細い機械に使用する油として用ひらるるもので極く高價なものである、)全體の長さは最大なるもので九十尺、下顎骨には象牙よりも尚光澤ある、齒を有し其の齒の大さは牛の角位ありて其數四十八本乃至五十本あり、體の色は概して黒褐色で體の脂肪皮は厚さ五寸乃至一尺位ありて、鯨飯、又は鯨汁の材料となるは即ち此の脂肪皮である、此脂肪皮よりもスパーム、オイルと稱する多量の鯨油を産するのである。

此鯨は好んで沖合を游泳し近岸に來ることは稀である、常に七八頭より二三十頭時としては數百頭の大群を成し、毎年秋季になれば群中の雌は各自に皆長さ二尋乃至四尋位の兒供を引連れ又五尋乃至七尋位の兒供許の大群を見ること度々ある、それで其群中の一頭が銛などで突かれる時は離れて居た他の鯨族までが其前後左右に蝟集して之を保護して始終附き纏ひ鯨の斃るるまでは離れ去らない、實に動物中鯨ほど子を愛するものはあるまいと思ふほどである、又時々其の巨大なる體の全部を全く水面以外に飛び上らせ高く水を跳ね上ぐることがあるから獵船は鯨群を探知するのに至極都合がよろしい、彼等が敵にでも逐はれた時、又は食物でも追ふ時には迅速に泳ぎ行くが、まづ、概して最も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

徐かに游泳し、時によりては全く靜止して浮いて居る其の樣恰も材木の漂流するやうに見える彼等が海面に出でゝ呼吸する時間は長くて五分間乃至三十分間位で、又沈入する時は高く尾を上げて體を直下して入り五分間乃至十分間位で再び浮び上るのである、兎に角抹香鯨は水面に浮び出づる事長く、游泳の緩漫である事、艇の鯨に接近し易い事、銛を受けても直ぐに引去らない事、斃れて後も脂肪の極めて多量なる爲めに海中に沈まない事などは他の鯨族と大に異なる處ろで捕獲するのに好都合である。

　で此の鯨の生産物は、前記の



鯨腦油、鯨油、及び蠟鯨鬚であるが其使用の途は世間百般の工業に亘つて實に有益なるものである、彼の鯨鬚は長さ十尺に亘り鞭、刷毛、幷に蝙蝠傘の張骨に製造せらる。

　元來鯨は非常に巨大なる動物であるから、沿岸に寄ッて來たならば兎も角、遠洋に出でゝ船で獵する時には鯨全體を持つて歸る譯には行ないそこで鯨油、煎滓、尾羽、齒等を採取する丈けに止まり其他の赤肉、及び骨の類は悉く海中に放棄せなければ到底始末が出來ないのである

　兎に角鯨は海陸産の動物中世界最大なるもので、其油や、鬚尾羽は工業用となり、其肉は食

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

用となり、其骨は肥料となり全體殆んど棄る處ろない重寳な海獸である。

蜘蛛の話

蝸象生

蜘蛛といふ虫は極めて毒々しい姿を持つた虫類で、小供達は兎角これを厭がるが此の虫は割合に人間に害を及ぼさないのみならず却て益をするのであるといへば少々異に聞こへるけれども其實夏日人間の生活に妨害をする蠅、蚊などを退治するといふ役目を以て居るのである。

如何にも蜘蛛は惡黨退治に適當の姿を以て生れて來て居る、彼れの頭と胸とは同じ部分にあツて、腹は胸に續いて居る、そして其腹の大なる事は非常なもので彼れは蠅を、蚊を口から此の腹へ運び溜めて置いて獵のない日にそれで凌いで居る。故に蜘蛛は一週間や二週間何も食はずに居ても平氣である。

蜘蛛は亦獵虫として極めて怜悧なものである、そして彼れが惡虫を獵する方法は網である、若しも夏の夕方蚊の一群が雷鳴の如き聲をなして庭の植込から寢室の方に襲來せんとするや、彼れは網を張りて之を網羅し、十疋の中三四疋までは必らずこの網に擒にするのである。

抑も蜘蛛の網は何であるかといふに、これは恰も蠶の糸と同じく腹の中から吐き出すのである、一體蜘蛛の腹中には糊のやうな粘氣のある汁が有つて、それを腹の外部にある小さな氣孔より一度に糸のやうに吐き出すのである。そして其汁が一度空氣に觸るゝや、直ちに固まつて糸となるのである、蜘蛛はその糸を以て昆虫を捕へるのみならず又自身が此の小さき糸を傳ふて樹の枝から枝に、天井から床に下るのである。若し人間に蜘蛛の輕業ほどの仕事が出來るものとすれば、月世界から地球へ飛び下る位な事も出來やうと思ふ。

併しどうして斯く彼れが素早く働き得るかといふにそれはこの虫の足の作り方を知らなければならぬ、蜘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蛛は八本の足を持つてゐる、其足には何れも三つの脚掌がある而して二つは大きく一つは小さく而かも其脚掌には齒の様なものが澤山附着して居る。

蜘蛛の雌は卵を背負つて歩いて居るが其卵からは子蜘蛛が生れる、さて親蜘蛛が子を育つるには自分の腹から吐出した太い柔らかな網で包んで小さな玉の様な形ちにしてそれを其身に附けて置くのである。

蜘蛛が蚊を捕るに尤も工風のあるやり方は蚊が一夜中人の血を吸ふて滿腹し、燈籠のやうに膨れて翌朝凱旋歌を唱へつゝ古巣へ歸り心地よく木の葉に止り居る處ろを蜘蛛は見附けて近づき、眼を以て巧みに距離を測りつゝ不意に電の如く飛びつくのである、此の時蜘蛛は其口から



毒液を吐いて蚊の全身に塗りつけるので蚊は忽ち死んで仕舞ふのである、すべて蜘蛛が巨大な虫に逢ッた時には必らず口から毒液を注ぎかけて其の虫を殺ろし、そして徐々に餌食にするのである。

蜘蛛の種類は極めて多い、山蜘蛛、土蜘蛛、壁蜘蛛、いづれも其の住む處ろの場所によりて獲物を獵するのであるが、又其場所によりて姿態を異にし、外皮の色を殊にする樹木や、家の中に居る蜘蛛は概ね鼠色であるが山林中に居るものは青、紫、紅、綠、様々の色彩を備へて居て且つ其體も餘程大きく、往々一寸位の丈を有するものがある。又蜘蛛の目は八ッあつて中々鋭く物體を見辨るものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

郎君放語

巖谷小波

十一　實家の讃美

僕の妻のホームシックにも困るよ。ホームシックと云つたつて、何も實家ばかり戀しがつて、毎日メソ〱泣いて居ると云ふんぢや無いが、何しろ夫の家よりは、親の家の方が萬事好いと見えるのだ。

で、動もすると用をかこ付けて、實家へ行く機會ばかりこしらへ、また實家へ行つた日には、急に歸つて來ないんだから困るよ。

さうで無くても、平生から自分の實家を、世界無二の黄金郷と心得て、自分の親や同胞を、又と無い佛樣ばかりと思つて居る。

無論自分の育つた家、自分の血を別けてもらつた人だもの、惡く思へる譯は無いが、何しろあゝ身贔負でも驚く。

で、何かに付けて實家の事が、一番善く見えてたまらぬので、一寸世間話が出ても、二言目には實家の噂だ。

ヤレ實家では何うだの、父は斯うだの、兄はさうぢや無いとか、妹はこんな風だのと、例が一々實家から取られて、而もそれが一々善い事づくめ。

これも當人の世間不見から來る事、むしろ無邪氣な所だと、僕自身は恕しもするが、それでも聞いてあまり好い想情はしない。

況んや僕の方の親や同胞だ、その話の出る度に、又かと云はない斗りに、顔見合はせて、眉を顰ませる。

所が當人には、一向それには御氣が付かれんから、平氣に成て實家の讃美だ。間に入つた僕の聞づらさ！あんまりだから、僕も遂に思ひ切つて、此間一寸注意してやつたら、それでもまだ本人には、その注意の旨意が解らんと見えて、何だか不平さうな顔をしてるぢや無いか。

巳に他家に縁付いたからは、其家がもう自分の家で、

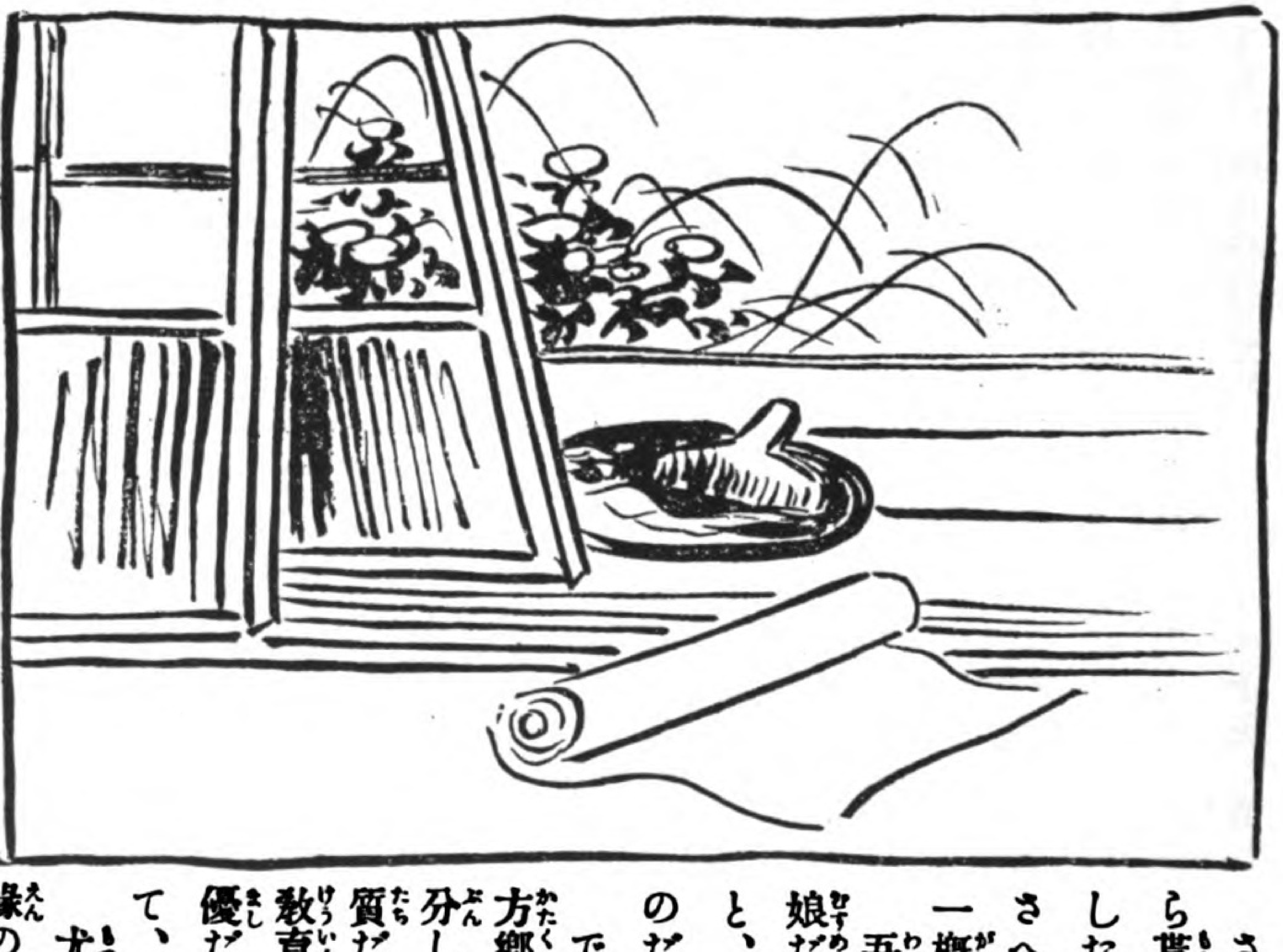
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

他には何所にも無い筈ぢやないか。それに、何だか客分に來てるか、それとも奉公でもしてる氣で、只實家ばかり戀しがつて、所謂ボームシックを擅にされるのだ、妻として決して難有く無い心掛だ。

それと云ふのも、畢竟僕の妻なる者が、なまじ幼時から順境に斗り立つて、少しも世間を見た事が無く、苦勞と云ふ物を嘗めた事が無い故だ。

イヤ、『小學』の中にあつたと思ふ、凡そ妻を迎へるには、自分の家より位置の低い所から迎へろト。古の聖人は矢張り感心な事を云ふよ。

十二　過ぎた謙遜



さうだ。妻は位置の低い所から貰ふに限る。が、それは苦勞した者と云ふ事なので、只位置さへ低ければよいとは、決して一概に云はれんよ。

吾輩の妻は、實は同藩の者の娘だが、元と吾輩の家に比べると、ずつと小身の家に生まれたのだ。

で、教育も一通はあるが、大方郷里で受けて、而も苦勞は十分して居る上に、至つて温和い質だから、なまじ東京の海老茶教育を受けた、跳返り者よりは優だと思つて、吾輩から所望して、遂に迎へる事にしたのさ。

尤も其當時は、『釣合はぬは不緣の原因』などゝ云つて、一應

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

辭退はしたものだが、封建時代なら知らぬ事、明治の社會にそんな理窟は無いと云ふんで、漸く迎へ取る樣に成つたんだ。

所がだ、さて妻に迎へて見ると云ふと、思半ばに過ぎぬのでネ……成る程人間も素直なら、無論馬鹿ぢやあ無いんだが、何しろ無暗に謙遜なので、實際妻たるの威嚴に乏しいのだ。

それも一つは母親が悪いので。吾輩が所望して貰つた娘を、自分は妾か下女にでも出した氣で居んだらう。例の古風な女大學流で、十分心得方を注意したものだが、それが深く頭腦に染み込んだと見えて、吾輩の所へ來てからも、只命是從ふの、絶對的屈從主義を取つて居る素直と云ふやあ素直の樣なものだが、それでは張合が無くつて、實に面白くないもんだよ。

で、吾輩も、何うにかしてこれを打破してやらうと思つて、時には極端な平等主義を取つて見ると、先方は只恐縮する斗りで、却つて何等の効驗も無いのだ。一寸一所に散歩に出ればと云ふても、彼は終始後に退がつて、影を踏んだら罰でも當る樣な、小心翼々として尾いて來る。それぢやアまるで下女を供にする樣で、碌に物も云はれないから、此方は强ひて步調を緩めて、それと肩を並る樣にすれば、先方はまた恐縮して、更に後へ引退がつてしまふから、また雁行に成つてしまふ。

此樣な風で此間なんぞは、銀座通を散步するのに、おまけぢやあ無い、ほんとに三時間かゝつてしまつた。これぢやあやり切れなからうぢや無いか。

かう云ふ風だから、吾輩の事を他人に話すにも、皆旦那樣々々々と云つて居る。下女や書生かならそれでもよいが、吾輩の友人や、時には上位の者にまで、この旦那樣を振り廻はされるには、旦那樣却つて冷々する譯さ。

何しろ身分の低い方がよいと云つて、かう無暗に卑下されるのも、餘り感心すべからず。——釣合はぬは不緣の原因とは、矢張り巧い事を云つたものだネ。

十三　過ぎ者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

過ぎたるは及ばざるが如しと云ふが、君の細君の謙遜過ぎたのは、寧ろ大に恕すべしだ。

それから見ると、同じ過ぎたのでも、僕の妻は出過ぎの喋り過ぎ、も一つおまけに遠慮の無さ過ぎと來て居るんだから、ほと〳〵亭主手甲摺つてしまふ。

それでも友人等はあの妻を、僕には『過ぎ者』だと云つて居る。無論そりやあ過ぎ者だらうよ、だがかう云ふ過ぎ者は、決して有難くは無いからねエ。

それがと云ふと、彼の實家がなまじ名家で、彼自身がなまじ教育があつて、その上なまじ才氣があるもんだから、(も一つおまけに、なまじ容貌が惡く無いものだから) それで何うしても自信力が強く成つて、引込んでは居られない事に成るんだらう。

イヤ、實を云へば、僕にも多少罪がある、元々彼を迎へたのは、その實家の名家たると、彼自身に教育のあるのと、またその才氣にも容貌にも惚れて、大いに運動して貰つた形があるんだが、是が抑々彼をして、その自信力――寧ろ自惚心を高めた原因と成たのだ。

今一つ僕の誤つたのは、元々此方から好んで貰つた位だもの、已に我有にしてしまふと、また人情で誇りたくも成り、來る人毎に紹介たせり、出る會毎に同伴した事だ。

其所へ持つて來て、友人の方ではまた寄つてたかつて、君には過ぎ者だ、實に立派な細君だなど〻、おだてる、これが自然と本人にも聞えるから、根が淺墓な女だもの、かうされると、勢ひ付け上らざるを得ない。彼をして今日の如く、出過ぎ、喋り過ぎ、無遠慮過ぎの、三德(?)を見事備へるに至つて、眞の『過ぎ者』たるに及んだのも、思へば無理も無い次第と云べしさ。

イヤ君達も恨みだよ。――今でこそ君の令夫人にも驚く、君の細君には閉口だなど〻、あの勢に辟易してる樣だが、元はと云へば皆君達が、才媛だの賢夫人だのと、餘計な油を掛けたからだぜ。

それでも君達は他人だから、五月蠅いと思やあ寄り付かずにも濟むが、夫たる身の僕こそ好い面の皮、癪に觸るとは思ひながら、生涯一所に居なけりや成らん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のだ。

ナニ、それを矯正すりやあいゝ？あれが矯正される風か。なまじ抑制の態度を取つて見たまへ、毎日風波の斷える事はあるまい。仕方が無いから諦めて妻が出過ぎ者ならば、僕が引込み過ぎ者と成つて、漸く平均を保つて居る仕末さ、あゝ過たるは及ばざるに如かず。

十四　榮達の目的

成る程貴君の奥さんには、私も二三度お目に掛つて居りますが、貴君のさう仰有るのも御道理で、十分御察し申します。が、それと同じ筆法で、私の方にも御同情が願ひ度いです。

と云ふのも、全く私が御同感に、所謂『過ぎ者』を背負込んで居る故で、今更後悔の他はありません。

尤も私の方の過ぎ者は、出過ぎも喋り過ぎも致しませんが、只その生立、習慣、嗜好、性質等が、皆私には過ぎ者なので、先刻も何方かの御話にありましたが、自分より地位のよい家から貰つたのが、抑も私の大失敗なのです。

それと云ふのも、恥を申さなけりやお解りませんが、全く私の根性が卑屈だつたので、なまじ持参金が付くの、臺所は當分實家で持つの、更に打明けてお話し申せば、婚禮當時の費用の如きも、七分は先方で負擔するのと、都合の好い話であつたものですから、元々貧書生上りの腰辨根性で、何だか非常に有難く思はれて、碌に考へもせずに極めてしまつたんです。

すると何うでせう？その持産なる物が、元々不動産の上に、監督は實家ですると云ふんですから、私には一文も自由に成りません。

臺所費と、化粧費と、それに隨いて來た下女の手當とは實家から出るに相違ありませんが、それが却つて私の爲めには、大いに過ぎた者なので、なまじこの補助あるが爲めに、家も今までの樣な所には住へず、また書生も置かなければ成らんし、下女も殖やす必要が起つて來ました。

更に負擔に堪へないのは、妻が非常の着道樂と來て、其上音樂會や芝居の變り目には、決して免かさないと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

云ふ風なのですもの、この欲望を充たす爲めには、薄給私の如き者の苦心、決して戰後の大藏大臣の比に非ずです。

是と云ふのも、皆實家に居た時分の習慣が惡かつたので、今と成つて之を矯めるのは、實に一ト通の困難ではありません。

さうかと云つて、決して性質が惡いと云ふのではありません、若しそれがその欲望を充たすに足るべき、相應の家に嫁いたならば、實に立派な令夫人です。只私の様な者の妻に成つた爲めに、彼も滿足を得なければ、私も聊か不平を感じる、つまり双方の不幸なので……

と云つて、今更離縁は無論出



來ません。で、仕方がありませんから、此上はこの不幸を幸福に轉じて、今でこそ意氣地無けれ、他日は必ず榮達して、あの妻の欲望を充す様に成らうと、大いに奮發する事に極ました。それに付けても、何卒諸君御引立を願ひ升！

十五　結婚前の注文

さあ、大分諸君の放言も聞いた、恐らくこれで溜飲も下がつたから。イヤこれよりも、此際に於ける細君の噴鼻の數、思ひやられて笑止千萬だ。

所で僕に動議がある。――ナニ、謹聽々々？――そんな大した名論でも無いが、山の神の棚卸しもこれでまづ一旦切あげ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

茲に放言會を閉づるに當つて、一つ餘興に一同が細君を迎へる前、即ち結婚前に於ける、細君候補者の注文を云つて見やうぢや無いか。

語を換へれば理想の妻！是は誰でもあつたものだ。それを各自云つて見たら、蓋し今昔の感に堪へまい。贊成か？、よし、そんなら順に始るべし、始るべし。

一　僕は愛情を本位として、自分を愛してくれる者なら、如何なる者でも歡んで迎へやうと思つた。

二　僕は人の妻たる唯一の資格として、才と勇とを最も貴んだ。而もその才は世才、その勇は沈勇を要するので。

三　僕は學問よりは性質を貴び、氣がさばけて居つて、人交際の好い女をと思つたねエ。

四　吾輩はちと權があつて、時には夫にも抗辯しやうと云ふ、一ト見識備へたのを好んだものだ。

五　吾輩はさうで無い、飽までしとやかに、物を云時一寸顔を赤らめると云樣な、可憐な女を探したよ。

六　吾輩はまた、何事も心得て居て、それで外部はつつましやかな……沈着があつて而も氣轉の利くのが欲しかつた。

七　僕は僕と氣が合つて、僕と嗜好を同くする者を望んだ、尤も容貌は十人並で、性質はあまり神經質で無いのを。

八　僕の注文はちと變つてる、即ち何事でも一藝があつて、其爲めに獨立心のある女なら、乾度賴もしからうと思つた。

九　抑も人の妻たる以上は、世帶持の好いのが何より大切、世帶持さへよければ家内は安全、夫婦は幸福と、かう僕は考へて居た。

十　夫の氣を十分呑込んで、心の中で思つてる事まで、其を察してちやんと仕てくれる位ゐに、よく氣のつく妻だつたら、僕はどんなに愉快だらうと思た。

はゝゝゝ、云て見りやあ十人十色、注文はそれ〴〵あつたもの、理想はめい〳〵持つて居たもんだ。が、何うだい？さていよ〳〵迎へると成つて、果してその注文通り、理想通りのが來たらうか知ら？（完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柳體詩

題『巾着』『唐茄子』『月』

劍花坊撰

天

神奈川縣横須賀汐入四一二 遠山方　木本治子

巾着(きんちやく)を泣(な)き〱棺(くわん)へ入(い)れてやり

評云、僅々十七字、人情至微の琴線に觸れ、鏗爾として聲を爲す、和歌こゝに至る能はず、俳句と雖未だし矣、愛兒逝く、細細の芳魂去て還らず、生前其腰に在て、毎に絕喜の聲を爲さしめし斯巾着、今は遺品となりにけり、黃泉迢々幾萬里、獨りさびしき初旅の經帷子に附けてやる、人の親の心の內や如何ならん、誦し來て覺えず泣涕然たらしむ、或は恐る這種の句、人情の自然着想の相同じき者他に無きを保せず、而も其材を他に得たる者にあらざる限は、之を絕調と爲すに妨げざる也、

地

大阪　加藤あい子

背景(はいけい)の月(つき)は何度(なんど)も出(で)這入(はいり)し

評云、想を背景の月に着く、自づから凡に非ず、而して幾度も出入するを云ふに至りては自然の裡に滑稽あり、彼忠臣藏七段の一夜に兩度月の出づるの滑稽を咎むるの滑稽に優るの滑稽なり、再三再四讀むに隨ひ聞くに隨ひ、人をして呵々に禁ぜざらしむ、月を題とするの十七字、多く俳臭に陷り易し、此句の如きに至て毫末も其病を見ず、巧者なる哉、

人

京橋區三十間堀三ノ二二　太田秀子

唐茄子(とうなす)を旦那(だんな)は恩(おん)にきせて喰(た)べ

評云、芝居は女の眼正月なり、唐茄子は女の口正月なり、人の娵たる時多く之を母に請ひ、人の妻となりまた之を郎君に乞ふ、郎君たる者時に唐茄子を喜ばざるなり、則ち細君に對する愛の義務として之を食す、蓋し恩を施すの意なり、滑稽なるかな斯細君、滑稽なるかな斯郎君、滑稽なるかな斯唐茄子、

秀逸之部

乳呑兒の足袋を迂濶なチボが撫で　近江　河村靜子

評云、三才の位に餘地あれば、此名句决して捨つ可からず、巾着と云はずして、自ら巾着を利かす、何等の働きぞや、三才の位に在らずと雖、此間毫も兄弟無し焉、

大佛の腰巾着や梅ヶ谷　小倉　佐藤さだ

評云、此句を以て徒に洞喝等の評を下す者は、川柳に奇拔なる者あるを知らざるなり、「ヤ」字ありて而も俳句にならず、作者の手腕を見る可し、奇想天外より落ち、人をして大笑せしむ、このたび程名句の多いこと女學世界これまでに無し、選者は追々の進歩を喜ぶ、

唐茄子と箸で御馬が出來上り　米澤　土橋榮子

田五作の門は南瓜の蔓で出來　美濃　田中久代

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

理想の家庭唐茄子を乳で煮る　讃岐　川崎みつゑ
しかすがに月見の宵は正裝し　大阪　三澤じか
金米糖入れた巾着さげて居り　同　小寺春子
新聞で唐茄子滋養の項を讀み　江州　藤澤きく
巾着をすつたもんだの摑み合ひ　鎌倉　御園千代子
鬮取を腰巾着に連れ歩るき　伊賀　服部かつ子
唐茄子を下女追焚の飯に替へ　麴町　井上梅子
此喧嘩カボチャ野郎がはじめなり　岩代　諸岡はるえ
唐茄子が西瓜に化けるヘボ寫生　長野　西條むめ
唐茄子とカボチャどつちがほんとなの　八王子　豊泉玉子
十六日は晝寢の覺悟月の客　大阪　渡浪子
唐茄子屋内儀の留主に斷られ　下谷　川田のぶ子
唐茄子ちやイヤカボチャちやと下女論じ　岩手　江口春雨女
かアさまの巾着だよと姉の姫　越後　坪井わか
ちゃばゝの巾着たゝく本願寺　同　佐野たい
唐茄子の蔓は伏屋を押領し　山梨　谷戸一子
掏られたる金は僅かと愚痴を云ひ　牛込　東條町子
唐茄子の馳走にちつと遠慮顔　酒田　秋草女史
巾着を一度ゆすつてくゝしあげ　三河　菅沼花子
坊のおつむ此唐茄子より大きいよ　安房　大久保浪子
巾着の中は受取ばかりなり　巣鴨　佐藤露子

御日樣のお嫁になるが御月樣　山形　菅野隆子
のゝ樣も一緒に來てと頑是なさ　尾道　林高子
お月樣が眠らんでるよと子が教へ　姫路　船戸ゆる子
唐茄子がかぼちや野郎の世話に成り　鎌倉　かんこう
あの月があの枝までと客を止め　仙臺　荒つる子

評云、此句多少の修正にて成る、而も其想最も奇、感服、

佳句之部

下女得意唐茄子を買つて煮る　大阪　内山愛子
月まどか坊の家庭も目も顔も　信州　神津榮子
貧民窟月をランプに使用する　大阪　安藤まと子
影踏みて月を坊やを遊ばせる　同　富田艶子
月世界姥捨山で始めて見　新潟　宮川君子
母ちやんあれお月さんがついて來て　尾道　増田かう
水の月蛙が飛んで影が割れ　京都　寺島幸子
袋叩き掏兒巾着を切りそこね　名古屋　松岡よし
巾着をたゝいてかける願ひ事　横須賀　遠山稲子
いざよひの其あと一寸忘れてよ　越後　樋口梅子
女學生廂で月が見えないの　同　きよ子
編かけの巾着ジョンに引ッ張られ　和歌山　ふよう
竹どんの巾着鼠に化けた夢　上毛　かへで子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樹に懸る月や兎の杵が割れ　仙臺　齋藤しげ子
月雲に入るや二人は手を握り　金澤　相馬ちさと
十五夜に二度躓いてはな緒切れ　四谷　むね子
居候月の光で本を讀み　濱松　芳枝子
板の間へ唐茄子が來て尻を据ゑ　小倉　筑紫春子
廂髮いゝ月ねえと橫目で見　群馬　萩原かな江
一句をと云ふ間に月は雲へ逃げ　本郷　ちよ子
お月樣拾つてこうか池の中　越前　紫絹女
オウいやだなどゝ唐茄子きこしめし　日本橋　上田いね子
學生の巾着輕き下旬かな　磐城　吉田つる
十五夜の月に烏がだまされて　京都　井口いく子
鼠狩すると巾着三ッ出る　岐阜　宇都繁野
中のもの御留守になると抛り出し　越後　中川とわ子
けちな伯母さんこんな巾着錢が泣く　京都　太田いさ榮
オヤかあちやんお月樣が泳いでよ　大阪　矢部てふ
巾着を忘れて來たとづるい奴　同　柳生ふじ子
月世界に夜は無いよと凉臺　本所　戸村みつ子
父ちやんの巾着だゞをこねて居り　羽前　山田たに子
好い月と按摩に云つてハット顏　酒田　池田紫楓女
寺參りの巾着孫が買て來る　姬路　町田たみ子
行水の盥で月をおもちやにし　能登　木森義子

月に三度老母巾着あらためる　呉　福澤好枝
大づらをふつて唐茄子罷り出る　鎌倉　千鶴子
巾着が出來ておせゞをねだり出し　埼玉　堀たけ子
あの月のやうな友達欲しい事　富山　岡谷かしく
新世帶女房を巾着にしてあるき　神戸　藤井夏子
其巾着坊にいたりて三代目　仙臺　高橋正代
巾着の底を孫めがたゝかせる　京都　藤田百合子
水に月環といふたら麩に金魚　大宮　江川ふみ子
月の駄々抱かれた雲の手を逃げる　岡山　深井清子
唐茄子を乳母の里から土產なり　駿河　長坂貞子
月明りお迎の提灯あづけて來　岐阜　泉茂子
道樂が親の巾着絞り出し　淺草　長濱花子
唐茄子が來たと笑つて笑はれる　野州　清水りやう
巾着を首から下げて笑はれる　神戸　靑瓢女史
十五夜の月は盥のやうに出來　陸中　さくら子
動かぬ美文石山の月で書き　千葉　田村たき子
月見かなおかめひよつとこ鬼般若　小石川　安永なみ
瘦せた蟹捨石へ來て月見をし　伏見　太田貞
そのたんびかぼちや娘とからかはれ　橫濱　寺田光子
お月見も戒嚴令で早仕舞　本郷　德力ふみ子
巾着の膓胃加答兒でとんと瘦せ　橫濱　杉本芳子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我影をはッと思はず飛んでのき　鳥取　宇佐美もと子

巾着を三毛に取られて目をさまし　足尾　金子きん

あれ御覧兎が餅を搗いて居る　伊豆　三田わか

巾着のお錢を投げて手を合せ　八王子　大野ふさ子

巾着の底をはたいて義捐をし　同　清永まさ子

戰地へも母のかたみの小巾着　相州　佐藤てい子

兄さんの歸省巾着ふくれて來　越後　萩野久子

油一升こぼした中へ月がさし　上野　佐藤春江

巾着の底をはたいて又一杯　仙臺　靜香女

巾着に氣をおつけよは母の慈悲　佐賀　小宮はつ

巾着を振つてぴよい／＼はねるなり　美濃　下川政子

撰者吟

巾着は丸くなつてる金太郎

込み合ますで巾着握つて見

唐茄子と云はれて下女の憤り

琴爪を外づし唐茄子たゝいて見

角の無い兎ヒョックリ波から出

でかい雲月を袂へ入れて逃げ

次回の川柳課題

『顏』『料理』『菊』（〆切十月十五日）

謎々

『戀愛小說』『電報』『樺太』とかけ

第一等

▲樺　和歌山縣西牟婁郡富二橋村字橋杭　小幡えつ

二人組合の相場師」と解く

心は「いくら勝ても半分分け

評云、巧みなところに面白味がある、よくもこれまで案じたものだ、

第二等

▲戀　本郷根津西須賀町十六　石原かはる

丈ケの足りないリボン」と解く

心は「すゑをあはれに結ぶ

評云、これは謎の文學的なるものだ、すこしく解釋するに六ツかしいやうだが、再三味つて見玉へ、いふにいはれぬ旨いところがある、

第三等

▲電　本所區石原町三十七番地　戸村みつ子

舌切雀の葛籠」と解く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

心は「あけて喜ぶもあり、驚くのもある、

評云、これも亦た巧みな方の謎だ、理窟に傾くがわるくはない、

▲棒…上納金の受取」と解く　羽前　谷山たに子

心は「半分切て渡される

▲棒…人間の一生」と解く　靜岡　三橋　久子

心は「五十が境

▲戀…須磨あたりの別莊」と解く　神戸　脇屋とみ子

心は「大抵肺病の美人が居る

▲棒…往復端書」と解く　神田　田　鶴　子

心は「受取つて半分返す

評云、この趣向と同一なる者は「能登、安井粂子」「秋田、若葉女史」「秋田、追敏子」「岐阜、阿部はつ」「桐生、甲斐はるえ」「美濃、田中久代」

▲電…一學年の讀本」と解く　能登　大森　義一

心は「假名で書く

評云、此趣向ある者は、「三河、春駒」「米澤、土橋粂子」「山梨、鈴木はる」「京都、菱田むめ子」

▲棒…お百度參り」と解く　德山　片岡　繁子

心は「五十度で半分

評云、この趣向あるものは「甲府、清水梅子」

▲棒…日本一の黍團子」と解く　京都　菱田むめ子

心は「一ツはやれぬ半分やろう

評云、「大阪、雲紅女史」「神戸、竹馬利子」「京都、雅子」「本郷、德力ふみ子」「岐阜、青木松尾」

▲棒…後悔せし泥棒」と解く　陸前　小松たけ子

心は「血で取て涙で還す

▲棒…軍鷄屋の盜難」と解く　上毛　かへで子

心は「取損の取られ損(鳥損の盜られ損)

▲電…陣中の芝居」と解く　大阪　秋野とき子

心は「急用(休養)の時にうつ

▲棒…盆暮の進物」と解く　京都　い　さ　む

心は「とつたりやつたり

▲棒…仲買商」と解く　靜岡　い　は　ほ

心は「やつたりとつたり

▲棒…和泉國」と解く　駿河　長坂　貞子

心は「中に堺(境)がある

▲戀…堅氣娘の茶屋奉公」と解く　鎌倉　能喜登のぶ

心は處世(書生)の奉公(方向)を誤る

次號の課題

『ウ井ツテ』とかけて『交際家』とかけて

『償　金』とかけて　(〆切十月十五日)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

加奈陀東部の水路旅行

在ナトワ市　能勢こま子

在加奈太日本總領事能勢辰五郎氏の令孃より本誌に寄せられたるものなり

何か加奈陀の事情を申上げたいと疾くから思つて居りましたが、大抵の事は皆樣も御存知で、別に面白いといふ事もありませんが、先達て學校の休暇中、あまりの暑さに堪へ兼ねて、父と二人の妹と同伴にて、避暑かた〴〵水路旅行に出掛けましたから、其見聞した事丈けをおしらせ致しませう。

加奈陀の東部には大少湖川の數知れぬ程ある處ですから、水運の便利は非常に開けて居ります。尤も今日は鐵道も縱横に延長して居りますし、冬季は嚴寒のため水路は皆氷結してしまひますから、格別の便利はありませんけれど、今から百年前には、中々有用なものであつたそうです。

私共はヲトワ市から第一にリドウ、カナルと云ふ運河を「リドウ、クイン」と申します五百噸計りの二階作りの蒸汽船にのつて、キングストンといふヲンタリオ湖の北岸にある一市街へ行きました。

リドウ運河といふのは今から百年前に、英國の政府で建築した物だそうでして、ヲトワ市からキングストンへ行く迄二百哩の間を河流や湖水や沼等を疏通し水流のない處は、原野や畑の中や岩石や山の中を切り開いて、漸く船が通ることの出來るようにこしらへたもので、其狹い所へ行くと兩岸の樹木が船端に觸れてざわ〳〵と音のすることもあります。

ヲトワ市からキングストン市へ行く二百哩の間には運河ののぼりが百三十哩で、下りは七十哩でして其最高地がヲンタリオ湖の水面から九十二尺あるそうです。それゆゑ此間に船を通行させるにはロック(閘門)といふ物を幾段にもつくつて、船の通行する度に水を出したり入れたりして、上段から下段と段々に上り下りするのですから、中々の手數がかゝります。又激流や瀧のある處で其高低の度があまり急で、天然の水流

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を應用する事が出來ない場合には、寫眞(十八)にある樣に天然の水流のある側に運河を開く等隨分な大事業かと思ひます。忘れましたがロックの數は都合三十九あるので、リドウ、カナルを午後の三時に出ますと其翌日の午後六時にキングストンへつきますが、リドウ、カナルのお話はこれ丈けにしまして今度はキングストンから船でサウセンド、アイランド(千島)を旅行したことをお話しませう。

御存知でもありませうが、加奈陀のセント、ロウレンス河は、北米五大湖の水が集つて太西洋へ流れ入るもので、其長さはキングストン市から河口まで二千二百哩で、其河巾の廣い事は上流でも一哩、セントロウレンス灣にある河口になれば、百哩もあるとの事ですから、河といつても中流を船でゆく時は、兩岸が見へない位であります。それが十一月から四月まで半年間は全く氷結するのですから實に驚いてしまひます。

サウセンド、アイランドと申します所は、ヲンタリオ湖に接する河の上流で、大小の島嶼が凡そ三千もあるとの事で、大きなものは江の島の十倍位もありますが、極少さいものは只岩石の上に松の木が二三本ある丈けです。此河の中流が米國と加奈陀領との界ですから、双方から米國人も加奈陀人もこの島の上に別莊を建てゝ、避暑に參ります、此別莊の中で特別に立派なのは米國紐育の人の所有で家は二棟にわかれ水中に大きな石門もありますし、庭にも美しい花が澤山咲いて居ります。外にボート、ハウスもそなへてありまして一見ホテルのように見受けられます。此家は四年前からつくり初めまして未だすつかり出來上がらないのださうでして、其費用は實に我國の六百萬圓だといふ事で御座います、誠に驚かずには居られません。こゝを船で通りますといろ〳〵の島が變つてきましてけしきが中々よろしう御座います。セントローレンス河を下る船は三楷作りで二千五百噸もありまして食堂でも部屋でも其一切の裝飾は實に美麗で御座います。夏は米國より此地方を見物に來る人が非常に多くありますから、船客は毎日數百人もありまして食事の時等の混

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜といつたらまるで日本の火事場の樣であります。

私共の入りました船の名は「キングストン」と申しますがもう一つ外のは「トロント」と申すのだそうです。

サウセンド、アイランド地方から數十哩下つて「ラピッド」(激流)があります。セントローレンス河は河口から千五百哩斗りのぼつて、モントリオル市の前面に來ますと、それから此のラピッドといふ故障物があるものですから、いくら河中が廣くても水が深くても殘念にも大きな船が河流に沿ふてヲンタリオ湖に上る事が出來ません、此ラピッドは大小八ヶ處ありますが、激烈なものは三ヶ處であります。これは河中に突然平面の大岩石が起伏しまして河幅の全體に及ぶものもあつて、河流が之れに激して渦卷をなすもあり、又は瀑布のようなのもあつて、實にすごい中を船が左右にゆれて通るのであります、場處によつては船底が岩石に觸れてがり／＼と音のするのもあります。

一番終りのラピッドは寫眞にあるラシン、ラピッドと申して中々大きなものですが、之がすむとぢきモントリオルへついてしまひます。モントリオルからヲトワまでは汽車で、僅か三時間で登られますから、こゝにはおはなし致しません、又何かめづらしい事でも御座いましたらすぐおしらせする事に致しませう。

貴婦人の巡遊

昨日までは鍬を棄て斧を擲ても義勇奉公の途に走らんと勇みし農夫山樵、今日は平和條約の不結果に意氣沮喪して鍬持つも力なく斧執るも張合なき有様この心は全國民誰しも同じかるべし國民が落膽失望の惡結果は農工業に多大の影響を及すことならんが殊に當面の影響を蒙むるは各種の慈善的事業なるべし東北地方は情に熱するだけかゝる事業には率先して財を惜しまざる傾向あれど地を換えて今日の平和條約より來せる憤激は他地方に越え其結果はかゝる團體には出金せずなど決議せし部落もありとか聞けるがそれかあらぬか愛國婦人會にてもこの際擧行さるゝ福島青森兩縣支部總會を機として　岩倉公爵夫人一行の東北各縣巡回を見るに至り一行は愈よ／＼午前の上野直行にて出發したり、初め福島、青森兩縣支部總會には閑院宮妃總裁殿下の御臺臨に内定し其準備中の所　殿下には目下御妊娠中に渡らせられ遠路の滊車旅行は御控えあるべきやう侍醫の御勸めに從ひ御見合せとなりしが其御名代として西は靜岡北は水戸外の御旅行の經驗なき岩倉公爵夫人を起して臨場の事となり尚國民の景仰厚き　東郷海軍大將夫人及税所海軍少將夫人も人選されて同行することゝなりしが尙役員側よりは特に三輪田眞佐子老女史を派遣せられ老女史は各地に於て會の方針を講演する任務を帶べりと聞く一行の立寄る地方は仙臺盛岡青森秋田山形福島の各地方なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



雜錄



馬蹄の塵

砲兵大尉　成田鶴

1　婦人の顏と墨

奉天占領の後第一軍は鐵嶺の東北方面なる山間深く侵入して予等は其最も奥の山中に遣られて敵と接觸して居た、然るに予等の居た村落附近は頗る僻邑であるから外國人などはあまり見た事はない、若し外國人などが來ると恐れて避難するほどである、一日予は野菜の馬糧の徵發として或る村落に行つた、すると小さき小屋の内に老幼の婦女が十人以上も避難して居る、そして若いのが室の一番奥の壁際に小くなッて蹲んで、前の方には老婆が幷んで居る、そしてよく見るとその若い婦人は皆顏に墨を黑々と塗りつけ、或は膏藥をベタベタと顏中に貼りつけて居る、これは何の所以かと容易に合點が行かなかつたが、始めて外人の惡戲するのを恐れてやつた窮策と心付いて可笑さは吹出すほどであッた。其癖彼等日本人が珍らしいと見へて家の窓孔や、戶の隙間からそッと覗いて見て居た。

2　何故に日本人は露人を丁寧に扱ふか

軍司令部には外國の從軍武官などが居る、是等には皆日本の將校が附いて居て觀戰の案内や宿舍の世話をして居る、そして時々軍司令官や其他の將校などは一緖に步いたり話したり、食事をしたりして極めて親密にして居るのを見て彼等滿洲婦人は、それを露西亞人

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と誤り「ロスコー有」「ロスコー有」といふて大變に怖つて居た、其翌日婦人の亭主が來て日本大人は何故に敵のロスコーを大切にして居るかと大に怪んで尋ねた、彼等は獨逸の從軍武官某氏を露西亞の捕虜士官と思ッたのである、予がそれを説明してやると『ロスコー等々的一樣（露西亞人も獨乙人も同樣である）と言ひ出して容易に信じなかつた。

3　婦人の乘馬

予は出征以來金州と遼陽、及蒙古境を見たばかりであるから見聞はさして廣いとは言へないが、金州附近で見た婦人は服裝の立派な年の頃十八九歲の妙齡であつたが、彼女は二尺六七寸ばかりの小さき騾馬に男の樣に跨り乘ッて居た、その服裝と言ひ、化粧の有樣といひ察するに高貴の者とは思へず、或は賣婦の類かも知れぬ。

4　可憐の一婦人

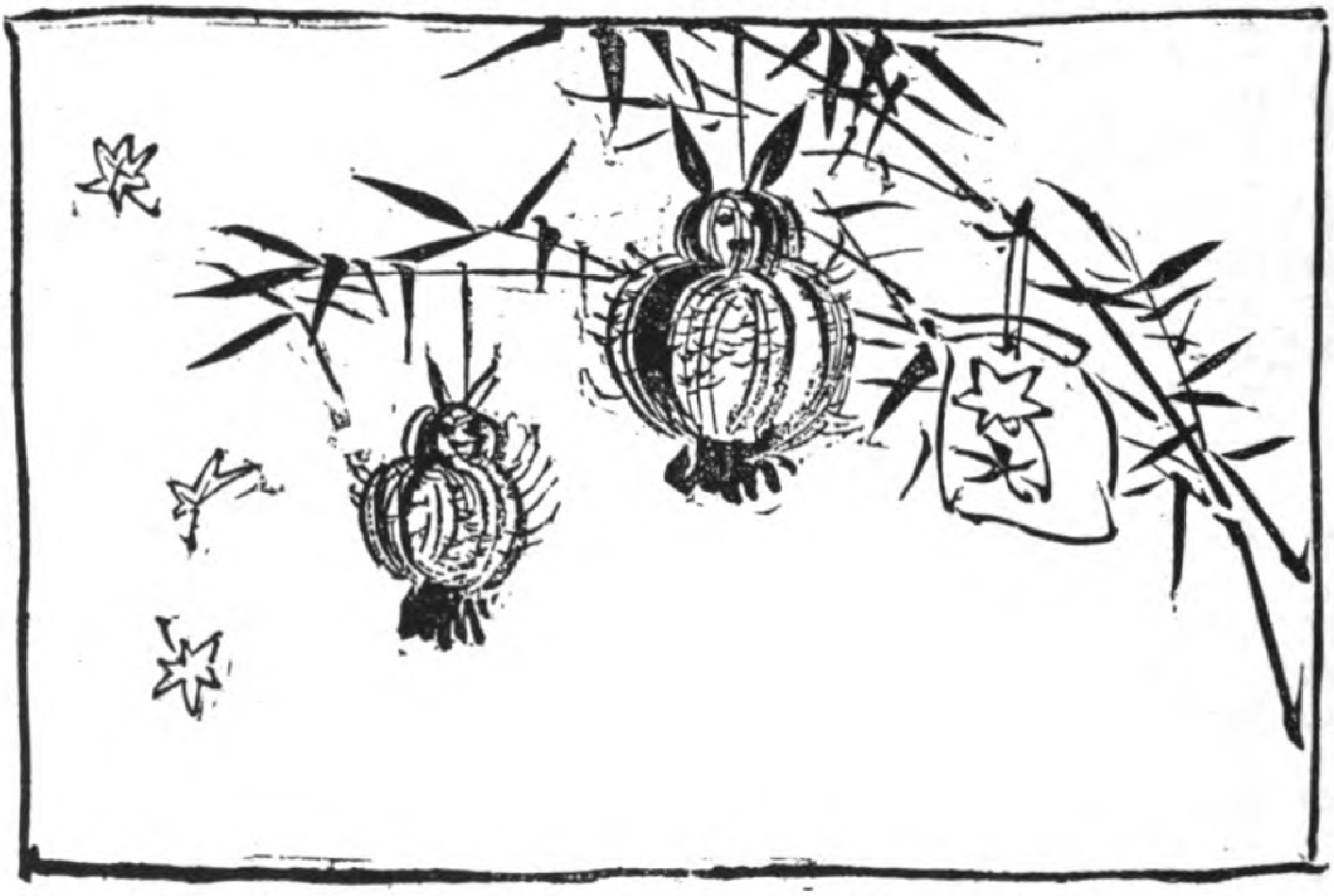
鐵嶺占領後或宿舍に泊ると其家の主人は劉梁といつて二十三歲の青年、妻は二十四歲、然るに主人は阿片を呑過ぎて中毒を起し顏色は蒼然たるものであッた、けれども主婦は中々の美人で且つ其の快活なる事支那人に珍らしきばかり、予等が紅塵萬丈の裡を行軍して行き顏面塵に埋もれて眼ばかりピカ〳〵して居るのを見て大なる釜に湯を沸してそれを洗面盥に汲んで與れたりいろ〳〵世話をして與れた。のみならず、種々なる器具を出して款待し、梨子、鷄卵、馬鈴薯、葱などを持て來て愛嬌を振蒔いたので予も又携帶の繪端書を與へ、輕便電燈を見せた、すると此の電燈には非常に奇異なものと思ッたらしく其驚ろきは一方ならず、彼女は硝子の上からフットーと息を吹き消して見やうとしたが中々消へないのみならず一回毎に或は輝き或は消へんとするので其珍らしきを他へ傳へたれば、忽ちにして數十百人群を成して來り、予の室內立錐の地なきまでに至ッた、彼等夫婦の間に一人の娘がある極て色白く美はしき可憐の少女であッたが、近づいて見ると惜むらくは痘痕滿面で甚だ氣の毒とおもつた、其名は珍桂といつて愛すべく、予は菓子などを與へて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

憐んで居たが宿營地變交となり出發の際に其家へ鷄五羽、支那菓子二箱を與へたらば妻子共々郊外まで送ッて呉れた、支那人とても人情に異りはない。

5　露兵の非行

滿洲の婦人は概ね日本兵を見ると逃げ込むのが多い、長く滯在して居て段々慣れて來ると偶偶は傍に行ッても左様恐れない様子であるが、それでも容易に近づかないのである。軍は鐵嶺に追撃中彰家樓といふ部落に泊した此所は敵兵退却に餘程苦しんだものと見へて死屍累々路傍に横はるといふ有様であッた、予の泊ッた家の主婦は支那婦人には珍らしい快活な氣質で種



種なる話をした、其の話によると數日前まで此所に露兵が宿營をして居たが彼等は民家を掠奪したり婦人を辱めたりした、現に自分の妹も暴露の爲めに辱を蒙ッて毎日泣き暮して居る、彼女は爾來人の顏を見るを恐れて兵士の來る噂を聞くと居根裏の梁の上に潜り込んで仕舞ふといふ、予は甚だ氣の毒に思ひ露兵の仕業は憎いが日本兵は決してそんな亂暴を働らく者でないから安心しろといふて聞すと稍く安堵して梁から下りて來た其の妹といふのは二十歳位の妙齡誠に可憐なものであッた彼等は日本軍の規律嚴肅にして秋毫も犯す處なきを大に德とし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て野菜、果物、或は大なる鮒二尾（これは瓶中に養ひありしもの）を持參し、犒ふた。

6　女房の人質

遼陽以北になると馬賊の害が中々多い、少し豪家になると堅固な壁を廻らして其四隅には恰も監獄署の如く監守所を設けて日夜見張番をして居る、然るにも拘らず彼れ馬賊は隨分横暴を逞ふするのであるが、若し民家を荒らして思ふ樣に獲物が無かつたならば其家の主婦や娘を人質として連れて行き何月何日までに何百圓の金を揃へて何處そこまで待つて來い、そしたら此の女房を許してやるといふので、女房大事の支那人の事であるから、厭々ながら工風工面して女房受戻しに來るのである、

7　軍醫と投藥

行軍中軍隊の宿舍に供する爲め宿舍割に行くと若い婦人などは虛病を唱へて態とウー〱唸ッてゐる、それが二軒や三軒でなく、一村に五ヶ所も十ヶ所もある最初は余輩もその爲めに欺かれたが段々と事情が解ッてそれからは軍醫をつれて行ッて診察して見ると直ちに眞僞が解る、又我々が多數の馬を牽きつれて宿營地に行くと其所の村の井戸といふ井戸は皆濁ッて居て飮む事が出來ない、何故かと段々調べて見たらばこれも彼等が惡習で軍隊が來て宿泊せぬ樣にそこの水をすつかり汲み干して飮まれない樣にすれば流石に兵隊も宿舍を取らぬであらうとの淺墓なる了見でやるのである

滿洲の田舍に入ると中々醫者などは藥にしたくもない、それで始終日本兵の通過する處ろや宿營地となッた處ろの土民は赤十字の標をつけて居るものは醫師であるといふ事も知ッてゐる、土民は日本の軍醫を先生又は大人と尊稱して施藥を乞ふもの甚だ多い、元來彼等の病態を見ると何病でも膏藥位貼りつけてウン〱唸ッて居る、中には毒にも藥にもならぬ草根木皮を使ふて居るものもある、如何ほど苦しき病氣でも醫者がなければ治療の道はないから棺桶を側に据へて置いて生命の刻一刻に迫るのを待つてゐるばかりで之を見ると實に憫然のものである、或日一人の支那人が來て我

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が妻が數年筋骨疼み甚だのしき故藥を與へられよと願ふたので軍醫は實地を見なければ投藥は出來ないといふとそれなら婦人の室に來て見て貰ひたいとの事で往て見ると『リヨーマチス』であッたが、舌を出したり脈搏を見たりする事は別に否みもせなかッたが、少しく肉體に觸る事は容易に承諾しないのである故に軍醫ならざる者が投藥する時には子宮病に淸心丹、レウマチスに寶丹などを與へても好々的多謝の十遍も言はれるのは當然の事である。

8　負傷の相伴

砂河の線で彼我對峙中其附近の村落に偶々敵の砲彈を受けた



すると其村に居た一產婦が不幸にして其砲丸に中ッて右の腕を挫かれ、餘ッた彈丸で側に寢て居る五歲ばかりの小兒の胴腹を擊たれた。この不幸なる產婦は戰鬪の終ッた頃牛拉子山の北方孤架子といふ村に避難して來た討たれた子は勿論死し母たる產婦は腕を切斷せざれば用をなさずとの事でトウ〳〵軍醫の手に切斷して貰ふた又同時に歪頭山下の一村落でも敵の榴霰彈が飛で來て廿歲許の妙齡婦人の足に彈子が這入ッたこれも拔き取らねば足一本役に立たぬ樣になるだらうとの事で軍醫の手術を得た、又右翼の連戸灣といふ處で避難中の途中、一婦人の頭に敵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彈が命中し半死半生になりて泣き〳〵アタフタ車に乘ッて逃げつゝあッた。これは唯一例に過ぎないが、こんな事は戰鬪線附近に澤山ある事實で實に氣の毒に堪へなかつた。

9　習俗

支那人の不潔な事は見聞して驚ろくといふよりは寧ろ呆るゝの外はないが一日從卒が支那人の不潔の奥底を見つけたと言ひつゝ語るを聞ば『チャンの女が何をするか今見て居ますと盥で子供の襁褓を洗ひ其次に自分の髪を洗ふて櫛り、それから頸や手を洗ひ、最後に其水で顔を洗ひ口を嗽ぎました、實に驚ろいて仕舞ひました』と報告する、實際の話である、彼等は全く冠履顛倒である、否、顛倒といふよりは彼等は最初より不潔といふ事の感念がないのであるから偶々した事が日本人の眼に見て顛倒と思はれるのである。されば其衣服など垢染て見苦しく春先などには上衣を脱して虱取をやつてゐる、そして其の捕つた虱は直に口に入れて歯で嚙みつぶし其殼は決して吐き出さない、誠に呆れて仕舞ふのである。それからもう一つをかしいのは彼等滿洲の老婦人は大きな赤い花カンザシを挿し居るのに却て妙齡の處女は之を挿さない。丁度櫻見時にある醉つぶれの婆のやうであッた。

10　洋鬼ホコペン的

一日予は予の宿舍の主人を招いて予が知己たる英人某氏の寫眞を見せた、すると其主人は直ちに自分の妻子を呼んで來て一緒にそれを見て居たが、やがて其婦人は自分の鼻と眼と、髪の毛とを指して斯ういふた。

『洋鬼ホコペンナ、日本、淸國等々的、一様、好々的』

其を意味を飜譯すると西洋人はイケマセン、日本人と支那人とは同人種で宜しうございますといふ事になる、日本でも田舍の者や老人が西洋人を嫌ふ様に支那人も同様である、それから予に近頃流行の美人繪端書と三人の子供のついた葉書を示したら、彼等は見るより早く予の妻子と推察して、

『爾的主婦好々的』

といふた、そこで予は『我的主婦沒有』（私妻は有り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ません）と云ふたけれども中々承知しない、そして幾才かと問ふたから予は支那人の年齢長じたるを喜ぶ風習を察して、『我的三十五才、我的主婦二十歳二十八歳兩個有』と答へたら『好々的』と大變に賞めたから實に可笑しくなつて噴き出した前に女房の人質の事を言ッたが、茲に又馬賊より一層上手の暴行をやるのが露軍の手段で、支那人の奇麗な婦人を强奪して行つて其夫に日本軍の軍情を報告したならば戻して遣ると强迫する、これは實に無報酬の露探を使ふ樣なものである、彼等は女房の惜しさに日本軍の狀態を報告する眞に洋鬼ポコペンである



11　アタ〳〵車と避難民

アタ〳〵車とは支那馬車の事で、彼等は五六頭の馬や牛を車の先に繫いで手足を動かす如く巧みに使用する、長き鞭の先に細き皮の紐を垂れ之を右に遣り左りに向け滅多に馬を鞭撻する樣な事はしない。只アタ〳〵チエッ〳〵ウオッ〳〵と變な掛聲をして巧みに導くのである、其のアタ〳〵といふ聲が如何にも妙に聞ゆるので戰地に於てアタアタといへば支那馬車を意味するので何處の軍隊へも通り言葉となつて居る、さて土民は戰鬪地附近になると多くの者は他へ避難する、其時に彼等は畑の中又は物置小屋に穴を掘て物品を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

埋め匿し置きよく〳〵必要なものと食糧を大きな袋に入れてアタ〳〵車に積込みその上に老若婦人子供に馬丈をも乘せて行くのである、若し途中日本人に逢ふと彼等避難民は皆下を俯視いて誰一人上を見るものはない、中には恐る〳〵上目を使つて窃み視をする者もないではないがまづ一般に下向になつて居るのである、そして避難者も一週間や十日の間は物置小屋に隱して置いた物を取りに行かない、けれども一ケ月二ケ月となれば、窮乏を訴へてソット掘りに行くのである、品物の隱し方は中々巧みである冬季などは穴倉から野菜物など澤山現はれるので、時ならぬ青物を味はふ事が出來る、奉天會戰の時は嚴冬二月の下旬であつたが、數多の梨子が穴倉から出で人々の口に這入つたのは珍らしからぬ事である。

佛蘭西の交際社會

（附り巴里風俗の一斑）

槿花女史

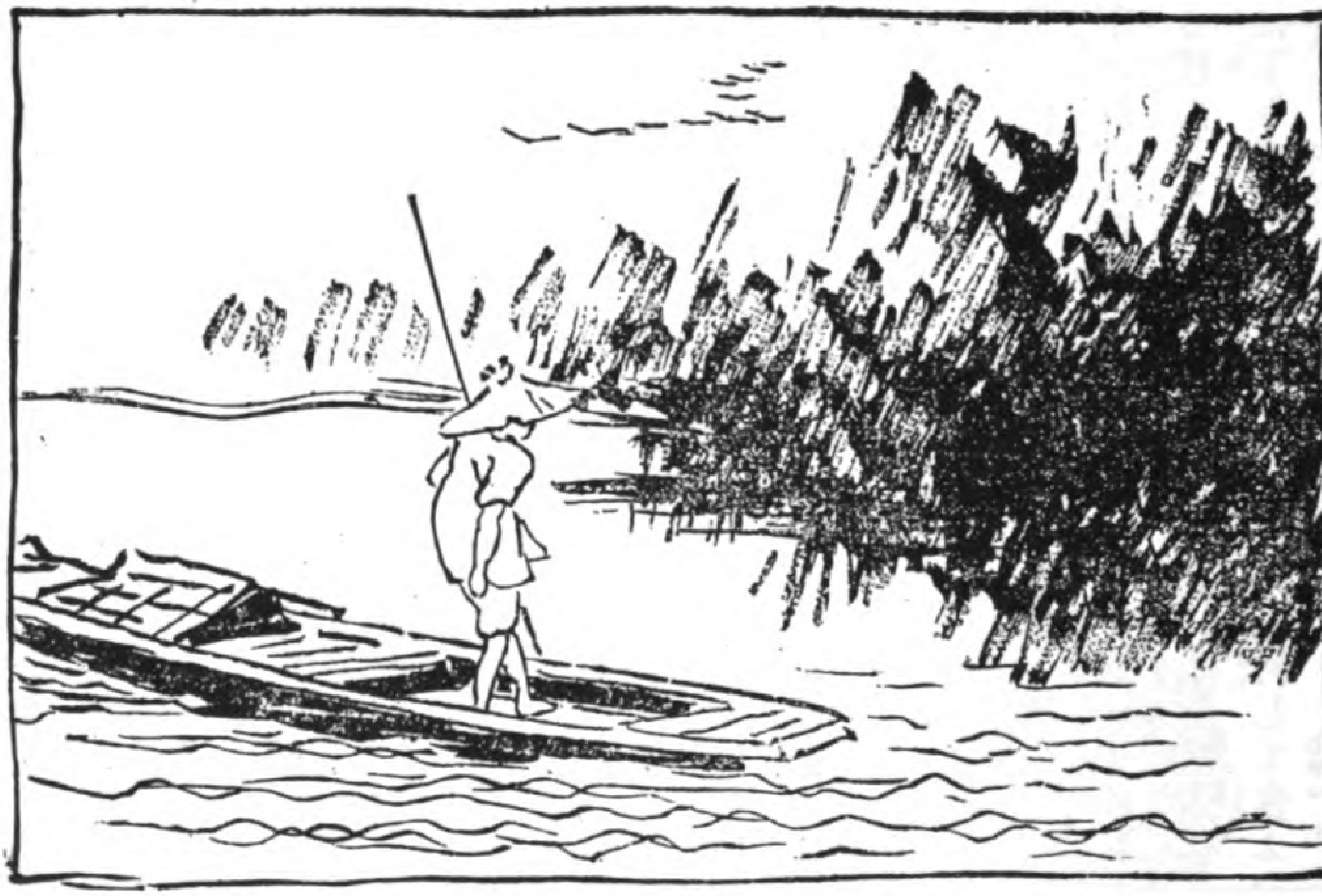
佛蘭西は世界六大强國の中に就て近年少しく隆盛の鋒をゆるめたるの觀あり、巴里は世界一の花の鄕と見倣されたるも其の盛觀は今や漸く紐育に奪はれんとせり、されど。全世界の中心として世界の好尙を集め、世界各國の富豪の遊散塲として萬事流行の本元たるは矢張この巴里なるは何人も爭ふべからざる處なるべし巴里にて一度び流行したるものは、やがて英米諸國に持囃されて、倫敦、紐育の社交界に影響を及ぼすを見れば、今日猶ほ世界の中央都會たるの實を有すといふべし。其の衣裳其の料理、其の器什、其美術、其の音樂、其の演劇、其の模樣、其好尙、あらゆる意匠の本家本元は此の都に於て作らるゝ事半世紀以前も今も尙變りたることなし、されば其の交際社會に於ける風俗習慣の如きも、紐育、倫敦より見れば猶一段の優雅と鮮麗とを占めて、さながら鄙と都の差別を見るが如し。

巴里の交際社會は英米の諸都會のそれに比して甚だ華麗なり、巴里の婦人にして日常交際社會に浮身を窶す人は宛然孔雀の如く長き裳を曳ずり、華麗なる羽

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛を着飾れり、彼等は恰も金鷄鳥の如く七種の光彩ある羽毛を以て其の頸の廻りを飾り、又紅色の鮮麗なる鷄冠を其の頭に戴けり。

　佛蘭西は米國の如く女尊主義にはあらねど巴里の交際社會に於ては男子が婦人を敬ふの風おかしきまでに甚だし、男子が婦人に接するの禮義は美術の一つとして重んぜらるゝなり、されば此の社會に於て辭令に嫻れたる男子は尤も通りよく慇懃なる男てふ名稱を得るは大詩人の名を得るよりも困難なりといへり而かもこの慇懃とは、機智と文雅と趣味とを兼有するの意味にして美人と醜婦とに關せず、す



べての婦人に對して忠實なる動作をなすをいふなり、されば此の空氣の中にありて、日常斯る動作をなすを男子の面目となせるが故に誰れ敎ゆるとはなく、道に貴婦人に遇へばまづ帽子を脱し、宴會に臨みては如何にして盞を取り、如何にして匙を握るべきかに焦慮するこそ可笑しき限りなれ。

　佛國の婦人は家庭内に於て主權を握るの神なり、されば室内に入り來る男子は其夫たると其の兄弟たると其親戚、親友たるとに關はらず、まづ帽子を脱して手に持つを法とす、而して我は御身の爲めに何事をか爲さんとの意を示し、其の擧動を爲す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を禮とす、されば男子は婦人に對食するにも、苟且ならざる樣子を作り手足の不作法ならざるに注意するなり、又男子が貴婦人に對する時は其の容貌態度の不つつかにして、蔑まれざるかに注意して密かに心を碎くもの多く彼等が貴婦人の一顰一笑を得るはさながら一城一國を得るよりも面目となせり、殊に彼等が貴婦人より慇懃なる人、又洒落なる人との稱呼を得るは彼等に取つて非常の名譽とする處ろなり。

佛國男子が貴婦人に對して屈從、諂諛、其の自からを賤しくし、其の品位までも下ぐるの狀賦に一笑に價すべきなり、若し宴會の席に貴婦人の後れて至る事あれば男子は坐を讓りて帽を脱し、己れの坐せる椅子を指して恰も城を明け渡すが如く、又女王を玉座に迎ふるが如き態度を以て欵待す、若し其時何かの機みにて貴婦人が手袋か手巾にても取落す事あれば彼等腰拔男子は恰も勳爵士が皇帝に劍を捧ぐる樣にして手渡しするなり、而して貴婦人が階段の處に下り來るに會せば彼等は恰も侍從が皇帝を迎ふるが如くに叩頭するを以て例とす、若し此際婦人が慇懃なる男子の心づくしを少しにても喜べる氣色の眉目に現はるゝ事あれば、彼等は其時の風貌を想像に描きて樂むを以て日常の快樂となせり。

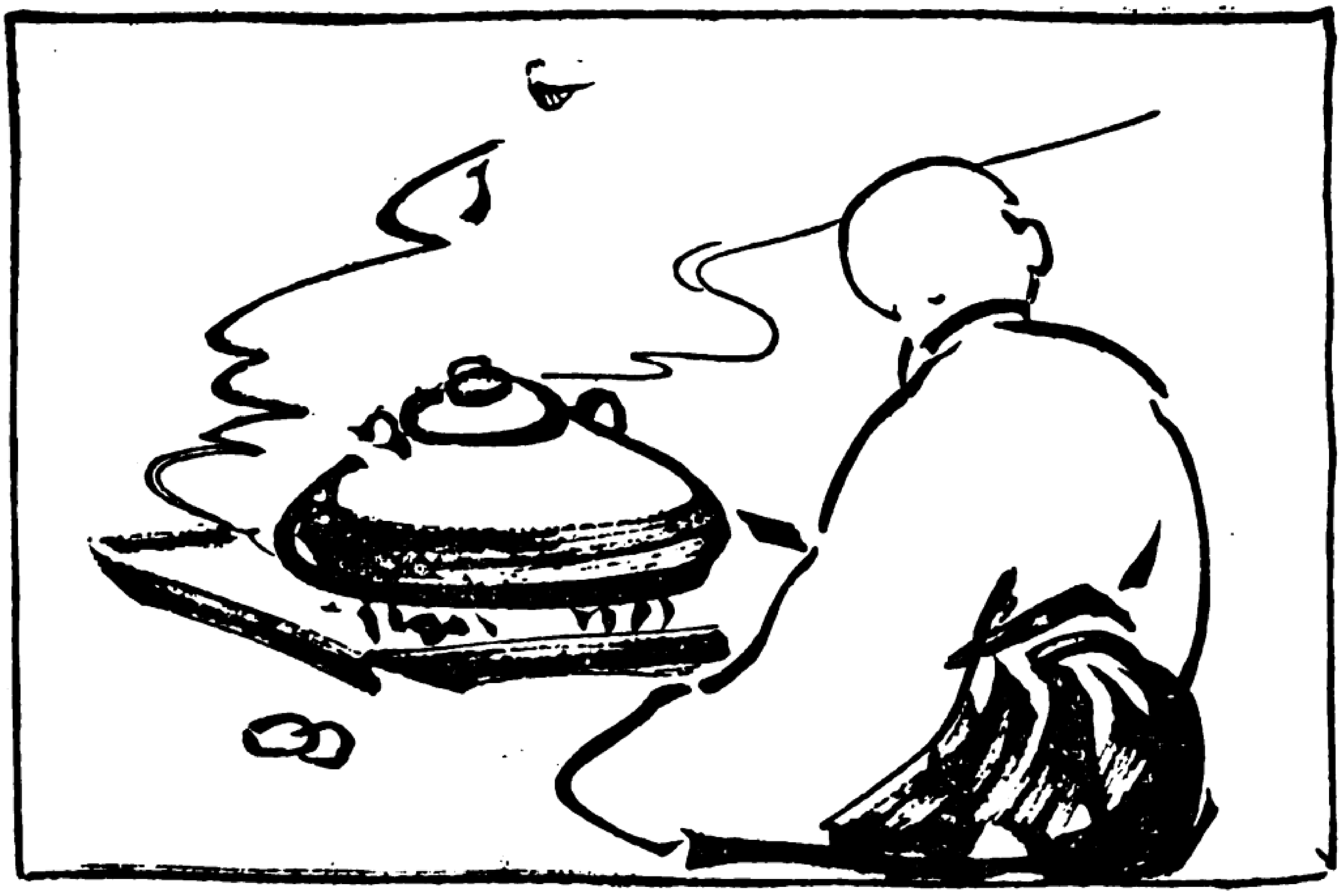
巴里の貴婦人が家に在る時は子供や下婢を相手にして面白おかしく遊び戯るゝを例とす、若し子もなく又奴婢もなき時は、珍奇なる小動物、犬、猫、小禽を愛玩して樂しむ、彼等貴婦人が日常、小犬を伴ふて公園などを散歩するは珍らしからず。

英國の人が常に佛蘭西人を評していふ言葉に、彼等は晝餐にのみ重きを置き晩餐を度外に附するの國民なりといへり、蓋し佛國人の晝餐は肉體的並に精神的の快樂を併せ伴ふものにして彼等は晝餐の席にて食ふ事よりも寧ろ趣味ある話の方に重きを置き親戚朋友間の親睦、夫婦親子の間の和合を主とするものゝ如し、佛國の諺に動物は人に養はれ、人は自から食ひ、而して賢人は如何して食ふべきかを研究すと、佛國人は確かに食ふべきの術を知るの國民といふべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯る次第なれば其國の大都會巴里にては食事中（就中晝餐に於て）特に悠々緩々として他事を念頭に置かず、食卓に向へば只笑ひ興ずるの習慣あり、若しこゝに一對の夫婦ありとせん、戶外に運動し、料理店などにて晝餐を喫する時には其日の朝食の時に於て大に注意し成べく晝餐の場合に食慾の進むべきやうに仕向くるなり、勿論一定の時間に食慾の起らざるは何人も口惜しく思ふことなれども佛人に於てこの觀念は痛切なりといふべし。

さて彼等が晝餐を喫せんとて料理店に入るや窓下に近き食卓即ち雪白色の布を敷へる卓を撰



び坐ながらにして戶外の景色、殊に往來人の通行するを見つめつゝ食するは一般の趣味好尚と言ふべし、斯くして彼等は飲み且つ食ひつゝ消化のよき樣に革製の安樂椅子に坐すると同時に給仕は菜單を持ち來り、誂へを聞くなり、客若し食事に就かんとするや、スープより食後の果物に至るまで菜單を一と通り見通し好きな品物を誂らへ給仕の持ち來るを待ちて食事に取りかかるなり。

客はまづスープを吸ひ了れば次に肉類、魚類、麵包果物の順序にて終りに乳餅を摘むを例とす晝餐の席に就てはスープより果物に至り終りに乳餅を食はざ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る晝餐は恰も美人の隻目のごとしとの諺もあり。

給仕人は極めて懇篤に然かも敏速に料理を運ぶなり酒は元より上等の葡萄酒にて常に割烹店に行く程の客の飲まぬはなし、斯くして晝餐の時間を成可く永くし食事の間に種々の談話をなし、以て其の間を經過するなり、殊に彼等の食物品評の智識に至つては驚ろくに堪へたるものあり、彼等は皿中の肉を指しつゝこの鵞の肉の片は體中の何の部分なるや、又此酒を製したる葡萄は何れの地方に生産したるものなるやなどの事柄を問題として滑稽、歡笑、中々に我々日本人が無言靜寂の間に食事するものとは天地雲泥の相違ありといふべし。

されば晝餐の時間は一時間半、又は二時間に亘ること普通の例にしてその食卓を離れ去るの時は三四瓶の葡萄酒の空になりし時にして又其肉皿の六七種を取替へたるの後なりと知るべし。彼等が料理店を出づるや手に手を組み合せて小運動を試み、かくして食後の消を覺れば又咖啡店に入るなり、彼等常にいふ咖啡は晝餐の食物を胃の腑より追ひ下すに付て特効ありと。以て彼等が如何に其の晝餐に對するの趣味を知るべきなり。

一人生帶

三年前の女學生

讀者よ私は今嚴格なる父母の監督の下を離れて此處に只一人自分の意志の下に自由なる境遇の身となりました、未だ成年にも達しない私の身、意志の薄弱な上に我儘な私が、誰の制裁も受けない現今の境遇を、誰も安全なる境遇と思ふ人は有りますまい、私は此處に白狀しますが、今は誰の力も借りず獨力で以て生活して行かれる境遇で頻に引き止めらるゝ父母の命にそむき、自由の天地に憧がれて來たので有ります、夫れ故此處に來たならば喧ましき尊上の制裁も受けず、又自分で働いて自分で生活して行くので有るから、自分のしたい事をなし、自分の食べたいものを食べ誰れへの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遠慮もなく爲度いまゝになると考へて、此上なく愉快で有りました。

斯くて己が生命なる若干の書籍と、衣服夜具など大方は一人で荷造りして、今より二ヶ月前に此處に來たので有ります。されば嘗て父母の家に居た時の樣に誰に叱られるでなければ一層亂暴なる生活をしつゝあらんと思はれるが私自身も實に意外で有ります、何事も自由なりと思つて居た自分の身は、今やある無形の監督者の下に前よりも一層嚴重に支配せられて意外に眞面目なる生活をして居るのであります。



之は誰でも然ふだろうと思ひます、嚴重な監督の下に窮屈に育つた者が自由の天地に飛び出した時（全くの亂暴者は兎に角く少しく前後の思慮ある人なら）嘗て自分が渇望して居た通りの自由な行爲が出來るもので有るか、否私は出來ない、實に自分の心の制裁と云ふものが今度は出て來て、何處迄も付いて廻つて一方に放逸ならんとする心を何時も叱つて居るので案外に自由では有りません。

私は以前の貧乏女學生で有ります、一學期十圓の月謝に幾度泣いたかも知れぬ身でした。實に彼の時から比べると今は王侯の暮しとでも云ひ度い位です、今私は月二十圓の收入のある身となりました、之を以て私は其日を滿足に且つ安穩に暮し

て居ります。併し前にも云ひました通り、一人前二十圓の金錢を費したならば隨分自分の思ふまゝになりますが、其處が目に見へぬ制裁によりて矢張り元の樣な不自由な生活に甘んじて居るので有ります。

先私の現今の有樣を云ひますと、ある知人の家の一室を借りて此處に自炊をして居るのです、併し御飯だけは炊いて貰つて居ますから、只自分の好めるまゝに副食物を拵へて食べれば宜いので、處で副食物を何にしよう、今迄大勢の家族の食物を拵へて居た時分には、夫れ〳〵の嗜好が異ふので本當に困つてしまつて若しも自分だけならば自分の好きなものばかりして食べるやうに思つたのでしたが、さて今其身分になつて見ると、さあ何が自分は好きで有つたか、何を一番先きにして食べ樣か、自分で分らない、我ながら實に不思議で有りました、斯う云ふ時には鑵詰は誠に重寶です、之で誠に助かりました、初めの内は落付く迄は毎日〳〵此鑵詰と香の物とで其日をすまして居ました、夫で九日目に三十錢の牛肉の鑵詰がなくなりました。

次第に落付くにつれて何時迄鍋を借りて居るわけにも行きませんから、六錢五厘で小さい土鍋を買ひまして、夫れで何でも煮る、充分にすれば何でも欲しいものだらけで有りますが、まづ拵へて此土鍋で凡ての用を便ずるつもり、一人となればつい面倒くさいが、先に立つてまづ急がしい時には鑵詰ですましてしまふ、毎日同じものを食べたとて自分だけだから誰も小言を云はない、斯ふ云ふ處は一人になつてから誠に氣樂です、併し余り一つものを食べたり粗食をしては衞生の爲によくないと思ひ、時々には玉子を食べ、魚を買ひます、四五錢の魚を買へば夫れで種々の料理が出來る一切れは煮付け一切は鹽燒きとし、殘りのあらゝ迄ませて吸物にするなど時に取つては此上なき樂しみ、斯ふ云ふ時に少しでも料理の心得があると誠に愉快なもので有ります、玉子を買つては二色玉子にしたり、栗五合買つて來て夫れの半分はうでゝ食べ、半分をきんとんにしたりして食べるのは獨居の身には此上なき愉快です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯くて一ヶ月を過ぎて計算して見ました處、室料として一圓七十錢、飯代三圓（之には香の物も入つて居ます）靑物代三十三錢、魚代十七錢五厘、罐詰二つ代六十錢、砂糖一斤半二十一錢、鹽二錢、醬油二合代八錢、石油一升代十九錢（初めの内は一ヶ月に一升より使はなかつたのですが、此頃は夜中細くしてともして置くので一ヶ月に何しても一升五合いります）ランプのほや二本代九錢、切手代七十二錢五厘（此内三十六錢は入要なる藥品ありて切手代用にしたるもの）、四十二錢菓子、新聞代十八錢、書籍費七十五錢、花王石鹼八錢五厘（一個が一ヶ月半程使はれる）湯錢九錢、炭一俵四十五錢（一俵の炭冬になつてからは一ヶ月に半俵位を使ふ）



其外に小かいものを少し使つたが重なる其日の必要に迫られて買た物は此位。

昔の人に云はせたら新聞など生意氣なと、きつと叱られるでしようが新聞は現時の歷史で有ります、昔家にばかり引込んで居ればよかつた時代とはちがひます、若し新聞でも讀まなかつたならばまるで目をつぶつて暮す樣なもの、私の樣な口不調法なものは人樣にお目にかゝつた時にも話の種子がないからと思つて只今日の大體の事の分る爲に取つて居ます

つまらない小說などをたのしみに讀むのなら、夫れこそ時間つぶしの害あつて益のないものになるでしよう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、夫れでない限りは私は新聞は讀むべきものだろうと思ひます。

湯屋には一錢五厘の處と、一錢の處とが有つて、一錢五厘の方は東京と同じ事なれど、一錢の方は狹くて暗くて不潔で、實に氣持のわるい風呂です、おまけに桶が五ッより無くて、夫れを皆が共同で使ふので有りますから、隨分不自由で一寸お貸しなすつて下さい、さあお使ひなさい、有りがたう御座いました、の云ひ通し、うるさくつて迚も緩り入つて居られませんからつい高價い方のに行きます、併し一週間に一度位より行かない、衛生上から云つたなら一週間に一度とは餘りひどいとお思ひになるかも知ませんが、兎に角私は夫れで別段健康にも障りません、相變らず丈夫で居ます、尤も其お蔭で肌に付けるものは隨分早くよごれます。

讀者よ今私が一ヶ月生活するに費した食物を分析して見たら、實にお驚きになるでしよう、よくも之で身體が續くとお思ひになるでしよう、而して私は極めて健全で有ます、否前よりも一層身體が丈夫となりました、之で以て考へると私は嘗て學んだ衛生學とか生理學とかの考へと少し矛盾する處がある樣に思はれます實際と學理とは常に平行して行くものでないと云ふ事をいよ〳〵慥めました、保健食料の標準に依ると、蛋白質をいくら取らなければならぬとか、澱粉を之だけ鹽分を之だけとか、種々むづかしい事が書いて有りますが、實際私は其滋養分の半分も取らないで、斯く健全であるからは、人間の身體は左樣に學理通りにやらなくても充分に生活して行かれるものでしようと思ひます。併し或は粗食するものは永い間には何か身體に不利益な事か、又は腦力が不足になるとか云ふ事が起つて來るでしようか、之は一の疑問であります。

急に寒い日がありましたので二日つゞけてランプののホヤを二つわりました、少しの不注意で餘計な費へをしました、皆樣も知つてゐらつしやるでしようが、周圍の空氣が冷いので、ホヤが冷ゑ切つて居る處に、急に火を大きくだして付けると、ホヤの一部分だけが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

急に熱せられて、其爲にふくれ樣としても外がつめたくつて容易に膨脹することが出來ないから、其處に無理が出來て、ピチンといつてしまふので有ります、夫れ故に初めは極く弱い火にして置かなければならないと云ふので有ります、又ランプを以て一寸戸外なんかに出樣とする時には夏はかまひませんが、冬の極く寒い時などには火を小さくして行かないと、丁度今の反對で今度は急に外の冷い空氣に冷やされて破れる事もあります知れ切つた事ですが一寸。

要するに私には一ヶ月十圓の金が有れば充分に生活して三圓四圓の小使を使つて生活して行かれます、上を見れば限りなしですけれど、今迄の生活にくらべると誠に豐なもの、殘りの十圓を如何にせんかと今猶考へ中で有ります。

讀者よ一人世帶は氣樂なものとお思ひになるでしようが、なるほど氣樂な事は此上なしです、自分の思ふ通りになるのですもの、併し私はつく〴〵と今の境遇が嫌ひになりました、人間は如何しても社會的動物で有ります、多くの家族が寄り集まつた處に生活する程愉快な事は有りません、辛い事も有る代りに、其處に限りなき幸福と愉快とが有るのです、私は今の生活の如何にも單調なのに飽きて來ました、朝起きて自分の室を掃除して、髮を結つて、顔を洗つて、新聞を讀む、そうして居る内に朝御飯を持つて來るから、夫れを食べて時間が有れば又新聞を讀む、夫れから自分の勤めに出て歸つて來れば、三時か四時話相手もないから獨りで唱歌でも歌ふか、外に仕事が無い、何か調べる事があれば夫れにまぎれて居るが、實に日々少しも變つた事があれば夫れにまぎれて居るが、實に日々少しも變つた事がない、いくら四方の景色が好くても朝に夕にながめて居れば、夫れも飽きて來る、東京の樣に緣日一つなければ散歩に出てもつまらない、すぐに歸つて來る、矢張り私には賑やかな都が戀しくつて仕方が有りません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供の室内遊戯

なぎさ

家庭を面白くするには小供が何よりの善き道具です。されば、此小供を如何にして愉快に且つ有益に遊ばすべきかを考へる事は、直接に親の肩に掛つて來る責任であらうと思ひます。工夫のある賢い奥樣は此樣な事に拔目はない。今西洋の雜誌中より、室内遊戯に關する趣味深き手輕な方法二つ三つ拔出して御參考に供します。尤も遊戯に用ゆる道具や何かは、便宜の爲めこれを悉く日本流の品に改めした。

△家族遊び

これは極めて瓢輕な遊戯ですが、子供達の注意力を敏活にする方から云へば、此遊戯は實に誂へ向きでせう。先づ人數は十二人で宜しい。人が揃へば鬮引か、但しは監督して居る方の指命で、一人々々に次のやうな名稱を附ける。

（一）御主人　（二）奥樣
（三）祖父樣　（四）祖母樣
（五）嬢樣　（六）坊樣
（七）料理人　（八）下男
（九）下女　（十）馬
（十一）牛　（十二）犬　（十三）猫

名稱が定まれば、十二人の役者は改めて座敷の中央に圓く輪を描いて座る。そこで監督して居る方は、「これよりお話を始めます。若し私がお話の内で誰方かを呼びましたならば、早速起つて返事をして下さいまし」と口上を云ひ、それから種々と滑稽交りの面白い談話を、不斷幕なしに辯じ立てるのです。一座の人はこれに充分注意をして耳を傾け、其話の内に自分の名（假令へば「御主人」「犬」などの類）があつたら、即座に起つて「はい」と名乘を上げねばならぬ。但し、「御主人」から「下女」迄は人間ですから「はい」と云ふ返事で宜しいが、「馬」から以下の役になつた人は、各自それ相當の鳴聲で返事をするのです、即ち、馬は「ヒヽヽヒン」牛は「モー、モー」犬は「ワン、ワン」猫なら「ニャン／＼」と云つたやうな譯になる。

それで、其話の一例を擧げると、「……私が見た昨夜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の夢程不思議な事はあるまい。場所は支那の御殿です。居並んだ人達は皆な一ッ目小僧だの、髑髏だので一杯でせう。其間に△△さんの御主人が居られるぢやありませんか。これは不思議と思つて能く見ると、もう猫になつて居られます。「やあ猫に化けた。」と私が思はず聲を立てると、傍にあの嬢さんが立つて居られる……。』

まあ此樣な調子で



す。此時、「御主人」と「嬢さん」が「はい」と云つて起上り、「猫」になつた人が「ニヤン〳〵」と云つて返事をすれば、それで其人達の勝ちとなる。それを、茫然として、名を呼ばれて居るのに起上らずに居たり、或は起たずに宜い所を返事して起つて見たり、さうでなくとも、「猫」が「ワン、ワン」などゝ云つたり、「牛」が「ヒ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ヒン」などをして起つたのは、矢張負けとなる。それ故、負けた人、即ち失敗した人は直に藝をさせられるとか、墨を附けられるとか、其場の定め次第です。

只一つ注意すべきは此話しの具合です。無論名を呼び上げるのは不意には違ひないが、話の上手な人は其間へ多少の餘裕を作らへてやる。假令へば、「牛」と云ふ名を呼ばうとする時に、「何だか急に其邊が暗くなつて來た。顧ると成程道理です。「牛」が來たのですもの……。」などは、餘程巧者な話し振でせう。此通り話に餘裕があると、「はて自分を呼ぶのぢやないか知ら」と起つ前に深く考へる時間があるから、遊戯が自然整頓して來ます。

それから人數は必しも十二人と限りません。五人でも七人でも宜しい。役割を減ずる迄の事です。但し、動物を入れる事は此遊戯只一の愛嬌ですから、動物は可成的減らさぬ様にした方が面白いでせう。

△品物あて

此遊戯は三四人あれば結構出來ます。假りに其人の名を——春雄——夏子——秋太郎——冬野——と定めませう。

此内で、第一番の春雄は何か心の底に品物を一つ考へて置くのです。尤も、品物と云つても可成的ならば其室内にあるもの、又は身體に附いて居るもの、庭にあるものゝ中から選ぶのが宜しい。

そこで、今春雄は心の内に夏子孃の頭にあるリボンを考へて置くと致し、これを他の三人に當てさせるのです。これを當てるには三人から代る〴〵春雄に問を出し、段々と問ひ詰めて行つた果、どうしても此品に違ひないと考へたならば、靜に問ひを止めて、「解りました。」と云ふのです。

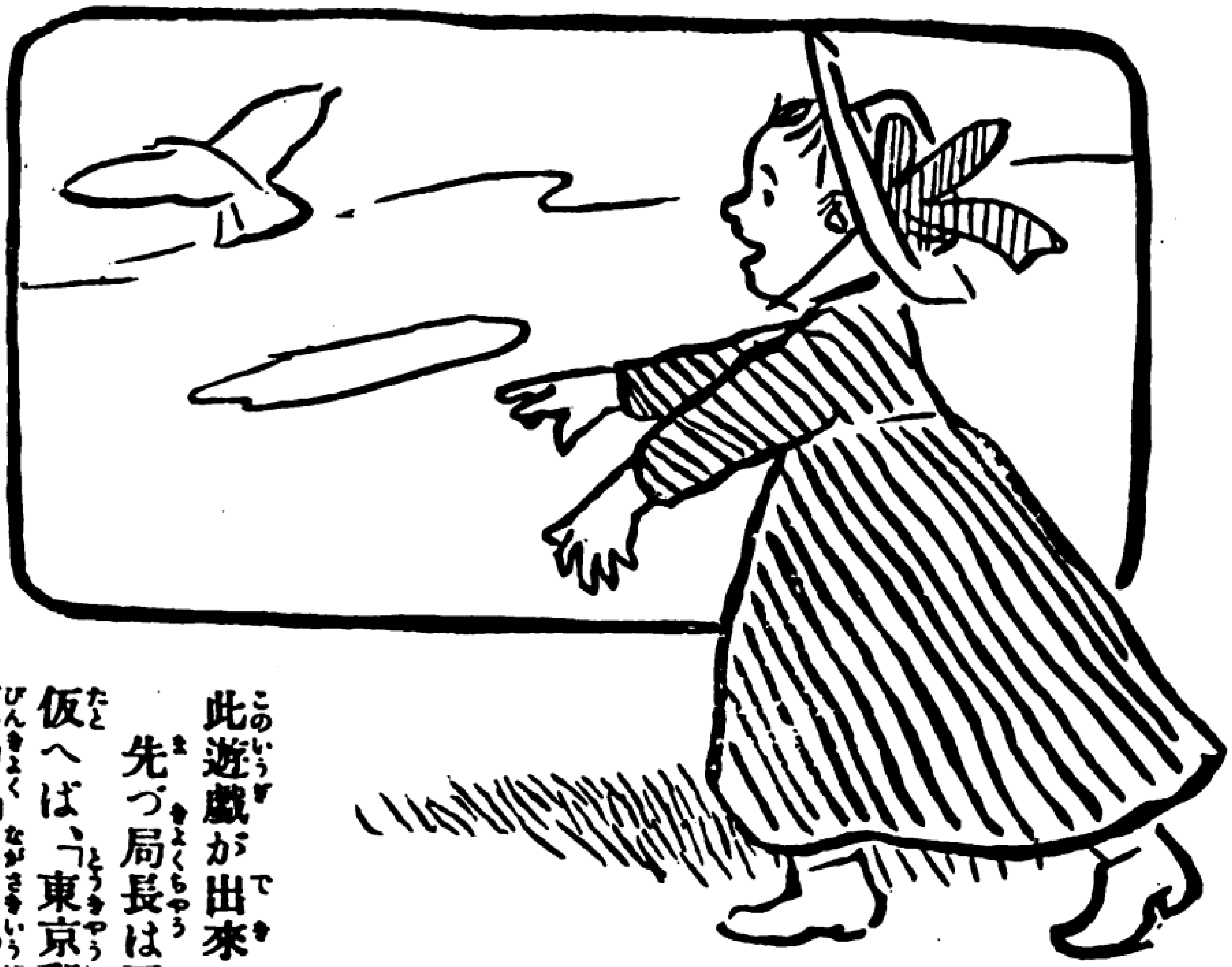
春雄は「わかりましたか。では何です。」と尋ね返す。尋ね返した答が自分の考へて居た品物と同じであれば、其人は勝ですから、春雄は引下らねばなりません。解り易いやうに其問答の例を擧げて見ませう。

春「さあ當てゝ御覧なさい。」
夏「品物は庭にあるのですか。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

秋「室内ですか。」
春「左様です。」
冬「高い處にあるものか、それとも低い處に？」
春「高い處。」
夏「重い物ですか、輕い物ですか。」
春「輕い物。」
秋「大小は？」
春「小さい方」
冬「柔らかい物か、堅い物か。」
春「柔かい物。」
夏「天井にある物か。」
春「いゝえ。」
秋「壁にある物？」
春「いゝえ。」
冬「人に附いた物？」
春「左様です。」
夏「女にですか、男にですか。」
春「女の方。」

此所迄問ひ詰めれば、もう大抵解りませう。女の物で、高い處にある、柔かい、小さい、輕い物、リボンより外にありますまい。これは至極おとなしい遊戯で、それでゐてなか〳〵趣味が深いのです。注意する點は、充分問答の文句を短くすること。若し文句をだら〳〵と長くすると、つい言はずとよき事まで云出して、肝腎の種が相手に知れるやうになる。



△郵便遊び

局長が一人、郵便局が四人、外に一人豫備役が居て、此遊戯が出來るのです。

先づ局長は四人にそれ〴〵局名を附ける。假へば、「東京郵便局」「仙臺郵便局」「大阪郵便局」「長崎郵便局」—— これが定まれば、座敷の四角へ場所を決めて立たせる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

局長の居所は座敷の中央、豫備役は其傍に立つて居ます。さて、萬事が調ふと、局長は明瞭した聲を出して、「東京と長崎の郵便交換」と命令する。命令せられた「東京」と「長崎」の郵便局は、即座に立上つて居所を交換するのです。若し此時、呼ばれても靜止して居たり、間違つて他所の局へ行つたりすると、局長の傍に狙つて居る豫備役は、直に其隙へ這入り込、局の場所を取つてしまうのであります。それで、豫備役に場所を取られたものは此遊戯の敗けで、賞品があつてもそれを貰ふ事の出來ぬ譯になるのです。

局長は此「何局と何局の郵便交換」を凡そ十度もやる。しまひには乾度慌てふためいて、自分の局名をさへ忘れるやうな人が出來るのは請合。

○樂しき家庭

主人が勤め先より歸られて、服脱ぎ捨てた儘、其處に坐り玉へば、今年やう〳〵三ツになりし幼女が、自分の躰ほどもある主人の枕邊へ來て、片言交りに「トツタン、チンチネンチ」と言葉をすゝむる可愛さ、思はず主人と顔見合せて、兩方から抱き合ふのです。

（藤田靜枝）

ちりの跡

田島梅子
出島咲子

父上の愛讀し玉ふ亞米利加發兌の月刊雜誌三種と、英國のそれ二種とを、妾等が傍にありて見ること茲に約七年。その間共に珍奇と思はるゝ記事の箇所に朱點を施せるもの三百有餘の種類に上りぬ。さるをこたび兄上のすゝめに任して、女學世界愛讀の姫君のお前に披露することゝはなせり。乃ち題して塵の跡とは名けつ。

世界中大學に婦人の最も多き國は瑞西を第一位とす、其學生の五分一は女子なり。

接吻を知らぬ人民は、世界を通じて二種あり、濠洲の土人とエスキモー人。

動物で人間より重量の腦髓を有するものは、象、鯨、只この二つのみ。

過去、三十五年間に、世界各國が新たに印刷せるハガキの種類は、約一萬種以上に達す。

全世界海底電線の十分九は、正しく英國資本家の支配下にありとぞ。

佛國の兵員は人口の九分一に當り、獨乙は十二分一に相當す。

夜中に飛行する鳥類は、すべて晝間飛行のそれよりも二倍大の眼球を有せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鳥類中最も速力の強きものはフリゲットバーツにして、一たん風力に乘ずるや一時間二百哩を飛行す、乃ち拂曉、阿弗利加の海岸を離れて、即夜、亞米利加の海岸に達すとは、船員等の均しく信ずる處たり。

船員として一年中海上に生活するものは、全世界の人民を通じて無慮一百二十萬人と算せらる。

地球上最第一の大灣は、印度洋なるベンガル灣となす。

大西洋を横斷する船舶の數は、一ヶ月平均一千艘を下らず。

靴工專門學校の設立されあるは、現世界に於て只獨乙あるのみ。

萬國の大都會中最も閑靜なるは獨乙の伯林にして、ピアノを奏するにも午前は何時より、午後は幾時までとの規定あり、尤も市内にては汽車すら汽笛を恣に鳴らすを禁ぜらる。

英國ニユウトン大學附屬の印刷所は、一百五十の異れる國語を何時にても印刷するに差支なき活字を備付け置けり。

露西亞皇帝一日の收入は五千磅、土耳古皇帝は三千六百磅の多きに反して、僅かに二十六磅のみなるは、北米合衆國の大統領とす。

匈牙利の勞働者は、一年間に三百十二日勞働し、合衆國は三百八日、英國は二百八十三日、露西亞は二百六十七日勞働する割合たり。

地球の表面は烟草栽培の爲めに、常に一百五十萬エーカーの耕地を要す。

英國人が一年に消費する烟草及びパイプの代價は、まさに一百四十萬磅の上に上る。

歐洲中新聞紙の最小なるは露國にして、獨乙のは露國に七倍、佛蘭西のは五倍、英國のは四倍を有せり。

蛙の壽命は、通常十二年より十五年までとして算せらる。

馬の最長命なるものを、灰色の種類とす。

鳥類中其體容に比して口の最も大なるは燕なり。

速記術の發明は、夙に古代のヘニシヤ及びバビロンに於てせられき。

世界にて乞食絶無の國は布哇にして、極貧なるものなく、養育院の設置なき國も同じく布哇なりとす。

英國にて世界最長の艷書なりとし珍重せらるゝは、エリザベス女王時代の侍臣某の手になれるものゝ由なるが、いとも拙き書風にて紙數は四百枚に達し、言數正に四萬を費しありと。

如何なる因縁の存するにや、倫敦にては古來土曜日と云ふに失火多しと聞く。

蝸牛が一哩を歩するや、全十四日と五時間を要する也。

歐洲にて蝴蝶の一種だも絶えてなき地方は、アイスランドとスピッペルゲンとのみ。

六大洲中五大洲までは、一歳中雪を見ざる國あれども、只歐羅巴洲のみは、到る處として雪を見る能はざる國一もあるなし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

歐羅巴全洲にて現に噴火しつゝある山は、總計僅かに七個あるに過ぎず。

他の地方よりも月光、星輝の鮮明なるは熱帶地方にして、滿月の夜の如きは數里外の距離と雖も分明に見別すべく、只星の光のみにても容易に歐文の印刷物を讀み得べし。

色玻璃の窓は第八世紀より始まれるなりき。

地球上にて雷鳴電光共に絶無なる部分は、兩極圏地方とす。

北極圏內にて、今日までに發見せられたる花の種類は合計七百六十二に達し、就中五十種は該圏內の特產、他に其類を見るべからざるもの、其色は黃と白とのみ、他色は絶無たり。

鰐魚は平均一期九十個の卵を產むとぞ。

古錢博覽會の最も完全せるは墺京維納にして、其數實に十二萬五千餘に達す。

海岸の植物は、內地のと同種類のものにても其葉厚く、內地にても鹽分多き土質に生長せるは均しく其葉厚し。

世界の人口は十四億にして、其腦の重量は一百九十二萬二千七百十二噸となる。

動物中嗅覺の銳敏なるは象にして、一千ヤードを距てゝ潛める人をも容易に嗅ぎ出すと。

文明各國の統計により示されたる結婚の行はるゝ月は、六月を以て最も多しとせり。

ナイヤガラ大瀑布の水力を利用したるは千七百二十五年を嚆矢とし、當時は只粗造鋸木塲を置けるのみなりしが、爾後千八百四十二年以降に及び、種々なる工業に利用せらるゝに至りぬ。

比律賓群島の島數は總計一千二百個也。

●ローズヴエルト孃と南蠻王　去る頃タフト卿の一行比律賓巡遊の際スールー群島王の招待を受けてジヨロに渡りしことありしが、該島の王は異裝を凝らせる百官眷族を引率し來りて盛大無比なる歡迎をなせり此際王はアリス孃の美にして艶なる風姿を見染め頗る懊惱に耐へず遂に孃に向ひ結婚を申出で此大群島の女王となりて島民の輿望に副ふの志なきやと言ひ寄ること頻りなりしとか、孃が王に對して何と應へしやは不明なるも、該王はマホメット敎徒にして閨門には妻妾數人あり、曾てコロラド州の一美人に懸想して肱を喰ひし例あるに尙は懲りずまに這回の如き擧動ありしは厄介の王樣と謂ふべし、因に此王は一八九九年米國に臣事して以來、勢威愈々熾昌にして政府より月俸五百弗を受け臣僚十二萬人を數ふる有樣なりと云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二十世紀 良人選擇法（一）

英國リード夫人述

▲女子の戰慄すべき統計

結婚は人生の大禮中の大禮に屬す、夫、婦を選み、婦、夫を選む、これまた實に難事中の難事に屬す。然れども情に燃ゆるの青年處女は、この大禮を容易に擧げて、生涯悔を抱きて泣くもの、世には甚だ尠しとせず、憫むべきの至りならずや。殊に女子に於いては、この大禮を擧ぐるに當りて、男子よりも一層深き注意を要す。若し我が身の言葉を疑はるゝ方は、既に年老い、若しくは老いんとして、夫の無情に朝夕袖を濡しつゝある世上幾多の婦人の身に就て、その若かりし間の歷史を少しく吟味穿鑿せられんには、今日遣る瀨無き不幸不遇の原因は、思慮淺くも一時情の俘に爲りて虛然と人生の大禮を擧げし當時に胚胎せることを見出し給ふなる可し。近く聞く所に據りて述ぶれば、目下我が英國ニューカッスルの女子師範學校に奉職せる一教授は、「女子の結婚を忽せにせるより來たるの不幸」と題する書中に、左の如く記載せられたり。

「余は或る動機より前記の著述を思ひ立ち、先づその材料を蒐集する手始めに、多年我が身の不幸不運に悲める中流以上五十名の婦人に就き、親しくその原因を討究せし結果、その三十四名までには、不幸不遇の原因は、一ッに全く青春の時代に於いて、一時的情愛の俘に爲り、前途に對し少しの注意をも拂はずして我が夫を定めしに伏在せる事實を明瞭に認め得たり」と。

我が身は未だ前記教授の如き精細なる統計を取りしことは無しといへども、多年世を不幸に送れる所の少なからぬ婦人に就き、間接若しくは直接にその原因を討究せし結果、また教授と同じき事實を明瞭に認めたり。

男子の方面より謂へば、情に燃ゆる青春の時代に當り、世の幸福は何れの邊に在るかを思はず、たゞ一時の情に支配せらるゝの結果、たゞ眉目美き婦人を我が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一生の比目偕老の友に選びしが爲に、我が天賦の運命を破り、謂ゆる五十年の不作に會ふもの、世には甚だ少なからず。而してこの立身的大失敗は、女子の上に於いても、また稀ならず同一の事實を見るは、これ甚だ悲しむ可きことなりと謂はざるを得ず。この怖る可き一生の災害を除く上に於いて、いさゝかにても世に有益の法無き歟、來ませ我が身は喜んで、諸嬢と共にその方法を講究せん。

（二）美貌を有する男子

我が身をして忌憚無く、諸嬢が胸中の寶庫に藏めらるゝ秘密をこゝに發かしめられよ。世と云ふ苦き經驗を、まだ若き年齢に敎へられざる處女の間は、誰れしも美貌を有する男子を夫に望むが常通なり。まだ人世を解せぬ處女としては、これ無理ならぬことなれども經驗ある人の語る所によれば、處女は皆斯くの如き理想目的を以て、我が大切なる一生を托する良人を選擇し、その結果の多くは、失敗に歸して、終生涙に袖を絞りて、皆この世をば終れりといふ。謹む可きことにこそ。

さらば美貌を有する男子は、何故良人に選定す可からざる歟。處女は恐らく難じ給はむ。さはれ深き注意を以て、色美しく手足の優しさ、あはれ女子にもして欲しき程の男子は、槪して意志の力弱くして人生の事業を營むことに飽き易く、且つ處世的の才幹技能に、缺乏せることを見出し給はん。その人の能力才幹技術に我が一身を托せずして、單にその人の美貌に我が身を許せし婦人が、生涯の幸福を全ふし得るは極て少數にして、その多くは年一年、月一月と次第に不幸に陷りて、果は怨みと悲みとを抱けるまゝにて哀れ墓に入る世の常なりと思ひ給ふべし。

これに反して、一見眼光炯々として烈日の光りを放ち、軀幹さながら鐵石の如く、音吐朗々として、威風凜然人を壓し、一寸婦女子は近附き難きやうなる男子は、これ必ず前途有望なる人才にして、將來天下の事業は斯くの如き人の手によりて爲さるゝものと見て宜しく、斯くの如き人に身を托して我が一生を許す婦人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、將來必ず幸福なる可し。よしんば斯かる偉人的良人には相見ることを得ざるまでも、斯くの如き人に近き、容貌、性格を有する男子を以て、我が良人に選擇せば御身は社會の水平線以上に立つて世と雄々しく健闘する良人に添ひ得て、一生を幸福に保ち給ふ可し。

（三）父祖の資産を讓られたる男子

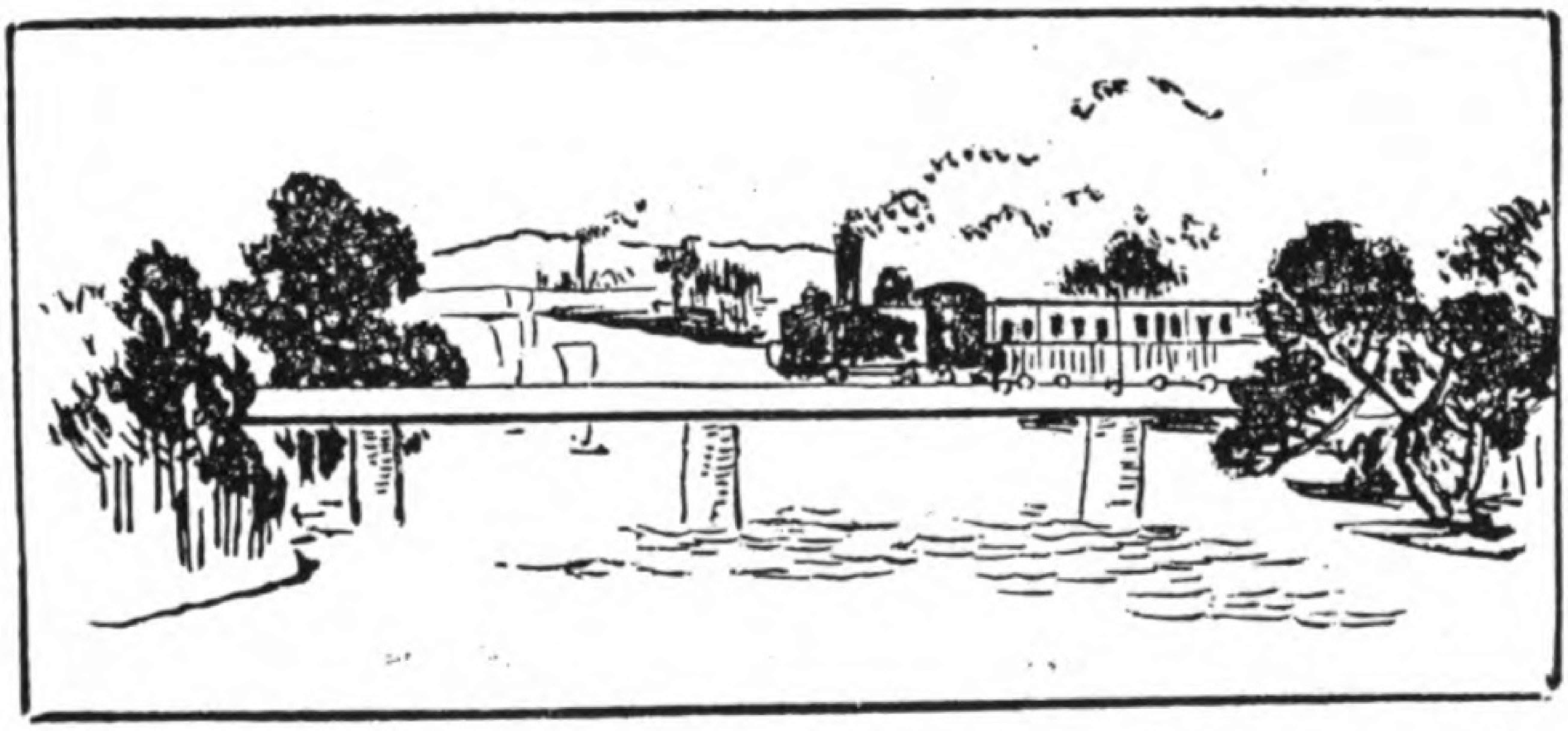
美貌を有する男子に次ぎて、思慮淺き女子の理想とする良人は、謂はゆる富豪の子弟なるがごとし。これ亦人世に於ける盛衰轉換の實驗に貧しき處女達の希望としては、人情固よりさもある可し、されどこれまた太甚しく誤りなり何んとなれば概して富豪の子弟などは、一方には幸福にして衣食住の憂ひを知るの苦痛を免かれたれども、一方にはまた自然の恩惠を稟くること甚だ少くして、イザ獨立自活といふ場合に於いて、その無殘なること喩へば游泳術をば知らざる身を以て咄嗟河流の急湍に陷りたるが如きものあるを見む。



富にして一度人の手に入れば、千年萬年その家に固着靜止するものならばいざ知らず、彼れは暫時も靜止せず、金は善く我れを迎へ、我れを愛する人の手に向つて移動流出するものなれば、親は富みたりと雖も子も亦永くその富を我が物として幸福に世を過し得べきにあらず。これ即ち運命の常に盛衰轉換して、富者の兒も貧者と爲り、貧者の兒も富者と爲りて、社會の海はこゝに激しく絕えず波うつ所以なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

されば其の人の技量才幹の如何を備に吟味せずして、假令如何なる富豪名族の子弟に稼ぎ得ればとて、そは決して永久に幸福を得たるものとは云ふべからず。その家の富は何時何人の手に向ひて移動流出せんとも期し難きのみならず、概して富豪名族の子弟は、父祖の富と權勢とに妨げられて、世の如何なる境遇にも堪へ得可きほどの強き自己を自始自造し、萬一の變に應ずる準備を爲し居らざれば、一度不慮の事變に遭遇して、その家名財產を守る能はず、俄に物質上の補助を我が身の上に失ふ時は、霎時も自ら支ふる能はずその弱きこと宛も水を離れし魚の如しこの變遷を豫め期せずして、良人を選ぶに、富豪名族の子弟を理想とするが如きは、目前の慾望を滿たさんと欲



するものにして、神人共に恐らくその心事を卑しまん。心す可きことなり。

これに反してその身は如何に卑しくとも、その家はまた如何に貧しくとも、ただ我が良人たる可き人にして、その身に才幹あり藝能だにあらば、目前の境遇の如きは少しも憂慮すべき事にはあらず、我が身一生の無事安泰を希はん人は、寧ろ斯くの如き人を選ぶを以てその智勝れたりとす。何んとなれば近時統計の證する所に依れば、富豪名族の子弟は概ね品性不良にして身の終を善くする者無きに引換へ、貧困の家に育ちし子弟は、一時の窮貧はこれ決して不幸に非ずして、その結果は寧ろ幸福の最大なる原因を爲し、貧窮なる家に人と爲りし人は、概ね品性善良にして、身の終を善くすればなり。この事實を史に徵するも亦然り、古

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來世界に於ける最善最偉なる事業は、總て皆貧窮の中に生まれたる青年に依りて爲されたり。凡そ世界に貢献する所ありし軍人、學者、富豪、義人、發明家、詩人、政治家、美術家等を始めとして、一ツも富豪若くは名門の家よりは出でずして、いづれも皆貧深く骨に徹する茅屋の中より出でたる事實を見給はむ。そもや貧困は人世最美の品性を生育するの良田たればなり。これに反して富豪名門の家に人と爲りし子弟の徒は、徒食放縱の性自然とその身を支配して、其處に何等の抱負無く實行無し、これ實に人間處世の上に於いて、至切至要の問題たる自己の生計を能く獨力にて經營し自給の道を知らざれば、一朝否運に遭遇すれば、その末路の如何に爲り行く可きかは、略推するに難からざれども、常に清貧の頌を謳ひて人と爲りし貧家の子弟は、我れ如何にもしてその悲慘なる境遇を蟬蛻せんが爲に、自然と其處に抱負あり奮發あり、忍耐あり實行あり、練達あり成功ありて、終には社會に獨立濶歩し如何なる障害もその人の多年貧困逆境の間に自ら鍛錬習養せし心身の強さを奪ふ能はざるに至る。あはれ我が身の良人として、最も安全なるものは、確にこの種の人物なり、また何んの疑ふ所あらんや。

流行の婦人服

炎焔天を焦し劍光電の如く閃めきて一大修羅場を現じたる都の巷も今や既に平穏に歸し季は正に仲秋に入りて交際社會之より漸く頻繁ならんとす紳士淑女の衣服に其他身の廻りの裝飾品に夫れ相應の支度あるべきは並に言ふまでもなけんかし偖も例の白木屋呉服店が交際社會新流行の好みに應ずべく先頃賞を懸けて募集したる婦人服の模樣圖案は應募者頗る多くして意匠部の机上に圖案堆を爲したるが愈よ過日を以て全部の審査を了し一等より九等までの當選者各十名十等十名を出だしぬ今該審査の結果に就きて聞くに圖案は概して非常の進歩を示し先年同店が懸賞を以て募集したるものと比較するに意匠と云ひ配色と云ひ雲泥の相違ありて然かも斬新なる花卉を取りて模樣としたるもの尠からず即ち通草花、茶實、蒲公英、月桂樹、其他種々の西洋花等もありて夫々意匠を凝らしたるが中には所謂元祿風のものも數十種ありて總体より見るに金銀泥を用ひたるもの多く且つ圖樣の小なるもの皆無と云ふべくして悉く江戸褄模樣となせるは以て目下の流行を知るに足るべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高輪裁縫女學校

參看子

芝二本榎天神坂の中腹、高輪御用邸の木立を北に望み、白金臺町の高臺を西に負ふ所、清楚な一校舍がある、是れなん小林雛子女史の私設に係る高輪裁縫女學校で、つひ近頃新築した許である。

本校は一昨年四月の創立で、開校日尚淺く而も土地僻遠なる爲め、餘り世間には名を知られて居らぬが、兎も角他校に見難き一種の校風を備へ、又た特色の記すべきもの少くないから、參看子の知り得たる所を茲に紹介するとした。

校主の小林雛子女史といふは、福岡の人で、久しく品川城南學校其他に在て育英の事に從つて居られたが、感ずる所あつて職を辭し獨力女學校を經營せんと志し、遂に一昨年の四月を以て本校を創立することゝ成つた、仍つて先づ假校舍を三田君塚町の里俗南横町と呼ぶ所に設けたのであるが、當時は場所柄の邊鄙の爲でもあつたらうか、入學者誠に少く、僅かに四名の生徒を得たのみであつた、然し其にも拘らず具さに創業の苦と鬪つて熱心事に當つた結果、追々生徒を増して昨年の春には四十名となり、開校三週年たる今年の四月頃には更に殖えて六十有餘名となり、頓に校舍の狹隘を感ずるに至つた所から、地を今の二本榎天神坂、清正公祠の東方に卜して、校舍を新築し、去九月十日工成るに及んで、第二回の卒業式を兼ね落成式を擧行したのである、――當日の儀式は仲々盛んなもので、殊に餘興の活人畫は見事の出來であつたさうな(口繪參照)

扨て新築校舍を見るに、日本造の平家建、十二疊敷の教室四個を備へ、隔ての襖子を取拂へば、優に三百人を容るゝに足るの大講堂となる、而も周圍にグルリと取廻したる硝子窓よりは、綠猗鬱蒼の丘巒を見晴して、眺望快濶、清新の氣四周に充つるの感あるは、人家稠密の市中の學校には見出し難き所、從つて空氣の流通もよく、光線の射入亦た申分なきは、尤も喜ぶべきである、ソレに南部の第一教室には床の間あり、佛壇の設けあり、まるで客坐敷の體裁をなしてゐる工合、他とは大に趣を異にする點で、此の一事よく本校學風の家庭的なるを證するものと言つて可い、聞けば生徒をして毎朝授業前に佛壇に禮拜せしむる規定であるとか、是は校主が佛教に基いて教育したいといふ道德上の希望から起つたことで、此の點に於ては確かに宗教學校の觀がある、尤も校主の信仰が本派本願寺にあるので、本尊には阿彌陀如來を安置してあるが、生徒に對しては敢て一向念佛を强ゆる譯でなく、家庭に在ては父兄の宗旨を信奉せしむる趣意なる由。私立學校としては宗教道德の上に其の基礎を据えた方が堅固でよからうと思ふとは校主の意見であるが、參看子も至極同感である。

科を分つて豫科六ヶ月（木綿物を課す）、本科前期六ヶ月後期六ヶ月(絹物を課す)高等科六ヶ月(洋服を課す)、都合二ヶ年の年限とし、學科は主科の裁縫、手藝の外に、倫理、國語、習字、算術、唱歌、家事、點茶、生花等を授け、尚は土曜日の午後には通俗講話會を開いて、歷史、地理、理科、家政等の一般智識を授け、之に依つて一家の主婦に必要なる資格の充實を計るの目的であるとか。

教師には校主小林雛子女史の外に中島糸子、三輪鶴子、市村三喜子、(倫理)森德仁(國語及家政)楠原龍響、清原秀惠(習字)茂木無文(點茶)仙波玄機、(生花)梅村武子の諸氏ありて、孰れも熱心に教鞭を執つて居られるが、殊に喜ぶべきは校主の理想が家庭的教育にある所から、生徒を遇するに家族的親愛を以てし、師弟の間の融和が極めて麗しいことである。善い哉、校風の美、希くは此の風を永く繼けて教育の美果を將來に收められんことを。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事彙報

▲錫蘭島の老翁

頃日歐洲より歸來したる法律學士宮本桂仙氏は歸途錫蘭島コロンボ港に立寄りしに同島ポイント、デゴールのダニアールポンサリーウエーラータナ（七十）と云へる老人、氏に近付きて先づ氏の日本人なるや否やを確かめ然る後改めて左の如き會話をなせりといふ。

翁「君は余に數時の談話を許すべきや　氏「諾」翁「余は日露の戰爭に於て日本軍人の勇武を聞き貴國の皇帝陛下の御威德を慕ふこと深し今や日露の講和使は既に華盛頓に向ひ急ぎつゝあるを聞く、余は貴國の正義及び人道を實踐せらるゝを悦ぶが故に其講和談判が正常に完結せられん事を望む而して余は約一箇月間工夫を凝らして日本國旗を地とし、日本陛下に獻上すべき書案を研究しつゝあり　氏「貴君は如何なる主意を以て捧書せんとするか　翁「余は余が家寶とするキヤツト、アイ（猫眼石）を奉らんと欲す（と云ひつゝ衣嚢より見事なる猫眼石を取出し）翁「見給へ、此寶石はランカ、キヤツト、アイと稱し本島の産物なり此石の重量は五十六キヤラツトにして本島にても稀に見るものなり余は日本紳士を見出すべく、數日前より入港船舶を求め居たりき而して今貴君に會ふ之れ余の甚だ幸榮とする處なり　氏「余は貴君の厚意と鄕國に對する同情と敬意を多とす而して貴君來朝の時は出來得る限りの便利を計るべければ前以て御通知を乞ふ　翁「多謝貴國は實に東洋の盟主にして自負の特性を有す、余が敬意は貴國自ら發せしめたるもの貴君の謝辭を受くべきに非らず　氏「貴君捧書の草案を携帶するや　翁「余は當初より常に之を携帶す御一覽を乞ふと言ひつゝ日章を地とし其各線に「在東京皇帝ミカド陛下へポンサリース、ウエーラータナより、ランカ貴重なる猫眼石、幸運なる日本人」の意味を英文及び印度語を以て現せしものを示し且つ自から其書案を寫したる後姓名住所を記せる一葉の名刺を同氏に送り　翁「貴君日本に歸着の上は直ちに電音ありたし然る時は余は將來の計畫に一層の力を得べし」と付け加へたるを以て氏は喜んで之を約し同日夕刻同港を出帆したりと老翁は現にインデンペンデントオーダー、オブ、グードテムプラース　ソサイチー（獨立禁酒會）の會長として彼地名望家の一人なるが右會見の際翁は其他にも種々趣味ある談話を爲し且つ佛教の現況を語りては同宗教を奉ずる日本國民の世界文明史上に特筆大書すべき功績を顯はしたるを喜び更に我國運の長へに榮えんことを望み居たりと云ふ。

▲滿洲軍慰問

（野中彌知子談）

さきに奥村女史と同道して滿洲軍慰問に赴きし野中女史は語りて曰く

愛國婦人會慰問使の一行が滿洲軍慰問の爲め發足致すに付きましては有らゆる艱苦不自由は素より覺悟の前と致しまして差當り飮食起臥の事を缺かぬやう行李を修めて參つたのでございます、處が大連に着きますと二頭立の馬車が待つて居ると云ふやうな次第で到る處の兵站部が私共を懇篤に扱つて下さいましたのは誠に感謝の外はありません其上露人の置土産の家は彼方此方に空いて居りますので疲勞した身を安らかに休めることも出來ましたが只一行の服裝は如何に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

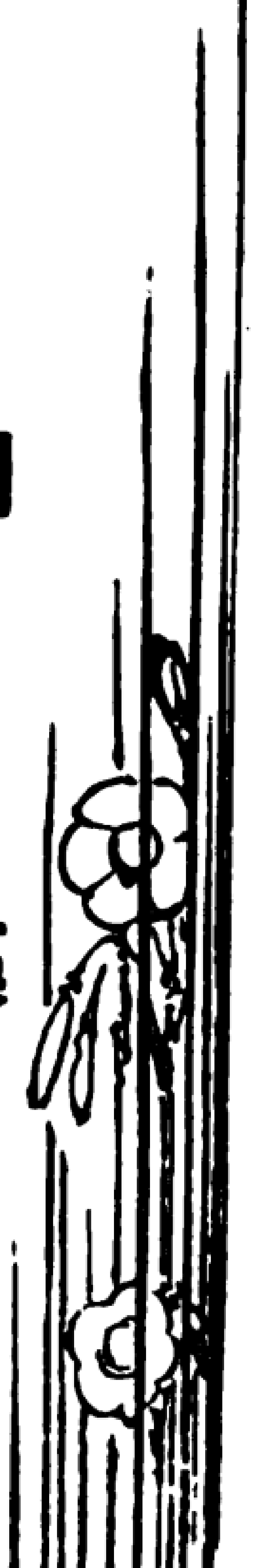
も異様で其上髮は塵埃にまみれ衣は汗に汚れるといふ有様を顧みまして兵士方の積日の困難に對し益々同情を表し得る經驗を積むことが出來ました、けれども前申す通り私共が當初豫想した程の困難を身に味はずに過ぎましたのは畢竟戰勝の餘澤で誠に難有いこと、想ふに付けても家を忘れ身を顧みず屍を原野に曝して戰塲の鬼と化しました幾萬の勇士の墓が林のやうに立つて居るのを見て何人か能く人世の悲慘を悼まずに過ぎられませう今は昔なる是等勇士の功績を追懷して何人が能く無限の感想に打たれずに居られませう一行は涙ながらに心ばかりの手向を捧げて參りました旅順に於ては黄金山二龍山等へも登りまして天險の地利を眺めながら案内の將校方より精しく説明をして戴き又奉天の方に參りましては只もう戰線の範圍の廣大なるに驚き如何に勇猛比なき我士卒とは云へ能くも此戰塲に臨み國の興亡を双肩に荷つて苦戰奮鬪古今内外に例しなき連戰連勝を續け得られたものと實に何とも言ひ表はしやうのない感に打たれました或將校の御話に實に部下のものが刻苦忍耐己を忘れて國家の犧牲たることに甘ずる高崇雄烈の精神に思ひ及ぼす毎に夜半征衣の袖を絞らずには居られぬと涙を以て語られたのは全く肺腑より出でたものと思ひます戰地に於ては到る處將校宿所或は兵站部に便つて參り兵卒など附近適宜の處に聚めて戴きまして奥村刀自が慰問の演説をされました斯して最初の計畫では鐵嶺長春までも參らうと存じたのでございますが折から馬賊が出沒して婦人の旅行は危險至極でもあり旁々將校方の御懇話もありましたので奉天迄として引返し奥村刀自は朝鮮に私共は内地に歸りました。

▲牛飼の乙女

足曳の山口縣吉敷郡宮野村に石川マサといへる本年十四歳の少女あり家甚だ豐かならず父由藏は醤油釀造所の仕込み人に雇はれ母は僅かばかりの田畑を耕やして其日々々の細き煙を立て居るよりマサは先年尋常小學を卒業すると同時に學を廢し母の業を助けつゝありしが子供心にも何とか家を興す道もがなと明暮小さき胸を痛めゐたるに豫て同村に奬勵されつゝある畜牛のと近年益々盛んになり尠からぬ利益を見るものさへあるとの話をいつか小耳に挾み己れも牛を畜ひて父母の業を助けばやと思ひ此事を父に迫りしより元より牛を購ふほどの餘財無ければ一旦は之を退けしもマサが非常なる熱心其儘止む可くもあられば詮方なく雇ひ主に其旨を語り漸く八圓の資本を借出して一匹の牛をかひ入れ此より後は己の手一つにせよとてマサに與へたるは昨年春のとなりし爾來マサは牛の飼育掃除等一切人手を借らず己が纖弱腕一本にて働き牛を見る猶我兒の如くに愛し希望者ありて相當價格と見れば之を賣つて更に他の仔牛を買ひ入れ既に手にかけたる物十數頭に及び或時は前月十五圓にて求めたるもの翌月は三十五圓に賣り一ケ月に僅に二十圓の利益を見るに至りぬ斯くして利に利を増して今日に至り總利益金百六十五圓を得小なりとも家宅を買ひ狹けれども畑地を求め現今二頭の雜種牛を飼育し去九月開設の同村畜牛品評會には父由藏の名義を以て出品し二等と四等の賞を得たるが是皆十四歳の少女マサが小腕一本の働きなりとは五尺の男子をして愧死せしむる美談なりかし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

詞藻



（天）嵐　　陸中花輪町　破雛子

三日月を木の間に懸けて物すごく
　嵐吹き捲く大那智の山

評曰。深山大壑の夜嵐を歌ふて、殆ど豪宕を極む。又。豪宕の句、必ずしも含蓄に乏しきを病まず。

（地）湖邊月　　美濃國武儀郡東武藝村谷口　山田愛子

源氏かく筆もすてゝやながめけむ
　石山寺の秋の夜の月

評曰。源氏の筆者も筆をとゞめて眺め入ることありしかと思はるゝ程なれば、其好景致なる知るべきのみ。想着し得て自ら凡ならず。

（人）嵐　　神戸市奥手野番外三〇三ノ一八　右田春蝶子

青嵐雲の大比叡吹落ちて
　京の十里縁に搖るゝ

評曰。洛中洛外の草木、大比叡颪に煽られ、吹きしかるゝの狀、眞に目睹るが如し。筆力殆ど當るべからざるものあり。唯句に少しく落着かざる所あるより、今暫く之を第三位に置く。

秀逸

〇〇〇湖邊月　　神戸元町三丁目　竹馬ゐく子

月夜よし水海淸しいざゝらば
　蘆間に舟を浮けて遊ばむ

古歌に由りて新意を出す、調自低からず。

、〇〇同　　大阪北區小深町一三四　沖なほ子

かずかず見えて落ち來る雁の聲すなり
　堅田の浦の秋の夜の月

落ち來る雁の數よむべくむば、其月の如何に明らけきか、想ふべき也。

、〇〇同　　熊本市南千反畝四一　安田文子

雨によき名にはたてれど辛崎の
　松に懸れる月のさやけき

雨によき名に立ちしをとは、起し得て詩味饒し。

、〇〇嵐　　京橋南傳馬町三ノ八須貝方　高宮安子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嵐だに嬉しかりけりをり／＼に
　とさせる月の雲を拂へば

亦一種の觀察と謂ふべし。

、○○湖邊月　　千葉　佐久間雅子

うす霧に神秘の戸まだあけやらず
　有明の月夢とたゞよふ

着想新鮮、造語亦奇、以て曉月の淡きを歌ふ。

、○○同　　豐橋　はちす

朝もやはうすれ／＼て琵琶湖上
　蘆間に匂ふ眉月の影

前評同、移して又此什を許すべし。

○○同　　和歌山市新通七丁目　森繁尾

萬里渺秋こゝに高し洞庭湖
　一痕白き十六夜の月

詩想豐かに、着想奇警なれども、惜むべくは上句造語妥ならざるに似たり。

○○○同　　安藝國竹原町　松阪梅子

水海や十里舟を見ず島を見ず
　月のみふねのひとり漂ふ

月朗心に至て高きの狀を見る。

○○○同　　陸中花輪　はな子

舟すでゝのぼるおばしま夜は更けて
　十和田湖畔月くまもなし

○○同　　新潟縣古志郡十日町　鈴木よし

草の家の燈火淡く影見えて
　月に更け行く湖そへの村

○○○螢　　石見國邇摩郡靜間村　宮内登美

正なしといはるゝ螢も己には
　横に行くとも思はざるらん

○○同　　下野下都賀郡瑞穗村横堀　金戸貞子

横にはふあしまの螢のあさましき
　浮世のさまにならはずもがな

○○同　　備前金川　駒井友子

横にのみ歩む葦間の螢すらも
　おのが行く手はたがへざりけり

○○○同　　宮城縣遠田郡小牛田村七八　小山田みどり

螢が行く横さの道の横さまに
　ゆかば行くべき世にもあるかな

以上四首共に螢を詠じて教訓の意を寓す。其中最後のものは、頗る世を憤るの意あるが如し。

、○○湖邊月　　京都葛野郡西七條北尾方　藤岡さゆり

なかば出でし眞如の月を呑まむとてや
　今し銀蛇の東へ走る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遺跡奇晴。

、〇同

家人に見せまほしきは水底に
山のはならで出づる月かげ　　越前　武田かをる子

「山の端ならで」の詞、面白し。

、〇〇同

鴨の海渡る小舟の棹ばかり
さしのぼりけり片破の月」　　名古屋市主税町二丁目十三番戸　玉村多哥子

「棹ばかり」の詞、殊に面白し。

・〇〇同

ゆきかへり湖邊の夜半の長かれと
思ふは月の澄む夜なりけり　　神戸楠町七ノ六三　倉重千代子

〇〇同

舟出して島めぐりせん友もがな
志賀の浦わの秋の夜の月　　伊賀　服部かつ子

以上二首、共に湖上の月を愛づる意を歌ふ。

、〇嵐

戸ざしたる閨に木の葉の音たてゝ
夢安からぬ小夜嵐かな　　備中浅口郡三和村　武島靜枝

、〇同

柴の戸のなれても音のさびしきは
夢のあと吹く嵐なりけり　　長門大津郡深川小學校　杉山きくの

、〇同

檜すだれに通ふ夜嵐身にしみて
なき父しのぶ秋は來にけり

以上三首、嵐に由れる真感を歌ふ。

〇〇湖邊月

さをさせばさゆらぐ花藻ほの見えて
十和田の湖の月清らなり　　陸奥三戸郡川内村上市川　丸術千年子

「さゆらぐ花藻」と云ふが如き、何ぞ造句の巧みなる。

〇〇嵐

雨まじり木の葉こぼれて今日も又
嵐に暮るゝ野の一つ家　　石狩國空知郡歌志内炭山ルークシ

其淋しさ想ふべし。

、〇同

比良の峯をおろす嵐に霧晴れて
月澄み渡る志賀の大わだ　　越後三島郡日吉町　坪井わか

、〇嵐

シベリヤの荒野五百里月寒く
吹き渡るなりウラル山風　　姫路陸軍病院内　船戸ゆき子

、〇湖邊月

二つ三つ見ゆるとま屋に月さえて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

下野　菊池あさ子

夜や更ぬらし諏訪の湖　姫路山陽社宅　松下槇恩

○同
水底にうらみぞ長し秋の夜や
　貝加爾湖畔月のみ冴えて　神戸市下山手通五丁目七十五　岸崎濤子

○嵐
吹きはらふ夜半の嵐に聲立てゝ
　むせぶに似たり峯の松が枝

以上諸作、歌ふ所同じからざれども共に佳作たるを失はず。

○蟹
雨に風にいとはで澤にすむ蟹の
　日毎よしあし分けて行く世か　大阪西區北堀江高通二ノ一　吉野ひさ

亦教訓の意あり。

俳調

● 山城　古川よれ子
さよ嵐のこゑきれ〴〵に聞ゆなり軒にあらしの音たかくして
● 室蘭　佐々木左伎子
夕やけは波にうすれてかれの音の一つ二つに月のぼりくる
● 大阪　押鴨波子
波ひくう太古に似たる靜けさに月のみやどるバイカルの湖
● 下谷　幹子
みいくさの旗をさまりて時ならぬ嵐吹きけり都大路を
● 久留米　みつ子

しげりあふあし葉をわたる夕風に月影ゆらぐしがのうらなみ
● 備後　平岡吟女
汀なる芦も戰がず鳰の海の波間に浮ぶ秋の夜の月
● 小倉　林とみの
旅は猶ほいこそれられぬ山里のいた戸はげしく嵐吹く夜は
● 越後　松本きよ子
月影はちぎるゝくもに出づいりつ嵐はすさぶすゝき野の原
● 岩代　菅野和子
夕顔の棚かげ匂ふ風にして木の葉ふきまき野草ふきなる
● 三河　菅沼花子
樵の宿にはからず父にめぐりあひて泣き語る夜を嵐吹き吹く
● 神戸　小林竹子
さす月の光に富士のさか影もさやかにうつる頃の海つら
● 筑波郡　[illegible]月
嵐ほど世にいとはるゝ物はあらじ春は櫻に秋はもみぢに
● 東京　秀子
すゝき原秋わけ來れば湖の波に匂へり夕月のかげ
● 栃木　外塚みち子
ゆくりなく夜の湖邊をさまよへば月さしのぼり雁なき渡る
● 千葉　田村たき子
漣の訴するがまゝに暮初めて月になり行く志賀の湖
● 三重　日野輝子
消えもせで殘る渚の足跡や小蟹宿る須磨の黃昏
● 東京　田中千代子
黑雲は幾重の峯にかさなりて七村かけて嵐となりゆく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

● 伊勢　藤堂しげ子
廣庭にあゆみ出でたる紅蟹の背にこぼれし白萩の花

● 馬關　木村いま子
身にしみて嵐の音も聞ゆなり鹿なく山の秋の夕暮

● 大和　橋かほる子
乗り捨てし舟は葦間にかくろひて湖の面ましろに月さやかなり

● 大阪　波子
夕月は尾花のうれに落ち行きて波たゞ黒しバイカルの湖

● 保土ヶ谷　かほる
ものすごき夜半の嵐に船の上のせこは何國の海にますらむ

● 香川　後藤くめ子
北の海こよひわが背やいかならん燈火くらし風ふきまさる

● 伊勢　天野八重子
目はたてに歩みは横に生れ來し小蟹に何の罪やあるらん

● 本郷　安井澄月女
折々は蟹のはひ出るけはひして月澄みにすむ磯の岩山

● 岡山　深井清子
夕されば湖底の景のうつくしゝ見返る松に月のかゝりて

● 金澤　大田貞子
余吾の湖きしの松風音すみて波おもしろく月冴え渡る

● 伊勢　糸子
おともなく蘆間すぎゆく舟見えてかげくだけゝり水の上のつき

● 静岡　伴野繁子
夜嵐のふきすさびたる秋の野にひとりさびしき白萩のはな

● 大阪　すみ子
さゝなみや志賀の浦わの夕月夜あみ引く舟の數ぞよまるゝ

● 埼玉　羽鳥ひろ子
湖添ひの椰子の木影に蠻人のはだか踊りや夏の夜の月

● 下野　新井琴子
白浪の去りし砂地の小穴出て蟹三つ二つ日は暮にして

● 神戸　雪子
さゝなみのよるとも見えぬ景色哉志賀のうらはの秋のよの月

● 下谷　藤井隆子
大空に墨色の雲ひろごりて雨降りしきり風吹きすさぶ

● 長門　杉山きくの
旅僧の舟よぶ聲にたそがれて嵐つめたし里のわたし場

● 大和　西尾微恋
日暮れて里淋しくも紅葉散る嶺の嵐の音のみつよく

● 駿州　清りん
水のおとにかゞやきわたる夜半の月なきゆくかりの數もよまれつ

● 静岡　今泉みち
吹きおろす嵐に野邊を行く人の袖にまつはる糸萩の花

● 牛込　峯崎糸子
くもりなきかげは波間にうつろひて宮居は月の上にうかべり

● 伊勢　滝野すみ子
安からぬ旅のかりねのゆめさめてひときわすごう秋嵐のふく

● 美濃　杉山芳子
み使に御召の駒をたまはりて急ぐ湖邊の月おぼろなり

● 埼玉　羽鳥ひろ子
清水湧く麓にすがる澤がにの白きはさみに秋の風ふく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

● 岐阜 丸山匡子
夜汽車行きて聲なき過ぎて秋月の音なく冴ゆる勢田の湖
● 金澤 桑井せき子
夏けぬらし蟲のなく音もたえ／＼て琵琶湖のほとり月唯白き
● 下野 川邊多喜子
病む母がみとりに疲れうたゝねの夢おどろかす夜嵐の聲
● 伊勢 水谷菊子
山はしるけものもそらをとぶ鳥もともにひそみてふくあらしかな
● 大阪 高林きみ
横文字は學びこそすれいかでわれかにのあゆみをならひやはする
● 神戸 脇屋とみ子
誰がすさびぞ笛の音遠く聞ゆなりあしの湖邊の月清き夜に
● 大阪 上月馨子
あしそよぎ舟歌遠く山かすか秋風三里月影清き
● 小石川 白ばら
昨日まで露と匂ひし白萩も夜來のあらしにあとかたもなし
● 姫路 春子
なつかしき父母が笑顔は見えずして殊に身にしむ夜嵐の音
● 豐前 中村とし
穴すみの身は世の事を知らずしてたゞ横しまに走る蟹
● 東京 篠根みさほ
水やいづく何處や空ぞ湖の狭霧に浮ぶ秋の夜の月
● 小石川 武内春江
横にはふも蟹は行くべき道ぞ行く只一とすじな我も踏まゝし

● 大阪 富田艶子
流れゆく小川に蟹の足おそく小石のひまにかくれても見つ
● 下野 新井てい子
夕あらし又もおとなう聲のして庵に我のひとり淋しき
● 下總 林はな子
むしの音のたえ／＼きこゆ湖のほとり月かげしろく風しづかなり
● 淺草 臨田こう
いつしかと待にし秋は來にけりといはでもしるき山嵐かな
● 大阪 安藤まと子
暮れのこるみづ海みえて松見えて月にあけゆく三井の古里
● 四谷 齋東園子
しがの湖の波の穗白く唐さきの松かげくらし秋の夜の月
● 尾張 松岡よし
板屋打つ木の實の雨や葉嵐に今朝とく夢の驚かれぬる
● 芝 松山房子
あま小舟かへるかたゝのかりおちて女波にあそぶつきの桂男
● 大阪 山中ます子
ともすれば道なきかたに横はしるあしまのかにのあるか世の中
● 大阪 みつ子
名にしおふ琵琶の湖あたり來て見ればさゞ波きよく月ぞ流るゝ
● 岡山 しげる
夜に入りて雨は風となりにけり沖に釣るせこたゞに歸れや
● 滋賀 ゆかり
小波や滋賀の湖月すみて棹さす船の懸繪のごとき
● 下野 玉野とし子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふきしきる嵐の中に日は暮れぬ今宵はこゝに宿をからなむ　●　大阪　吉野ます

湖みの岸辺の松の影映す小船は月を乗せてゆくなり　●　秋田　英れん子

砧うつ音更けゆきて湖畔の小村しづかに月かげ清き　●　小石川　武内春江

母様が昔のはなしなむかし聞し御鐘は今も耳に残れる　●　岐阜　青木松尾

渡り行く雁の一連影落ちて月さやかなり志賀の湖面　●　伊豆　栗村かほる子

沖よりの嵐木かげなりゆるがせて宮島朝の汐みち渡る　●　佐倉　岩瀬文子

親蟹のこゝろづくしもいかにせん親にしたがふ小蟹なりせば　●　神戸　竹山こま

いつしにか虹七彩の影暮れて雁渡るなり弥月の湖　●　佐倉　よし子

船出せしかひも嵐の吹きまきてはてしなき海いと物凄し　●　鳥取　宇須美もと

あらし吹くこゝ山里に日は暮れて松にかゝれる月あわく見ゆ　●　土浦　かすみ子

棹させば月やくだけん此のまゝにながめあかさん霞浦のみぎわに　●　駿河　かめ子

木の間わきてのそむ谷間のたきつせになに思ふらむすゝむさゝかに　●　名古屋　佳貴子

海女の児の群がれゆきし磯のほとり森の根もとに小蟹這ひ出でぬ

堅田沖を鳴きつゝ渡る雁つらのゆくへに寒き有明けの月　●　滋賀　田中とみ子

時ならぬ嵐の吹きてたそがれの都大路のさても淋しき　●　下谷　みき子

葦の葉の葉づれさら〳〵いさゝ川赤き大蟹子を負ふて行く　●　本郷　石原鶴子

金波湧く汀に白う浪花散りて月の御堂は只だ繪のごとき　●　福岡　白鳴女史

夏渡る風さやかにも湖の夕べ静かに月更けてゆく　●　金剛山　碧子

世の人の朝な夕なに心せよ嵐こぬ間の堰の締りな　●　磐城　くら子

親潮に漂ふ船の燈は消えて帆無き檣に風吹きしまく　●　京都　藤岡さゆり子

夜嵐の寒けく吹くに吾せこは今かきまきん畑のあぜ道　●　秋田　小笹千代

亡き妹の墓はかくれぬ亂れぬ嵐の渡る萩の一むら　●　美濃　田中久代

立つ浪も玉とてるなり琵琶の湖さやけき月に白帆よく見ゆ　●　美濃　岡中庭子

裳のもすそ重げにからげつゝはぜの下道小蟹おひゆく　●　大阪　藤喜代子

船頭の追分遠く消えゆきて湖上しづかに月さしのぼる　●　津市　川村流子

神戸　藤井夏子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

柚が家を靜かに秋の見舞ひ來て無名湖のあたり月淡く上る　●備後　田村もと

鳴とりは蘆間の床にかへらひてゆるぎ湖面を月のいざよふ　●下關　紫野信子

紅葉の流るゝみれば立田山峯の嵐のふきやしつらむ　●前橋　宮内りき子

さらでだにいとゞ淋しき秋のくれにあなもみぢ葉を散らす山風　●愛知　神谷あき子

大空に月只一つ湖に我舟一つ夜はふけぬらし　●山形　萩露子

あしがにはすぐなる道のそれならで何思ひてぞ横ばしるらむ　●岡山　しげる

黄金波しろがれ波のよせきては月の近江路うた面白き　●丸龜　前田喜美子

いたいけの子にかにとれとしひられてためらふも可笑し鋏多き父　●下谷　みき子

外國の人も月見の舟出してともにかたるよ蘆の海の面　●飛驒　遊多子

柴の戸をたゝく落葉に目さむれば嵐にむせぶかりのひと聲　●名古屋　荒川はつ子

木昔の青くも蒸せる岩の上にさゝ蟹ひとつ小雨そぼふる　●大阪　小山ふく子

賤の男のこゝろもいかにみだるらむ嵐ふくなり小山田のさと　●福井　島萬壽

もろこしの荒野に薦るしこ草もなびき伏すまで嵐ふくなり

和歌兼題

▲秋田　▲山路霧

▲新婚祝賀　▲柿

〆切十月十五日限

判じ給に就て

前號所載判じ給の中に收めたる動物の種類と總數は左の如くなるが、出題者の罪か、解答者の罪か、これは數ある解答の矢の悉くあらぬ方にのみ外れて、正しく當て得たる者一人もなかりしは、いといと飽かぬ心地こそすれ。

ふくろふ二羽、鷄　二羽、をしどり二羽、
鵞鳥　二羽、孔雀一羽、鳩　一羽、
鶴　一羽、雁　一羽、かもめ一羽、
雀　二羽、千鳥五羽、つばめ三羽、
きじ　一羽、さぎ一羽、鷲　一羽、

〆テ十五種類　二十六羽

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文苑

秋のあはれ

田中ゆふ風

九月一日

朝疾く、例の濱邊を散歩せんとて出づ。途次、清げに取廻したる四目垣に、主人より疾く眼覺ましたる朝顔の、露に色榮えたるさま、此頃變り花など、そのものとも見えぬよりは、可憐にて、眺むる端に、ふと空を仰げば、稲村が崎の彼方なる海より、たゞこの源氏山にかけて、美き虹の現はれたるものか。此の色の空に映れる、彼の色の此に宿りぬると、天と地との美に包まれつゝ顧眄すれば、絹張山に日は最きらきらしう出でたれど、大方の空は霧深きにや辿々しきをあやしと見るほど、冷きものゝ面撲つは、はやう雨なりけり。をかしき空かな、さらば又こそとて歸りつ。門にはさめりし新聞取りにゆけば、表の人、今日は圓覺寺の開山忌なり、いつの年も雨ならぬはなきぞあやしきといふ。

此寺の什寶を此程の風入れに見つ。北條時代の武士たちの文、その外もいと多かる中に、花園帝、後光嚴天皇の御宸筆など、別ても貴く、唐畫の涅槃の像なども、國寶の札を傍へに置かれたり。近くは今の大御代に、こゝなる時宗公の墓前に、從一位を贈られつる宣命など、いといと畏く拜まれにしか。

建長寺にも、貴き物いと多かりし。

同じ日　源氏物語なる明石上

源氏物語の女主人公の中、われは明石上をこそ比ひなくは覺ゆれ。紫の上の華やかに順境なるは、まことに、「霞に匂ふ樺櫻」に似たり。さらば、明石上は、澄渡る秋の月にも似たらんかし。明石浦の月夜に、源氏に逢初めつるより、俗ならぬ琵琶に堪能なる、さては、われのみ思ひ上るなる嫉妬などいふ方は露斗り見えで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

父こそ古守領とはいふとも、（もとは近衞中將）母は宮腹なり。かの式部卿の宮の娘ながら、嫡腹にはあらで、かくろへたるやうにて、祖母の手に養はれたりし紫上と比して、種姓も賤しとおとしむべきにはあらぬを、かれは、「今日は昨日にまさりて寵をうくるになれて、帝王の姬宮（女三なり）の本台となり給へるに逢はんにすら、「おれより上の人やはあるべき」と心驕れるに比して、これは、割き難き愛をさきて、わが產みたるを紫の猶子としたる後に中宮となりて皇子產まるゝ際にも、「氣高く寬裕なるものゝ、さるべき方には卑下して、慴らかにもうけばら」ず、紫上が、抱きとりたるを、「眞の祖母君はたゞ任せ奉りて、御浴室の扱ひなどを仕へ奉る」も、いと賢き業にはあらずや。

容貌もいと氣高う美うて、「少し不充分ならばいとほしからましを、驚歎く氣高く、實に斯る宿世殊にものし給ひける人かな。」と紫の侍女たちも賞めたり。

九月二日

逗子の歸さ、此頃の空名殘なう晴れて、星の光皎皎しけれど、月なき頃のあやなきに、田越橋の此方なる小路より、男女の一群出で來て、提灯も三つ四つ灯し列ねたれば、便宜よくて後より行くに、夜目なれば判然には見えねど、薄色の紋服にきらびやかなる帯しめたる若き夫人と、三歳許の海軍服着て圓々とよく肥えて重げなるが、侍の背に眠りたるをを中に、裾もたゝしき夫人一人、召使めくもの三四人なり。

『先刻もねえ、坊ちやんに、お父樣は何處へ被入たの。」と伺ひましたらば、お佛壇の中をお指しになりますの。まだ生きて被入るのですねえ、と申たらば、默つて逃げて往つてお了ひなさるんですよ。

送る方の夫人なり。

……まだ今の中は皆さんのお庇蔭で、かうして賑やかでよう御座いますが、全然取片付をして了ひましたら、まあどんなに淋しいだらうと存じましてね。

といふ人は聲をのむべし。聽く人も領く斗り、白き頸の低う並びて、下駄雪駄の音のみ空に響く時、俄に人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氣の脈はしくなりしは、停車場に着きたればなり。

　戰にてか病みてにか、此の若き夫人の痛はしさよと、瓦斯燈の此方よりなほ見れば、美う取上げたる花月卷に、一筋の亂れもなけれど、思ひ做しにか頰の肉やゝ寒く、新き愁は眉の間にも仄見ゆ。

　兒はなほ快げに熟眠して傳女の背よりも落ちぬべうなりたるを、「此方に取らうかえ」と傍へに立てば、老媼は心得て手をさし出すを「いゝえ宜しう御座います」とて、傳女は搖上げなどす。送り來し夫人は、紙に押包みたる小さきものを出して、

　坊ちやんがお眼覺になりましたらば、

とて出す時、

　横濱行の改札は始まりたり。

かの人々は此次出づべき新橋のになるべし。場面は一轉しぬ。

　わが前に腰かけたる二人の青年の同じやうなる飛白の單衣着たるが、

　君、なかなか、彼處で判任になるのは大變だからなあ、僕は、依然職工の方が宜いと思ふよ。

　笛鳴りて車は動き始めたり。

どうして、〇〇の大學なぞ出ても、文部省の認可でないから、何にもならない。それよりも、今つから職工になつて辛抱した方が餘程利方だ。

なほさる事のみ盡せず語る。横須賀の造船所になど望むなるべし。

　然るべき保護者ありて、中學より、高等學校、大學など安らかに移りゆくはよし。然らぬは、行末いかにして世を經ぬらんと、かく煩ふなりけり。水鳥の足のひまなき世を今更に呻かるゝほど、鎌倉に着きぬ。

　階下り來れば、行く人は皆上り果てゝ、兩杖つきたる人一人、まだやうやう五階斗りの處を、一つ一つ躍上るやうにて來るなる、此の頃二度三度見つる傷病兵士なり。

　上りも果てぬに汽笛は鳴りて、やがて動く音もす。此處に人ありと、下なる驛員の知るよしもなけれど、自身ならではの事ありてこそ、さる身に出で立つなれ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界定期增刊

當世 交際社會

十月十五日發行

交際に拙なるは、小にして一身を誤り、一家を誤り、大にしては國家を過ち、悔を千載に遺すに至るとぞ、今や秋風蕭殺、ポートマスの平和條約を聞くに及んで、また此の嘆なくんばあらず、此の時に當り『交際社會』を編むの意、婦人を交際塲裏に誘導して、其の養ひ得たる智識により、後の國民を完全に仕立てられんことを希へばなり、本編收むる所、世故に長けし貴婦人の經驗談を初めとして、交際の要道、つきあひの秘訣に至るまで、事苟くも社交に關する諸般の智識は擧げて洩さず、眞に社交界空前の良師なり。

目次

社交塲裏の貴婦人
貴婦人の交際振
婦人社交倶樂部
社交界の女王
社交十二ヶ月
八方美人傳
家庭間の交際
交際術
社交と服裝

泰西社交觀
巴里の交際社會
社交日記
交際難
音樂會の記
天長節の夜會
某伯爵家の園遊會
社交の花
社交百則

大山侯爵夫人　社交談
鳩山春子夫人　社交談
岡部子爵夫人　社交談
秋元子爵夫人　社交談
山脇房子夫人　社交談
吉田子爵夫人　社交談
柳谷千代子夫人　社交談
長崎省吾夫人　社交談
棚橋絢子女史　社交談
小川直子女史　社交談

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



小説

一家の妻

田山花袋

一

七月の初旬、杉本子爵夫人は里の母親なる津村伯爵夫人と、其二人の兒を伴れて、大磯の別莊に行つた。大磯には東京の朋友も多くは避暑に來て居て、交情の好いなにがし夫人、くれがし夫人の別莊も近く、遊戲の材料から、交際社會の準備、舞踏の倶樂部、乘馬の倶樂部、音樂の倶樂部等、何の事はない東京の冬の交際社會をさながら此處に移したと言つても好い位。

夫人は子爵と戀に依つて結婚し、其新婚當座は殆ど傍の見る目も妬ましい程の濃い交情であつたが、二人の兒を産んだ頃には、もうその熱情はすつかり覺めてゆくりなく衝突した互ひの感情、互ひの性格、子爵は元來眞面目な性情を有して居て、交際社會に妻の出ることなどを厭ふ風があるのに、――夫人は氣が常に浮々して、二人の兒の母となつても舞踏、音樂は廢められぬと云ふので其衝突は子爵の自暴自棄、家庭の不和。

左樣かと言つて、夫妻の間に甚しい衝突があつた譯でも無いが、唯、世間に於ける仲の惡い夫妻の間の狀體と均しく、互に冷かに相敵視して居るのは事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實で、口を交せば必ず反抗か冷罵か、でなければ態とらしい甚しく叮嚀なる取扱を始めるので、愈々不良の狀況に陷つて行くばかりである。

春子夫人はまたおのれの眼の前に一刻でも夫の不愉快らしい顏の見えぬのを喜ぶといふ風、里の母親津村伯爵夫人はこれを此上なく心配して、何うか元のやうな交情の好い狀態に復し度い、子爵とて左程解らぬ人では無いからと、頻りにそれを勉めるけれど、何時の間に二人の間がかう烈しく反對して來たかと思はるゝばかりに、容易に解けさうな模樣も無いので。

「何うも不思議でなりませんのは」とある日大磯の別莊で、當時媒妁役に立つた志田伯爵夫人に言つた。「何うも不思議なのは子爵が娘を欺いたといふ事よりも、其の娘に對する日常の態度にありますのよ。子爵が娘を欺いて、あんな下等な女役者などゝ怪しい風聞を立てられたのも、隨分酷い、默つては居られぬ事ですけれどそれはまア、世間の殿方には隨分無い事でも無いですから仕方が無いと致しましても、――唯、何うも見て居られませんのは子爵の娘に對する毎日の行爲です。何うしてまアあゝ邪慳に、憎々しい、不愉快な言葉が言はれると傍で聞いて居りましてもはら／＼致す位で御座いますよ。私はまだ、子爵に愛憎を盡かすの、何んのと言ふのではない、好い時には非常に好い人だと思つて居りますけれど……」

「何うも御氣の毒で、何故あんなに變つたかと私達も吃驚して居ります。あんな人間では無かつたのですがねー」と老伯爵夫人は言つた。

「娘には何でも態々突懸つて行くといふ風で御座いましてね、娘の爲る事は何を見ても氣に入らないので御座いますよ。一體理由なしに、こんな事を爲るといふのは、下様な無學の者にはありませうが、子爵のやうな學問もある方には、何うも常事では無いと思ひますので、何か、非常に大きい理由でもあるのではないかと思ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。それは娘を騙して、他に情婦を拵へたのは、それはまア好う御座いますわ、唯、今少し娘にやさしくして與れませんと、娘もさう〳〵は忍んでばかり居る譯にも參りませず、終には何んな悲しい事をも出來ぬとは限りませんので……本當に困りますのよ。」

「何故あんなに愚になつたか」と伯爵夫人は言つた。「何うも實に困つて了ひますのねえ」

二

春子夫人の親友、眞田子爵夫人が其兄太田原子爵と大磯の別莊に來たのは、それから十日經つてからのことであるが、此の子爵夫人は當世の美色、且つ賢婦で、夫は海軍の中佐、常に海上の生活を爲て居るから、夫人は其一人の兄——愛せる妻を喪つて、非常な悲哀の淵に沈み、如何なる快樂も、如何なる慰藉もこれを救ふことの出來ぬ一人の兄を慰めて、逗子、葉山、夫から此地へと常に世を懸隔れた生活を送つて居るのであつた。

春子夫人とは姉妹も啻ならざる交情、大磯に來ると、すぐその津村の別莊を訪問したので、寒暄の挨拶が濟むと、

「雪子さん（眞田子爵夫人の名）」と春子夫人は突如として、「此頃、不思議な事があつてよ、妾が毎日散步に出ると、朝に夕に妾の後を追廻してゐる紳士風の人があるのですがね。何だか氣味が惡くつて爲方が無いのよ」

「屹度ラヴされてるんだわ」と子爵夫人は言つた。

春子はさつと顏を赤くしたが、「それに猶不思議なのは、何だか其人の顏は何處かで見た事があるやうで、滿更知らぬ人でも無いやうな氣が爲るのよ。さうかと言つて何處で見たといふ事は分明何うしても思ひ出せませんけれど——屹度、夢の中にでも見た顏かも知れませんわ。それが實に不思議なので、昨日も今日も妾の影を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へ見ると、屹度其人は跟いて來る。海岸に行けば、海岸、山に行けば山、今朝も街の通りで逢つたのですがね、じろ〳〵と人の顏を見て、その無氣味と言つたら、無いのよ」

「何んな風を爲た人なの？」

「立派な裝を爲て、何うしても上流社會の人には相違ないのだけれど——何んだかかう少し沈んで居るやうな變な人なのよ。何時迄左樣だと、何うしたら好いかと思つて、少し心配なのよ」

「何アに、そんな事は構はんで御置きなさいよ。……それよりか、本當かしらん、自惚れぢや無くつて？」

「厭だわ、雪子さん」と春子夫人は肩を聳かして言つた、やがて、「ほら！」とけたゝましく叫んで、「御覽よ、其處に來てるから」

二人は二階の欄干に凭つて、遙に大磯の街を隔てゝ、美しい大海の眺望を貪つて居たので、下には蛇の蟠つたやうな路が右に左に縱横に、青翠滴らんとする美しい松原の中に通じて居るのが見渡される。

眞田子爵夫人は春子夫人に熱心に指されて、松原の前の路に立つて居る所謂その不思議なる紳士を見たが、急に聲高く笑ひ出した。

「それが貴嬢の仰しやる戀人！」と子爵夫人態と驚いたやうに春子夫人の顏を見て、「まア、あの人なの、それは實に大したものだわ！」

「雪子さん、御存じなの？」と春子夫人は問うた。

「其の返答は爲ずに、眞田子爵夫人は二階の欄干から身を半ば出すやうにして、そして手を擧げて呼ぶのであつた。

「兄樣！」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「おや、兄様なの、太田原さんなの！まア厭だ」と春子は叫んだ。

「え、太田原の兄よ。妾より二三日先に參つて居たのですよ。何時も貴孃に御紹介するすると言つてばかり居て、未だに致す機會が無かつたけれど、今日は御紹介致しますわ。兄もまだ貴孃を知つて居ないもので、それで後なんぞ追廻したり何んかして……。けれどそれを考へると氣の毒になるのよ、貴孃は死んだ嫂に克く似て居るのだから……」

太田原子爵は妹に呼ばれて、熱心と言ふよりは寧ろ從順に、其儘別莊の方へと足を進めて來た。さて庭の花園の柴折戸を推して、一歩一歩其の座敷の方へと近寄つて、靜かに椽に上らうとした。

二人の婦人は二階から降りて來てこれを迎へた。

「これが妾の兄」と子爵夫人は春子夫人に向つて言つたが、さて振返つて、兄に、「兄さん、杉本子爵夫人で居らつしやるのよ」

春子夫人は其の悲しい歷史を記憶して居る身の、その風采の豫想に反して甚だ感情的でないのを訝かしく思つた。丈は高いが、甚しく瘦せても居ず、顏の色なども日に燒けて、其の口髭の濃く黑い具合、頭髮を奇麗に梳いて分けた風采など、何の事は無い東京の牛込附近によく見懸ける佐官位の軍人に彷彿。

殊に限りなき好奇心を以て折々春子夫人の方を見遣る其眼色の確乎として些の輕佻らしき影を宿さぬのは實に尠なからず春子の心を惹いたのであつた。子爵は椽側に腰を掛けたまゝ簡單に子供の健康、趣味の話、世間の雜話などに數分間を費し、其儘別を告げて辭し去つた。其姿の見えなくなるや否、

「貴孃は今私が其の亡つた奧様に似てるつて仰しやつてね」と春子夫人は問うた。

「え、非常に……、私なども何うしてあんなに好く似てるかと時々は思ふ位ですよ。兄さんも屹度其れを見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てるのよ。」

「何うですかしら」

「本當よ、現に、兄が左樣言つた事があるんですもの」

「それぢや『私を御覽なさると、折角忘れて居らつしやつた亡夫人を思ひ出して、御氣の毒ですわね』

「いゝえ、そんな事があるものですか。あゝいふ人は却つて思出した方が嬉しいんでせうと思ふわ。けれど貴孃は兄は嫌ひでせう？後なんかつけたり何かして……」

「いゝえ……知らない中はそれでもね、厭な奴だとか何とか思ひましたけれど、貴孃の兄さんですもの、嫌ひなどゝ言ふ筈はありは爲ませんわ」

「何うかねえ、本當に兄は氣の毒なんですから。私はね、何うかして其悲哀を充分に慰めて、すつかり元のやうに爲て上げ度いと何んなに苦心してるか知れないのですよ。兄は本當に好い人ですし、それに妾は稚い頃、非常に世話になつたのですからねえ」

「雪子さん！」と春子は急にある事を思ひ付た者の如く、『雪子さん、それぢや、丁度好いから、此地に來て居らつしやる間、二人して思ひ切り慰めて、元の通りに爲て上げませうじやありませんか。一寸は難しい事業かも知れませんけれど、二人の誠意で慰めて上げたら、少しは御まぎれなさるでせうから」

眞田子爵夫人の兄の行かぬといふを幾度も說勸めて、やうやく此の大磯に伴れて來たのも、全く其意に外ならぬのである。

大磯にでも行つたならば、其處にはさま〴〵の慰藉の遊戲もあらうし、多年離れて居つた交際社會にも入ることも出來やうから、ひよつとかして、それを機會に、再び現世の人として立つ氣になるかも知れぬと兄思ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の情深い妹は思つたのである。けれど春子夫人がいかに嫂に似て居たからとてまさかに都合よくかく迄兄の心を惹かうとは夢にも思つて居らなかつた。けれどこれは何よりの幸福、殊に、春子も親切にさう言つて呉れるので、幾重にも其事を頼んで、先づ第一に成べく互に往來を繁くしやうと約束した。

三

其の結果として、太田原子爵はさま〲なる交際社會に紹介せられ、よく妹に伴はれては晝と言はず夜と言はず彼方此方へと出懸けて行つた。時にはその餘りに輕佻に餘りに浮薄なのに呆れて、敢て行くのを屑しとせざるやうな事もあつたが、幾らか春子夫人のなつかしい姿を見度いといふ心もあると見え、春子の姿を見せる處には大抵出懸けて行くを例と爲て居た。

其間一二度春子の別莊の夕餐の卓に呼ばれたが、ある日、其處から使者が來て今宵九時から舞踏會を遣るから、眞田夫人と一緒に是非來て呉れと報じて來た。

春子は其の夜このあはれなる獨身者を慰藉めやうといふ意で、共に舞踏を試みるべく頻りに之を誘つた。太田原子爵は冷かにこれを謝絶し、斷じてこれに應じやうとは爲なかつた。仕方が無いので、春子は他に相手を求め、大藏大臣の子息なにがしといふハイカラと長い間ワルツを踊つた。さて、それも濟むと、少し御轉婆といふ氣味で、伊達に葉卷の烟草に火を點けて、安樂椅子に凭懸つたまゝ他の組の騷ぐのを凝と無意味に見詰めて居た。其處に近寄つて來たのは、太田原子爵、其眞面目な顏にめづらしく莞爾とやさしげな笑を含んで、

「先程は甚だ失禮して濟みませんでした。貴孃は私をさも皮肉な、厭な奴だと思つたでせう？」

「え、少し……」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『まア、御聞きなさい。すつかり打明けて御話せんければ解らん。妹が逢つて勸めるし、貴孃も勸めて下さるで、それでかうして交際社會に出て居るけれど、交際社會などが何うして面白いでせう。それに私は自分の悲哀を人に示し度くはない——それは旣に御存じの筈。ですのに、何故、貴孃は其れを尊敬しては下さらん。私は滑稽に馬鹿らしく見えるのを却つて貴孃は御望みのやうですが、それでは御友達になつてる甲斐が無い——私は心から貴孃と御友達になることを願つては居るのだが』

春子夫人は太田原子爵に傍の空きたる席を讓りながら、愛らしき快活なる色を滿面に顯はし、

『それぢや、妾は、貴郎の妹になりませう？』

『左樣言つて下されば嬉しいです』

と太田原子爵は言つた。

少時默つて居たが、春子夫人は葉卷の烟草の灰を振落しながら、多少眞面目な調子で、

『それで、兄樣になつて下すつたら、妾、世話を燒かせますが、好くつて？』子爵は答へずに笑つて點頭いた。

『本當に好くつて？實際ですよ』

『え〻』と子爵は答へた。

『それでは、貴郎は妾の惡い所、御氣に入らぬ所はどん〳〵指して直すやうにして下さいますね。え？』

『御望なら、——何時でも』

『それでは、言つて下さいまし』

『宜しい』と子爵は笑ひながら『先、第一に烟草などを吸ふては不好ですナ』

薔薇のやうな色が忽ち若い夫人の艶なる顏を掠めて過ぎた。春子は直ちに葉卷を捨て〻、

『止めますとも！』と言つたが、其儘立つてピアノに向つた。（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

若き妻

高信峽氷

綾子は遂に神代義尙と結婚することに成つた。

綾子の父といふのは、二三年前までは某炭礦會社の社長で、學問こそなけれ、才子肌の男であつたから、隨分實業社會の利者として、雜誌の口繪にまで肖像を出されるやうな勢であつた——處が、かういふ人の癖で、何うも同一の事業を眞面目にやつて行く事ができぬ、で、會社の方は人に任しておいて、自分は別に北海道の炭礦に手を出して見た處が、なかなか有望らしい。慾に渇いた人は、無中になつて金を注ぎ込む——と、がらり當が外れて、巨萬の金は無駄になつてしまふ、會社の方も、信用した男が腹黑い奴であつて、さんざんに攪廻した揚句にぷいと姿を隱してしまつた。殘つたのは借金と自分ばかりであつた。

それで、今は四谷の大番町邊へ引込んで、徐ろに時の至るを待つてゐる——されば、今度の綾子の結婚にも、一番乘氣になつてゐるのは當人の若い娘でもなく、樂天好の母親でもなく、事業に渇してゐる五十二歲の父親である。

綾子が神代義尙と結婚すると云ふよりも、父が名望と財産とに嫁ぐと云うた方が適切であるかも知れぬ。

然し、されぱと云つて、母親や綾子が不承知であるといふのではない、母親は、たゞ名望家といふ名目、富豪といふ譽に醉はされて、一も二もなく大贊成！ 娘の綾子は母親と同じやうな考もあつたに違ないが、何しろ、まだ年若い娘である、結婚といふ、恐ろしいやうな、耻かしいやうな、嬉しいやうな、さては又知らぬ家に行くのであるから、心細いやうな氣もして、酒に醉はされたやうな心地、そわそわして、身も落着かぬ有樣である。

丁度日も好いからといふ母の發議で、二月十一日の紀元節に嫁入といふ事に成つた。

綾子は、うつとりとして、椽側の柱に凭れながら、庭の面を眺めてゐる——十日も前に降つた雪が、椿の陰に消え殘つてゐて、垣根に近く、南天の實の紅いのが霜にも枯れず俛れてゐる、短かい銀の針とも見える霜柱は、庭の土をぼツこり持上げてはゐるが、やがては美しい春の氣が、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何處からともなく洩いて來さうな、二月上旬の太陽は暖かい光線を投げてゐる。

「あゝ、今日はもう七日だわ。」何心なく、かう呟いたのであるが、ふと、顔を顰めて、四邊を見廻した。

「もう四日經つと紀元節！」少女の心は小やかに躍るのであつた。

義尙様と仰有るのは、まだお眼に懸つたとはないが、お寫眞では、眼鏡を掛けた、お髯の美しい、優しさうなお方、それに――そんなことは何うでも好いけれど、お富裕で、學問がお有りなすつて――何だか、ほんとに、勿體なさ過ぎて夢のやうな、いや、事に依つたらば夢かも知れぬ。夢であつたらば何うだらうか。夢であつて、覺めてしまつたらば何うであらうか。

何うか夢でなければ好い、夢ならば何時までも覺めなければ好い。

然し、之がほんとであつたらば何うであらうか、若し眞個ならば、眞個であつたらば、私は何といふ幸福なものであらうか。

あゝ、私は何といふ幸福なものであらう。

お邸は駿河臺といふことであるが、定めし立派な、西洋造でゞもあらうか。もつと早く分つたらば、學校の歸途にでも、電車に乘つて、そつと見て來れば好かつたつけ。

學校といへば、もう退校つてから一週間にもなるが、誰方も遊びに來ては下さらぬ、事に依つたら、私の今度のことを何處からか聞いて、それで態と入來つしやらないのではあるまいか。お口の惡い、饒舌の鈴木さんなどは、屹度、何とか云つてゐらつしやるに違ない、此前に、杉村様がお嫁に入來つしやる時だつて、あんな酷い事を仰有つて、何うせ永くは續きやしないつて、笑つてゐらつしやつてだつたが、眞個に杉村様は二月ばかりで、離緣になつてしまつた。

然し、私の――あの、義尙様などは、お優しい、お年を召した阿母様がお一人限と云ふんだもの、些とも難かしいことはありはしない、杉村様はほんとにお氣の毒だつたつけ、あんなに溫順しい方だから、どの位、御心配なさつてだか知れやしない。

杉村様といへば、あの方の仲好の本田様は何うなすつたらう、おや、だけどお別れしてから、まだ一週間にしか成りやしないんだもの、何うもなさる譯はない。あの方は、御容色はあんまり何だけど、學問がお出來なさるもんだから、華族でなければ結婚しないつて、始中終仰有つてだつけ。今度、私の事をお聞きなすつたら嘸羨ましくお思ひなさるだらう。いや、羨ましくお思ひなさるのは、あの方ばかりではない、皆様が羨ましがつて、屹度種々な事を仰有るに違ない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事に依つたらば、最う皆樣が私の事を御存知で、何とか云つてらつしやろかも知れない、何と云つてらつしやるだらう。何うかして窃と聴くことはできないか知ら——。

それから、彼家へ行つたらば、何うぞお友達をお招きして、園遊會でもしてみたいわ、あの方も屹度賛成して下さろに違ない。それに時々は音樂會だの、演藝會だのも、できるならばやつて見たいわ、その時は阿母樣もお招ぎ申して——嘸お悦びなさろ事であらう。

「お孃樣。」

障子を開けて、四十恰好の、丸髷に結うた女中が、椽側の若い主人を呼んだのであるが孃は、ぼんやり庭を眺めて考へ込んでゐるので、更に、

「お孃樣。」

「えゝ、まあ吃驚した！

そんなに大きな聲を出さなくつたつて、私は聾ぢやないよ。」

綾子は、腹立まぎれについ大聲を擧げたのであるが、われとわが仂い行爲に氣が着くと、頬を染めて、言解らしく、

「お友達の事を考へてゐたもんだから、ついれ……。」

「ほゝゝゝ、幾らお呼び申しても返事もなさらないで、まるで夢中に成つて考へ込んでゐらつしやるんですもの！

ほゝゝゝゝゝ、お孃樣、最うぢきに紀元節でございますわれ、ほゝゝゝゝゝ。」手の巾を口に當てゝ、意味有り氣に笑ふのであつた。

「まあ、ちよいと、靜かに……。」耻かしさに染つた顏を傾けて、美しい眼を半ば閉ぢ、耳を澄まして、

「鶯が啼いてるよ、可愛いぢやないかれえ。」

隣家の垣根から、此方へ枝を出してゐる白梅の、梢の花の少しばかり綻び懸つたのに、翅振ふ姿は見えぬが、正しく歌の主は鶯であつた。

「ほんに、まあ！」

女中は、朗かな歌聲よりも、黄八丈の書生羽織に、前髪を幅廣く豐くりと花月に結うた、飾らぬ儘の綾子の姿をうつとり眺め入つて、かう云つたのである。ふと、女中は、我に返つて、催し氣に、

「あの、お孃樣、申し忘れましたが、本田樣と仰有ろ方がおいでゞございます、御近所まで參りましたから、些とお寄り申しましたと仰有いまして……。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「まあ、本田様が?! お珍らしい事ねえ。
何うか此方へつて! だけど、何だか耻かしいねえ。」また一聲、朗かに雲雀が啼いた。

二

高砂の浦、濤風起らず、結婚は目出度く濟んだのである。

綾子は、梅薫る月の小路を人々に送られて、俥で此家へ來た時から、面映い銀燭の前に盃を持たせられた時から、まるで最う夢心地で、三日の後までは、酒に醉はされたやうな氣持であつた——唯、わが身の上の激變に打驚かるゝばかりで、富の光に、他の虚榮心を擽ぐるやうな自分に成つた事をさへ自覺し得なかつた。若き夫婦は幸福であつた。

「貴郎!」朝から書齋で調査をしてゐる夫に、自分で茶を入れて持つて行き、机の傍に坐つて、丸髷の綾子は呼び懸けたのである。

「何?」裟倚は、一心に机の上の書類を繰りながら、無意識に應對してゐる。

「あのう。」と云ひ懸けたが、何も別に云ふ事もないので、

「最う直にお雛様ですわねえ。」

「え、おへらさま?」書類を押遣つて、優しい眼で妻の顔を視た。

「ほゝゝゝゝゝ、おへらさまなんて。おほゝゝゝゝゝ、あゝ、可笑しい。餘り笑つたんで、お腹が痛くなつたわ。」

「それはお氣の毒様!」

「まあ、あんな事を仰有つて、憎らしい!」態と睨む眞似をすると、その頬を些と突いて、

「いよう、その顔が千兩!」

「厭! 私、最う知りませんわ。」と袖に顔を隱すのであつたが、今度は眞地目な調子で、「あのう、貴郎に少し御相談がありますの。」

「ほう、何んな相談? まさか離緣の相談でもあるまいね。」

「あれ、厭な! 冗談ばかり仰有らないで、少し眞地目に聽いて頂戴よ。
實はね——。」と、夫の面を覗入つて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「學校のお友達を呼んで、我家で音樂會を開きたいと思ひますの、貴郎さへ賛成して下されば、來月の三日あたりに催りたいと存じますが、貴郎は無論お許し下さるでせうねえ。」

「音樂會といふと、義太夫だの、常磐津だのをやるんだね。」

「いゝえ、そんな下品な――それは音樂なんていふもんぢや有りませんわ。あの、ピアノだの、ヴアイオリンだの、オルガンだの……。」

「毎日の小學校でやるやうなもんだね。」

「はあ。まあ然うですわ。」

「私は別に異存はないさ、大にやるが好からうぢやないか――然し、當日は私は家にゐないことにしやう、意氣な淸元か何かなれば聽いても面白いが、ブウ〳〵やられるは閉口だからね、は、、、、、、。」

綾子は、夫の出席せぬのを物足りなくも思つたし、趣味の程度の低いのを快よからず思つたけれど、別に何とも云はず、話を外らしてしまつたのである。

三月三日の音樂會は非常な盛會であつたが、綾子には、結婚せぬ前に豫想したほど愉快には感じられなかつた。

新らしい家庭は平和であつた――けれども、綾子の胸の底には、云ひ知らぬ不安の念が萠し始めた、それが何ういふ譯であるのか、自分にも分らぬ、唯何となく、物足らぬやうな氣がするのであつた。

夫は自分を愛して呉れる、勿體ない程、自分を愛して呉れる、その愛情の點に於ては少しも缺くる處はないのであるが、然し、何か心が落着かぬ。

若い妻の求むる處は暖かい愛の心であつた、富める夫の酬ゆるところは、野獸のやうな肉の慾に過ぎなかつたのである。

三

四月上旬の、小雨そぼ降る一夜の事であつた。

夫は昨日の午頃に家を出た限、未だに歸つて來ぬので、綾子は獨り火鉢に凭れて、新刊の家庭小說を讀みながら、夫の歸宅を待ち受けてゐる――姑は、奥の六疊に寢てゐるし、小間使と下女も先へ寢してしまつたし、車夫の助は例の通り、門の內の車夫部屋で、醉ひ潰れてしまつたら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しい。天井を走る鼠の音と、遠く聞える電車の線路を軌る音とが、耳について聞かれるばかり、駿河臺の春の夜は靜かに更けて行くのである。

綾子は讀未了の小說本を傍に置いて、茶簞笥の上の置時計を些と眺め、眉を顰めて、

「おや、最う十二時だわ、今夜も亦お泊りか知ら？　然し、二晩も默つてお泊りなさるといふ事はない、今夜は屹度お歸宅なさるだらう。近頃は銀行の方がお忙しいといふ事だけれども、まさか銀行へお泊りなさるのではあるまい、お友達の處か、それとも——、いや、悪い處へお泊りなさるやうなお方ではない、事に依つたらば、急に御用があつて、横濱へでも入來つしやたのではあるまいか。それならば然うと、端書でも知らせて下さりさうなもの！

横濱へ入來つしやつたのならば、最う疾ッくに新橋にお着きなすつたであらう。今頃は、電車で——否、最う十二時過ぎたから、電車もあるまい。それでは俥でお歸りであらうか。俥夫も、若い、達者なのならば好いけれど、年老つたのにでもお當りなすッて、俥の上で氣を揉んでゐらッしやるのではあるまいか——こんな事を考へてゐる中にも、最う家の傍まで來てゐらッしやるか知れぬ。今丁度、耳門を押し懸けてゐらッしやるかも知れない。」

こんな事を考へて、耳を澄しても見たのであるが、春の夜は花散る音も聞えて來ぬ。

かうなると、女の常として、必らず好くない方へ思を外らせるもので、夫の怪しい女と酒を酌交してゐる有樣などが、あり〳〵と眼の前に浮んで來る——さあ、妬ましい、怨めしい、悲しい、涙が冷たく頬を傳はつて來る。「おゝ、今夜もいよ〳〵お泊りと見える。」

情ないやうな氣もするのであつたが、然し、激しく頭を振つて、悲しい想像を追ひ斥け、燈火を細くして臥床に入つたが、何うしても寐着かれぬので、彼方此方輾返を打つて、眠に入るやうに試みた。かくて夜は更け、夜は明けた。

翌朝、綾子は、頭痛がするといふので、女中に手傳はせて髮を解して居る處へ、義尙はぼんやり歸つて來た——例は、勢好く、冗談を云ひながら入つて來るのに、今日は何うしたものか、默つて、自分の部屋へ行つてしまふので、綾子は、後に蹤いて行て、外套を脫せやうとすると、

「面倒だ、後にして呉れ！」と云ひ放つて、洋服の儘、どッかり坐る。綾子は、間の悪い樣子で、ぼんやりしてゐたが、暫時して、

「あの、阿父樣からお手紙が參つて居ります。」

「阿父樣から？　うむ、四谷のか。」と机の上の手紙の封を切つて、雜と眼を通し、苦い顏をして拋り出した。

「あの、何とか申して參つたんでございますか。」綾子が心配さうに尋ねるのを、冷やに傍を向いて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「何でもないさ。」

「いえ、けれども、何だか氣に成つてなりませんから、どんな事を申して參りましたか……」。義尙は、妻の顏をじツと覗入つて、

「綾子！　お前の阿父樣は恐ろしい人だれ、お前を囮にして、私の財產を捲上げやうといふ計畫をしてゐるのだ。」

「まあ、阿父樣が、そんな――。」

「そんな――事はないと云ふのか。」と恐ろしい顏をして、

「誰だツて、そんな事があると思ふもんか。然し、お前の阿父樣は、その有りさうにも思はれない事をやつてゐるのだ。」

義尙の聞る處では、綾子の父は、結婚の式が濟むと間もなく、義尙に手紙を寄せて、一萬圓の金を貸して吳れと云つて來た、若し、その金ができなければ、債主に娘をやる事にするから、娘を返して吳れといふのだ。

餘りの話であるとは思うたが、新妻を離すに忍びぬ心から、快く金を貸し與へた。その後も、何かにつけて少しづゝ借りに來たのであるが、今日の手紙では、債主からの催促が酷しいから、一時、御所有の地面を抵當に入れさして貰ひたい――と、かういうて來たのださうだ。それで、その手紙の中に、幾度か、

「眞の親子のやうに思ふ。」といふ語を書き連れてあつた。といふて、義尙は、その强慾を憎んでゐた。

「まあ、父がそんな事を申して參つたんでございますか。」自分の父の淺ましい心根を、情なくも、忌々しくも思うて、わツと泣き伏した。

義尙は、路傍の人を見るやうに、その姿を眺めてゐたが、何と思つたか、ずツと起つて、玄關の方へ行つてしまつた。綾子が、後を追うて行つて見た時は、旣に門を出て行つた後であつたので――。

綾子は、再び夫の部屋に入つて、如何に父の心を泣いたであらうか。淺ましい父の心！　恐ろしい父の心！　口には私を可愛がつて下さつたけれども、心には私を囮にして金を貪らうと思うてをられたのか。あゝ、私は父の爲に一生を誤まつてしまつた。

勿體ないけれども、私は父を怨む。

が、然し、夫は然うは云うたけれども、果して眞實であるだらうか、まさかにそんな事をする父とは思へぬし、又前にも金を借りに來たとすれば、私の知らぬ筈がない。否、夫が話して吳れる筈である。それを、今までは默つてゐて、今になつて云はれるといふのは妙な事ではないか――或は、美しい人の姿に憧れて私に飽き、私を追出す爲に、あの樣な事を云うたのではあるまいか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「先刻の手紙を見れば直に解る！」

かう氣が着いて、机の邊を隈なく探したが、文殻は夫が持つて行つたと見えて、影さへ見へぬ――疑はます〳〵烈しくなる、二晩の外泊と云ひ、今朝の樣子と云ひ、必らず美しい人の笑顏に魅せられてゐるに違ない。

「あゝ、私は一生を誤まつてしまつた！」かう思うては、熱い涙の頰に傳はるのを禁めえなかつた。

四

義尙は、この一週間ばかりと云ふもの、一晩も外泊をせず、始終部屋にばかり籠つてゐたが、夫婦の間には何か深い溪谷でも橫はつてゐるやうに、遠慮勝に成つて、暖かい會話も取交されぬやうに成つた。綾子は體が惡いといふので、飯も碌に食はず、寢たり起きたり、唯ぶら〳〵してゐるのである。

五日ばかり前に、加藤といふ書生が、神代家の玄關に坐る事となつた――二十五六の、色の白い、脊の高い青年で、文科大學の二年までやつたのを、家の都合で止めて、某雜誌の記者をしてゐたといふのであるが、義尙の友人の世話で此家の食客となつたのである。

義尙は今朝橫濱へ行くとて出た儘、未だに歸らぬ午後一時頃、加藤がひよツこり茶の間へ入つて來て、

「奥樣、白木屋が參りました」綾子は、手紙を書く筆を止めて、

「おや然うですか。けれども、今日はさあ好いからツて、然う仰有つて頂戴な。さう〳〵着物ばかし拵へてもゐられませんからね。ほゝゝゝゝゝ。」

「いや、然うぢやないのです。何か出來上りましたからと云つて、持つて來たやうです。」

「でも――我家では何にも誂へやしませんのよ。何處かの間違でせう。」

「然うですかなあ、それぢやあ然う云つて見ませう。」

加藤は玄關へ出て行つたが、吳服店の手代らしい男と、聲高に云ひ爭つてゐるので、綾子は筆を置いて、自分も玄關へ行つて見ると、手代は急に頭を下げて、

「之は奥樣、先日はわざ〳〵おいで下さいまして、誠に有難う存じます。その節お誂の品が出來上ましてございますが……。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

風呂敷包と書附とを差出して、丁寧に頭を下げる——風呂敷を解けば、お召縮緬の羽織に、金茶のショール、書附の名宛は確かに「砂代樣」とある。綾子は暫らく考へてゐたが、

「之は最う代濟になつてゐるんですわ。」

「はい、左樣でございます。」

「それでは確かに、受取りました。」

風呂敷包を抱いて、茶の間へ駈け込むと、耐らなくなつて、わつと泣き伏した——之は夫が自分の愛する女にとて誂へたものに違ない、先刻手代の男が云うた詞でも、わざ〳〵その女を連れて行つて誂へた事がわかる、あゝ、もしやと思つた事は事實に成つてしまつた、私は、夫から輕蔑せられ、虐待せられ、終には家を出さるゝことになるのであらうか……。

妬ましいのはその女！　怨めしいのはわが夫！

胸も割けるばかりの苦悶に、綾子は、野獸のやうな眼をして、天井を睨んだが、例の衣類を見ると、急に起上つて、それを抱へた儘、夫の部屋へ入つて行つた。

主なき部屋の床の間に、丁寧にそれを置いて、冷かに笑ふのである。

「奧樣。」唯見ると、背の高い加藤が、襖に凭つて立つてゐる、顏の色を變へて、身を顫はしながら。

「奧樣——かやうな事を私が申すのは間違つてゐるかも知れませんが、先刻からの御樣子で、すつかり解りました。

綾子は突然の事なので、唯呆れて、加藤の顏を視詰めてゐると、

御主人は、實に、酷い方ですなあ—」

「始めて此家へ上つた時から、御主人と貴女との御樣子を、實は、變だと思うてゐたのです、けれども、こんな、こんな事をしてまで、貴女を侮辱なさるやうな方とは思ひませんでした。實に酷い、それを貴女が默つてゐらつしやると云ふ事はない……。」

眞赤になつて說き立てるのを、手で制して、

「ほゝゝゝ、然う仰有つて下さいますとれ、私も何の位、心強いか知れやしませんけれども、それが能ます位なら、こんな心配はしやしませんよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貴郎の仰有るのは理窟ですが、世の中は然う理窟通りに行くものではありますまい。ほゝゝゝゝゝ、之は飛んでもない、學問のお有りなさろ貴郎に、飛んでもないお說教をしました、決して惡く思はないで下さいよ。」

「否、何うしまして、惡く思ふ處ではありません。」

「貴郎ですから申しますがね、私がまだ學校に通つてゐた時分、「新婦人」といふ雜誌に、貴郎の仰有つたやうな事を書いてありましたのを見て成程之はこうなくてはならないと、思つてゐましたが、今に成つて見ると、貴郎、一人でそんな事を云つても、世の中が許しません、女といふものは、唯夫や親の云ふ通りにしてゐなければならないのですからね。

何うせ生れる位なら女に生れるものではありませんはねえ。」

「いや、好く解りました。實は奥樣！　その「新婦人」に書いたのは私なのです。今でもそう信じてゐるのです。が、貴女のお話ですつかり解りました。そうしてみると、今日の急務は、婦人の地位を高める事ですなあ。」

「まあ、あれは貴郎がお書きなすつたのですか、隨分、妙な御縁ですわねえ。」

「さうですなあ、之は餘程面白い。」

二人は、興に入つて、悲みをも忘れてゐる。

かくて綾子は非常に力を得た、加藤は趣味の友を得た。その日の夕方、綾子が茶の間で小說を讀んでゐると、小間使のお梅が、

「あの、四谷の大奥樣が入來つしやいましたが……。」

「まあ、阿母樣が？」と、悦しさに心も落居ぬ樣子で、

「此方へツてね。それからお茶を入れてお吳れ。」

「はい。」處へ、案内も待たず、綾子の母は入つて來る――きよと〳〵四邊を見廻して、

「つか〳〵上つて來ましたよ。今日はお留守なの？　御隱居樣も？」

「はあ、義尙は今朝横濱の方へツて出懸けましたし、阿母樣は一週間ばかり前から牛込の親族へ泊り懸でね――丁度淋しくつて仕樣がなかつた處なの、ほんとに好く來て下すつたわねえ。」染々と云つて、茶簞笥から菓子皿を取出す。

「今日はぢき神田まで來たものだからね、何うしておいでかと思つて……。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「さう。阿父様はヤッぱし御丈夫？」

「あゝ、始中終お金がない／＼と云つてゐるけれどもね、體はもうぴん／＼して、風邪一つ引きやしないよ。」

帶の間から煙草入を出して、二三服、ぱく／＼やつて、輕い咳をする。綾子は母の心無く云つた金といふ語に、はツとして、

「お金つてばねえ、阿母さん。」と、小聲に成つて、

「阿父様が、此家へお金をお借りにおいでなすつた事あつて？」

「あゝ、一度ね。それも銀行へ行つて借りた事があつたけれども、それからと云ふものは何時行つても留守を使つてばかしゐるツて、阿父様は何だか……」と、娘の顔を覗き込んで、

「お前を此家へ遣したのを後悔なすツてのやうだけど、私はそうは思はないよ、何してもお前、華族様で、お金持で、それに、お前の前だが押出が立派だし……。」

「ほゝゝゝゝ、また阿母様は十八番が始つたわ。」然し、笑が冴えて聞えなかつた。

夫が、自分の父を惡く云うたのも、半は僞であつたと知れては、怨めしさと悲しさが、潮の如くに湧いて來るのであつたが、表面だけは賑はしく笑つて見せた。

夜の九時頃まで、親子の樂しい物語は續いたのであるが、餘り遲くなつてはと云ふので、娘の止めるのも聽かず、母は歸つてしまつた、威勢の好い俥夫の助は、もうがら／＼と俥を曳き出す——綾子は云ひ知らぬ淋しさを感じたのである。

五

十一時になつても、夫は歸つて來ぬ。小說は讀んで了つたし、所在がないので、綾子は、玄關の方へ向つて、

「加藤さん、まだ起きてゐらつしやツて？」

「は。何か御用ですか。」

「いえ、別に用ではありませんがね、お茶を入れますからいらつしやいな。」

「は。有難うございます。」やがて、加藤は入つて來る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「まだお歸りがありませんな。」と、熟々綾子の姿を眺めて、

「實に貴女は忍耐力が強くつてゐらつしやる、私も若し貴女の地位にあるならば、私は斷然……。」とばかり、躊躇した。

「斷然何うなさるのです。」

「斷然、出てしまひます。」

「ほゝゝゝゝ。」と、綾子は、加藤の眞面目な樣子に笑を催して、

「そんな奥樣ができたらば大變でせうねえ。」加藤は眞面目なもので、

「いや　早晩然うならなければ成りますまい、此の世の中は男ばかりの世の中ぢやない、男と女とが、相提携して行くべき世の中ではありませんか、それに、男は女の權利を認めず、女は——貴女の前だが、女は默つて男のする通りになつてゐる。

こんな解らない理窟が何處にあります。

日本の女は、夫の不品行を知りながら、默つて、知らん顏をして御機嫌を取つて居る、それだから男はます／＼增長するのです。奴隷開放は最う昔の事に成つてしまひましたが、私は、日本の女はまるで奴隷のやうな地位に在ると云ひたいです。

文明國だの、戰捷國だの、名は美しいが、日本はまだ野蠻だ。女子教育なんてものは、猿之居のやうなもの、あんな事で新らしい女…が作れるものぢやありません——私は去年の秋まで、貴女も知つてゐらッしやる「新婦人」で、多少その事を世の中に訴へても見たし、世の中の盲目者どもを罵つても見たのですが、駄目です、今の人間にはまるで同情といふものがない、てんから人の云ふことを馬鹿にして懸つてゐるから駄目です。

その中に私はあの雜誌を出てしまひました、いや、つまりは出されてしまつたのです、極端な暴論だとか、根據もない罵倒だとか云ふので、社中のものと議論して出てしまつたのです、私は暫らく筆を執るまいと思つて、遂に此家の御厄介になつたのですが、私は始めから——貴女の前ですが、好ましく思はなかつた、けれども、貴女がお氣の毒でならないので、つい／＼出るとも延び／＼に成つて、今日まで、御迷惑を懸けてゐましたが、私はもう、明日は此家を出ます、此家を出ては、また狂人と嗤はれませう、然し私は飽くまで奮鬪するつもりです

私は貴女に勸めます、こんな、こんな——。」と、部屋を睨み渡して、

「こんな虛僞に充ちた家なんか——。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「出てしまへと仰有るのですか。」

「無論です、斷然出ておしまひなさい。」綾子は、眞白に成つて、唇を顫はしてゐたが、胸を抑へて、

「貴郎のお話は好く解りました——けれども、意氣地のない女とお嗤ひなさるか知れませんが、夫から出て行けと云はれたならば格別、さうでない以上は、私は神代義尙の妻でございます。

何の樣に辛い日に遇ひませうとも、私は此家を出る氣はありません——折角のお勧を無にするやうですけれども、何うぞ此事ばかりは………。」

「それでは、何うあつても、貴女は夫に服從しやうと仰有るのですな。」

「はい、私の體は夫に捧げたものでございますから……。」

「いや。解りました。私はもう何も申しますまい、唯密かに貴女の爲に泣いてをります。」

「加藤さん、有難うございます、私も、貴郎の御成功を蔭ながら祈つてをりますわ。」

張割けるやうな胸を抱いて、二人は涙に咽ぶのであつた。すると、玄關で、義尙が醉うて歸つて來たと見えて、大聲に下女を叱り附けてゐるのが聞える。

「こらツ、綾は何うした、もう寢たのだらう、なに、まだ起きてゐる、起きてゐるなら、なぜ出迎に出ない。うゝむ、夫の歸つたのを知らん顏してゐる女房が何處にある！

はゝゝゝゝゝ、奴、妬いてゐるな、うん、さうだらう。なにツ、危ない？何が危ない？貴樣は下女の分際として、苟も、神代、うん、神代義尙に向つて……。」

綾子が起たうとすると、玄關との間の襖が外から倒れて、義尙はばツたり倒れる。

起上つて、よろ／＼と、襖の上に仁王立になり、屹と綾子の顏を睨んで、

「こらツ、貴樣はツ、えゝツ、け、け、怪しからん奴だな。夫の留守に、しよ、しよ、書生を引張り込んで、け、怪しからん。

主人の歸つたのも搆はずに、貴樣達はツ——。」その儘、ばツたり倒れる。加藤は唇を咬んで、

「貴郎は何を仰有るのです。云ふべき事に事を缺いて、對に、亂暴な——御自分が獸類のやうな眞似をなさるからと云つて、他までそんな事な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

するかと思つて……。」身を顫はして、いゝ、キッと義尚を睨んだ。

「何ッ、獸類だ！　き、貴樣は、主人に對つて獸類と云つたな、獸類とは何だ！　苟くも神代義尚に對つて──。」

虹のやうな酒氣を吐いて、義尚はぐでん／＼になつてゐるのだ。

「はゝゝゝゝ、之は面白い、獸類に對つて獸類と云つたのは何うして惡い、名望家だらうが富豪だらうが──。」

「貴郎、ま、待つて？」綾子は、おろ／＼聲で、双方を取りなすのであるが、義尚は酒の勢で、容易に怒を鎭むべくもあらぬ。

「や、貴樣！　畜生に加勢して、け、け、怪しからん。」綾子は、恐ろしさに齒の根も合はぬ。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

翌日、綾子は離緣されて、家に歸つたが、當人は勿論、母も痛くそれを悲しんだ、然し、父は寧ろ悅んで、又富豪の、金を好く貸すやうな家へ嫁らうと云つてゐる。

加藤も同時に神代家を出て、大阪の某家庭雜誌社に入つたのであるが、世間では、綾子と加藤との關係に就いて、好くない噂をしてゐる樣子である。

綾子は病氣だといふ。かくて、春の事であるから、花も咲かうし。鳥も謳ふであらうも

（完）

平和條件と元老の覺悟

平和條件に關して山縣元帥の談話として傳へらるゝ處によれば世間の反對論分激烈なるが、人々皆其所見を異にするを以て賛否の論の岐るゝは止むを得ざるなり、但和議が平和克復に一決したるは帝國現在の資力、將來發展の順序、列國の飽くなき好戰、世界の大局等、總ての形勢事情を打算討議し、此上戰爭を繼續するも容易に其費す所の資力を償ふの道なく、今日和するも結果は究竟同一にして、唯我國力を消費するの絶大なるが爲め、朝鮮及び滿洲の租借地等──國家將來の經營に要するの實力を消費する恐れあるのみなりと云ふに一決し、一人の異論者なく決定したる次第にて、此間固より硬軟强弱の別あらん筈なし、若し平和其事を以て不可と云はゞ吾儕甘じて軟派の名を蒙るべく元老閣臣亦吾儕と同感なるべしと信ず。

聞く所によれば世上にては兵力不足の爲め露軍と戰ふこと至難なりとて、山縣は講和に賛成せりなど唱ふる者ありと云ふ、コハ以ての外なる誤解にして事は百萬の軍隊の威信に關す、山縣一身の毀譽褒貶素より顧みざるも、軍隊の威信に關する誤解に至りては吾儕として之を閑棄にすべからず、既に前にも述べたる通り大決心大覺悟を以て交戰に從事したるものにして此決心は今も猶昨の如し。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次號記事豫告　十一月五日發行

每月五日發行

定價表

一册（紙數二百八頁）……金二十錢	
四册（三ヶ月分）……前金七十五錢	
八册（半ヶ年分）……前金一圓四十五錢	
十六册（一ヶ年分）……前金二圓八十錢	
内（定刊數……十二册 / 增刊四回……一、四、七、十月價格同一）	
郵稅	一册　二錢

廣告料

	二十四字詰 一行	半頁（卅二行）	一頁（六十四行）
特等	五十四錢	十七圓二十八錢	割引 四十圓
一等	四十四錢	十四圓〇八錢	割引 三十三圓
二等	三十七錢	十一圓八十四錢	割引 二十七圓
三等			割引 二十三圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文略規

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
●御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
●郵券代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る
●總目錄御入用の方は二錢券相添申込あれ

明治卅八年十月五日發行　第五卷第拾參號

編輯兼發行人　松原岩五郎
印刷人　水谷景長
印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　博文館印刷所
發行所　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

電話本局　三百三番　千十八番　二千六百二十番　三千二百二十九番

不許複製

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

理學士 吉田弟彦君校閲
麻布中學校講師 腹巻助太郎君編纂

實用 鑛物及地質

（既成發賣）

全一冊洋装中判
紙皮金文字入
正價金参拾錢
郵税八錢

本書は廣く鑛物界に關する智識を普及せしめ之が應用の途を廣大ならしむるの主旨にて編纂せり故に源遠難解の學理は成るべく之を省き斯學の最も實用的且つ最も興味ある有用鑛物及其の定性分折並に其產出の狀態に就いて反覆詳述せり尙其内容の大綱を左に示す

▲口繪＝砂金採取の圖（石版）小峰大羽君筆

要目

緒論

第一編 鑛物學大意
(一)鑛物と岩石
(二)鑛物の分類

第二編 有用鑛物
(一)金屬を獲るに必要なる鑛物
(二)燃料として必要なる鑛物

第三編 地質學大意
(一)岩石學大意
(二)地殼構造の狀態
(三)地史の大意
(四)日本の地質

第四編 鑛床學大意
(一)鑛床
(二)鑛床の分類
(三)鑛床各部の名稱及位置

理學士吉田弟彦君校閲 腹巻助太郎君著 ●學生必携 **鑛物採集鑑定** 全一冊 正價貳拾五錢 郵税四錢

寺崎留吉君編 ●新撰 **鑛物地質問答** 全一冊 正價貳拾錢 郵税四錢

理學士佐藤傳藏君著 ●**地質學** 全一冊 正價四拾錢 郵税八錢
▲特製本 正價五拾錢 郵税拾錢

（後付の二）

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

工學士 若目田利助君著

工業叢書 **電燈及電氣鐵道**（既成發賣）

全一冊

洋布中判上製
正價七拾錢
郵税六錢

第二十世紀は電氣發達の時代なり而して電氣事業の內輓近最も長足の進歩をなせるものを電燈及電氣鐵道の二者なりとす。本書は此二事業に從事せんとするもの丶爲めに中等教育の程度に於て技術上の一般を簡明懇切に說明せるものにして尙了解に資する爲め數多の挿圖と注解を加へ先づ第一編に電流に關する一般の定義及法則を揭げ次編には電燈一切の事項を網羅し終編に電氣鐵道を詳述せり本邦今日の如く電氣事業の盛大に伴ふて本書の有益なる指導方針を得たるは實に電氣鐵道に從事せんと欲するもの丶渴望を醫するに足るべし請ふ一部を几上に備へて其用に供せらるべし。

工學士 關盛治君著

工業叢書 **水力機械學**（既成發賣）

全一冊

洋布中判上製
正價八拾錢
郵税八錢

工業上水力と謂ふことは極めて重要の事柄にして或は此力を借りて機械を運搬し或は蒸汽に代り原動力として用ふる等種々の方面に於て水力の應用最も廣し故に水力に關する學術は比較的繁雜にして初學者の研究に困難を感ずる所少なからず關工學士本著に於て此點に注意せられ可成實地と理論とを結合し及ぶべき丈け懇切に亦た處々に例題及挿圖を加へ實地の場合を說明す特に難解の文を避けて言文一致體を用ひ能く深遠の學說を咀嚼して初學者の研究に資せり。

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

帝國百科全書

第百參拾四編

文學士 田淵友彦君著

韓國新地理

（新刊既成）

上製五拾五錢　郵稅拾錢
並製四拾錢　郵稅八錢

平和的に來らんとす。日露媾和條件の果して如何なるにせよ帝國が韓國に對する態度は既に已に確定して又動すべからず。韓國が帝國の保護國附屬國にして換言すれば一種の新版圖たる者は敵も之を是認し世界も此を容認せり。韓半島は將に此より最も痛切に吾人の研鑽籌謀に入らざるべからず。然かも甚しい哉邦人の半島の事態に通ぜざるや。從來韓國に關する幾多の著述世に出でたりと雖も多く實業若くは政治に偏し未だ韓國の現在を學術的に解說したる地理書の完全なるもの刊行せられず。著者多年韓國問題を檢索し從だ韓國の事情に通ず。本書は內外最も嶄新の資料に據りて著述せられ韓國百般の現在的事態を最も明確に餘蘊なく說明したるものにして地理書として最も完全なるものたる而已ならず韓國問題を研究せんと欲する者に向つて所謂時勢の書として最良の參考書たり。故に學術的に韓國を研究せんと欲する者及び將に韓國に一經營を試みんと欲する者は必ずや此書を一讀せざるべからざるのみならず、苟も日本國民たる者這箇新來の一附庸土の大體を知了せんと欲せば又此書を繙かざるべからず。

第百參拾五編

法學士 勝部國臣君著

清國商業地理

（新刊既成）

上製五拾五錢　郵稅拾錢
並製四拾錢　郵稅八錢

本書は支那の通商貿易に關聯する一切の事項を網羅したるものにして支那に於ける列國の經營及び鑛山の所在地を始めとし輸出入商品の性質販路より通貨金融機關及度量衡交通機關の概狀を解說し殊に各商業地の狀態商業上の取引習慣及び各地支那商人の風習好尚に至るまで之を詳述し苟も支那貿易の爲めに資すべきの事項は悉く說述解明して剩す所なし而して本書の著者は大學院にありて專ら世界の通商貿易に關するものを攻究し又多年職を農商務省に奉じて日夕支那に關する通商貿易を調査したるもの、本書が支那貿易に志す者に於て如何に絕好の指導者たるかは問はずして自ら明かなり

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陸軍大將　黑木爲楨君書簡
陸軍少將　藤井茂太君序文
黑木軍通譯官　來原慶助君著

黑木軍百話

全一冊洋裝大判
總クロース製美本
紙數約三百頁

近刊

▲口繪——寫眞銅版八頁　コロタイプ二頁挿入

行軍難（道路と天候）（給養と運搬力）
水路と沿道の架橋
通信機關（其一、郵便）（其二、電信）
陸戰劈頭の戰死者
豪傑を擊退す
江畔に一大工場を現出す
先づ對岸九里の二島を略す
敵前架橋（橋長二千百餘米突）
一發巨彈のお見舞（我巨砲の威力）
山雲欲來風滿樓（總攻擊の前日）
正々堂々として江を渡る
蛤蟆塘の追擊戰（三面包圍攻擊）
赤裸で先登す
第一軍感狀の嚆矢
敵の敗戰理由（戰術上より觀たる）
敵將の敗戰報告
清國官憲の報告（露軍潰退に關する）
紀念碑を摺鉢山に建つ

阿總督の告示
黑木軍司令官の告示
沙漠を出てゝ泉地に入る
舌人笑話
彈丸竭き乘馬斃れて臣が事終んぬ
一兵卒露の將校を生擒す
梨花如雪
不染の股引半染となる
烏合の衆を以て新來氣鋭の敵を挫く
モルヒ子の奏功醫者と見違へらる
輸卒職に殉す
黑木大將の恐いもの
繪はがき美人
新刀の切味
虎口を免る
白馬將軍を逸す
笑て瞑す
兵法の新發明
武運めでたき男
頓智の響
戰友よりも武器が大切
幽靈の正體見たり枯尾花
夜盲症の同情

大和心
倭寇擊退の碑
虎穴に入て虎子を獲たり
上官の死骸を負ふて奮闘す
地の利は人の和に若かず
砲兵の花（三幅對）
敵の機先を制す
我致命傷を秘す
一對傳令の模範（死して使命を辱かしめず）
中尉殿の形見
悲壯なる最後
黑英臺の決戰
砲彈如雨軒聲似雷
輜重輸卒敵の砲彈を叱す
敵は退却の妙を得たり
外人の眼に映ぜる黑木將軍
亡母の命日
本溪湖の石擲戰
動かざること山の如し（島村將軍の奇計）
モー少しで日本兵に成れる
軍旗山の譽
劍尖相交ふ（千平山の大格鬪）

中隊長は軍曹
起死回生
彈雨中に日誌を錄す
橘五郎少將
忠實なる從卒
沙河會戰後彼我の情態
狂氣砲兵
露兵にも亦信義あり
狂歌の矢文
渾河の神風
狙擊第十九聯隊殲滅（軍旗鹵獲）
敵將我懷爐灰に膽を潰す
陛下の萬歲を三唱して死す
貴公子の双美
新衣川
敵の咽喉に喰ひついて死す
鴨綠江紀念祭
黑木大將の紀念祭
慰問袋の滑稽
我乘馬と共に上官の危急を救ふ
鬼子狩
戰捷は婦人の力
（軍歌）實に勇ましき黑木軍
外十數話

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

（後付の四）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

早稻田大學野球撰手 橋戸 信君著



最近野球術

全一冊洋裝中判
紙數約二百五十頁
近日發行

口繪寫眞版（第一高等學校、慶應義塾、學習院、早稻田大學最近野球撰手▲米國模範撰手▲野球大競技等珍絕壯絕）

((目　次))

（インフィールド）内野篇

ピッチング（投手）カーブの種類●カーブに對する注意●キャッチング（捕手）●フワーストベース（一壘）●一壘手に對する諸種の注意●セコントベース（二壘）●ショートストップ（遊撃篇）●サードベース（三壘）●内野手に對する忠告

（アウトフィールド）外野篇

バッテング（打撃法）●ラインアップ（打撃順）●ベースランニング（走壘法）●マネーヂメント（監督法）●アンパイアリング（審判）

附錄　野球の三德▲米國の野球界

野球は武士的競技なり、膽を練り筋肉を鍛へ腦力を發達せしむる最好遊戲なり、方今到る處、ボール、バットを見ざる無く、野球競技は學生間の一大勢力となれり、唯惜む之れに對する好著述無きを、偶二三書ありと雖ども、多くは簡に失し粗に失し、僅かに初心者を敎ふるに足るのみ、記事陳腐にして野球の眞體を知り難し、即ち本書の出づる所以也、著者は有名なる早稻田大學野球撰手SSにしてキャプテンを兼ね、本年春より夏にかけて、遠征隊一行と共に野球の本場所なる米國に渡り奮鬪苦戰數十回、自己の視察經驗に加へて、同國模範撰手の意見學說及び好著述を參酌し、歸來江湖の要求に應じて此著あり、最も嶄新なる野球術、最も科學的なる野球術を知らんとする人は本書を讀め、記事頗る流麗壯快加ふるに數十の寫眞版木版は各撰手の秘訣、魔球の秘術を示して余蘊なく、實に野球間無比の珍書なり。

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中央新聞従軍記者　岡田雄一郎君著

滿洲起業案内

（十月下旬發行）

全一册洋裝
菊半截紙數
二百五十餘頁

日露戰爭以前の滿洲は全く露の勢力範圍にして我に執りては手も足も出だし得ぬ有樣懷へば廿七八年の碧血未だ乾かざるに露をして之れを恣まゝにせしむるあらんとは、國民皆眦を決せり然れども如何とも爲し難し、今や露國を擯けて我足跡滿洲到る處に印せられ、戰後經營すべき事業は全く我手に委せらる、起てよ同胞、此機會を措て他にあらざる也。滿洲は我れの來り拓かんことを待つや切なり。是れ岡田氏が本書を著はす所以にして經濟的觀察は縱横讀者の眼中に映せられ得べし其の概目左の如し

發端
滿洲
土地は頗る廣し●人口却々に多し●氣候は暑くて又寒い●人情風俗の面白さ
滿洲の政治
兵備
農業の有樣
商業
商賣上の德義の發達●滿洲の商業の要地●市場上賣るもの買ふもの
工業
鑛業
滿洲に於ける生産力と消費力
滿洲の輸出入品●滿洲內地の交易場●金融の機關爲替と兩替の有樣●商取引の習慣●商業取引の季節●貨幣制度●度量衡制度
交通と運輸
戰爭と滿洲の盛衰
滿洲經營と日本人の覺悟
滿洲の對外貿易
輸入品の重なるもの
輸出品の重なるもの
何んな事業を起せば良いか
結論

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

（後付の六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

伯爵東久世通禧君題辭
土居香國君序文
上島長久君跋文
松永聽劍君記述

樺太及勘察加

全壹册

洋装菊判
寫眞銅版八頁
紙數約四百頁
近日發行

●口繪――中村不折君書
●樺太及勘察加詳密地圖入

本書は之を上下二編に分つ上編には**樺太**の沿革、歴史、地理、産業に關する諸般の事項を網羅し懇篤詳細に記述せるを以て該地に對する唯一の寶典たること論を待たず加之最珍最奇の寫眞銅版數葉と風俗、家屋等の繪畫數十葉を挿入して趣味津々たらしむ。著者**松永聽劍**先生は明治廿六年樺太を跋渉視察して大に得る所あり爾來該地の調査研究に從事せらるゝもの茲に十有餘年其記事の如何に詳密にして其材料の如何に確實なるか敢て呶々を要せず今般先生に請ふて本書を出版して容易に樺太の事情を亮知せしむ。下編には、**勘察加**附**河哥斯科沿岸**の梗概、地理、産業其他諸般の事項に關し**黑龍會**々員諸氏の實地踏査せし記事を骨子とし尙露國最近の出版物を飜譯し且つ有益なる統計表を添へ具體的に之を記述せり苟も國を想ふの士は**帝國北門の鎖鑰**として亦帝國の新富源として日露戰爭唯一絶對の**紀念物**たる**我樺太**の眞相を研究知悉せられよ

（後付の七）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣總督府民政長官
衆議院議員

竹越與三郎君著
後藤新平君序文

臺灣統治志

全一册

洋装大判
寫眞銅版十七頁
紙數五百八十頁
正價金六拾五錢
郵税拾貳錢

▲附錄＝精密臺灣全圖（大判）挿入（新刊發賣）

臺灣統治の事を論ずるの書、世敢て多らざるに非るも、親しく其地に遊び、詳かに其風土を察し、把羅剔抉精叙して餘蘊なき者に至ては蓋し少なし。本書は首に殖民の事より說起し、臺灣に於ける日本の統治、臺灣の歷史沿革、地理風土は勿論、殖産工業、行政交通、宗教敎育の事に至るまで、親踏實査して精細を叙述したれば、凡そ臺灣に關する事項は、歷々之を掌に指すべし。以て臺灣史となすも可なり、以て臺灣經綸策となすも可なり、臺灣を知らんと欲する者、殖民事業に志ある者、共に一本を備へざるべからず。

法學士山內正瞭君著

世界殖民史

▲特製本 洋布上綴
全一册洋並綴
中判三〇四頁
正價五拾五錢
正價四拾錢
郵税八錢
郵税拾錢

浮田和民君譯述

比較行政法

全一册背皮上綴
頁
正價貳圓
小包送拾五錢

法學士小原新三君著

行政法汎論

▲特製本 洋布上綴
全一册洋並綴
大判四一四頁
正價五拾五錢
正價四拾錢
郵税拾錢
郵税拾貳錢

法學士小原新三君著

行政法各論

▲特製本 洋布上綴
全一册洋並綴
大判三三〇頁
正價五拾五錢
正價四拾錢
郵税八錢
郵税拾錢

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　博文館

（後付の八）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

●非常廉價合本發賣●

村井弦齋著 （家庭第一實用の書）

增補註釋 食道樂

春の卷　夏の卷　秋の卷　冬の卷

合本 （總クロース金字入美本）

正價金貳圓◉郵稅金貳拾錢◉清韓臺灣郵稅金四拾錢

○天下に有名なる本書は出版界未曾有の盛況と稱せられ發刊以來貳年ならざるに參拾七版を累ぬるに至りしが從來は一冊八十錢四卷にて參圓貳拾錢の正價の處今回讀者諸君の便宜を圖り版を改めて合本と致し非常廉價金貳圓にて發賣致候、此の製本部數に限りあり賣切れざる內御注文被下度候

○本書の附錄は從來の米料理百種、パン料理五十種、病人料理百五十種、日用食品分析表、食器食品價格表等の外新に料理心得の歌百餘首を加へ申候

○臺所に此書を備へざるは文明の家庭にあらずと申す者も有之候

○嫁入道具の中には必ず此書無かるべからず、故に婚禮の祝物として最も適當に御座候

○病人の見舞に此書を贈らば何よりの慰藉と相成可申候

○殊に**出征軍人の家族**は此書の料理法を習得して凱旋の主人公を待たるべく候、故に**軍人及其家族**に對して無類の贈物に有之候

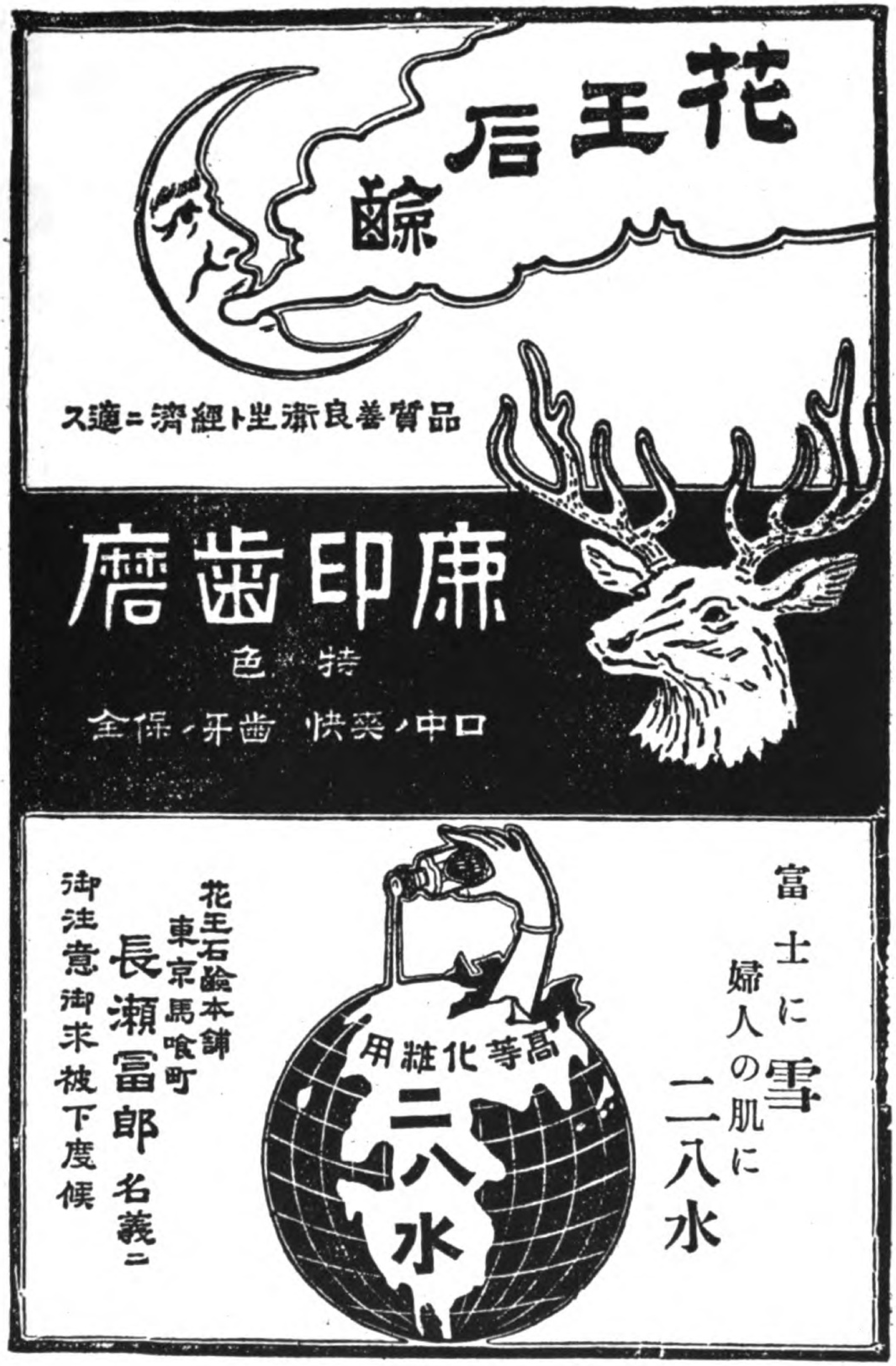
○此書出でゝより天下の家庭料理は面目を一新するの氣運と相成申候、兎も角も一冊を家庭にお備へあらば永久の御利益と相成可申候

發行所　東京市麴町區有樂町三丁目一番地　**報知社出版部**

發賣所　東京市銀座通新橋際　**新橋堂商店**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界
明治卅三年十二月廿五日
第三種郵便物認可
第五卷第拾參號
明治卅八年十月五日發行
每月一回五日發行



(定價金貳拾錢)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN